

元総社蒼海遺跡群 (146)

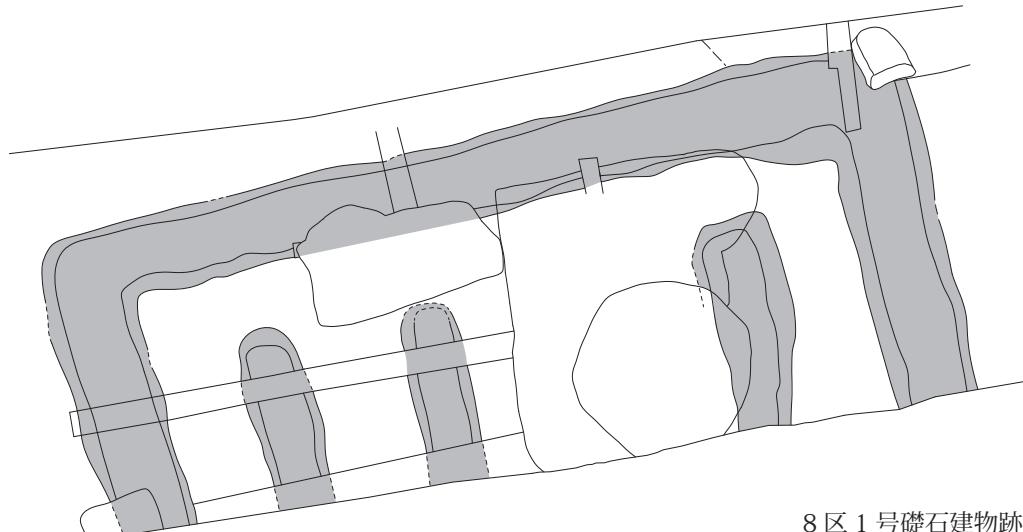
前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2023.3

2023.3

元総社蒼海遺跡群（146）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書



2023.3

前橋市教育委員会



1 8区1号礎石建物跡全景（上が北）



2 8区1号礎石建物跡土層断面（南西から）

巻頭図版 2



1 8区1号礎石建物跡土層断面（北西から）



2 8区1号礎石建物跡検出状況（西から）

はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、上毛三山の赤城山を背にして利根川と広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、はるか昔から人々が生活を営んできました。そんな先人の息吹を感じられる生活のあとが、市内のいたる所に遺跡や史跡として多く存在しています。古代において前橋台地には、広大な穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめたくさんのが長墓が連綿と築かれ、上毛野国を中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中核をなす施設が次々に建てられました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎧をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元総社蒼海遺跡群（146）は、上野国府の推定地内に位置しています。発掘調査の結果、上野国府が存在した時期に建てられたと考えられる規模の大きな建物跡が確認されました。この建物が上野国府に深く関係するものなのか、それは今後の検討に委ねるところもありますが、今は一本の糸に過ぎない調査成果であっても、織り上げて行けば国府の解明へと繋がるものと考えております。

残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮や、地元の皆様のご協力や声援の結果といえます。また、極暑、極寒の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

令和5年3月

前橋市教育委員会

教育長　吉川　真由美

例　　言

1. 本報告書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群(146)発掘調査報告書である。

2. 調査主体は、前橋市教育委員会である。

3. 発掘調査の要項は次のとおりである。

遺跡名称　　元総社蒼海遺跡群(146)(遺跡コード: 3A265)

調査場所　　群馬県前橋市総社町総社 3120 ほか

発掘調査期間　　令和3年6月1日～令和4年3月28日

整理・報告書作成期間　　令和4年4月1日～令和5年3月17日

発掘・整理担当者　　斎藤 颯・池田 史人・神宮 聰(埋蔵文化財係)

4. 本書の原稿執筆・編集は斎藤・池田・神宮が行った。

5. 発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。

青木あつ子・阿久澤陽子・石井均・伊藤良・金山美智子・小池賢・小林千恵美・櫻井一男・都木英之・高橋民雄・高橋友美・長岡保・羽田郁子・町田妙子

6. 調査および報告書作成にあたっては下記の諸機関・諸氏の御教示・御指導をいただいた。

群馬県教育委員会文化財保護課、(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

出浦崇、梅澤重昭、大橋泰夫、須田勉、田中広明、林部均、前沢和之、松田猛、右島和夫

7. 発掘調査で出土した遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

8. 出土遺物の注記・接合・遺物観察・遺物実測・トレース・遺物写真撮影については有限会社毛野考古学研究所に業務委託した。

凡　　例

1. 採図中に使用した北は、座標北である。

2. 採図に国土交通省国土地理院発行の1:200,000地形図(宇都宮、長野)、1:25,000地形図(前橋)、1:6,000前橋市現形図を使用した。

3. 遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。

H…古墳時代～平安時代の竪穴建物跡　B…礎石建物跡　W…溝跡　I…井戸跡　O…落ち込み　D…土坑　DB…土壙墓　P…ピット・柱穴・貯蔵穴

4. 遺構・遺物の実測図の縮尺は、原則的に次のとおりである。その他、各図スケールを参照されたい。

遺構　　全体図…1/200、竪穴建物跡・溝跡・土坑・ピット…1/60、竈・炉断面図…1/30

遺物　　土器…1/4、石製品…1/1、銅製品…1/2、鉄製品…1/3

5. 計測値については、現存値を表す。

6. セクション注記と遺物観察表の色調について新版標準土色帳(小山・竹原1967)を基準とした。

7. 遺構平面図の-----は推定線を表す。

8. スクリーントーンの使用は、次のとおりである。

遺構平面図　　焼土…　粘土…　炭化物・灰…　硬化面…

遺構断面図　　硬化層…

遺物実測図　　須恵器断面…　灰釉陶器表面…　綠釉陶器表面…

　　黒色処理…　煤・油煙付着…

9. 主な火山降下物等の略称と年代は次のとおりである。

As-B (浅間B軽石：供給火山・浅間山、1108年)

Hr-FA (榛名ニッ岳渋川テフラ：供給火山・榛名山、5世紀末～6世紀初頭)

As-C (浅間C軽石：供給火山・浅間山、4世紀前半初頭)

目 次

卷頭写真

はじめに

例言

凡例

目次

写真図版目次・挿図目次・表目次

I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の位置と環境	1
1 遺跡の立地	1
2 歴史的環境	1
III 調査方針と経過	7
1 調査方針	7
2 調査経過	7
IV 基本層序	10
V 遺構と遺物	17
VI まとめ	125

写真図版

抄録

奥付

写真図版

卷頭図版 1 8区1号礎石建物跡全景・土層断面

卷頭図版 2 8区1号礎石建物跡土層断面・検出状況

PL.1 1区H-1～5号竪穴建物跡、1区調査区東西トレンチ西側全景、1区調査区東西トレンチ東側全景

PL.2 1区畝状遺構全景、2区H-1～3号竪穴建物跡、3号竪穴建物跡遺物出土状況、I-1号井戸跡

PL.3 2区調査区全景、3区D-1号土坑、3区調査区全景、4区W-2号溝跡、5区H-1号竪穴建物跡

PL.4 5区H-2・4・5号竪穴建物跡、H-1・2・4・5号竪穴建物跡遺物出土状況

PL.5 5区H-7・9～11・13号竪穴建物跡

PL.6 5区H-14～16号竪穴建物跡、J-1号竪穴建物跡

PL.7 5区W-1～5・7号溝跡

PL.8 5区粘土採掘坑、O-1号落ち込み、DB-1・2号土壙墓、5区調査区全景、6区H-1号竪穴建物跡

遺物出土状況、I-1号井戸跡

PL.9 6区調査区全景、7区D-1・3号土坑、DB-1号土壙墓、W-1号溝跡

- PL.10 7区W-2・3号溝跡
- PL.11 7区W-4号溝跡、7区調査区全景、8区H-1号竪穴建物跡
- PL.12 8区H-1号竪穴建物跡遺物出土状況、H-2～5号竪穴建物跡
- PL.13 8区H-6～9号竪穴建物跡、H-6号竪穴建物跡遺物出土状況
- PL.14 8区H-10・11号竪穴建物跡、I-1・2号井戸跡、P-4号ピット遺物出土状況、W-1・3号溝跡
- PL.15 8区W-1・2・4号溝跡
- PL.16 8区B-1-1・2土層断面
- PL.17 8区B-1-3・4土層断面、W-4号溝跡巨石出土状況、8区調査区全景
- PL.18 1区出土遺物
- PL.19 2区出土遺物
- PL.20 3区出土遺物、5区出土遺物（1）
- PL.21 5区出土遺物（2）
- PL.22 5区出土遺物（3）
- PL.23 5区出土遺物（4）
- PL.24 5区出土遺物（5）
- PL.25 5区出土遺物（6）、6区出土遺物
- PL.26 7区出土遺物
- PL.27 8区出土遺物（1）
- PL.28 8区出土遺物（2）
- PL.29 8区出土遺物（3）
- PL.30 8区出土遺物（4）

挿 図

Fig.1 元総社蒼海遺跡群位置図	3	Fig.16 2区D-1～7号土坑、 P-1～4号ピット	58
Fig.2 周辺遺跡図	4	Fig.17 3区D-1号土坑、 P-1～4号ピット	59
Fig.3 周辺調査地点とグリッド設定図	9	Fig.18 4区W-2号溝跡	59
Fig.4 基本層序	10	Fig.19 4区H-1～3号竪穴建物跡、 W-1号溝跡、DB-1号土壙墓	60
Fig.5 1区全体図	11	Fig.20 5区H-1号竪穴建物跡	61
Fig.6 2・3・6区全体図	12	Fig.21 5区H-2号竪穴建物跡	62
Fig.7 4区全体図	13	Fig.22 5区H-4・5号竪穴建物跡	63
Fig.8 5区全体図	14	Fig.23 5区H-7号竪穴建物跡	64
Fig.9 7区全体図	15	Fig.24 5区H-9・10号竪穴建物跡	65
Fig.10 8区全体図	16	Fig.25 5区H-11・13号竪穴建物跡	66
Fig.11 1区H-1・2号竪穴建物跡	53	Fig.26 5区H-14号竪穴建物跡	67
Fig.12 1区H-3・4・5号竪穴建物跡	54	Fig.27 5区H-15号竪穴建物跡	68
Fig.13 1区P-1～6号ピット、畝状遺構	55		
Fig.14 2区H-1・2号竪穴建物跡	56		
Fig.15 2区H-3・4号竪穴建物跡、 I-1号井戸跡	57		

Fig.28	5区 H - 16号竪穴建物跡、 J - 1号竪穴建物跡（1）	69
Fig.29	5区 J - 1号竪穴建物跡（2）	70
Fig.30	5区 W - 1号溝跡（1）	71
Fig.31	5区 W - 1号溝跡（2）	72
Fig.32	5区 W - 2号溝跡	73
Fig.33	5区 W - 3・4号溝跡	74
Fig.34	5区 W - 5・6・7号溝跡	75
Fig.35	5区 O - 1号落ち込み、粘土採掘坑、 D - 1～3号土坑	76
Fig.36	5区 D - 4・7・8号土坑、 DB - 1・2号土壙墓、P - 1～5号ピット	77
Fig.37	5区 P - 6～9号ピット	78
Fig.38	6区 H - 1号竪穴建物跡、I - 1号井戸跡	78
Fig.39	6区 D - 1～3号土坑、 P - 1～3・16号ピット	79
Fig.40	6区 P - 4～8・10～15・17～30・43号ピッ ト	80
Fig.41	6区 P - 9・31～42・44～57号ピット	81
Fig.42	6区 P - 58～62号ピット	82
Fig.43	7区 W - 1号溝跡	82
Fig.44	7区 W - 2号溝跡	84
Fig.45	7区 W - 3号溝跡	85
Fig.46	7区 W - 4号溝跡、D - 1号土坑	87
Fig.47	7区 D - 2～8号土坑	88
Fig.48	7区 D - 11・12号土坑、DB - 1号土壙墓	89
Fig.49	8区 B - 1号礎石建物跡（1）	90
Fig.50	8区 B - 1号礎石建物跡（2）	91
Fig.51	8区 B - 1号礎石建物跡（3）	92
Fig.52	8区 H - 1号竪穴建物跡	93
Fig.53	8区 H - 2・3号竪穴建物跡	94
Fig.54	8区 H - 4・5号竪穴建物跡	95
Fig.55	8区 H - 6・7号竪穴建物跡	96
Fig.56	8区 H - 9～11号竪穴建物跡	97
Fig.57	8区 W - 1号溝跡（1）	98
Fig.58	8区 W - 1号溝跡（2）	99
Fig.59	8区 W - 1号溝跡（3）	100
Fig.60	8区 W - 2～4号溝跡、I - 1号井戸跡	101
Fig.61	8区 I - 2号井戸跡、D - 1～4号土坑	102
Fig.62	8区 D - 5～7号土坑、P - 1～7号ピット	103
Fig.63	8区 P - 8～23号ピット、硬化遺構	104
Fig.64	1区出土遺物（1）	105
Fig.65	1区出土遺物（2）、2区出土遺物（1）	106
Fig.66	2区出土遺物（2）	107
Fig.67	3区出土遺物、5区出土遺物（1）	108
Fig.68	5区出土遺物（2）	109
Fig.69	5区出土遺物（3）	110
Fig.70	5区出土遺物（4）	111
Fig.71	5区出土遺物（5）	112
Fig.72	5区出土遺物（6）	113
Fig.73	5区出土遺物（7）	114
Fig.74	5区出土遺物（8）	115
Fig.75	5区出土遺物（9）、6区出土遺物、 7区出土遺物（1）	116
Fig.76	7区出土遺物（2）	117
Fig.77	7区出土遺物（3）、8区出土遺物（1）	118
Fig.78	8区出土遺物（2）	119
Fig.79	8区出土遺物（3）	120
Fig.80	8区出土遺物（4）	121
Fig.81	8区出土遺物（5）	122
Fig.82	8区出土遺物（6）	123
Fig.83	8区出土遺物（7）	124
Tab.1	周辺遺跡一覧	5
Tab.2	遺構計測表	33
Tab.3	遺物観察表	40

表

Tab.1	周辺遺跡一覧	5
Tab.2	遺構計測表	33
Tab.3	遺物観察表	40

I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、調査実施年度で23年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年にわたって行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

令和3年5月10日付けで、前橋市長 山本 龍（区画整理課）（以下「前橋市」という。）より埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会（以下「市教委」という。）に提出された。市教委では実施について協議を行い、これを受諾し、令和3年5月12日付けで、調査依頼者である前橋市に対し市教委による発掘調査を実施する旨の回答を行った。これを受け令和3年度の元総社蒼海遺跡群の発掘調査は6月1日から開始するに至った。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群(146)」（遺跡コード：3A265）の「元総社蒼海遺跡群」は、区画整理事業名を採用し、数字の「(146)」は過年度に発掘調査を実施した遺跡と区別するために付したものである。

II 遺跡の位置と環境

1 遺跡の立地

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾合を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地の利根川左岸、東部の広瀬川低地帯という4つの地域に分けられる。

本遺跡の立地する前橋台地は、約24,000年前の浅間山噴火によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層（水成）から成り立っている。台地の東部は、広瀬川低地帯と直線的な崖で区切られていて、台地の中央には現利根川が貫流している。現在の利根川の流路は中世以降のもので、旧利根川は現在の広瀬川流域と推定される。台地の西部には榛名山麓の相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し、台地面を刻んで細長い微高地を作り上げている。総社・元総社付近の染谷川や牛池川は、微高地との比高3m～5mを測り、段丘崖上は高燥な台地で、桑畠を主とした畠地として利用されてきた。

本遺跡は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約3kmの地点、前橋市総社町総社、元総社町地内に所在している。南東へ約1kmの所に上野国総社神社があり、すぐ西には関越自動車道が南北に走っている。さらに、遺跡地の南側には国道17号線、県道足門・前橋線が東西に、東側には主要地方道前橋・安中・富岡線が南北に走り、これらの幹線道路を中心にオフィスビルや大規模小売店が進出している。

2 歴史的環境

本遺跡地周辺には、古墳時代後期から終末までの上野地域と中央政権との関連をうかがわせる総社古墳群と山王廐寺、古代の中心地であった上野国府、さらに、中世には長尾氏により国府の堀割を利用し築かれたとされる蒼海城があり、歴史的環境に優れている。周辺の埋蔵文化財発掘調査によって、これまで連綿と続いてきた歴史を物語る多くの新しい知見が集積されている。

縄文時代の遺跡としては、前期・中期の集落跡が検出された産業道路東・西遺跡や上野国分僧寺・尼寺中間地域が筆頭に挙げられ、縄文文化を考える上で重要な資料といえる。

弥生時代の調査例は少ない。当時の稻作の様子を示す水田・集落跡等が検出された日高遺跡、後期住居跡が検出された上野国分僧寺・尼寺中間地域や桜ヶ丘遺跡、下東西遺跡等に散見するだけである。

古墳時代の遺跡としては、まず本遺跡群の北東に広がる総社古墳群が挙げられる。総社古墳群を代表するものには、前方後円墳である遠見山古墳、川原石を用いた積石塚である王山古墳、前方部と後円部にそれぞれ横穴式両袖型の石室が築造された前方後円墳の総社二子山古墳、両袖型横穴式石室をもつ方墳の愛宕山古墳、仏教文化

の影響を強く受けたと考えられる家形石棺をもつ方墳の宝塔山古墳、県内古墳最終末期に築造された蛇穴山古墳があり、この地域と中央との関係を考えるうえで重要な意味をもつ古墳群といえる。また、宝塔山古墳の南西500mには白鳳期の建立と考えられる山王廃寺跡（放光寺）がある。さらにこの寺の塔心礎や石製鳴尾、根巻石等の石造物群は、宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術を駆使して加工されている。これらのことから、この寺は上野地域を治めていた「上毛野氏」の氏寺であり、この古墳群には「上毛野氏」一族が葬られているとも考えられている。なお、山王廃寺跡は平成18年度から5ヵ年計画で山王廃寺範囲内容確認調査が実施され、平成18年度は講堂と回廊の北東部分、平成19年度は金堂と回廊の西側部分、平成20年度は塔の基壇周辺、平成21年度は回廊中門と考えられる遺構と回廊の南西部分を調査した。平成22年度には、回廊北西部付近で北西にやや傾く版築基壇が新たに確認され、昭和の発掘調査時から確認されている同方向に傾く掘立柱建物と一括して、「山王廃寺下層建物群」として捉えられるに至っている。この建物群の性格については群馬評衡など想定されるが、いまだその確定には至っていない。

奈良時代になると、上野国分僧寺・尼寺の建立など、本地域は古代の政治的・経済的・文化的中心地としての様相を呈してくる。国分僧寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代から部分的ながら調査が進められるようになった。本格的な発掘調査は昭和55年12月から始まり、主要伽藍の礎石、築垣、塀等が確認されている。さらに、国分尼寺の調査では、昭和44・45年に推定中軸線上のトレンチ調査が行われ伽藍配置が推定できるようになった。さらに平成12年に前橋市埋蔵文化財発掘調査団で南辺の寺域確認調査を行い、東南隅と南西隅の築垣、それと平行する溝跡や道路状遺構が確認された。なお上野国分僧寺と国分尼寺の中間地域では、関越自動車道建設に伴い発掘調査が行われ、大規模な集落跡や掘立柱建物群が検出されている。

また、上野国府については、その位置が現段階では不明であるが、元総社小校庭遺跡や昌楽寺周辺で実施された確認調査を皮切りに、元総社蒼海遺跡群（9）・（95）で掘立柱建物跡が確認されており、元総社寺田遺跡から「國厨」「曹司」「國」「邑厨」等と書かれた墨書き器や人形が出土しているほか、元総社明神遺跡や元総社蒼海遺跡群で当時の役人が用いたと考えられる円面硯、巡方（腰帶具）、綠釉陶器が出土している。加えて、元総社蒼海遺跡群（99）・（133）・（136）や上野国府範囲内容確認調査73・75トレンチで堀込地業を伴う礎石建物跡が相次いで確認されている。また、国府域の区画溝と推定される古代の大溝が閑泉樋遺跡をはじめとして元総社明神遺跡や元総社蒼海遺跡群で確認されている。これらの過去からの調査成果の積み重ねにより、元総社町付近に上野国府が設置されていた可能性は非常に高いと考えられる。

なお、高崎市内の調査事例や地割による研究により、本遺跡から約1.5km南の地点にN-64°-E方向の東山道（国府ルート）があることが推定されている。

中世に至り、永享元年（1429）、上野国守護代の長尾氏によって上野国府中（旧国府）に築かれたと伝えられる蒼海城は、県内でも最古級の城郭に位置づけられ、城下町も存在していたと推定されている。しかしながら慶長年間に秋元氏により総社の地へ城および城下町が移転している。

このように総社・元総社地区は特に古代から上野国の中心部として政治の中心として重要な地域であった。特に、その中でも上野国府が所在したと推定される元総社町は注目される。元総社町は元総社蒼海土地区画整理事業の進捗に伴い平成11年から継続的に発掘調査が行われている。また、平成23年度から上野国府等範囲内容確認調査も元総社町内を中心に実施していることから、今後、これら調査の進捗によって上野国府が解明されていくことを期待する。

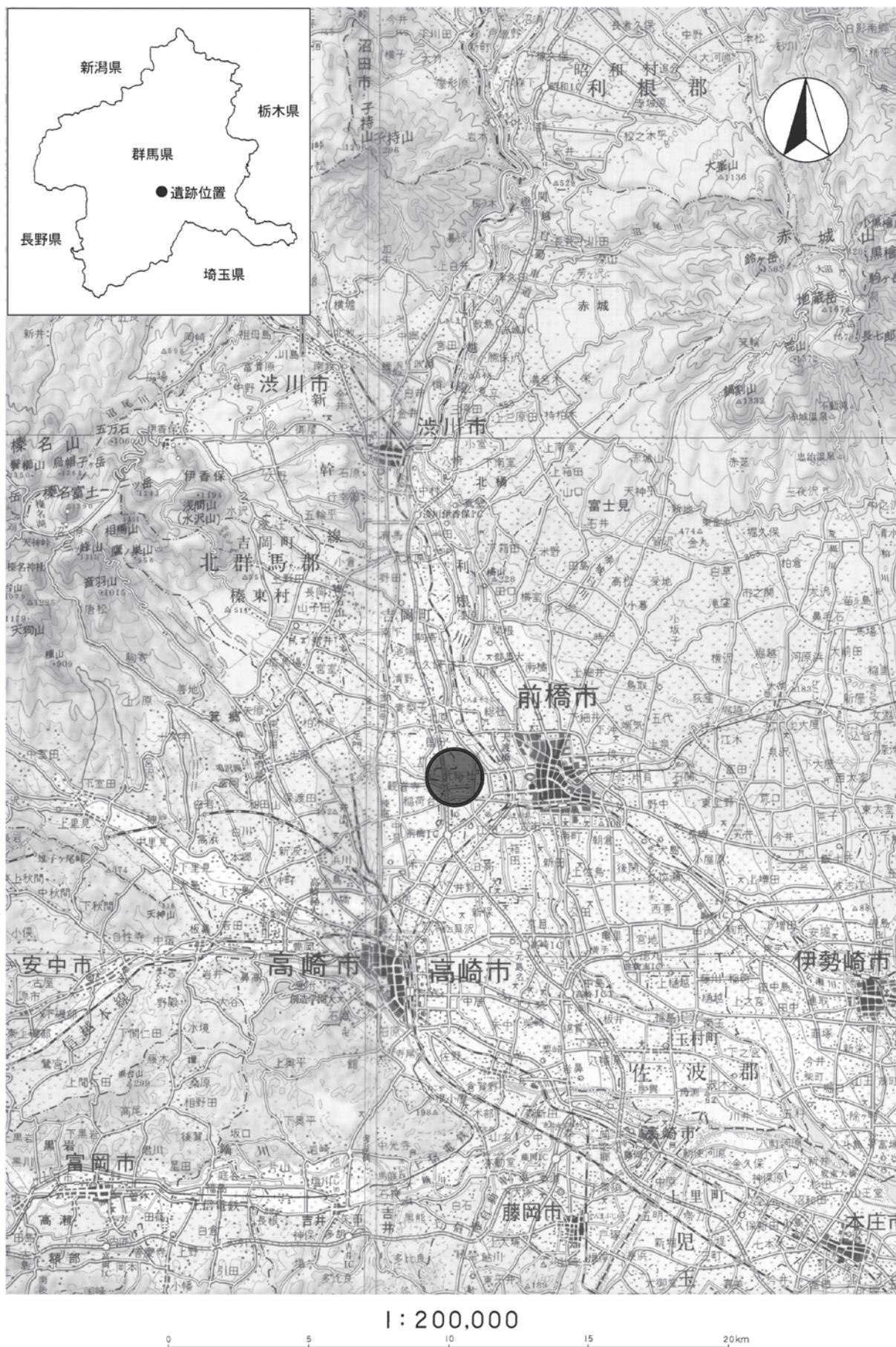


Fig.1 元総社蒼海遺跡群位置図

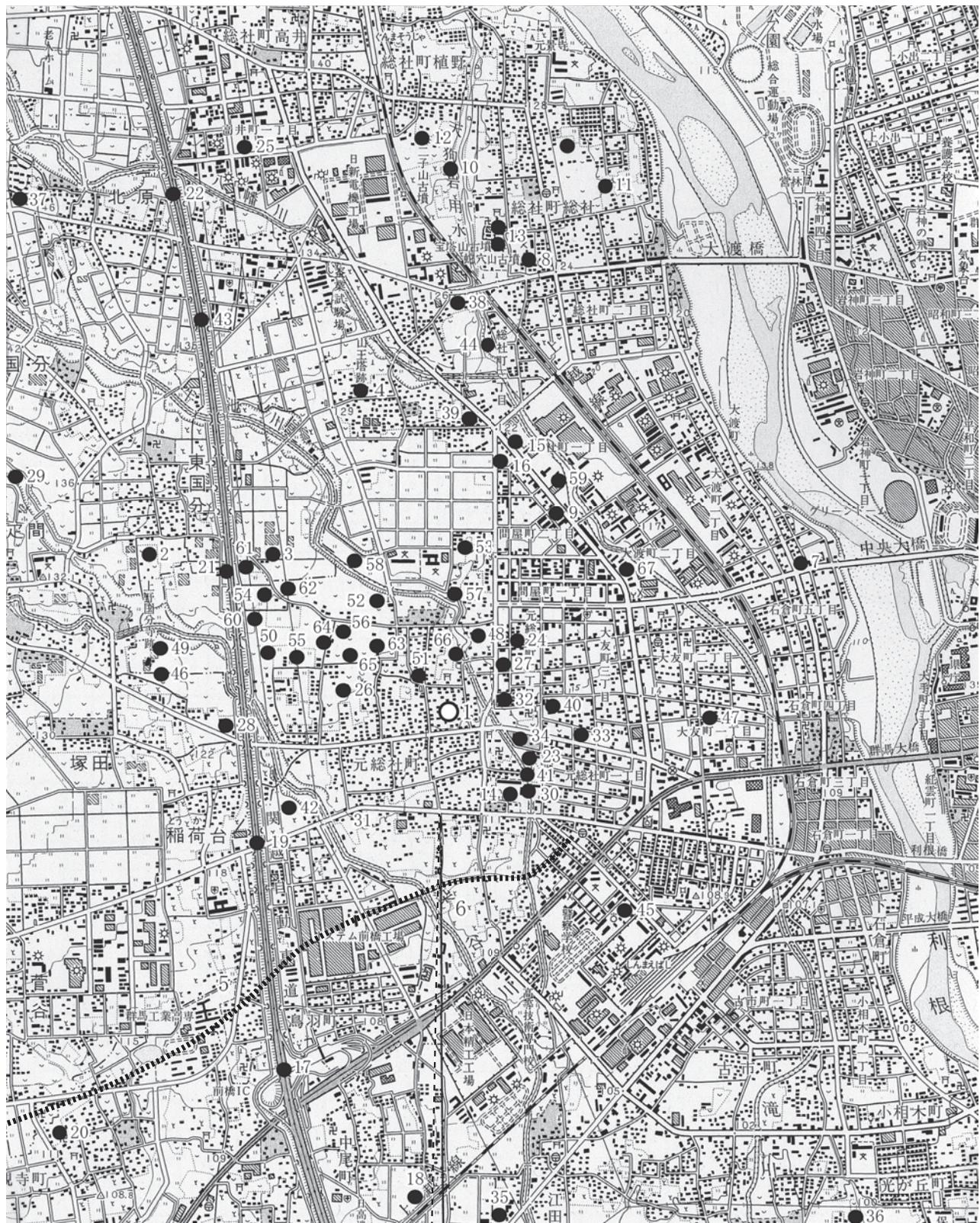


Fig.2 周辺遺跡図

Tab.1 周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	調査年度	番号	遺跡名	調査年度
1	元総社蒼海遺跡群(146)	2021	60	元総社小見内IV遺跡	2002
2	上野国分寺跡	1980～88		元総社小見内IV遺跡	2003
3	上野国分尼寺跡	(1999)	61	元総社小見V遺跡	2003
4	山王庵寺跡	(1974)	62	元総社小見内VI遺跡	2003
5	東山道駿路国府ルート(推定)	-	63	元総社小見内VII遺跡	2003
6	日高道(推定)	-	64	元総社小見IX遺跡 元総社小見内IX遺跡	2004
7	王山古墳	1972	65	元総社小見内X遺跡	2004
8	蛇穴山古墳	1975	66	総社閑泉明神北V遺跡	2004
9	稻荷山古墳	1988	67	大渡道場遺跡	2005
10	愛宕山古墳	1996	-	元総社蒼海遺跡群(1)	2005
11	遠見山古墳	-	-	元総社蒼海遺跡群(2)	2005
12	総社二子山古墳	-	-	元総社蒼海遺跡群(3)	2005
13	宝塔山古墳	-	-	元総社蒼海遺跡群(4)	2005
14	元総社小学校校庭遺跡	1962	-	元総社蒼海遺跡群(5)	2005
15	産業道路東遺跡	1966	-	元総社蒼海遺跡群(6)	2005
16	産業道路西遺跡	1966	-	元総社蒼海遺跡群(7)	2005
17	中尾遺跡	1976	-	元総社蒼海遺跡群(8)	2006
18	日高遺跡	(1978)	-	元総社蒼海遺跡群(9)(10)	2006
19	鳥羽遺跡	1978～83	-	元総社蒼海遺跡群(11)	2006
20	正觀寺遺跡I～IV	1979～1981	-	元総社蒼海遺跡群(12)	2006
21	上野国分寺・尼寺中間地域	1980～83	-	元総社蒼海遺跡群(13)	2008
22	北原遺跡(群馬町)	1982	-	元総社蒼海遺跡群(14)	2008
23	元総社明神遺跡I～XIII	1982～96	-	元総社蒼海遺跡群(15)	2008
24	閑泉樋遺跡	1983	-	元総社蒼海遺跡群(16)	2008
25	柿木遺跡・II遺跡	1983、88	-	元総社蒼海遺跡群(17)	2008
26	草作遺跡	1984	-	元総社蒼海遺跡群(18)	2008
27	閑泉樋南遺跡	1985	-	元総社蒼海遺跡群(19)	2008
28	塚田村東遺跡(群馬町)	1985	-	元総社蒼海遺跡群(20)	2008
29	後疋間遺跡I～III	1985～87	-	元総社蒼海遺跡群(21)	2009
30	寺田遺跡	1986	-	元総社蒼海遺跡群(22)	2009
31	天神遺跡・II遺跡	1986、88	-	元総社蒼海遺跡群(23)	2009
32	屋敷遺跡・II遺跡	1986、95	-	元総社蒼海遺跡群(24)	2009
33	堰越遺跡	1987	-	元総社蒼海遺跡群(25)	2009
34	大友屋敷II・III遺跡	1987	-	元総社蒼海遺跡群(26)	2009
35	勝呂遺跡	1987	-	元総社蒼海遺跡群(27)	2009
36	五反田遺跡	1987	-	元総社蒼海遺跡群(28)	2009
37	熊野谷遺跡	1988	-	元総社蒼海遺跡群(29)	2009
	熊野谷II遺跡	1989	-	元総社蒼海遺跡群(30)	2009
38	村東遺跡	1988	-	元総社蒼海遺跡群(31)	2009
39	昌楽寺廻向遺跡・II遺跡	1988	-	元総社蒼海遺跡群(32)	2010
40	堰越II遺跡	1988	-	元総社蒼海遺跡群(33)	2010
41	元総社寺田遺跡I～III(事業団)	1988～91	-	元総社蒼海遺跡群(34)	2010
42	弥勒遺跡・II遺跡	1989、95	-	元総社蒼海遺跡群(35)	2010
	国分境遺跡(事業団)	1990	-	元総社蒼海遺跡群(36)	2010
43	国分境II遺跡	1991	-	元総社蒼海遺跡群(37)	2011
	国分境III遺跡(群馬町)	1991	-	元総社蒼海遺跡群(38)	2012
44	大友屋敷I～IV遺跡	1992～2000	-	元総社蒼海遺跡群(39)	2012
45	元総社稻葉遺跡	1993	-	元総社蒼海遺跡群(40)	2013
46	上野国分寺参道遺跡	1996	-	元総社蒼海遺跡群(41)	2013
47	大友宅地添遺跡	1998	-	元総社蒼海遺跡群(42)	2013
	総社閑泉明神北遺跡	1999	-	元総社蒼海遺跡群(43)	2013
48	総社閑泉明神北II遺跡	2001	-	元総社蒼海遺跡群(44)	2013
49	元総社西川遺跡(事業団)	2000	-	元総社蒼海遺跡群(45)	2013
50	元総社小見遺跡	2000	-	元総社蒼海遺跡群(46)	2013
51	元総社宅地遺跡1～23トレンチ	2000	-	元総社蒼海遺跡群(47)	2013
52	元総社小見内III遺跡	2001	-	元総社蒼海遺跡群(48)	2013
53	元総社甲稻荷塚大道西遺跡	2001	-	元総社蒼海遺跡群(49)	2013
	元総社甲稻荷塚大道西II遺跡		-	元総社蒼海遺跡群(50)	2013
54	元総社小見II遺跡	2002	-	元総社蒼海遺跡群(51)	2013
55	元総社小見III遺跡	2002	-	元総社蒼海遺跡群(52)	2013
	元総社草作V遺跡		-	元総社蒼海遺跡群(53)	2013
56	元総社小見内IV遺跡	2002	-	元総社蒼海遺跡群(54)	2013
	元総社小見IV遺跡	2003	-	元総社蒼海遺跡群(55)	2013
	元総社甲稻荷塚大道西III遺跡	2002	-	元総社蒼海遺跡群(56)(61)	2013
57	元総社閑泉明神北III遺跡	2002	-	元総社蒼海遺跡群(57)	2014
	元総社甲稻荷塚大道西IV遺跡	2003	-	元総社蒼海遺跡群(58)	2014
58	元総社北川遺跡	2002～04	-	元総社蒼海遺跡群(59)	2014
59	稻荷塚道東遺跡	2003			

番号	遺跡名	調査年度
-	元総社蒼海遺跡群(60)	2014
-	元総社蒼海遺跡群(62)	2014
-	元総社蒼海遺跡群(63)	2014
-	元総社蒼海遺跡群(64)	2014
-	元総社蒼海遺跡群(65)	2014
-	元総社蒼海遺跡群(66)	2013
-	元総社蒼海遺跡群(67)	2013
-	元総社蒼海遺跡群(68)	2013
-	元総社蒼海遺跡群(72)	2013
-	元総社蒼海遺跡群(73)	2013
-	元総社蒼海遺跡群(74)	2014
-	元総社蒼海遺跡群(75)	2014
-	元総社蒼海遺跡群(76)	2014
-	元総社蒼海遺跡群(77)	2014
-	元総社蒼海遺跡群(78)	2014
-	元総社蒼海遺跡群(79)	2014
-	元総社蒼海遺跡群(80)	2014
-	元総社蒼海遺跡群(81)	2014
-	元総社蒼海遺跡群(82)	2014
-	元総社蒼海遺跡群(83)	2014
-	元総社蒼海遺跡群(84)	2014
-	元総社蒼海遺跡群(85)	2014
-	元総社蒼海遺跡群(88)	2014
-	元総社蒼海遺跡群(89)	2014
-	元総社蒼海遺跡群(90)	2014
-	元総社蒼海遺跡群(91)	2014
-	元総社蒼海遺跡群(92)	2014
-	元総社蒼海遺跡群(94)	2014
-	元総社蒼海遺跡群(95)	2014
-	元総社蒼海遺跡群(96)	2014
-	元総社蒼海遺跡群(97)	2014
-	元総社蒼海遺跡群(98)	2014
-	元総社蒼海遺跡群(99)	2015
-	元総社蒼海遺跡群(100)	2014
-	元総社蒼海遺跡群(101)	2014
-	元総社蒼海遺跡群(102)	2015
-	元総社蒼海遺跡群(103)	2015
-	元総社蒼海遺跡群(116)	2016
-	元総社蒼海遺跡群(117)	2016
-	元総社蒼海遺跡群(118)	2016
-	元総社蒼海遺跡群(120)	2016
-	元総社蒼海遺跡群(121)	2016
-	元総社蒼海遺跡群(122)	2016
-	元総社蒼海遺跡群(123)	2016
-	元総社蒼海遺跡群(124)	2017
-	元総社蒼海遺跡群(126)	2017
-	元総社蒼海遺跡群(127)	2018
-	元総社蒼海遺跡群(128)	2018
-	元総社蒼海遺跡群(129)	2018
-	元総社蒼海遺跡群(130)	2018
-	元総社蒼海遺跡群(131)	2018
-	元総社蒼海遺跡群(133)	2019
-	元総社蒼海遺跡群(135)	2019
-	元総社蒼海遺跡群(136)	2019
-	元総社蒼海遺跡群(137)	2019
-	元総社蒼海遺跡群(138)	2019
-	元総社蒼海遺跡群(139)	2019
-	元総社蒼海遺跡群(140)	2020
-	元総社蒼海遺跡群(141)	2020
-	元総社蒼海遺跡群(142)	2021
-	元総社蒼海遺跡群(145)	2020
-	元総社蒼海遺跡群(17街区)	2015
-	元総社蒼海遺跡群(75街区)	2015
-	元総社蒼海遺跡群(75街区)No.2	2020
-	元総社蒼海遺跡群(93街区)	2016
-	元総社蒼海遺跡群(94街区)	2017
-	元総社小見遺跡	2000
-	元総社小見II遺跡	2002
-	元総社小見III遺跡	2002

番号	遺跡名	調査年度
-	元総社小見IV遺跡	2003
-	元総社小見V遺跡	2003
-	元総社小見内III遺跡	2001
-	元総社小見内IV遺跡	2002
-	元総社小見内VI遺跡	2003
-	元総社小見内VII遺跡	2003
-	元総社小見内VIII遺跡	2003
-	元総社小見内IX遺跡	2004
-	元総社小見内X遺跡	2004
-	元総社草作遺跡	1984
-	元総社草作V遺跡	2002
-	元総社宅地遺跡1~8トレンチ	2000
-	元総社宅地遺跡9~18・21トレンチ	2000
-	元総社宅地遺跡19トレンチ	2000
-	元総社宅地遺跡20トレンチ	2000
-	元総社宅地遺跡22・23トレンチ	2000・2012
-	上野国府等範囲内容確認調査1~7トレンチ	2011
-	上野国府等範囲内容確認調査8~16トレンチ	2012
-	上野国府等範囲内容確認調査17~26トレンチ	2013
-	上野国府等範囲内容確認調査27~34トレンチ	2014
-	上野国府等範囲内容確認調査35~44トレンチ	2015
-	上野国府等範囲内容確認調査45~49トレンチ	2016
-	上野国府等範囲内容確認調査50~54トレンチ	2017
-	上野国府等範囲内容確認調査55~61トレンチ	2018
-	上野国府等範囲内容確認調査62~68トレンチ	2019
-	上野国府等範囲内容確認調査69~74トレンチ	2020
-	上野国分尼寺(上野国分尼寺寺域確認調査)	1969・1970・1999・2000
-	総社甲稻荷塚大道西遺跡	2001
-	総社甲稻荷塚大道西II遺跡	2001
-	総社甲稻荷塚大道西III遺跡	2002
-	総社甲稻荷塚大道西IV遺跡	2003
-	総社閑泉明神北遺跡	1999
-	総社閑泉明神北II遺跡	2001
-	総社閑泉明神北III遺跡	2002
-	総社閑泉明神北IV遺跡	2002~04
-	総社閑泉明神北V遺跡	2004
-	閑泉樋遺跡	1983
-	閑泉樋南遺跡	1985
-	元総社北川遺跡	2002~04
-	元総社牛池川遺跡	2002~04
-	元総社中学校遺跡	2016
-	元総社北小学校遺跡	2020

III 調査方針と経過

1 調査方針

発掘調査を依頼された箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い新設される道路用地等で、調査面積は 1,537m²である。遺構番号は、遺跡ごとに個別に付番することとし、146-H-1 号竪穴建物跡のように、遺構の前に必ず遺跡番号を付すこととした。

グリッド座標については国家座標（日本測地系）X = + 44,000・Y = - 72,200 を基点（X 0・Y 0）とする 4 m ピッチのものを使用し、西から東へ X 270、271、272…、北から南へ Y 68、69、70…と付番し、グリッド呼称は北西杭の名称を使用した。

元総社蒼海遺跡群（146）1 区の X 270・Y 68 の公共座標は以下のとおりである。

日本測地系	X = + 43,728.000	Y = - 71,120.000
緯 度	36° 23'29" .5012	経 度 139° 02'25" .5922

調査方法については、表土掘削・遺構確認・方眼杭等設置・遺構掘下・遺構精査・測量・全景写真の手順で行うこととした。このうちの遺構確認については、基本的に As-C 軽石、Hr-FP 軽石、As-B 軽石が混入する土層を手がかりとした。

図面作成は、平板・簡易造り方測量を用い、遺構平面図は原則として 1/20、住居跡竪は 1/10 の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録を記載しながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

2 調査経過

本調査は令和 3 年 6 月 1 日から開始し、令和 4 年 3 月 28 日まで行った。調査経過は以下のとおりである。

1 区 元総社蒼海遺跡群の北東部、牛池川左岸に位置する。住宅地に囲まれた場所であり排土置場や重機の移動経路の確保が困難であったため、調査区を東西方向のトレンチと南北方向のトレンチに 2 分割した。さらに東西方向のトレンチは西半面から調査を開始したのち、反転して東半面を調査。その後南北方向のトレンチの調査に着手した。6 月 1 日より重機によって、東西方向のトレンチの西半面の表土掘削を開始し、現表土と耕作土を取り除いた高さを遺構確認面とした。狭い調査区内であったが、遺構が重複し合っており遺構確認に時間を要した。同月 22 日に埋め戻し、同トレンチの東半面の表土掘削を開始した。東側では現代の開発による搅乱がほぼ調査区一面に広がっており、遺構確認ののち、平面測量・全景写真撮影を行い、翌日 23 日に埋め戻しを行った。続いて東西方向のトレンチの埋め戻しと同時に南北方向のトレンチの表土掘削を開始。このトレンチでは遺構の濃度は比較的薄く、畝状遺構のみ検出した。これを掘り下げたのち遺構平面測量・全景写真撮影を終え、同月 28 日に埋め戻しを完了した。

2 区 元総社蒼海遺跡群の中央部、牛池川右岸に位置する。6 月 29 日に重機による掘削を開始。現代の開発による搅乱が調査区随所に見られ、表土から 50cm 程掘削した高さで総社砂層が露出した。翌日 30 日にグリッド杭を設定し、遺構の掘り下げ・測量を進めた。雨天が続き作業にも影響したものの、8 月 5 日に調査区全景写真を撮影、翌日 6 日に埋め戻しを行った。

3 区 元総社蒼海遺跡群東部、牛池川右岸に位置する。8 月 17 日に重機による表土掘削を開始。10～20cm 程掘り下げた高さで総社砂層が露出。調査区全面に現代の開発による搅乱が広がっており、大部分の遺構は削平されてしまっているものと見られ、確認できた遺構は非常に少なかった。8 月 24 日に全景写真を撮影、翌日 25 日に調査区の平面測量を実施、さらに翌日の 26 日に埋め戻しを行った。

4 区 元総社蒼海遺跡群北西部、上野国分尼寺跡伽藍地南辺と西辺のラインが交差することが想定される地点に

位置する。土地区画整理事業で廃道となった道路のアスファルト舗装及び側溝撤去工事に伴い土層断面の確認と一部トレンチ調査を行った。7月14日、15日にアスファルト舗装及び側溝の撤去工事に立会い、その後土層確認を行った。上野国分尼寺跡伽藍地南辺と見られる遺構が確認できたことから、同月16日に須田勉氏（元國士館大学教授、上野国分尼寺跡調査検討委員会副委員長）と高崎市教育委員会に、8月3日には前澤和之氏（館林市史編さん専門委員、上野国分尼寺跡調査検討委員会委員長）に、8月6日には群馬県文化財保護課にそれぞれ現地の状況を確認していただいた。8月2日、調査区中央付近で拡張トレンチを設定し、同月31日の拡張トレンチの遺構測量・全景撮影をもって調査終了とした。

5区 元総社蒼海遺跡群西部、関越自動車道の東側に位置する。9月1日から3日までの3日間表土掘削を実施。調査区を分断するように水道管が敷設されていたため、調査区を北面と南面に分割し、北面から調査を行った。排土置場の十分な確保ができなかつたため、置ききれなかつた排土を一度調査区南面に置き、北面調査後に重機を用いて排土を南面から北面へ移動した。地山の総社砂層が黒色粘質土から黄褐色砂質土へ漸移する地点での調査となつたため、覆土の判別が難しく、遺構確認に苦心した。また、北面の遺構濃度は濃く、排土も予想を越える量となつたため、掘り下げに時間を要した。10月29日に調査区北面の全景写真を撮影。北面で検出した縄文時代の竪穴建物跡の掘り下げ・測量を終えた11月15日に南面に置いた排土で北面を埋め戻し、南面の遺構確認を行つた。その結果、南面の遺構が判然としなかつたため、再度重機で表土掘削を行い、総社砂層の漸移層が露出するまで遺構確認面を下げた。調査が12月に入ると気温が低下し、土に霜が降りたり凍結したりするなどの冷害にも見舞われたが、養生マット等の使用で凍結防止に努めた。12月16日に調査区南面の全景写真を撮影し、翌日17日に埋め戻しを行つた。

6区 5区の南東方向に位置する。5区南面の表土掘削を行つた翌日11月16日に表土掘削を開始。地表面から1m程下まで現表土と耕作土が堆積しており、その直下で総社砂層が露出した。12月17日まで5区の調査と並行して遺構の掘り下げ・測量を実施し、12月24日に調査区全景写真を撮影、平面測量を終え、翌週の12月27日に埋め戻しを行つた。

7区 元総社蒼海遺跡群南部、県道足門・前橋線のやや北に位置する。排土置場が十分に確保できなかつたため、調査区を西面と東面に分割して調査を行つた。はじめに12月21日、22日の2日間で西面を掘削し、翌年の令和4年1月14日に調査区西面全景写真を撮影。同月17日に西面の埋め戻しを開始。その後、東面の表土掘削に移行し、同月19日まで行つた。蒼海城堀跡を含む大溝4条を検出したため、掘り下げによる排土が極めて大量となり、限られた場所での排土の管理に苦心した。2月7日に東面全景写真を撮影し、翌々日の9日に埋め戻しを開始した。10日に降雪があつたため埋め戻しはその翌日11日に完了した。

8区 元総社蒼海遺跡群南東部、牛池川右岸に位置する。宮鍋神社の南側に位置し、官衙関連遺構と見られる礎石建物跡が検出された元総社蒼海遺跡群（136）の西側に隣接している。2月8日に表土掘削を開始。表土掘削時に、調査区東部の遺構確認面で礎石建物跡の地業面や礎石と見られる巨石が確認できた。調査区全体の遺構確認のうち、礎石建物跡より上層の遺構を掘り下げていき、3月15日に堀込地業の土層断面を確認した。非常に固く締まつた地業層を掘り下げるることは容易ではなく、完掘までに多くの時間と労力を要した。3月9日には上野国府調査委員会、15日には上野国府調査部会による現地視察が行われ、今後の展望について数々のご教示をいただいた。同月21日に礎石建物跡の掘り下げが完了し、翌々日の23日に有限会社毛野考古学研究所によるドローンを用いた空中写真撮影を実施した。24日に遺構測量を行い、28日に埋め戻しが完了した。



Fig.3 周辺調査地点とグリッド設定図

IV 基本層序

基本層序は、各調査区に確認用トレンチを設定し、セクション図を元に模式図を作成した。以下に土層説明を掲載する。なお、6区については未計測のため掲載していない。

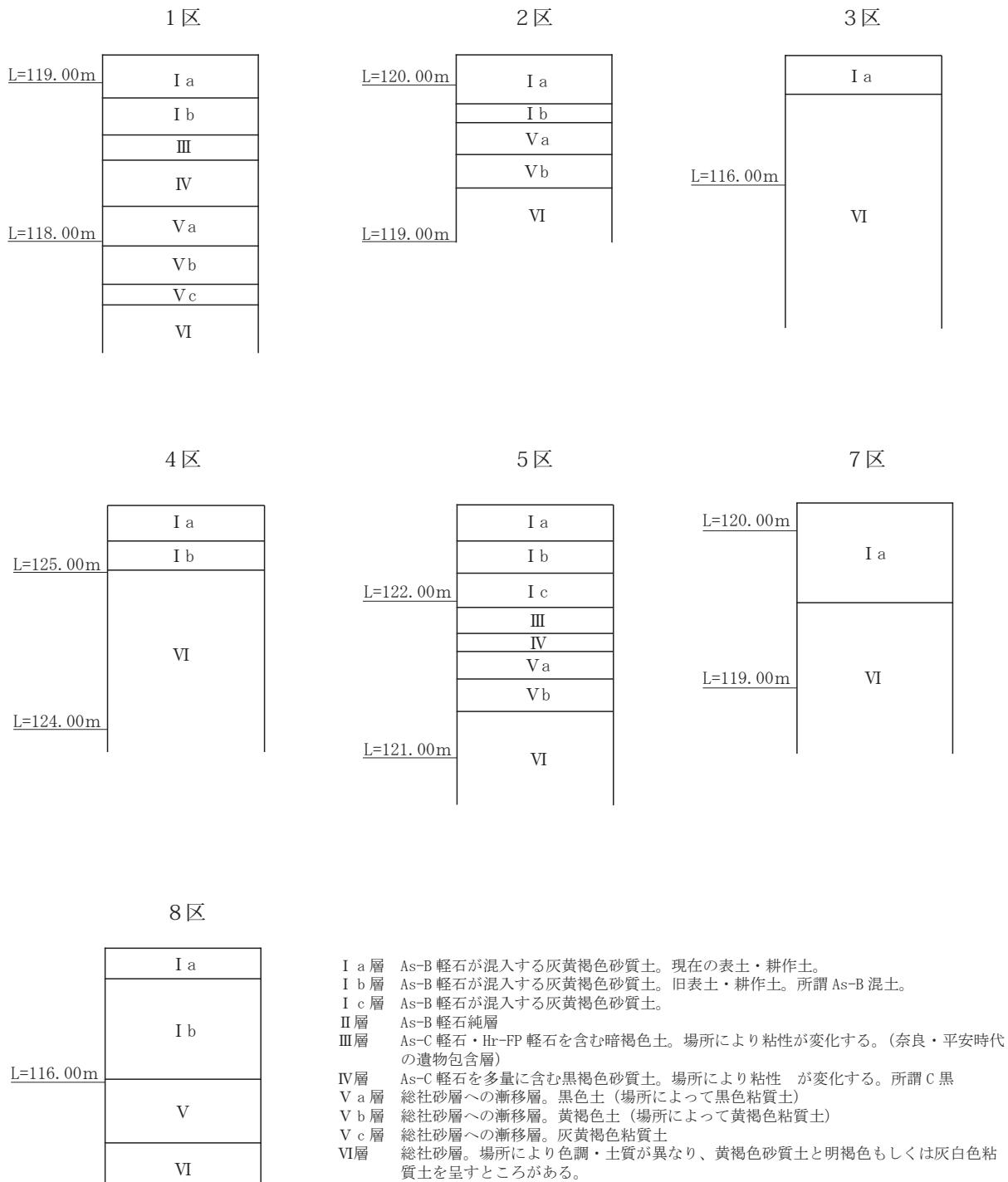


Fig.4 基本層序

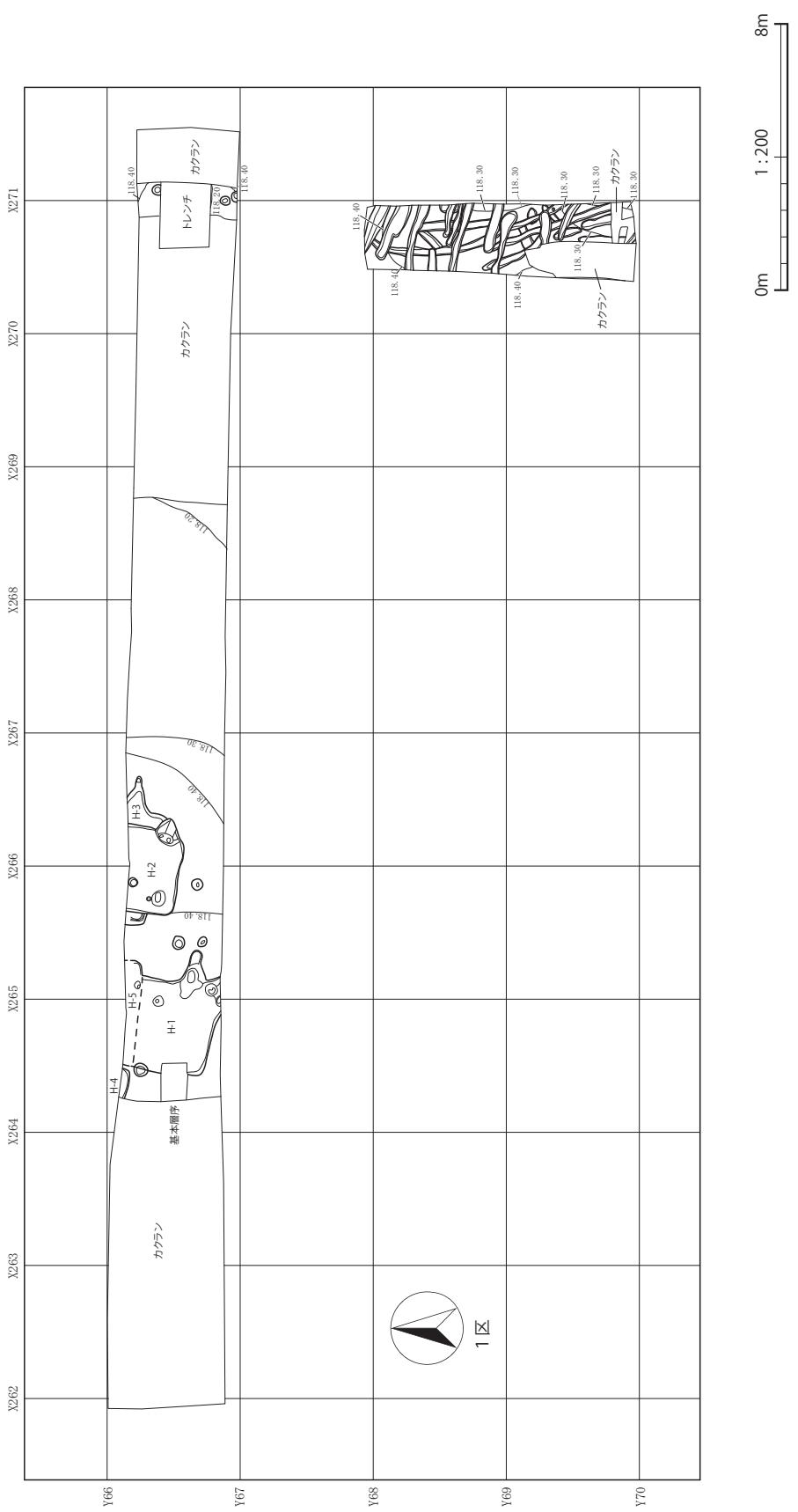


Fig.5 元総社蒼海遺跡群（146）1区全体図

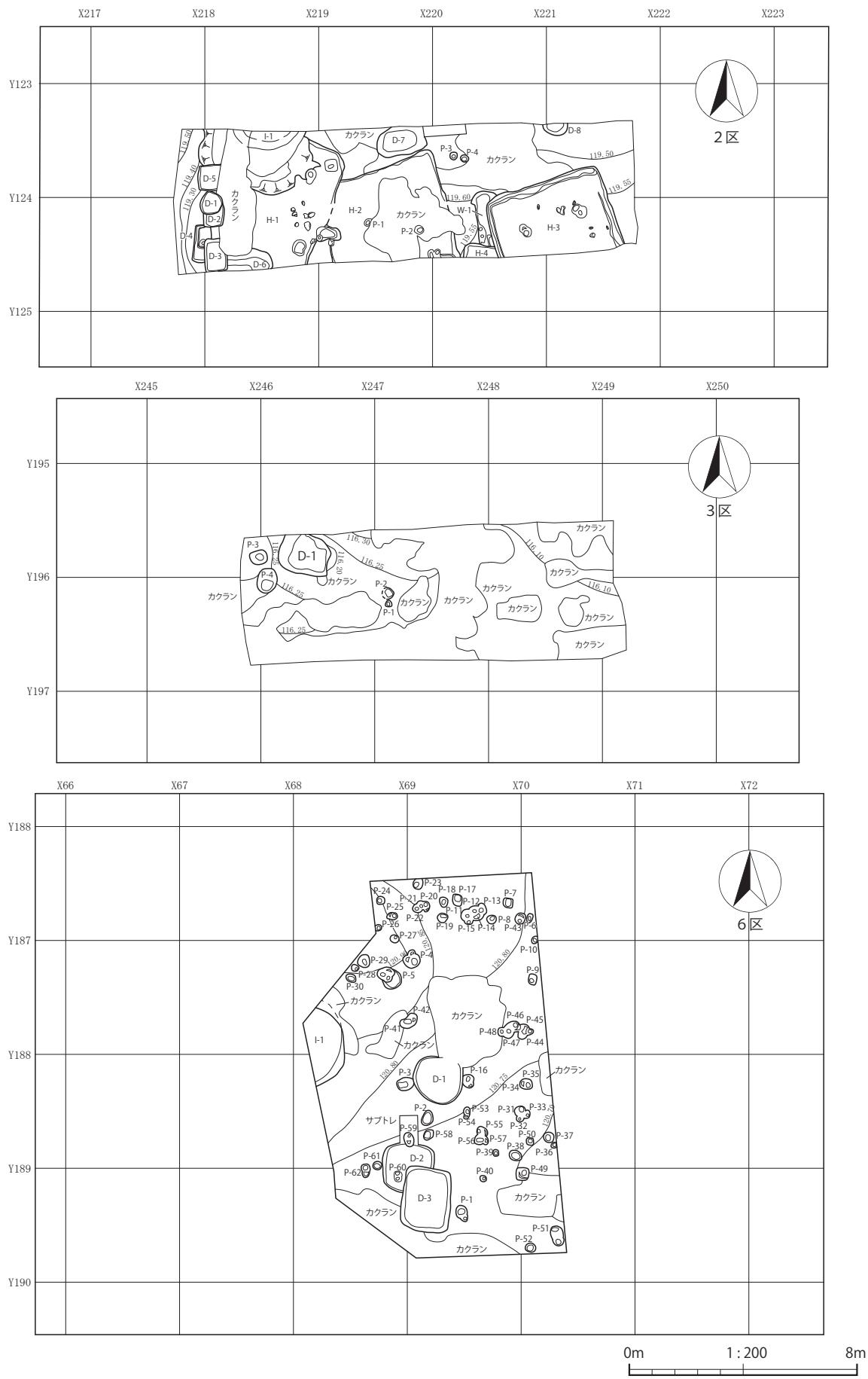


Fig.6 元総社蒼海遺跡群(146) 2・3・6区全体図

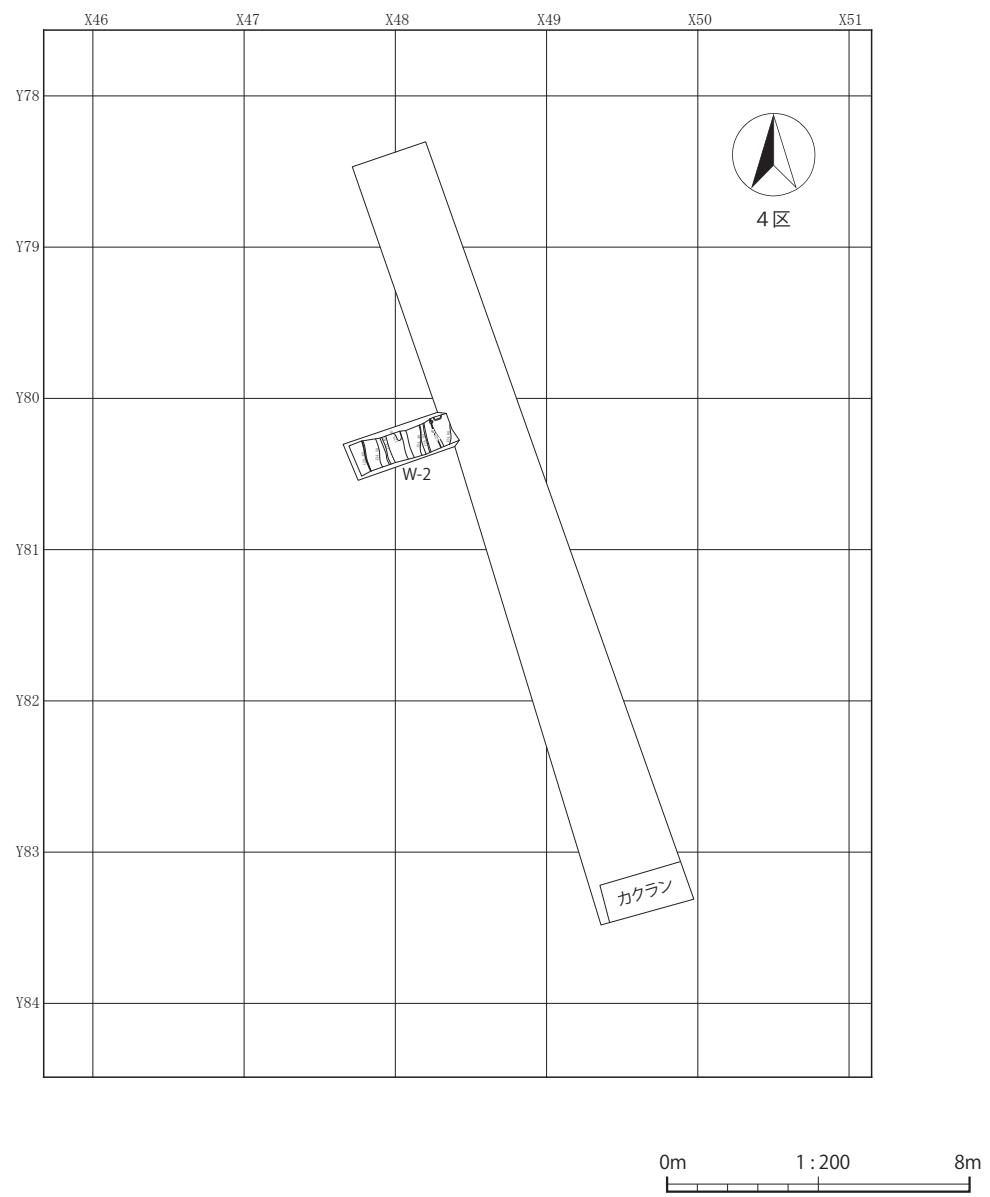


Fig.7 元総社蒼海遺跡群（146）4区全体図

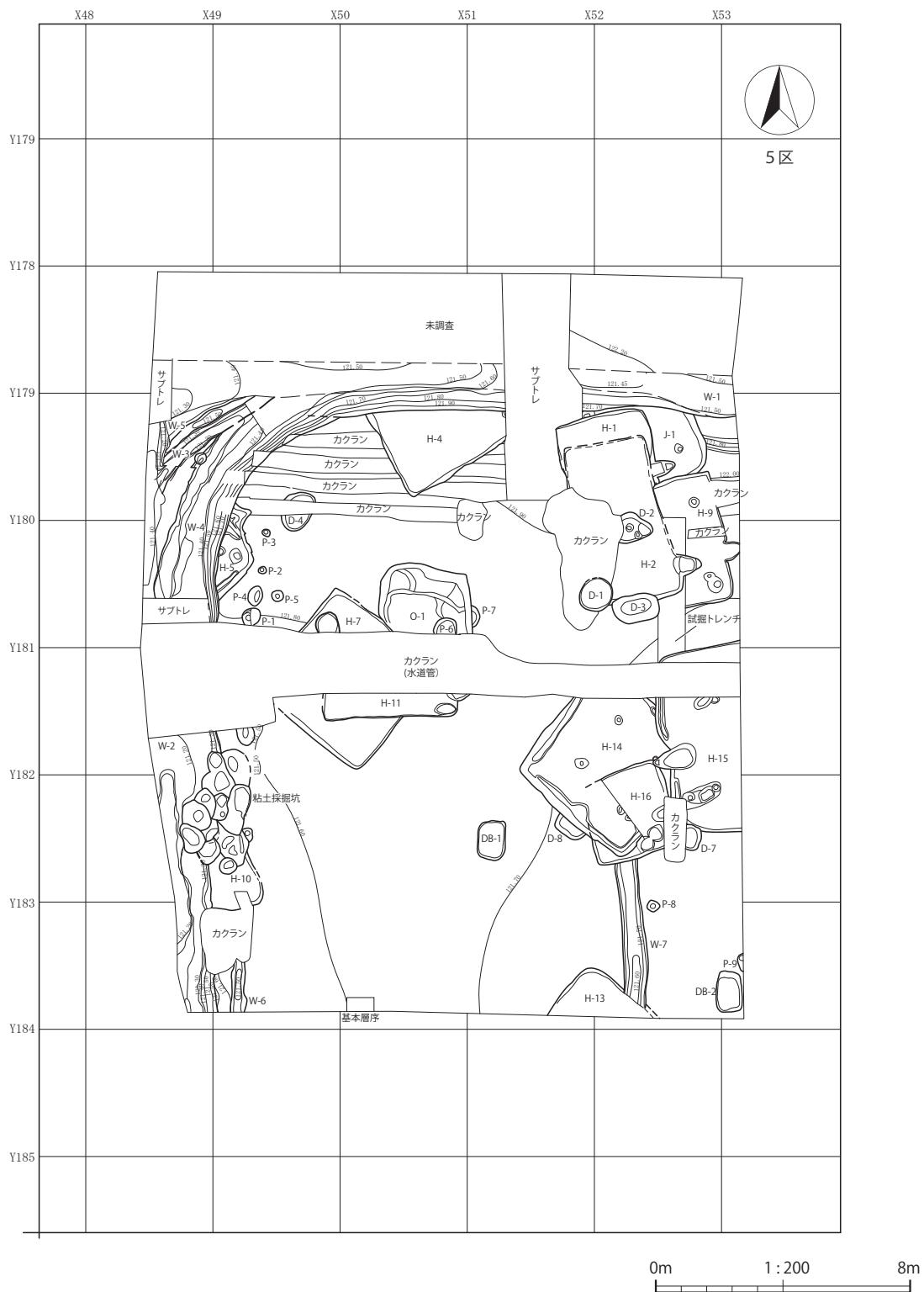


Fig.8 元総社蒼海遺跡群（146）5区全体図

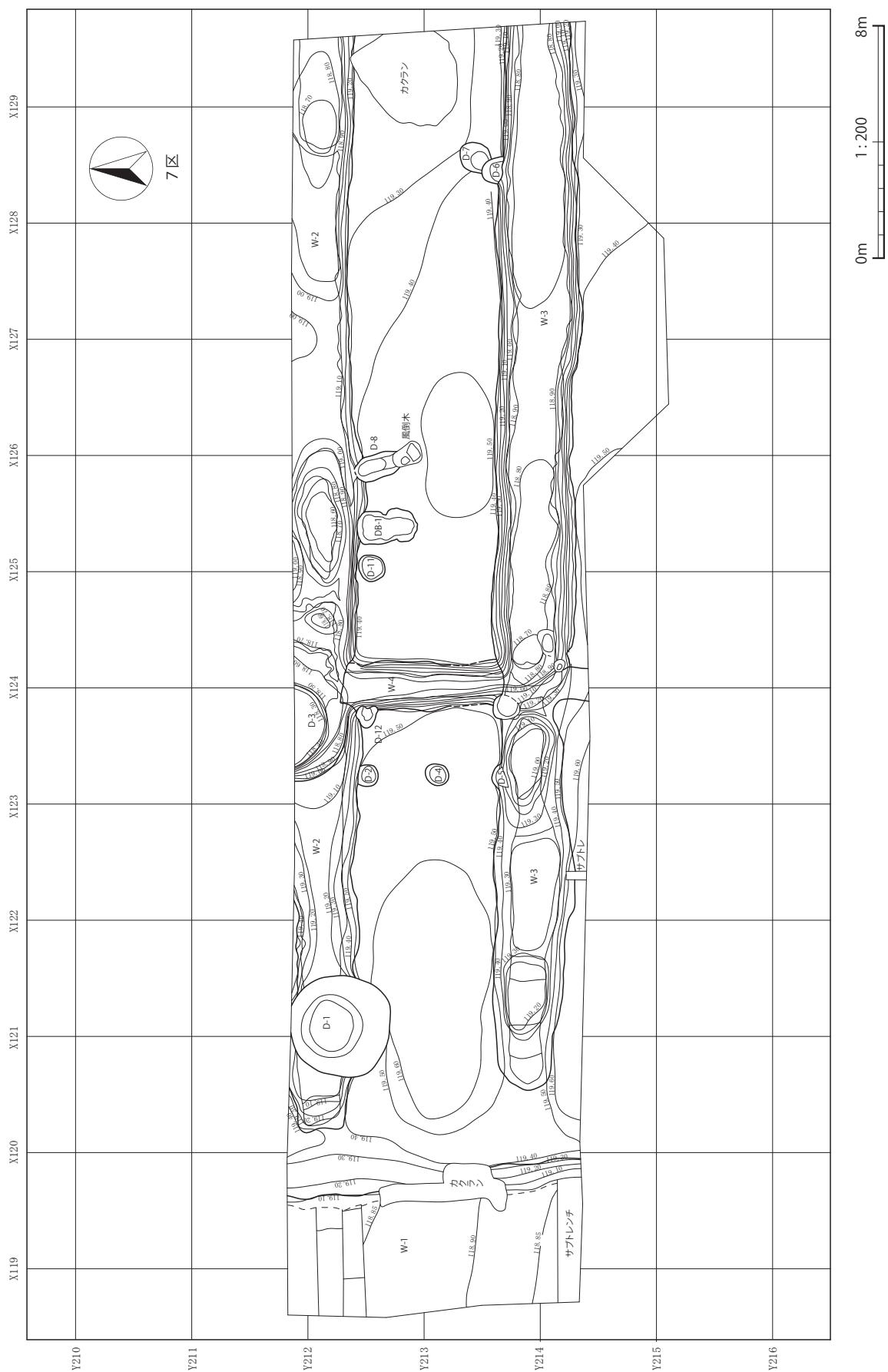


Fig.9 元総社蒼海遺跡群（146）7区全体図

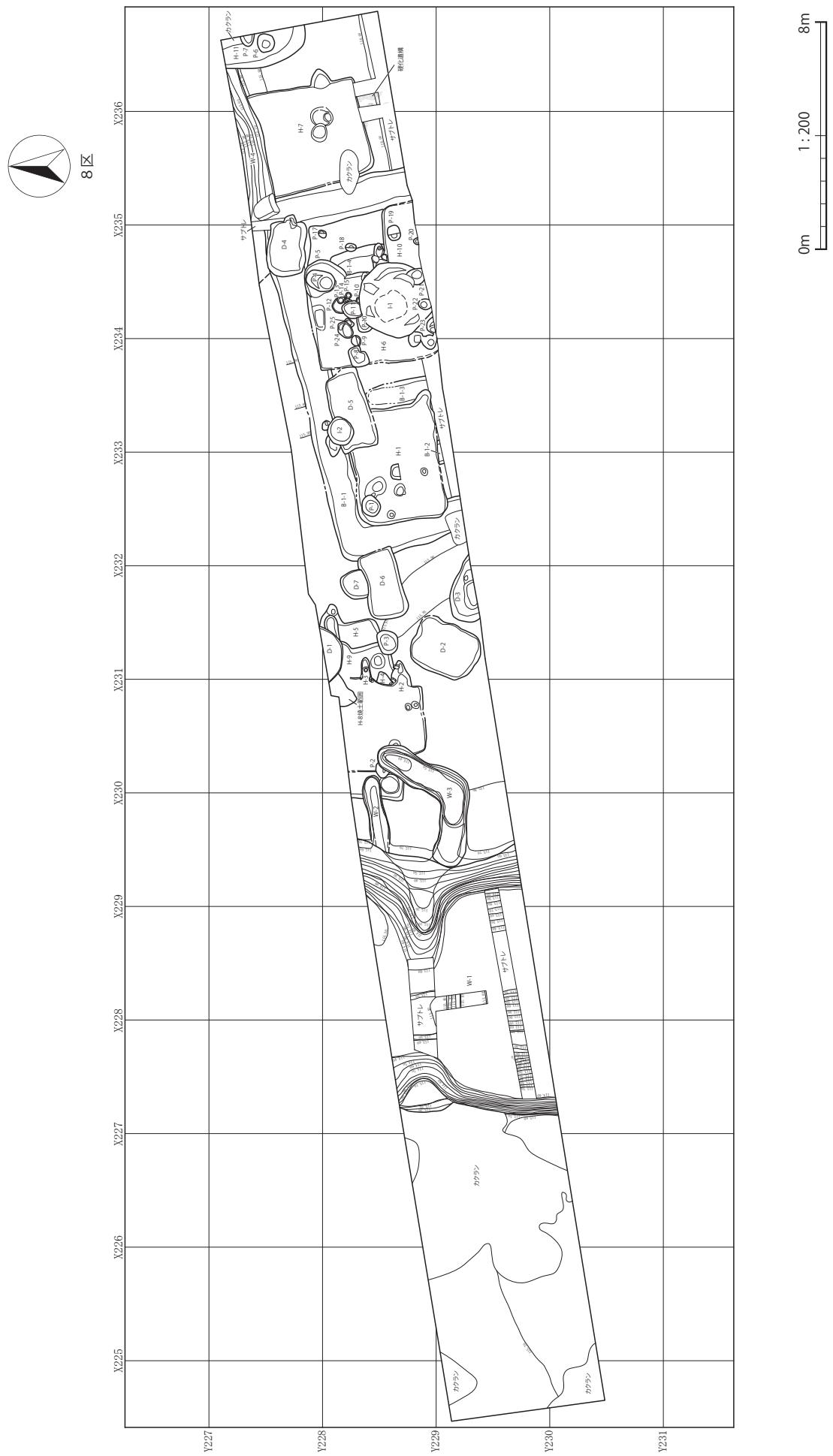


Fig.10 元総社蒼海遺跡群（146）8区全体図

V 遺構と遺物

1区

調査区の概要

元総社蒼海遺群の北東部、牛池川左岸に位置し、区画道路予定地であるため、調査前時点では平坦に整地され、碎石が敷かれていた。南は元総社蒼海遺跡群（14）3トレンチ（以下「蒼海（○○）」と略）、東は蒼海（88）と隣接する調査区である。基本層序V層にあたる総社砂層への漸移層は黒色粘質土で、下層のVI層は白色粘質土である。竪穴建物跡5軒、ピット6基、畝状遺構1面を検出。竪穴建物跡はいずれも平安時代後半に帰属するもので、H-1・2・3・5号竪穴建物跡では南東隅、もしくは東壁の南東隅に近い南寄りの位置で竈が確認できた。H-1については竈が2基検出され、造り替えたものである可能性が考えられる。竪穴建物跡は東西方向に設定したトレンチの西側に集中しており、それよりも東では確認できなかった。畝状遺構は南北方向のトレンチでのみ確認し、蒼海（14）3トレンチで検出したものと同一の遺構である。ピットはいずれも中世以降のものと見られる。

（1）竪穴建物跡

H-1号竪穴建物跡（遺構：Fig.11、PL.1/ 遺物：Fig.64、PL.18）

位置：X 264・265, Y 66 グリッド **主軸方向：**N-101°-E **形状・規模：**正方形を呈する。東西（3.21）m、南北（2.78）m、壁現高35cm **床面：**平坦で堅緻な貼り床面 **竈：**東壁中央南寄りと南東隅に1基ずつ、合計2基検出。東壁で検出したものを竈a、南東隅で検出したものを竈bとした。竈aの主軸方向はN-103°-E。全長105.0cm、最大幅92.0cm、焚口部幅66.0cmを測る。竈bの主軸方向N-140°-E。全長（51.0）cm、最大幅（74.0）cm、焚口部幅（22.0）cmを測る。竈a付近では貼り床面の上で灰が見られたことに対して、竈b付近では貼り床面の下から灰が確認されたため、竈bは竈aよりも先に廃棄されたものであることが推測された。加えて、竈aの土層断面では焼土や灰・粘土の堆積が見られたが、竈bではほとんど見られなかっことからも先と同様のことが言え、竈bの方が古い竈であり、竈aは造り替えられた新しい竈であると考えられる。

柱穴：北東隅に1基検出。形状・規模についてはTab.2 遺構計測表を参照 **壁周溝：**なし **重複：**H-5と重複。本遺構の方がH-5より古い。 **出土遺物：**土師器（甕）破片、須恵器（壺・鉢）、酸化焰焼成須恵器（壺・塊）破片、羽釜破片、灰釉陶器破片、鉄製品（刀子・鎌）が出土 **時期：**出土遺物より10世紀後半と考えられる。

H-2号竪穴建物跡（遺構：Fig.11、PL.1/ 遺物：Fig.64、PL.18）

位置：X 265・266, Y 66 グリッド **主軸方向：**N-97°-E **形状・規模：**正方形もしくは長方形を呈しているものと推測される。東西（2.61）m、南北（1.73）m、壁現高23cm **床面：**平坦で堅緻な貼り床面 **竈：**南東隅で検出。主軸方向はN-107°-E。全長78cm、最大幅80cm、焚口部幅63cmを測る。 **柱穴：**南西隅に2基検出。形状・規模についてはTab.2 遺構計測表を参照 **壁周溝：**なし **重複：**H-3と重複。本遺構の方がH-3よりも新しい。 **出土遺物：**須恵器（壺・塊・甕・壺）破片、酸化焰焼成須恵器（壺・塊）破片、灰釉陶器破片、敲石が出土 **時期：**出土遺物と重複関係より10世紀後半と考えられる。

H-3号竪穴建物跡（遺構：Fig.12、PL.1/ 遺物：Fig.64,65、PL.18）

位置：265・266, Y 66 グリッド **主軸方向：**N-98°-E **形状・規模：**正方形もしくは長方形を呈しているものと推測される。東西3.50m、南北（1.42）m、壁現高30cm **床面：**平坦で堅緻な貼り床面 **竈：**東壁南寄りで検出。主軸方向はN-98°-E。全長104cm、最大幅（73）cm、焚口部幅（60）cmを測る。 **壁周溝：**

あり **重複**：H-2と重複。本遺構の方がH-2よりも古い。 **出土遺物**：須恵器（壺・甌）破片、酸化焰焼成須恵器（壺・甌）破片、羽釜破片、灰釉陶器破片、古代瓦破片が出土 **時期**：出土遺物より10世紀前半から中葉と考えられる。

H-4号竪穴建物跡（遺構：Fig.12、PL.1/ 遺物：Fig.65、PL.18）

位置：X 264, Y 66 グリッド **主軸方向**：(N - 102° - E) **形状・規模**：南東隅のみ検出したため形状は不明だが、正方形もしくは長方形を呈しているものと推測される。東西 (0.9) m、南北 (0.29) m、壁現高 41cm **床面**：貼り床と見られる。 **竈**：調査区外と見られる。 **壁周溝**：なし **出土遺物**：酸化焰焼成須恵器（壺）破片、羽釜破片が出土 **時期**：出土遺物より10世紀前半と考えられる。

H-5号竪穴建物跡（遺構：Fig.12、PL.1）

位置：X 264・265, Y 66 グリッド **主軸方向**：(N - 96° - E) **形状・規模**：南東隅および土層断面のみの確認のため形状は不明だが、正方形もしくは長方形を呈しているものと推測される。東西 (3.13) m、南北 (0.58) m、壁現高 15cm **床面**：貼り床面 **竈**：形状は確認できなかったが、調査区北壁土層断面において、焼土と灰の堆積を確認。東壁南寄りに造られていたものと推測される。主軸方向・全長等は不明 **壁周溝**：なし **重複**：H-1と重複。本遺構の方がH-1よりも新しい。 **出土遺物**：酸化焰焼成須恵器（壺）破片、羽釜破片が出土 **時期**：出土遺物と重複関係より10世紀末以降と考えられる。

（2）畝状遺構

位置：X270・271, Y68・67～69 **主軸方向**：3方向あり。時期の古いものから N - 70° - E、N - 20° - W、N - 105° - E **時期**：過年度調査との重複関係より、古代と考えられる。

（3）ピット

ピットは6基を検出。形状・規模等については Tab.2 遺構計測表を参照

2区

調査区の概要

元総社蒼海遺跡群の中央部、牛池川右岸に位置する。西側に隣した民家を挟んで西側は蒼海（137）の調査区となっている。調査以前は宅地であり、宅地造成等に伴う掘削や植栽の抜根痕等による搅乱が調査区随所に見られた。竪穴建物跡を4軒、溝跡を1条、井戸跡を1基、土坑を8基、ピットを4基検出した。竪穴建物跡は古墳時代～平安時代に帰属するものであり、H-1・2号竪穴建物跡は平安時代、H-3・4号竪穴建物跡は古墳時代のものと考えられる。竈跡はH-1でのみ見られ、H-2では土層断面で焼土の堆積のみを確認している。W-1は非常に短い範囲での検出となり、出土遺物も少ないが古代の溝跡と見られる。井戸跡や土坑はいずれも中～近世のものと見られ、覆土内からも比較的時期の新しい遺物が目立った。

（1）竪穴建物跡

H-1号竪穴建物跡（遺構：Fig.14、PL.2/ 遺物：Fig.65,66、PL.19）

位置：X 218・219, Y 123・124 グリッド **主軸方向**：N - 115° - E **形状・規模**：西面約半分を上層遺構や搅乱に壊されているため判然としないが、正方形を呈するものと推測される。東西 (2.94) m、南北 (4.68) m、壁現高 21cm **床面**：平坦で堅緻な貼り床面 **竈**：東壁中央やや南寄りで検出。主軸方向は N - 106° - E。全

長は 89cm、最大幅は 61cm、焚口部幅 34cm を測る。 **柱穴**：北東隅に 2 基、南東隅に 1 基検出。形状・規模については Tab.2 遺構計測表を参照 **壁周溝**：なし **重複**：H-2、I-1 と重複。本遺構の方が H-2 より新しく、I-1 よりも古い。 **出土遺物**：土師器（壺・甕）、須恵器（壺・甕）、酸化焰焼成須恵器（壺・塊）、羽釜破片、灰釉陶器（塊・皿）、敲石、鉄製品（鉄鏃）、瓦破片が出土。この内、酸化焰焼成須恵器高台塊に墨書きあり **時期**：出土遺物より 10 世紀中葉から後半と考えられる。

H-2号竪穴建物跡（遺構：Fig.14、PL.2/ 遺物：Fig.66、PL.19）

位置：X 219・220, Y 123・124 グリッド **主軸方向**：N-74°-E **形状・規模**：正方形を呈する。東西 4.47 m、南北 (3.95) m、壁現高 23cm **床面**：搅乱によって凹凸あり **竪**：検出できなかったが、調査区南壁土層断面にて焼土を検出。本遺構の竪である可能性あり **壁周溝**：なし **重複**：H-1 と重複。本遺構の方が H-1 より古い。 **出土遺物**：土師器（甕）破片、須恵器（壺・壺（ハソウ））、酸化焰焼成須恵器（壺）が出土 **時期**：出土遺物と重複関係より 10 世紀前半と考えられる。

H-3号竪穴建物跡（遺構：Fig.15、PL.2/ 遺物：Fig.66、PL.19）

位置：X 220・221, Y 123・124 グリッド **主軸方向**：N-72°-E **形状・規模**：正方形もしくは長方形を呈しているものと推測される。東西 4.36 m、南北 (3.07) m、壁現高 47cm **床面**：平坦で堅緻な貼り床面。 **竪**：調査区外と見られる。 **柱穴**：北東隅に 1 基、北西隅に 1 基検出。形状・規模については Tab.2 遺構計測表を参照 **壁周溝**：あり **重複**：H-4、W-1 と重複。本遺構が最も古い。 **出土遺物**：土師器（壺・鉢・甕）、須恵器（壺・高壺・壺）が出土 **時期**：出土遺物より 7 世紀前半と考えられる。

H-4号竪穴建物跡（遺構：Fig.15）

位置：X 220, Y 124 グリッド **主軸方向**：N-98°-E **形状・規模**：北東隅のみ検出したため形状は判然としないが、正方形もしくは長方形を呈しているものと推測される。東西 (1.22) m、南北 (0.53) m、壁現高 90cm **床面**：貼り床と見られる。 **竪**：調査区外と見られる。 **重複**：H-3、W-1 と重複。H-3 よりも新しく、W-1 よりも古い。 **時期**：出土遺物が少なく判断が難しいが、重複関係より 7 世紀中葉以降と考えられる。

（2）溝跡

W-1号溝跡（遺構：Fig.15）

位置：X220,Y123・124 グリッド **主軸方向**：N-7°-W **形状・規模等**：南北方向に走行し、断面は浅い U の字を呈する。南端は調査区外のため不明。上幅 (56.0) cm、下幅 (45.0) cm、深さ 14.5cm、長さ (2.30)m **重複**：H-3・4 と重複。本遺構が最も新しい。 **出土遺物**：なし **時期**：重複関係より古代と考えられる。

（3）井戸跡・土坑・ピット

井戸跡を 1 基、土坑を 8 基、ピットを 4 基検出。形状・規模等については Tab.2 遺構計測表を参照

3区

調査区の概要

元総社蒼海遺跡群東部、牛池川右岸に位置し、西側には宮鍋神社が鎮座しており、東側は蒼海（96）に隣接している。区画道路予定地になっており、調査以前は宅地だったこともあり、平坦に整地されていた。表土直下に

総社砂層（基本層序VI層）の黄褐色砂質土が露出しており、調査区全面に亘って現代の攪乱が広がっていた。土坑は中世以後のものと見られ、ピットについても、1基の古代に帰属するP-3号ピットを除いた全てが中世以後のものと見られる。

(1) 土坑・ピット

土坑1基、ピット4基を検出。形状・規模等についてはTab.2 遺構計測表を参照

4区

調査区の概要

元総社蒼海遺跡群北西部、上野国分尼寺跡伽藍地南辺と西辺のラインが交差することが想定される地点である。土地区画整理事業で廃道となった道路のアスファルト舗装及び側溝撤去工事に伴い土層断面の確認と一部トレンチ調査を行った。

土層断面の確認は、側溝撤去後の幅（東西）約2～2.5m、長さ（南北）約21mのトレンチ状範囲の東壁と西壁で行い、東壁断面では竪穴建物跡3軒、溝跡1条、土壙墓1基、西壁断面では竪穴建物跡2軒、溝跡（道路状遺構）1条が確認された。また、西壁の北側で複数の硬化面と砂層が確認されたため幅約1m、長さ約2.6mの東西トレンチを設定し溝跡（道路状遺構）の確認を行った。

土層断面の確認であったため、遺構の性格、規模、時期等の詳細は不明な部分が多いが、東壁で確認したW-1号溝跡は、上野国分尼寺伽藍地南辺外側に沿って走行する溝跡の西端部と推定され、尼寺の南辺範囲を検討する上で重要な発見となった。

(1) 竪穴建物跡

H-1号竪穴建物跡（東壁）（遺構：Fig.19）

位置：X 49, Y 80・81 グリッド **規模：**南北(2.45)m、壁現高0.43m **床面：**中央部から南側にかけて緩やかに高まる。**重複：**H-2と重複。本遺構の方がH-2より新しい。**出土遺物：**床面直上から須恵器甕破片1点、覆土中から丸瓦破片1点、器厚の薄い土師器甕破片1点出土 **時期：**古代（出土遺物から9世紀以降か）

備考：一括埋戻

H-2号竪穴建物跡（東壁）（遺構：Fig.19）

位置：X 49, Y 81・82 グリッド **規模：**南北(4.30)m、壁現高0.40m **床面：**ほぼ平坦な貼床面。床下土坑有 **壁周溝：**あり **重複：**H-1と重複。本遺構の方がH-1より古い。 **甕：**不明であるが、土層断面南側で焼土及び炭化物が集中的に確認されている。**出土遺物：**床面直上から平瓦（残存1/3）1点、覆土中から須恵器蓋破片1点、土師器坏破片2点・甕破片1点出土 **時期：**古代

H-3号竪穴建物跡（東壁）（遺構：Fig.19）

位置：X 49, Y 82・83 グリッド **規模：**南北(1.20)m、壁現高0.35m **床面：**ほぼ平坦な床面 **出土遺物：**覆土中から土師器坏・甕破片3点出土 **時期：**古代 **備考：**一括埋戻。西壁で確認されているH-4と覆土が類似しており、床面の標高もほぼ同じであることから同一の竪穴建物跡である可能性も考えられる。

H-4号竪穴建物跡（西壁）（遺構：Fig.19）

位置：X 49, Y 82・83 グリッド **規模：**南北(2.05)m、壁現高0.30m **床面：**ほぼ平坦な床面 **壁周溝：**あ

り　**時期**：古代　**備考**：一括埋戻。東壁で確認されているH－3と覆土が類似しており、床面の標高もほぼ同じであることから同一の建物跡である可能性も考えられる。

H－5号竪穴建物跡（西壁）（遺構：Fig.19）

位置：X 48, Y 79・80 グリッド　**規模**：南北 (3.65) m、壁現高 0.10 m　**床面**：ほぼ平坦な床面　**壁周溝**：あり　**重複**：W－2と重複。本遺構の方がW－2より古い。　**時期**：古代

（2）溝跡

W－1号溝跡（東壁）（遺構：Fig.19）

位置：X 48, Y 79 グリッド　**形状・規模等**：北側はやや直立気味、南側は緩やかに立ち上がる。上幅 (2.50) m、深さ (0.50) m　**出土遺物**：覆土中より須恵器甕破片 1 点出土　**時期**：覆土から古代と考えられる。　**備考**：尼寺南辺築垣外側の区画溝になる可能性が有る。

※国分尼寺跡南面の区画溝について

上野国分尼寺跡の確認調査は、高崎市教育委員会において平成 28 年度より 5 年間にわたり実施された。伽藍地（162 m四方）の区画として北・東辺では築地塀（築垣）の痕跡が確認されたが、西・南辺においては築地塀の明らかな痕跡は確認されず、区画目的と思われる溝跡が確認されている。また、平成 30 年度の上野国府等範囲内容確認調査 61 a・b トレンチで検出された溝跡は、上野国分尼寺の築垣外側の区画溝と考えられ、今回、確認されたW－1号溝跡はその西端部と推定される。なお、W－1号溝跡の痕跡は、西壁で確認されていないことから、トレンチ内で終息するか、北に屈曲するものと考えられる。

今回確認したW－1号溝跡の底部標高は約 124.60 m、61 a トレンチ約 124.35 m、61 b トレンチ約 124.25 mを測り、西から東へ緩やかに傾斜していることが確認された。

W－2号溝跡（西壁）（遺構：Fig.18、PL.3）

位置：X 47, Y 83 グリッド　**形状・規模等**：緩いU字形。上幅 (2.32) m、深さ (0.78) m　**重複**：H－5と重複。本遺構の方がH－5より新しい。　**出土遺物**：土師器（甕）破片、須恵器（甕）破片、酸化焰焼成須恵器（壺・蓋）破片、平瓦片、近現代磁器・陶器破片が出土　**時期**：中世以降、近・現代まで使用されたと考えられる。　**備考**：当初は溝として使用されていたものが埋没の過程で表流水の自然流路となり、その後自然的な道として長年使用されたものと考えられる。覆土上層では 5～10cm程度の幅で硬化面を確認することができ、硬化面と硬化面の間に砂層が入る。

（3）土壙墓

DB－1号土壙墓（東壁）（遺構：Fig.19）

位置：X 48, Y 78 グリッド　**規模**：南北 (1.35) m、深さ (0.35) m　**形状**：皿状か。南側は緩やかに立ち上がる。　**時期**：覆土の状況から中世と考えられる。　**備考**：一括埋戻。砂質覆土。覆土に骨片が確認されたことから土壙墓と判断。

5区

調査区概要

元総社蒼海遺跡群西部、関越自動車道の東側に位置する。調査以前は調査区を南北に分けた北半分ほどが盛土されており、やや高低差があった。X50 グリッド付近を境に、地山の総社砂層の土質が変化する地点となっており、

西側は黒色粘質土、東側は黄褐色砂質土となっている。

古代の竪穴建物跡を 12 軒、縄文時代の竪穴建物跡を 1 軒、溝跡を 7 条、落ち込みを 1 基、土坑を 8 基、土壙墓を 2 基、ピットを 9 基検出した。古代の竪穴建物跡については、H-1・4・5・7・9・13・14・15・16 が古墳時代、H-2・10・11 が平安時代に帰属する。調査区北面は遺構の分布が多く、特に古墳時代の竪穴建物跡が複数軒重複し合っていたため、短い期間で建て直しが行われた可能性が考えられる。竪跡が検出されたのは H-1・2・5・9・14・15 であり、H-15 のみ西壁に竪が造られていた。H-15 の竪跡は遺構の保存状態が非常に良好で、竪の天井として使われたと推測される土師器の甕が入れ子状の構造を持った状態のまま検出できている。縄文時代の竪穴建物跡については、一部を除いてほぼ全容を捉えることができ、中央付近に埋甕の敷設も見られた。溝跡では蒼海城の堀跡が検出され、W-1 は東西方向、W-2 は南北方向、W-3・4・5 は南西から北東方向へ走行している。落ち込みは、初め竪穴建物跡として遺構確認をしたが、掘り下げた結果竪穴建物跡とは異なる遺構であると判断をした。8 基の土坑は縄文時代のものから古代、中世以後のものまで多様な時期で検出した。また、土壙墓はいずれも中世のものだが、人骨の保存状態が良好で、DB-1 はほぼ全身の骨が残存していた。DB-2 についても、胴部は失われていたものの、頭骨や歯ははっきりと確認できた。

(1) 竪穴建物跡

H-1号竪穴建物跡 (遺構 : Fig.20、PL.3/ 遺物 : Fig.69、PL.21)

位置: X 51・52, Y 179・180 グリッド **主軸方向**: N-77°-E **形状・規模**: やや南北に長い長方形を呈する。東西 3.01 m、南北 3.64 m、壁現高 42cm **床面**: 平坦な床面 **竪**: 東壁中央の僅かに南寄りで検出。主軸方向は N-75°-E。全長 91cm、最大幅 50cm、焚口部幅 34cm を測る。 **壁周溝**: なし **重複**: H-2・9、J-1、W-1、D-2 と重複。J-1 よりも新しく、H-2、H-9、W-1、D-2 よりも古い。 **出土遺物**: 土師器 (坏・甕)、須恵器 (坏・蓋・高坏・甕)、石製臼玉、銅製耳環が出土 **時期**: 出土遺物より 7 世紀前半と考えられる。

H-2号竪穴建物跡 (遺構 : Fig.21、PL.4/ 遺物 : Fig.70、PL.21,22)

位置: X 51・52, Y 179・180 グリッド **主軸方向**: N-79°-E **形状・規模**: 南北に長い長方形を呈する。東西 3.02 m、南北 5.19 m、壁現高 35cm **床面**: 竪前から堅緻な貼り床面が広がる。 **竪**: 東壁南寄りで検出。主軸方向は N-86°-E。全長 89cm、最大幅 66cm、焚口部幅 45cm を測る。 **壁周溝**: なし **重複**: H-1・9、J-1、W-1、D-2 と重複。H-1・9、J-1 よりも新しく、W-1、D-2 よりも古い。 **出土遺物**: 土師器 (坏・甕・甑)、須恵器 (坏・塊・皿・甕)、酸化焰焼成須恵器 (坏・塊)、羽釜破片、古代瓦が出土 **時期**: 出土遺物より 9 世紀末と考えられる。

H-3号竪穴建物跡

欠番 (H-15 号竪穴建物跡に振替)

H-4号竪穴建物跡 (遺構 : Fig.22、PL.4/ 遺物 : Fig.70、PL.22)

位置: X 50・51, Y 178・179 グリッド **主軸方向**: N-60°-E **形状・規模**: 正方形を呈するものと推測される。東西 4.68 m、南北 (4.02) m、壁現高 50cm **床面**: 平坦な貼り床面 **竪**: 検出なし。W-1 に壊されている東壁部に粘土を検出したため、この位置に竪があったものと考えられる。 **柱穴・貯蔵穴**: 南東隅で 1 基検出。P₁ は貯蔵穴と見られる。形状・規模については Tab.2 遺構計測表を参照 **壁周溝**: なし **重複**: W-1 と重複。本遺構の方が W-1 よりも古い。 **出土遺物**: 土師器 (坏・鉢・甕・甑)、須恵器 (坏・甕)、砥石が出土 **時期**:

出土遺物より 7 世紀前半と考えられる。

H – 5 号竪穴建物跡（遺構：Fig.22、PL.4/ 遺物：Fig.70,71、PL.22）

位置：X 48・49, Y 179・180 グリッド **主軸方向：**N – 47° – E **形状・規模：**正方形を呈しているものと推測される。東西 (2.56) m、南北 (4.02) m、壁現高 52cm **床面：**上層遺構に壊されているため凹凸があるが、全体的に平坦な貼り床面 **竈：**東壁やや南寄りで検出。主軸方向は N – 64° – E。全長 84.0cm、最大幅 67.0cm、焚口幅 38.0cm を測る。 **柱穴・貯蔵穴：**南東隅で 2 基、南西隅で 1 基検出。P₁ は貯蔵穴、P₂、P₃ は柱穴と見られる。規模は Tab.2 遺構計測表を参照 **壁周溝：**あり **重複：**W – 2・4 と重複。本遺構が最も古い。
出土遺物：土師器（壺・鉢・甕・甌）が出土 **時期：**出土遺物より 7 世紀前半と考えられる。

H – 6 号竪穴建物跡

欠番

H – 7 号竪穴建物跡（遺構：Fig.23、PL.5/ 遺物：Fig.71、PL.22）

位置：X 49・50, Y 180・181 グリッド **主軸方向：**N – 126° – E **形状・規模：**正方形を呈する。東西 4.14m、南北 4.12 m、壁現高 49.5cm **床面：**平坦な床面 **竈：**検出なし。水道管敷設部の攪乱に壊されているものと考えられる。 **壁周溝：**なし **重複：**H – 11 と重複。本遺構の方が H – 11 よりも古い。 **出土遺物：**土師器（壺・鉢・甕・台付甕）破片が出土 **時期：**出土遺物が少ないため判定が難しいが、7 世紀後半頃と考えられる。

H – 8 号竪穴建物跡

欠番（O – 1 号落ち込みに振替）

H – 9 号竪穴建物跡（遺構：Fig.24、PL.5）

位置：X 52, Y 179・180 グリッド **主軸方向：**N – 80° – E **形状・規模：**南北に長い長方形を呈する。東西 (1.72) m、南北 4.11 m、壁現高 21.0cm **床面：**平坦で堅緻な貼り床面 **竈：**東壁中央南寄りで検出。煙道の先端は調査区外となる。主軸方向は N – 80° – E。全長 (42.0) cm、最大幅 55cm、焚口部幅 57cm を測る。
柱穴・貯蔵穴：北西隅に 1 基、南西隅に 1 基、南東隅に 2 基、北東隅に 1 基、計 5 基検出。P₁ ~ P₄ は柱穴、P₅ は貯蔵穴と見られる。形状・規模等は Tab.2 遺構計測表を参照 **壁周溝：**なし **重複：**H – 1・2、J – 1、D – 2・3 と重複。J – 1、H – 1 よりも新しく、H – 2、D – 2・3 よりも古い。 **出土遺物：**土師器（壺・甕）破片が出土 **時期：**出土遺物が少ないため判定が難しいが、重複関係より 7 世紀後半頃と考えられる。

H – 10 号竪穴建物跡（遺構：Fig.24、PL.5/ 遺物：Fig.71、PL.23）

位置：X 48・49, Y 182・183 グリッド **主軸方向：**N – 70° – E **形状・規模：**正方形もしくは長方形を呈しているものと推測される。東西 (1.83) m、南北 (1.65) m、壁現高 18.5cm **床面：**平坦な床面 **竈：**検出なし。粘土採掘坑に壊されているものと考えられる。 **壁周溝：**なし **重複：**W – 2、粘土採掘坑と重複。本遺構が最も古い。 **出土遺物：**土師器（甕）破片、須恵器（壺・塊）破片、酸化焰焼成須恵器（塊）破片、灰釉陶器（長頸瓶）破片が出土 **時期：**出土遺物より 9 世紀後半と考えられる。

H-11号竪穴建物跡（遺構：Fig.25、PL.5/ 遺物：Fig.71,72、PL.23）

位置：X 49～51, Y 181 グリッド **主軸方向：**N－89°－E **形状・規模：**東西に長い長方形を呈する。東西4.21m、南北(0.72) m、壁現高12.5cm **床面：**平坦な床面 **竈：**東壁南隅寄りで検出。北半分は搅乱によって壊されている。主軸方向はN－90°－E。全長(73.0) cm、最大幅(23.0) cm、焚口部幅(21.0) cmを測る。
柱穴・貯蔵穴：1基検出。P₅は貯蔵穴と見られる。形状・規模等はTab.2 遺構計測表を参照 **壁周溝：**なし **重複：**H-7と重複。本遺構の方がH-7よりも新しい。
出土遺物：土師器（甕）破片、須恵器（甕）破片、酸化焰焼成須恵器（环・塊）破片、灰釉陶器（塊・皿）破片、古代瓦破片が出土 **時期：**出土遺物より10世代と考えられる。

H-12号竪穴建物跡

欠番（H-7号竪穴建物跡に振替）

H-13号竪穴建物跡（遺構：Fig.25、PL.5/ 遺物：Fig.72、PL.23）

位置：X 51・52, Y 181 グリッド **主軸方向：**N－127°－E **形状・規模：**正方形を呈しているものと推測される。東西(1.94) m、南北(2.04) m、壁現高31.0cm **床面：**平坦な床面 **竈：**検出なし。調査区外と思われる。
壁周溝：なし **重複：**W-7と重複。本遺構の方がW-7よりも古い。
出土遺物：土師器（高环・埴？・甕・壺）破片、須恵器（甕）破片、敲石、磨石が出土 **時期：**出土遺物が少ないため判定が難しいが、古墳時代前期と考えられる。

H-14号竪穴建物跡（遺構：Fig.26、PL.6/ 遺物：Fig.72、PL.23）

位置：X 51・52, Y 181・182 グリッド **主軸方向：**N－37°－E **形状・規模：**正方形を呈する。東西4.54m、南北4.42 m、壁現高18.0cm **床面：**竈と思われる粘土等分布箇所の手前に堅緻面が広がる。
竈：検出なし。東壁中央部に粘土・灰・焼土の分布を検出したため、この位置に竈があったものと考えられる。
柱穴・貯蔵穴：北隅で1基、西隅で1基、南隅で2基、東隅で2基、計6基検出。P₁～P₄、P₆は柱穴、P₅は貯蔵穴と見られる。形状・規模等はTab.2 遺構計測表を参照 **壁周溝：**あり **重複：**H-15・16と重複。本遺構が最も古い。
出土遺物：土師器（环・高环・台付甕・壺）破片、須恵器（甕・壺）破片、石製臼玉が出土 **時期：**出土遺物や重複関係より、6世紀前半頃と考えられる。

H-15号竪穴建物跡（遺構：Fig.27、PL.6/ 遺物：Fig.72,73、PL.23,24）

位置：X 52・53, Y 180～182 グリッド **主軸方向：**N－78°－E **形状・規模：**南北に長い長方形を呈する。東西(2.55) m、南北5.72 m、壁現高27.0cm **床面：**凹凸があるが、竈手前に平坦な堅緻面が広がる。
竈：西壁中央やや南寄りで検出。主軸方向はN－97－W。全長143.0cm、最大幅82.0cm、焚口部幅70cmを測る。両袖に切石の構築材を使用し、3つの長胴甕を入れ子状にして竈天井の構築材として使用した形跡が見られた。支柱は牛池川由来と思われる河原石を使用している。
柱穴・貯蔵穴：南西隅で1基検出。P₅は貯蔵穴と見られる。
規模はTab.2 遺構計測表を参照。
壁周溝：あり **重複：**H-14・16と重複。本遺構が最も新しい。
出土遺物：土師器（环・甕）が出土 **時期：**出土遺物や重複関係より、7世紀前半と考えられる。

H-16号竪穴建物跡（遺構：Fig.28、PL.6/ 遺物：Fig.73、PL.24）

位置：X 51・52, Y 181・182 グリッド **主軸方向：**N－69°－E **形状・規模：**正方形を呈する。東西1.80m、南北2.73 m、壁現高31.0cm **床面：**竈手前に平坦な堅緻面が広がる。
竈：東壁中央やや南寄りで検出。

焚口部より先は攪乱によって壊されている。全長（20.0）cm、最大幅41.0cm、30.0cm **壁周溝**：なし **重複**：H-14・15と重複。H-14よりも新しく、H-15よりも古い。**出土遺物**：土師器（壺）破片、須恵器（甕）破片が出土 **時期**：出土遺物や重複関係より、6世紀後半から7世紀初頭頃と考えられる。

J-1号竪穴建物跡（遺構：Fig.28,29、PL.6/Fig.67～69、PL.20,21）

位置：X51・52, Y178・179 グリッド **主軸方向**：N-66°-E **形状・規模**：やや歪んだ長方形を呈する。東西4.77m、南北（4.86）m、壁現高54.5cm **床面**：やや凹凸をもつが平坦 **炉**：検出なし。被熱箇所も見られなかった。 **重複**：H-1、H-2、W-1と重複。本遺構が最も古い。 **柱穴**：11基検出。P₇には埋甕と見られる深鉢（Fig.67,5）が据えられていた。 **出土遺物**：縄文土器（深鉢・浅鉢（諸磯b・c式））、石器（石鏃・石錐・打製石斧・スクレーパー・リタッチドフレイク・剥片・凹み石・敲石・磨石・砥石・有孔石製品）が出土 **時期**：出土遺物より縄文時代前期後葉（諸磯b式新段階）と考えられる。

（2）溝跡

W-1号溝跡（遺構：Fig.30,31、PL.7/ 遺物：Fig.73、PL.24）

位置：X48～53,Y178・179 グリッド **主軸方向**：N-90°-E **形状・規模等**：東西方向に走行し、断面は逆台形を呈する。上幅（4.15）m、下幅（3.40）m、深さ1.01m、長さ（17.78）mを測る。北辺および東西の終結部は調査区外となるため不明。本調査区では排土置き場の確保が困難であったことと、作業の安全確保のため、南辺から北へ1m程の範囲のみを掘り下げ、それ以上の掘り下げは中止とした。遺構底面はサブトレーンチを設定して確認を行った。 **重複**：H-1・2・4、J-1、W-2・3・4・5と重複。H-1・2・4、J-1、W-3・4よりも新しく、W-2・5よりも古い。 **出土遺物**：土師器（壺・甕・壺）破片、須恵器（壺）破片、酸化焰焼成須恵器（壺・塊）破片、石製臼玉、古代瓦破片、カワラケ破片、中世陶器破片、馬歯が出土 **時期**：中世。蒼海城堀跡

W-2号溝跡（遺構：Fig.32、PL.7/ 遺物：PL.24）

位置：X48・49,Y178～183 グリッド **主軸方向**：N-90°-E **形状・規模等**：南北方向に走行し、断面は浅いUの字を呈する。上幅（2.15）m、下幅（0.55）m、深さ0.17m、長さ（19.95）mを測る。西辺および南北の終結部は調査区外となるため不明。蒼海（122）9区の調査において、本遺構と同一と見られる溝跡が検出されているため、少なくとも南へ70m以上続くものと思われる。また、溝の中心部も調査区外と見られるため、深さは本調査で確認した以上のものとなることが推測される。 **重複**：H-5・10、W-1・3・4・5、粘土採掘坑と重複。H-5・10、W-1・3・4よりも新しく、W-5、粘土採掘坑よりも古い。 **出土遺物**：土師器（壺・鉢・甕）破片、須恵器（壺・蓋）破片、酸化焰焼成須恵器（壺・塊）破片、灰釉陶器破片、古代瓦破片、軟質陶器破片、馬歯が出土 **時期**：中世。蒼海城堀跡

W-3号溝跡（遺構：Fig.33、PL.7）

位置：X48・49,Y179 グリッド **主軸方向**：N-57°-E **形状・規模等**：南西から北東方向へ走行し、断面は逆台形を呈する。上幅0.55m、下幅0.23m、深さ18.0cm、長さ（3.95）mを測る。東西の終結部は調査区外のため不明 **重複**：W-1・2・4・5と重複。本遺構が最も古い。 **出土遺物**：須恵器（壺）破片が出土 **時期**：中世。蒼海城堀跡

W - 4号溝跡 (遺構 : Fig.33、PL.7 / 遺物 : Fig.73、PL.24)

位置 : X48 ~ 50, Y178 ~ 180 グリッド **主軸方向** : N - 57° - E **形状・規模等** : 南西から北東方向へ走行し、断面は浅いUの字を呈する。上幅(1.60)m、下幅0.72m、深さ72.0cm、長さ(6.63)mを測る。東西の終結部は調査区外のため不明 **重複** : H - 5、W - 1・2・3・5と重複。H - 5、W - 3よりも新しく、W - 1・2・5よりも古い。 **出土遺物** : 古代瓦破片が出土 **時期** : 中世。蒼海城堀跡

W - 5号溝跡 (遺構 : Fig.34、PL.7)

位置 : X48・49, Y178・179 グリッド **主軸方向** : N - 58 - E **形状・規模等** : 南西から北東方向へ走行し、断面は浅いUの字を呈する。上幅(2.18)m、下幅(2.10)m、深さ(17.0)m、長さ(2.10)mを測る。東西の終結部は調査区外のため不明 **重複** : W - 1・2・3・4と重複。本遺構が最も新しい。 **出土遺物** : なし **時期** : 中世。蒼海城堀跡

W - 6号溝跡 (遺構 : Fig.34)

位置 : X49, Y183 グリッド **主軸方向** : N - 3° - E **形状・規模等** : 南北方向に走行し、断面はUの字を呈する。上幅0.50m、下幅0.25m、深さ15.0cm、長さ(1.63)mを測る。南端の終結部は調査区外のため不明。北端については攪乱内で終結するものと見られる。 **出土遺物** : なし **時期** : 中世以降

W - 7号溝跡 (遺構 : Fig.34、PL.7)

位置 : X52, Y182・183 グリッド **主軸方向** : N - 4° - W **形状・規模等** : 南北方向に走行し、断面は浅いUの字を呈する。上幅0.72m、下幅0.43m、深さ14cm、長さ(4.66)mを測る。南端終結部は調査区外のため不明。北端は重複する竪穴建物跡の覆土内で終結するものと見られる。 **重複** : H - 13・16と重複。本遺構が最も新しい。 **出土遺物** : 土師器(甕)、酸化焰焼成須恵器(塊)が出土 **時期** : 出土遺物や重複関係より10~11世紀代と考えられる。

(3) 粘土採掘坑 (遺構 : Fig.35、PL.8)

位置 : X48・49, Y181 ~ 182 グリッド **形状・規模等** : 直径約1mの円形の土坑が合計14基連続して掘り込まれている。 **重複** : W - 2と重複。本遺構の方が新しい。 **時期** : 中世以降

(4) 落ち込み・土坑・土壙墓・ピット

落ち込み1基、土坑8基、土壙墓2基、ピット9基を検出。形状・規模等についてはTab.2 遺構計測表を参照

6区

調査区概要

元総社蒼海遺跡群西部、関越自動車道東に位置し、5区の60m南東方向に位置する。北は蒼海(35)、西は蒼海(140)と隣接している。

本調査区は耕作土によって大きく削平されており、表土直下に地山の総社砂層が露出していた。竪穴建物跡を1軒検出しているが、竈と思われる焼土や灰等の分布を1箇所検出したのみであり、形状や規模は確認できなかった。井戸跡については、蒼海(140)で検出したD-3と同一の遺構であると考えられ、本調査では遺構の形状や覆土の状態から井戸跡と判断した。ピットは合計62基検出した。P-1・4・5・58の4基は古代のものと考えられ、それ以外は中世以後のものと見られる。

(1) 壁穴建物跡

H-1号壁穴建物跡 (遺構: Fig.38、PL.8/ 遺物: Fig.75、PL.25)

位置: X 69, Y 188 グリッド **形状・規模:** 床面と思われるごく一部の硬化面と焼土の分布のみ確認。遺構のほとんどが耕作土によって削平されてしまっており、遺構範囲や規模は不明 **出土遺物:** 土師器(甕)破片、須恵器(壺)破片、酸化焰焼成須恵器(环)破片、灰釉陶器破片、緑釉陶器(塊)が出土 **時期:** 9~10世紀代と考えられる。

(2) 井戸跡・土坑・ピット

井戸跡1基、土坑3基、ピット62基を検出。形状・規模等については Tab.2 遺構計測表を参照

7区

調査区概要

元総社蒼海遺跡群南部、県道足門・前橋線のやや北に位置し、北は草作遺跡、蒼海(137)と隣接している。本調査区では溝跡を4条検出し、そのうちW-1は蒼海城堀跡と考えられる。また、W-2・3は蒼海(33)5区で検出されている溝跡と同一の遺構であることが考えられた。土坑は10基、土壙墓は2基検出した。土坑は古代から中世にかけての多様な時期で検出している。土壙墓は出土遺物から平安時代のものと考えられる。埋葬方法は、伸展葬であった。頭骨と大腿骨、脛骨が残存し、胴部の骨は見られなかった。人骨の全長はおよそ170cm程であり、成人男性の人骨であろうか。

(1) 溝跡

W-1号溝跡 (遺構: Fig.43、PL.9)

位置: X118・119, Y211~214 グリッド **主軸方向:** N-4°-W **形状・規模等:** 南北方向に走行し、断面はUの字、もしくはVの字を呈しているものと推測される。上幅(4.78)m、下幅(2.90)m、深さ(1.83)m、長さ(9.70)mを測る。南北の終結部は調査区外のため不明。一部サブトレーニングを設定し、底面の確認を試みたが、さらに下層へ覆土が続いた。安全確保のためそれ以上の掘り下げは中止した。 **出土遺物:** 土師器(环・甕)破片、須恵器(甕)破片、酸化焰焼成須恵器(环・塊)破片、軟質陶器破片、中世土器破片が出土 **時期:** 中世。蒼海城堀跡

W-2号溝跡 (遺構: Fig.44、PL.10)

位置: X120~129, Y211・212 グリッド **主軸方向:** N-89°-E **形状・規模:** 東西方向に走行し、形状は浅いUの字を呈する。上幅(2.51)m、下幅1.03m、深さ95.0cm、長さ(39.5)mを測る。蒼海(33)5区で検出されたW-12号溝跡と同一の遺構と見られる。したがって、東端は少なくとも30m以上東へ続くものと考えられる。 **出土遺物:** 土師器(环・甕)破片、須恵器(环・甕・壺)破片、酸化焰焼成須恵器(环)破片、古代瓦破片、近世磁器破片が出土 **時期:** 出土遺物や重複関係より中世以降と考えられる

W-3号溝跡 (遺構: Fig.45、PL.10/ 遺物: Fig.75,76、PL.26)

位置: X120~129, Y213・214 グリッド **主軸方向:** N-91°-E **形状・規模:** 東西方向に走行し、断面は逆台形を呈する。上幅2.78m、下幅1.73m、深さ59m、長さ(35.3)mを測る。蒼海(33)5区で検出されたW-14号溝跡と同一の遺構と見られる。したがって、東端は少なくとも30m以上東へ続くものと考えられる。 **出土遺物:** 土師器(环・甕)破片、須恵器(塊・高盤・甕・瓶・壺)破片、酸化焰焼成須恵器(环)破片、古代

瓦破片が出土　**重複**：W－4と重複。本遺構の方がW－4よりも新しい。　**時期**：出土遺物より古代と考えられる。

W－4号溝跡（遺構：Fig.46、PL.11）

位置：X123・124,Y211～214 グリッド　**主軸方向**：N－0°－E　**規模**：上幅 1.68m、下幅 0.68m、深さ 60cm、長さ（5.23）m を測る。南端終結部は調査区外、北端終結部は W－2 に壊されているため不明。両端ともに調査区外まで続くものと思われる。　**重複**：W－2・3 と重複。本遺構が最も古い。　**出土遺物**：土師器（甕）、須恵器（壺・甕）が出土　**時期**：出土遺物や重複関係より古代と考えられる。

（2）土坑・土壙墓

土坑 10 基、土壙墓 1 基を検出。形状・規模等については Tab.2 遺構計測表を参照

8区

調査区概要

元総社蒼海遺跡群南東部、牛池川右岸に位置し、東側は蒼海（136）A 区に隣接している。150m 程北には宮鍋神社が鎮座しており、周辺では官衙関連遺構と見られる掘立柱建物跡や掘込地業を伴う礎石建物跡が相次いで検出されている地点である。本年度の調査においても、新たに布地業を伴う礎石建物跡を 1 棟検出した。形状や規模・主軸方向は、蒼海（136）A 区で検出された B－1 号建物跡と非常に類似しており、本調査で検出した遺構と一連のものである可能性が考えられた。B－1 の上層には 10 世紀代の竪穴建物跡が構築されており、本遺構は少なくとも 10 世紀には廃絶していたことが窺える。B－1 下層からは遺構が検出されなかったが、掘込地業の版築層中から 7 世紀後半頃の土師器片が出土していることから、B－1 の上限年代はこの時期を遡ることはない。

竪穴建物跡は 11 軒検出し、古墳時代から平安時代に帰属する遺構が分布しているが、比較的 10 世紀代の竪穴建物跡が多く検出された。重複も著しく、最大 5 軒重複する箇所が見られた。溝跡は蒼海城堀跡を 1 条検出し、その他中世の溝跡を 3 条検出した。井戸跡は 2 基検出し、いずれも中～近世に帰属する。土坑についても、検出した 8 基いずれも中～近世に帰属するものだった。

（1）礎石建物跡

B－1号礎石建物跡（遺構：Fig.49～51、PL.16,17）

位置：X232～235,Y227～229　**主軸方向**：N－78°－E　**形状・規模等**：東西方向に長軸をとり、東西軸 12.8m、南北軸（5.56）m、桁行 5 間、梁行 3 間の礎石建ち建物と推測される。南半面は調査区外となる上、柱穴や根石の据え付け痕も見られなかったため梁行は正確に捉えられないが、東に隣接する蒼海（136）で検出された B－1 号建物跡が非常に類似した形状を持ち、桁行が同じく 5 間であることから、本遺構も同等の規格であると仮定すると梁行は 3 間と考えられる。掘込地業は最大幅 1.20m を測る帯状の掘り込みが「コ」の字状に廻る B－1－1 と、その内側に 1.3～4 m 間隔で南北方向に走行する 80～90cm 幅の 3 条の掘り込み B－1－2、B－1－3、B－1－4 から構成される布地業が施されている。B－1－3 と B－1－4 との間隔は 3.80 m と広くなっているが、本来ならばこの中間にもう 1 条南北方向の地業が存在したものと推測されるが、上層の H－6 号竪穴建物跡や I－1 号井戸跡に壊されているため不明。土層の堆積は、黒色土を多く含む黒褐色土層と、黄褐色砂層土を多く含む暗褐色土あるいは灰黄褐色土層とが互層となり、非常に堅緻な版築状の構造をとっている。その二つの土層をさらに細分化していくと、総社砂層由来の砂層土粒やブロックや多く含む層とそうでない層とで分けることができる。柱の位置は捉えられなかったものの、北東隅に重複している W－4 号

溝跡から直径 80cm ほどの巨石が、溝に落とし込まれるような状態で検出された。位置関係から、北東隅の柱に据えられていた礎石の可能性も考えられる。**重複関係**：H-1・6・7号竪穴建物跡、I-1号井戸跡、W-4号溝跡と重複。本遺構が最も古い。**出土遺物**：土師器（壺・甕）破片、須恵器（高盤・甕・壺）破片、鉄滓が出土。**時期**：出土遺物と重複関係より 7世紀後半以降、9世紀以前と考えられる。

（2）竪穴建物跡

H-1号竪穴建物跡（遺構：Fig.52、PL.11/ 遺物：Fig.77～79、PL.27,28）

位置：X 232・233, Y 228・229 グリッド **主軸方向**：N-83°-E **形状・規模**：東西にやや長い長方形を呈する。東西 4.02m、南北 2.98 m、壁現高 15.5cm **床面**：平坦で堅緻な貼り床面。一部礎石建物跡の地業面を床面として利用している。**竈**：南東隅で検出。主軸方向は N-115°-E。全長 154.0cm、最大幅 49.0cm、焚口部幅 32.0cm を測る。古代瓦を構築材として使用している痕跡が見られた。**柱穴・貯蔵穴**：5基検出。P₅ は貯蔵穴と見られる。形状・規模等は Tab.2 遺構計測表を参照。**壁周溝**：なし **重複**：B-1 と重複。本遺構の方が B-1 よりも新しい。**出土遺物**：土師器（甕）破片、須恵器（壺・皿・鉢・壺）、酸化焰焼成須恵器（壺・壺）、羽釜破片、土釜破片、灰釉陶器破片、古代瓦（平瓦・軒丸瓦）、鉄製品が出土。**時期**：出土遺物より 10世紀前半と考えられる。

H-2号竪穴建物跡（遺構：Fig.53、PL.12/ 遺物：Fig.79,80、PL.28）

位置：X 230・231, Y 228 グリッド **主軸方向**：N-85°-E **形状・規模**：正方形もしくは長方形を呈しているものと推測される。東西 2.34m、南北 (2.84) m、壁現高 15.5cm **床面**：平坦な床面 **竈**：東壁南寄りで検出。主軸方向は N-82°-E。全長 99.0cm、最大幅 63.0cm、焚口部幅 32.0cm を測る。**壁周溝**：なし **重複**：H-3・4・5・8・9 と重複。H-5・9 よりも新しく、H-3・4・8 よりも古い。**出土遺物**：土師器（甕）破片、須恵器（甕・壺）破片、酸化焰焼成須恵器（壺・壺）、土釜破片、古代瓦が出土。**時期**：出土遺物より 10世紀前半と考えられる。

H-3号竪穴建物跡（遺構：Fig.53、PL.12/ 遺物：Fig.80、PL.28）

位置：X 230・231, Y 228 グリッド **主軸方向**：N-98°-E **形状・規模**：正方形もしくは長方形を呈しているものと推測される。東西 3.06m、南北 2.50 m、壁現高 21.5cm **床面**：平坦で堅緻な貼り床面 **竈**：東壁で検出。主軸方向は N-88°-E。全長 90.0cm、最大幅 32.0cm、焚口部幅 20.0cm を測る。**柱穴・貯蔵穴**：1基検出。P₅ は貯蔵穴と見られる。形状・規模等は Tab.2 遺構計測表を参照。**壁周溝**：なし **重複**：H-2・4・5・8・9 と重複。本遺構が最も新しい。**出土遺物**：須恵器（甕・壺）破片、酸化焰焼成須恵器（壺・壺）破片が出土。**時期**：出土遺物と重複関係より 10世紀以降と考えられる。

H-4号竪穴建物跡（遺構：Fig.54、PL.12/ 遺物：Fig.80、PL.28）

位置：X 229～231, Y 228 グリッド **主軸方向**：N-90°-E **形状・規模**：正方形もしくは長方形を呈しているものと推測される。東西 3.70m、南北 2.50 m、壁現高 21.0cm **床面**：平坦な床面 **竈**：東壁南東隅と推測される位置の付近で検出。主軸方向は N-80°-E。全長 (45.0) cm、最大幅 60cm を測る。上層遺構に壊されているため、竈の掘方のみを確認した。**柱穴・貯蔵穴**：南西隅で 1 基検出。P₅ は貯蔵穴と見られる。形状・規模等は Tab.2 遺構計測表を参照。**壁周溝**：なし **重複**：H-2・3・5・8・9 と重複。H-2・5・9 よりも新しく、H-3・8 よりも古い。**出土遺物**：土師器（壺・甕）破片、須恵器（甕・壺）破片、酸化焰焼成須恵器（壺・壺）破片、土釜破片、古代瓦片が出土。**時期**：出土遺物と重複関係より 10世紀以降と考えられる。

H-5号竪穴建物跡（遺構：Fig.54、PL.12）

位置：X 231, Y 227・228 グリッド **主軸方向：**N-74°-E **規模：**正方形もしくは長方形を呈しているものと推測される。東西(0.90) m、南北(1.95) m、壁現高 13.0cm **床面：**平坦な床面 **竈：**東壁で検出。主軸方向は N-86°-E。全長 60.0cm、最大幅 79.0cm、焚口部幅 46.0cm を測る。 **壁周溝：**なし **重複：**H-2・3・4・8・9 と重複。本遺構が最も古い。 **出土遺物：**土師器（壺・甕）破片、須恵器（壺・甕）破片、酸化焰焼成須恵器（壺・塊）破片、土釜破片、灰釉陶器破片が出土 **時期：**出土遺物と重複関係より 10世紀前半以前と考えられる。

H-6号竪穴建物跡（遺構：Fig.55、PL.13/ 遺物：Fig.80,81、PL.28,29）

位置：X 233・234, Y 227・228 グリッド **主軸方向：**N-79°-E **形状・規模：**正方形を呈する。東西 3.24m、南北(4.10) m、壁現高 24.5cm **床面：**平坦で堅緻な貼り床面 **竈：**東壁南寄りで検出。主軸方向は N-77°-E。全長 96.0cm、最大幅 36.0cm、焚口部幅 14.0cm を測る。 **重複：**B-1、H-10、I-1 と重複。B-1、H-10 よりも新しく、I-1 よりも古い。 **出土遺物：**土師器（壺・甕）、須恵器（甕・大型甌・瓶・壺）、酸化焰焼成須恵器（壺・塊）、羽釜、灰釉陶器、鉄製品（刀子・紡錘車・鉄滓）、古代瓦が出土 **時期：**出土遺物と重複関係より 10世紀代と考えられる。

H-7号竪穴建物跡（遺構：Fig.55、PL.13/ 遺物：Fig.81、PL.29）

位置：X 235・236, Y 227・228 グリッド **主軸方向：**N-77°-E **形状・規模：**東西 3.67m、南北(3.69) m、壁現高 15.0cm **床面：**平坦で堅緻な貼り床面 **竈：**東壁南寄りで検出。主軸方向は N-77°-E。全長 70.0cm、最大幅 77.0cm、焚口部幅 57.0cm を測る。 **重複：**B-1、W-4 と重複。B-1 よりも新しく、W-4 よりも古い。 **出土遺物：**土師器（壺）、須恵器（壺・小鉢・甕・甌・瓶）、酸化焰焼成須恵器（壺・塊）、羽釜、灰釉陶器破片、鉄滓、古代瓦が出土 **時期：**出土遺物より 10世紀代と考えられる。

H-8号竪穴建物跡（遺構：Fig.56、PL.13）

位置：X 230・231, Y 227・228 グリッド **形状・規模：**焼土・灰の分布のみ確認。遺構の形状・規模等は不明 **床面：**平坦で堅緻な貼り床面 **重複：**H-2・3・4・5・9 と重複。H-2・4・5・9 よりも新しく、H-3 よりも古い。 **出土遺物：**酸化焰焼成須恵器（壺）、古代瓦が出土 **時期：**重複関係より 10世紀代と考えられる。

H-9号竪穴建物跡（遺構：Fig.56、PL.13/ 遺物：Fig.82、PL.29）

位置：X 230・231, Y 228 グリッド **主軸方向：**N-80°-E **形状・規模：**正方形もしくは長方形を呈しているものと推測される。東西(1.35) m、南北(1.90) m、壁現高 20.0cm **床面：**平坦な床面 **柱穴・貯蔵穴：**南東隅で 1 基検出。P₅ は貯蔵穴と見られる。形状・規模等は Tab.2 遺構計測表を参照 **竈：**東壁で検出。主軸方向は N-79°-E。全長(40.0) cm、最大幅(32.0) cm、焚口部幅(34.0) cm を測る。 **壁周溝：**なし **重複：**H-2・3・4・5・8 と重複。H-5 よりも新しく、H-2・3・4・8 よりも古い。 **出土遺物：**土師器（壺・高壺・甕）、酸化焰焼成須恵器（壺）、羽釜が出土 **時期：**出土遺物や重複関係より 10世紀前半以前と考えられる。

H-10号竪穴建物跡（遺構：Fig.56、PL.14）

位置：X 234・235, Y 228 グリッド **主軸方向：**N-84°-E **形状・規模：**東西に長い長方形もしくは正方

形を呈しているものと推測される。東西(2.18)m、南北(1.10)m、壁現高17.0cm **床面**:凹凸のある床面 **竈**:調査区外と思われる。**壁周溝**:なし **重複**:B-1、I-1と重複。B-1よりも新しく、I-1よりも古い。**出土遺物**:土師器(坏・甕)破片、須恵器(甕)破片、石器(石鏃)が出土 **時期**:出土遺物が少ないため判定が難しいが、10世紀代と考えられる。

H-11号竪穴建物跡(遺構:Fig.56、PL.14/ 遺物:Fig.82、PL.29)

位置: X 236, Y 227 グリッド **主軸方向**: N - 80° - E **形状・規模**: 正方形もしくは長方形を呈しているものと推測される。東西(1.03)m、南北(2.97)m、壁現高33.0cm **床面**:平坦な床面 **竈**:調査区外と思われる。**重複**:W-4と重複。本遺構の方がW-4よりも古い。**出土遺物**:須恵器(甕)、酸化焰焼成須恵器(坏・塊)が出土 **時期**:出土遺物や重複関係より10世紀前半以前と考えられる。

(3) 溝跡

W-1号溝跡(遺構:Fig.57 ~ 59、PL.14,15/ 遺物:Fig.82、PL.29)

位置: X227 ~ 229, Y228 ~ 230 グリッド **主軸方向**: N - 6° - E **形状・規模等**:南北方向に走行し、断面は逆台形を呈する。検出範囲中央付近で幅が狭まる箇所が見られ、くびれるような形状をとる。このくびれた箇所の付近を境とした北側と南側とで土層の堆積状態が異なっているため、南半面は埋没した溝の掘り直しを行ったものである可能性が考えられる。上幅9.28m、下幅1.60m、深さ2.20m、長さ(5.28)mを測る。南北の終結部は調査区外のため不明 **出土遺物**:土師器(坏・甕)破片、須恵器(甕)破片、酸化焰焼成須恵器(坏・塊)破片、灰釉陶器破片、古代瓦、軟質陶器破片、内耳鍋破片が出土 **時期**:中世。蒼海城堀跡

W-2号溝跡(遺構:Fig.60、PL.15)

位置: X229 ~ 230, Y228 グリッド **主軸方向**: N - 81° - E **形状・規模等**:東西方向に走行し、断面は浅いUの字を呈する。西端はW-1に壊されているため不明。上幅0.68m、下幅0.54m、深さ0.19m、長さ2.26mを測る。**重複**:H-4、W-1と重複。H-4よりも新しく、W-1よりも古い。**出土遺物**:須恵器(甕・瓶)破片、酸化焰焼成須恵器(坏・塊)破片、馬歯が出土 **時期**:出土遺物や覆土の状態より中世と考えられる。

W-3号溝跡(遺構:Fig.60、PL.14)

位置: X229 ~ 230, Y228 ~ 229 グリッド **主軸方向**: N - 92° - E, N - 26° - E **形状・規模等**:東西に走行した東端が北東方向へ折れ曲がった「く」の字状の形を呈している。断面は浅いUの字を呈する。上幅1.04m、下幅0.72m、深さ0.48m、長さ5.5mを測る。**重複**:H-2・3・4と重複。本遺構が最も新しい。**出土遺物**:土師器(坏・甕)破片、須恵器(甕・瓶・壺)破片、酸化焰焼成須恵器(坏・塊)破片、土釜破片、灰釉陶器破片、古代瓦破片が出土 **時期**:覆土の状態より中世と考えられる。

W-4号溝跡(遺構:Fig.60、PL.15/ 遺物:Fig.82、PL.29)

位置: X234 ~ 236, Y227 グリッド **主軸方向**: N - 80° - W **形状・規模等**:東西方向に走行し、断面は浅いUの字を呈する。上幅(1.18)m、深さ(86.0)m、長さ(8.29)mを測る。東西の終結部は調査区外のため不明 **出土遺物**:土師器(坏・高坏・甕)、須恵器(坏・盤・甕)、軟質陶器、中世陶器・茶臼が出土。検出範囲の西側で直径80cmほどの礫を検出 **時期**:中世

(4) 硬化遺構 (遺構: Fig.63)

位置: X236,Y228 グリッド **備考:** 令和2年度に行われた上野国府等範囲内容確認調査73トレンチで検出された道路状遺構の延長上と位置が近似するため、同一の遺構である可能性も考えられるが、検出箇所が極めて局地的であるため、本調査では確定できなかった。

(5) 井戸跡・土坑・ピット

井戸跡を2基、土坑7基、ピットを25基検出。形状・規模等については Tab.2 遺構計測表を参照

Tab.2 遺構計測表

1区 H-1号竪穴建物跡

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
P ₁	-	23.0	18.0	18.0	楕円形	-	

1区 H-2号竪穴建物跡

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
P ₁	-	46.0	39.0	47.0	楕円形	-	
P ₂	-	14.0	14.0	20.0	円形	-	

1区 ピット

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
P-1	X264・265, Y66	33.0	32.0	24.5	円形	-	覆土にAs-B含む。
P-2	X265, Y66	32.0	24.0	14.0	楕円形	羽釜	覆土にAs-B含む。
P-3	X265, Y66	39.0	35.0	27.5	円形	-	覆土にAs-B含む。
P-4	X265, Y66	34.0	34.0	40.0	円形	-	覆土にAs-B含む。
P-5	X265, Y66	27.0	27.0	27.0	円形	土師器(甕)	覆土にAs-B含む。
P-6	X264, Y66	42.0	(21.0)	-	(円形)	-	覆土にAs-B含む。

2区 H-1号竪穴建物跡

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
P ₁	-	42.0	42.0	20.0	隅丸方形	-	
P ₂	-	53.0	36.0	8.0	楕円形	-	
P ₃	-	54.0	45.0	21.0	隅丸方形	-	

2区 H-3号竪穴建物跡

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
P ₁	-	54.0	44.0	56.0	楕円形	-	
P ₂	-	51.0	32.0	61.0	楕円形	-	

2区 井戸跡

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
I-1	-	54.0	44.0	56.0	楕円形	須恵器(甕)、酸化焰焼成須恵器(壙)、瓦、羽口	近世～近代

2区 土坑

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
D-1	X217・218, Y123・124	82.0	79.0	27.0	円形	土師器(甕)、酸化焰焼成須恵器(壙)、近現代磁器(小型壠)、瓦	
D-2	X217・218, Y124	(84.0)	73.0	25.0	長方形	羽釜	
D-3	X218, Y124	113.0	78.0	28.0	長方形	土師器(甕)	
D-4	X217・218, Y124	132.0	63.0	73.0	長方形	土師器(壙)、酸化焰焼成須恵器(壙)、ホウロク	
D-5	X217・218, Y123	90.0	(79.0)	59.0	(方形)	土師器(壙・甕)、中世陶器	
D-6	X218, Y124	236.0	(77.0)	20.0	(長楕円形)	-	
D-7	X219, Y123	170.0	(97.0)	38.0	長楕円形	土師器(壙・甕)	
D-8	X220・221, Y123	88.0	42.0	33.0	(楕円形)	-	

2区 ピット

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
P-1	X219, Y124	32.0	(23.0)	16.0	(円形)	-	
P-2	X219, Y124	33.0	31.0	61.0	円形	土師器(壙?)	
P-3	X220, Y123	26.0	25.0	17.0	円形	-	

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
P-4	X220, Y123	28.0	25.0	9.0	円形	-	

3区 土坑

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
D-1	X246, Y195	176.0	137.0	61.0	不定形	土師器(壺)、須恵器(甕)、酸化焰焼成須恵器(壺)、ホウロク、カワラケ	

3区 ピット

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
P-1	X247, Y196	23.0	22.0	12.0	円形	-	
P-2	X247, Y196	41.0	40.0	8.0	円形	-	
P-3	X245・246, Y195	61.0	48.0	35.0	楕円形	土師器(壺)、縄文土器(加曽利E3式)	古墳時代後半
P-4	X245・246, Y195・196	86.0	69.0	84.0	楕円形	磨石、近現代土器(置竈)、瓦	近・現代

5区 H-4号竪穴建物跡

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
P ₁	-	67.0	67.0	51.5	方形	-	

5区 H-5号竪穴建物跡

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
P ₁	-	44.0	38.0	71.5	隅丸方形	-	
P ₂	-	42.0	26.0	56.5	楕円形	-	
P ₃	-	25.0	25.0	55.5	円形	-	

5区 H-9号竪穴建物跡

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
P ₁	-	33.0	29.0	11.0	円形	-	
P ₂	-	27.0	24.0	31.5	円形	-	
P ₃	-	35.0	(25.0)	36.0	円形	-	
P ₄	-	34.0	32.0	11.0	円形	-	
P ₅	-	52.0	48.0	51.0	円形	-	

5区 H-11号竪穴建物跡

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
P ₅	-	69.0	33.0	14.5	楕円形	-	

5区 H-14号竪穴建物跡

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
P ₁	-	29.0	24.0	43.5	円形	-	
P ₂	-	43.0	32.0	52.0	楕円形	-	
P ₃	-	34.0	27.0	28.0	楕円形	-	
P ₄	-	22.0	19.0	34.0	楕円形	-	
P ₅	-	84.0	77.0	38.5	隅丸方形	-	
P ₆	-	25.0	18.0	26.5	楕円形	-	

5区 H-15号竪穴建物跡

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
P ₅	-	(57.0)	27.0	43.0	楕円形	-	

5区 J-1号竪穴建物跡

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
P ₁	-	39.0	37.0	61.0	円形	-	
P ₂	-	30.0	22.0	24.5	楕円形	-	
P ₃	-	23.0	21.0	52.0	円形	-	
P ₄	-	18.0	14.0	39.0	円形	-	
P ₅	-	42.0	32.0	59.0	円形	-	
P ₆	-	26.0	32.0	58.0	円形	-	
P ₇	-	70.0	62.0	33.0	円形	縄文土器(深鉢(諸磯b式))	埋甕敷設痕
P ₈	-	36.0	34.0	74.0	円形	-	
P ₉	-	21.0	19.0	49.0	円形	-	
P ₁₀	-	52.0	34.0	56.0	楕円形	-	
P ₁₁	-	28.0	26.0	53.5	円形	-	

5区 落ち込み

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
0-1	X50・51, Y180	287.0	(216.0)	40.0	不定形	土師器(壺・甕・壺)、須恵器(壺・蓋・甕・壺)、酸化焰焼成須恵器(壺・塊)、中世軟質陶器、石器、古代瓦	旧H-8。中世

5区 土坑

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
D-1	X52・51, Y180	103.0	102.0	49.0	円形	-	
D-2	X52, Y179・180	(85.0)	92.0	34.5	不定形	土師器(壺・甕)、須恵器(甕)、酸化焰焼成須恵器(塊)	10世紀以降
D-3	X52, Y180	145.0	85.0	30.0	楕円形	土師器(甕)	古墳時代以前
D-4	X49, Y179・180	130.0	89.0	55.0	楕円形	-	
D-5	欠番	-	-	-	-	-	粘土採掘坑に振替
D-6	欠番	-	-	-	-	-	粘土採掘坑に振替
D-7	X52, Y182	80.0	(49.0)	24.5	楕円形	-	
D-8	X51, Y182	106.0	(72.0)	(24.5)	(円形)	縄文土器(諸磯C式)	縄文時代

5区 土壙墓

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
DB-1	X51, Y182	247.0	172.0	11.5	隅丸方形	錢貨(皇宋通寶・祥符通寶)	中世
DB-2	X52・53, Y183	257.0	165.0	19.5	隅丸方形	土師器(甕)、酸化焰焼成須恵器(壺)、錢貨(大觀通寶)	中世

5区 ピット

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
P-1	X49, Y180	57.0	52.0	17.0	円形	-	覆土にAs-B含む。
P-2	X49, Y180	25.0	24.0	19.5	円形	-	覆土にAs-B含む。
P-3	X49, Y180	27.0	23.0	14.0	円形	-	覆土にAs-B含む。
P-4	X49, Y180	63.0	44.0	21.0	楕円形	-	
P-5	X49, Y180	37.0	35.0	18.0	円形	-	
P-6	X50, Y180	72.0	(48.0)	23.0	(円形)	-	
P-7	X50・51, Y180	70.0	(47.0)	31.5	(円形)	-	
P-8	X52, Y182・183	40.0	35.0	26.5	円形	-	
P-9	X53, Y183	57.0	(19.0)	40.0	楕円形	-	

6区 井戸跡

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
I-1	X68, Y187・188	276.0	146.0	(101.0)	(円形)	土師器(甕)、須恵器(壺・塊・壺)、灰釉陶器、古代瓦、カワラケ、中世陶器	近世以降

6区 土坑

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
D-1	X69, Y188	175.0	165.0	23.0	円形	土師器(壺・甕)、須恵器(甕・壺・蓋)酸化焰焼成須恵器(壺)、灰釉陶器、カワラケ、中世陶器	中世以降
D-2	X68・69, Y188・189	181.0	173.0	17.0	隅丸方形	土師器(壺・甕)、須恵器(壺)、酸化焰焼成須恵器(壺・塊)、羽釜、灰釉陶器、古代瓦	10世紀
D-3	X68・69, Y188・189	225.0	170.0	49.0	長方形	酸化焰焼成須恵器(壺)	

6区 ピット

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
P-1	X69, Y189	61.0	40.0	37.0	不整楕円形	-	古代
P-2	X69, Y188	53.0	39.0	12.0	楕円形	-	
P-3	X68・69, Y188	61.0	45.0	20.0	楕円形	-	
P-4	X68・69, Y187	60.0	53.0	73.0	不整楕円形	須恵器(壺)、灰釉陶器	
P-5	X68, Y187	91.0	68.0	65.0	不整楕円形	灰釉陶器	
P-6	X70, Y186・187	33.0	21.0	21.0	楕円形	-	
P-7	X69, Y186	34.0	32.0	41.0	隅丸方形	-	
P-8	X69, Y186	33.0	30.0	44.0	円形	-	
P-9	X70, Y187	37.0	28.0	46.0	楕円形	-	
P-10	X70, Y186・187	29.0	22.0	7.0	楕円形	-	
P-11	X69, Y186	45.0	(30.0)	64.0	(円形)	土師器(甕)、羽釜	
P-12	X69, Y186	35.0	(22.0)	35.0	(円形)	-	
P-13	X69, Y186	41.0	(26.0)	42.0	(楕円形)	-	
P-14	X69, Y186	42.0	(21.0)	12.0	(楕円形)	-	
P-15	X69, Y186	31.0	(18.0)	15.0	(円形)	-	
P-16	X69, Y188	48.0	43.0	18.0	不整楕円形	-	
P-17	X69, Y186	35.0	29.0	20.0	楕円形	中世陶器(鉢)	中世以降
P-18	X69, Y186	41.0	33.0	38.0	楕円形	-	
P-19	X69, Y186	37.0	33.0	53.0	円形	-	
P-20	X69, Y186	37.0	(21.0)	45.0	楕円形	-	
P-21	X69, Y186	32.0	(22.0)	50.0	(円形)	-	
P-22	X69, Y186	30.0	(25.0)	60.0	(円形)	-	
P-23	X69, Y186	(37.0)	34.0	21.0	楕円形	-	
P-24	X68, Y186	28.0	27.0	38.0	円形	-	
P-25	X68, Y186	37.0	25.0	48.0	楕円形	-	
P-26	X68, Y186	(22.0)	21.0	12.0	楕円形	-	
P-27	X68・70, Y186・187	41.0	27.0	40.0	楕円形	-	
P-28	X68, Y187	25.0	23.0	37.0	楕円形	土師器(壺)、須恵器(壺)、灰釉陶器	
P-29	X68, Y187	46.0	46.0	56.0	楕円形	-	
P-30	X68, Y187	38.0	26.0	16.0	楕円形	-	
P-31	X69・70, Y188	38.0	(27.0)	63.0	(円形)	-	
P-32	X69・70, Y188	26.0	(17.0)	44.0	(円形)	-	
P-33	X70, Y188	28.0	(18.0)	31.0	(楕円形)	-	
P-34	X69・70, Y188	35.0	(14.0)	18.0	(円形)	-	
P-35	X70, Y188	35.0	(31.0)	42.0	円形	-	

遺構名	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	主な出土遺物	備考
P-36	X70, Y188	(20.0)	20.0	13.0	(楕円形)	-	
P-37	X70, Y188	38.0	36.0	24.0	円形	土師器 (甕)	
P-38	X69・70, Y188	46.0	35.0	21.0	楕円形	-	
P-39	X69, Y188	22.0	20.0	41.0	円形	-	
P-40	X69, Y189	24.0	21.0	27.0	楕円形	-	
P-41	X69・70, Y187	44.0	(35.0)	32.0	(円形)	羽釜?	
P-42	X68・69, Y187	26.0	22.0	37.0	楕円形	-	
P-43	X69・70, Y186	54.0	36.0	31.0	楕円形	須恵器 (甕)	
P-44	X70, Y187	26.0	22.0	37.0	楕円形	-	
P-45	X69・70, Y187	54.0	36.0	31.0	楕円形	-	
P-46	X69, Y187	37.0	(26.0)	53.0	(円形)	-	
P-47	X69, Y187	(47.0)	(33.0)	69.0	(円形)	-	
P-48	X69, Y187	30.0	(17.0)	9.0	(円形)	-	
P-49	X69・70, Y188・189	45.0	45.0	44.0	隅丸方形	-	
P-50	X70, Y188	29.0	27.0	30.0	楕円形	-	
P-51	X70, Y189	70.0	43.0	35.0	楕円形	-	
P-52	X70, Y189	36.0	32.0	23.0	円形	-	
P-53	X69, Y188	30.0	22.0	32.0	楕円形	酸化焰焼成須恵器 (坏)	
P-54	X69, Y188	17.0	(12.0)	23.0	(円形)	土師器	
P-55	X69, Y188	39.0	(29.0)	48.0	(円形)	灰釉陶器 (塊)	10世紀?
P-56	X69, Y188	(33.0)	(33.0)	36.0	(円形)	羽釜	
P-57	X69, Y188	26.0	(16.0)	10.0	(円形)	中世土器	
P-58	X69, Y188	41.0	32.0	43.0	楕円形	土師器 (甕)、酸化焰焼成須恵器 (坏)	
P-59	X68・69, Y188	50.0	34.0	20.0	楕円形	-	
P-60	X68, Y189	37.0	27.0	24.0	楕円形	-	
P-61	X68, Y188・189	31.0	29.0	17.0	円形	-	
P-62	X68, Y188・189	47.0	31.0	30.0	楕円形	-	

7区 土坑

遺構名	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	主な出土遺物	備考
D-1	X120・121, Y211・212	348.0	342.0	84.0	円形	土師器 (坏・块・甕)、須恵器 (坏・盤・甕・蓋・壺)	7世紀後半
D-2	X123, Y212	(68.0)	72.0	32.0	(円形)	-	
D-3	X123・124, Y211・212	465.0	(175.0)	77.0	(円形)	土師器 (坏・甕)、須恵器 (甕・壺)、酸化焰焼成須恵器 (坏・块)、古代瓦	10世紀以降
D-4	X123, Y213	82.0	75.0	27.0	円形	-	
D-5	X123, Y213	(88.0)	(45.0)	25.0	(円形)	中世陶器	中世
D-6	X128, Y213	(70.0)	91.0	34.0	(楕円形)	土師器 (坏)、須恵器 (甕)	
D-7	X128, Y213	(95.0)	95.0	14.0	(楕円形)	-	
D-8	X125・126, Y212	(81.0)	77.0	42.0	(楕円形)	土師器 (坏・甕)	古代
D-9	欠番	-	-	-	-	-	DB-1に振替
D-10	欠番	-	-	-	-	-	DB-1に振替
D-11	X124・125, Y212	91.0	88.0	35.0	円形	土師器 (甕)	
D-12	X123, Y212	65.0	65.0	44.0	不定形	-	

7区 土壙墓

遺構名	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	主な出土遺物	備考
DB-1	X125, Y212	465.0	209.0	31.0	不整長方形	土師器 (坏・甕)、須恵器 (坏・壺)、酸化焰焼成須恵器 (坏)、軟質陶器	旧D-9, D-10。伸展葬。平安時代

8区 H-1号竪穴建物跡

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
P ₅	-	(55.0)	32.5	(12.0)	(隅丸方形)	-	貯蔵穴
P ₆	-	44.0	39.0	22.5	不整円形	-	
P ₇	-	29.0	29.0	31.5	円形	-	
P ₈	-	27.0	24.0	24.5	円形	-	
P ₉	-	58.0	57.0	10.5	楕円形	-	
P ₁₀	-	43.0	42.0	13.5	円形	-	

8区 H-3号竪穴建物跡

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
P ₅	-	64.0	45.0	36.0	楕円形	-	貯蔵穴

8区 H-4号竪穴建物跡

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
P ₅	-	75.0	69.5	50.0	円形	-	貯蔵穴

8区 H-6号竪穴建物跡

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
P ₅	-	(53.0)	49.0	39.0	(円形)	-	貯蔵穴
P ₆	-	63.0	45.0	35.0	隅丸方形	-	

8区 H-9号竪穴建物跡

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
P ₅	-	52.0	50.0	49.0	円形	-	貯蔵穴

8区 井戸跡

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
I-1	X234, Y228	256.0	(249.0)	(1.42)	円形	土師器(甕)、酸化焰焼成須恵器(壺・塊)、古代瓦、羽釜、羽口、中世陶器、近世陶器・土器、近現代土器・瓦	近・現代
I-2	X232・233, Y228	101.5	90.0	(20.5)	円形	土師器(甕)、須恵器(甕)、酸化焰焼成須恵器(壺) 近代土器	近・現代

8区 土坑

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
D-1	X230・231, Y227・228	200.0	(66.0)	94.0	(円形)	土師器(壺・甕・壺)、須恵器(甕)、酸化焰焼成須恵器(壺)、古代瓦、軟質陶器、中世陶器、白磁	中世以降
D-2	X231, Y228・229	233.0	181.0	24.5	長方形	土師器(甕)、酸化焰焼成須恵器(壺・塊)、羽釜、古代瓦、近世土器	近世以降
D-3	X231・232, Y229	233.0	(92.0)	(50.0)	(楕円形)	土師器(壺)、須恵器(壺・甕・瓶)、酸化焰焼成須恵器(塊)、軟質陶器、近世土器	近世以降
D-4	X234・235, Y227	221.0	130.0	25.0	不整長方形	土師器(壺・甕)、須恵器(壺・甕)、酸化焰焼成須恵器(壺)	中世以降
D-5	X233, Y228	289.0	134.0	27.0	長方形	土師器(壺)、須恵器(甕)、酸化焰焼成須恵器(壺)	中世以降
D-6	X231・Y228	238.0	134.0	21.0	長方形	土師器(壺・甕)	中世以降
D-7	X231・232, Y228	96.0	93.0	14.5	円形	土師器(壺・甕)	中世以降

8区 ピット

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
P-1	X232, Y228	73.0	64.0	22.0	円形	土師器破片、鉄滓、古代瓦	覆土にAs-B含む。
P-2	X229・230, Y228	53.0	(29.0)	38.0	(円形)	-	
P-3	X231, Y228	89.0	71.0	17.5	円形	-	
P-4	X234, Y227・228	102.0	72.0	32.0	楕円形	小刀	

遺構名	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	主な出土遺物	備考
P-5	X234, Y227・228	(117.0)	144.0	39.5	(円形)	-	
P-6	X236, Y227	(39.0)	48.0	15.0	楕円形	酸化焰焼成須恵器 (坏)	10～11世紀?
P-7	X236, Y227	63.0	59.0	83.0	円形	酸化焰焼成須恵器 (塊)	
P-8	X233, Y228	73.0	63.0	41.5	不定形	土師器 (坏・甕)	
P-9	X233・234, Y228	38.0	34.0	4.0	円形	-	
P-10	X234, Y228	(48.0)	64.0	35.0	(円形)	土師器 (坏・甕)、鉄滓	
P-11	X234, Y228	63.0	62.0	37.5	円形	鉄滓	
P-12	X234, Y228	(34.0)	60.0	24.0	(円形)	土師器 (坏 (漆付着)・甕)、須恵器 (甕)	
P-13	X234, Y228	24.0	23.0	50.0	円形	-	
P-14	X234, Y228	17.0	15.0	35.5	円形	-	
P-15	X234, Y228	21.0	20.0	36.5	円形	-	
P-16	X234, Y227・228	52.0	46.0	27.5	隅丸方形	-	
P-17	X234, Y227・228	31.0	26.0	12.0	円形	-	
P-18	X234, Y228	38.0	27.0	42.0	楕円形	-	
P-19	X234, Y228	52.0	44.0	27.5	隅丸方形	-	
P-20	X234, Y228	30.0	(16.0)	11.5	円形	-	
P-21	X234, Y228	(59.0)	52.0	19.5	円形	-	
P-22	X234, Y228	44.0	33.0	20.0	円形	-	
P-23	X234, Y228	60.0	(27.0)	32.0	楕円形	-	
P-24	X234, Y228	63.0	46.0	39.0	楕円形	土師器 (坏・甕)	
P-25	X234, Y228	36.0	(14.0)	-	(方形)	-	

Tab.3 遺物観察表
1区 H-1号竪穴建物跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 环	口径:12.3 底径:4.9 器高:3.7	①還元焰 ②灰白～黒/灰白～黒 ③白色粒・ 黒色粒・長石・石英・角閃石 ④口縁～底部 2/3	外面:轆轤整形。底部回転糸切り。 内面:轆轤整形。	内外面磨耗
2	須恵器 塊	口径:11.6 底径:5.9 器高:7.0	①還元焰 ②灰白/灰白 ③黒色粒・褐色粒・ 石英・長石・角閃石 ④口縁部3/4、底部完 形	外面:轆轤整形。底部回転糸切り後、高台貼付。 内面:轆轤整形。	
3	須恵器 塊	底径:9.2 器高:[3.0]	①酸化焰 ②淡黄/淡黄 ③黒色粒・白色粒・ 石英・長石・角閃石 ④底部完形	外面:轆轤整形。底部回転糸切り後、高台貼付。 内面:轆轤整形。	内外面磨耗
4	須恵器 高台付鉢	器高:[7.0]	①還元焰 ②灰白/灰白 ③黒色粒・褐色粒・ 石英・角閃石 ④体部～底部1/3	外面:轆轤整形。底部回転糸切り後、高台貼付。 内面:轆轤整形。	
番号	器種	法量(cm・g)	成・整形技法の特徴	備考	
5	鉄製品 刀子	長さ:15.4 幅:1.3 厚さ:0.4 重さ:19.2 / 無闇			ほぼ直角に折れ
6	鉄製品 鎌	長さ:18.0 幅:4.1 厚さ:0.4 重さ:138.8 / 曲刃鎌			

1区 H-2号竪穴建物跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 环	口径:10.0 底径:5.3 器高:2.9	①還元焰 ②浅黄橙/灰黄 ③黒色粒・白色粒・ 石英・長石 ④1/2	外面:轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面:轆轤整形。	
2	須恵器 塊	底径:7.5 器高:[2.6]	①還元焰 ②浅黄橙/褐灰 ③黒色粒・白色粒・ 長石・石英・角閃石 ④底部完形	外面:轆轤整形。底部回転糸切り後、高台貼付。 内面:轆轤整形。	
番号	器種	法量(cm・g)	成・整形技法の特徴	備考	
3	石製品 敲石	長さ:11.3 幅:6.7 厚さ:6.3 重さ:764.0 / 石材:安山岩 下面敲打痕			

1区 H-3号竪穴建物跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 塊	口径:13.0 底径:5.7 器高:5.0	①還元焰 ②灰/灰 ③黒色粒・白色粒・石英・ 長石④完形	外面:轆轤整形。底部右回転糸切り後、高台 貼付。 内面:轆轤整形。	内面に煤付着
2	須恵器 塊	口径:13.0 底径:7.4 器高:5.4	①酸化焰 ②にぶい橙/にぶい橙 ③白色粒・ 黒色粒・長石・石英・角閃石 ④2/3	外面:轆轤整形。底部右回転糸切り後、高台 貼付。 内面:轆轤整形。	内面に煤付着 内外面磨耗
3	須恵器 塊	底径:7.5 器高:[3.1]	①還元焰 ②灰白/灰 ③黒色粒・白色粒・石英・ 角閃石 ④底部完形	外面:轆轤整形。底部右回転糸切り後、高台 貼付。 内面:轆轤整形。	内面に煤付着
4	須恵器 鼈	底径:(22.8) 器高:[7.8]	①還元焰 ②灰白/灰白 ③黒色粒・白色粒・ 石英・角閃石 ④口縁部1/4	外面:轆轤整形。 内面:轆轤整形。	
5	羽釜	口径:(20.0) 器高:[16.3]	①還元焰 ②褐灰/灰褐 ③黒色粒・白色粒・ 石英・長石・角閃石 ④口縁～体部1/4	外面:轆轤整形後、鍔貼付。 内面:轆轤整形。	
6	羽釜	口径:(20.4) 器高:[15.6]	①還元焰 ②明褐灰/灰褐 ③黒色粒・白色粒・ 長石・石英・角閃石 ④口縁～体部1/4	外面:轆轤整形後、鍔貼付。 内面:轆轤整形。	

1区 H-4号竪穴建物跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	羽釜	口径:(19.0) 器高:[7.2]	①還元焰 ②灰/灰 ③白色粒・黒色粒・長石・ 石英④口縁～体部1/4	外面:轆轤整形。鍔貼付。 内面:轆轤整形。	

1区 遺構外

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	弥生土器 甕	器高:[3.0]	①普通 ②にぶい橙/にぶい橙 ③白色粒・黒 色粒・長石・石英・角閃石 ④肩部破片	外面:櫛描山形文。 内面:ハケ。	

2区 H-1号竪穴建物跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 壺	口径:10.0 底径:5.2 器高:3.1	①酸化焰②橙/黄橙③白色粒・黒色粒・チャート・石英④口縁部4/5、底部完形	外面:轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面:轆轤整形。	口縁部内面に油煙付着、燈明皿
2	須恵器 壺	口径:10.4 底径:5.4 器高:3.0	①酸化焰②黄橙/黄橙③黒色粒・白色粒・褐色粒・チャート・石英・雲母④口縁部1/2、底部完形	外面:轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面:轆轤整形。	
3	須恵器 壺	口径:(10.8) 底径:5.4 器高:3.0	①酸化焰②黄橙/黄橙③黒色粒・白色粒・チャート・石英④口縁部1/3、底部完形	外面:轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面:轆轤整形。	
4	須恵器 壺	口径:(11.0) 底径:5.1 器高:3.9	①酸化焰②橙/橙③黒色粒・白色粒・褐色粒・チャート・石英④1/2	外面:轆轤整形。底部左回転糸切り。 内面:轆轤整形。	
5	須恵器 壺	口径:11.0 底径:4.9 器高:3.4	①還元焰②灰白/灰③白色粒・黒色粒・石英④完形	外面:轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面:轆轤整形。	
6	須恵器 壺	口径:11.2 底径:(4.6) 器高:3.6	①還元焰②灰/灰③白色粒・黒色粒・石英④完形	外面:轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面:轆轤整形。	
7	須恵器 壺	口径:11.2 底径:5.7 器高:3.7	①還元焰②灰白/灰白③白色粒・黒色粒・チャート・石英④口縁部1/2、底部完形	外面:轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面:轆轤整形。	
8	須恵器 壺	口径:(12.1) 底径:5.6 器高:4.2	①酸化焰②淡橙/淡橙③黒色粒・褐色粒・白色粒・石英④口縁部1/4、底部3/4	外面:轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面:轆轤整形。	
9	須恵器 壺	口径:11.8 底径:5.2 器高:3.7	①還元焰②灰白/灰白③黒色粒・白色粒・石英④ほぼ完形	外面:轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面:轆轤整形。	口縁部4ヶ所に油煙付着、燈明皿
10	須恵器 壺	口径:11.8 底径:5.7 器高:3.7	①酸化焰②にぶい橙/にぶい黄橙③黒色粒・白色粒・チャート・石英④3/5	外面:轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面:轆轤整形。	
11	須恵器 壺	口径:12.0 底径:5.6 器高:4.1	①還元焰②灰オーリープ/灰オーリープ③白色粒・黒色粒・チャート・石英④1/2	外面:轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面:轆轤整形。	内外面に黒色付着物
12	須恵器 壺	底径:6.0 器高:4.9	①酸化焰②橙/黒③黒色粒・白色粒・チャート・石英・角閃石④体部～底部1/3	外面:轆轤整形。底部高台貼付後、回転ナデ。 内面:轆轤整形。黑色処理後、放射状ミガキ、体部外面に墨書き部横方向のミガキ。	
13	灰釉陶器 壺	口径:(15.5) 底径:7.9 器高:4.9	①還元焰②素:灰白/釉:灰白③緻密・黒色粒④口縁部1/4、底部ほぼ完形	外面:轆轤整形。底部回転糸切り、高台貼付後、回転ナデ。施釉。 内面:轆轤整形。施釉。重ね焼き痕。	
14	灰釉陶器 皿	口径:12.2 底径:6.1 器高:2.6	①還元焰②素:灰白/釉:灰白③緻密・黒色粒④口縁部1/2、底部完形	外面:轆轤整形。底部右回転糸切り、高台貼付後、周縁回転ナデ。施釉。 内面:轆轤整形。施釉。重ね焼き痕。	
番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
15	石製品 敲石	長さ:15.5 幅:6.8 厚さ:4.4 重さ:652.5	/ 石材:安山岩 上下面敲打痕		
16	鉄製品 鉄鎌	長さ:1.55 幅:1.3(鎌身) 厚さ:0.3(鎌身)	重さ:8.0		

2区 H-2号竪穴建物跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 壺	口径:11.4 底径:4.7 器高:3.7	①還元焰②黄灰/灰③白色粒・黒色粒・石英④ほぼ完形	外面:轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面:轆轤整形。	
2	須恵器 壺	口径:13.0 底径:5.5 器高:4.4	①酸化焰②にぶい褐/にぶい褐③白色粒・黒色粒・チャート・石英④口縁部3/4、底面完形	外面:轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面:轆轤整形。	

2区 H-3号竪穴建物跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 壺	口径:(13.0) 器高:4.0	①普通②にぶい橙/浅黄橙③褐色粒・黒色粒・白色粒・石英④1/4	外面:口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 内面:口縁～体部ヨコナデ、底部ナデ。	内外面に黒斑
2	土師器 壺	口径:11.0 器高:3.6	①良好②橙/橙③黒色粒・褐色粒・白色粒・石英・チャート④3/4	外面:口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 内面:口縁～体部ヨコナデ、底部ナデ。	

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
3	土師器 壺	口径:11.4 器高:3.4	①良好 ②橙/橙 ③黒色粒・褐色粒・白色粒・チャート・石英 ④1/2	外面:口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 内面:口縁~体部ヨコナデ、底部ナデ。	
4	土師器 壺	口径:12.0 器高:3.8	①良好 ②明黄褐/明黄褐 ③黒色粒・白色粒・石英・角閃石 ④完形	外面:口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 内面:口縁~体部ヨコナデ、底部ナデ。	
5	土師器 壺	口径:12.6 器高:4.1	①良好 ②橙/橙 ③褐色粒・黒色粒・片岩・雲母・石英 ④完形	外面:口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 内面:口縁~体部ヨコナデ、底部ナデ。	
6	須恵器 高壺	底径:(12.0) 器高:[8.8]	①還元焰 ②暗灰/灰 ③黒色粒・白色粒・石英 ④脚部 1/8	外面:轆轤整形。三方の透孔。 内面:轆轤整形。	外面に薄く自然釉
7	土師器 鉢	口径:20.5 器高:8.7	①良好 ②橙/橙 ③黒色粒・石英・チャート ④ほぼ完形	外面:口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 内面:口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。	
8	土師器 甕	口径:17.3 器高:[12.1]	①普通 ②にぶい橙/橙 ③黒色粒・石英・雲母・角閃石・白色粒・黒色粒 ④口縁~胴部中位 ほぼ完形	外面:口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 内面:口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	内外面に黒斑
9	土師器 甕	口径:22.7 器高:[35.0]	①良好 ②にぶい橙/橙 ③白色粒・黒色粒・チャート・石英 ④口縁~胴部 3/4、底部欠損	外面:口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 内面:口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	外面に煤付着

2区 遺構外

番号	器種	法量(cm・g) / 成・整形技法の特徴	備考
1	羽口	長さ:[13.1] 外径:(6.0) 孔径:(3.0) 重さ:97.5 / 胎土:石英・角閃石・黒色粒・白色粒	
2	錢貨	径:2.43 孔:0.60 厚さ:0.14 重さ:4.6	寛永通寶

3区 P-3号ピット

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 壺	口径:(16.2) 器高:[7.1]	①普通 ②浅黄橙/浅黄橙 ③白色粒・黒色粒・石英・角閃石 ④口縁部 1/4	外面:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ。 内面:口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	

3区 遺構外

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	縄文土器 深鉢	器高:[3.9]	①普通 ②褐/にぶい黄橙 ③長石・石英・角閃石・白色粒・黒色粒 ④胴部片	外面:胴部ミガキ→沈線文(丸棒状工具)→区画内無節縄文(L)充填施文。 内面:胴部ナデ。	加曾利E IV式

5区 J-1号竪穴建物跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	縄文土器 深鉢	器高:[12.5]	①普通 ②にぶい黄褐/にぶい黄橙 ③白色粒・角閃石・黒色粒・石英 ④胴部上半 1/3	外面:胴部単節縄文(RL)横位施文→集合沈線文(横位→入組状→矢羽状:半截竹管状工具)。 内面:ナデ。	諸磯b式
2	縄文土器 深鉢	口径:(23.2) 器高:[12.7]	①普通 ②黒褐/にぶい黄褐 ③白色粒・黒色粒・角閃石 ④口縁部~胴部上半 1/3	外面:口縁部貼付文(棒状・ボタン状)→集合沈線文(横位→矢羽状:半截竹管状工具)。 内面:口縁部~胴部上半ナデ。	諸磯c式 小波状口縁
3	縄文土器 深鉢	口径:(20.6) 器高:[12.7]	①良好 ②暗赤褐/暗赤褐 ③白色粒・角閃石・石英・チャート ④口縁部~胴部上半 1/6	外面:口縁部~胴部無節縄文(L)横位施文→集合沈線文(横位→縦位対弧状→横位対弧状:半截竹管状工具)。 内面:口縁部~胴部上半ナデ。	諸磯c式
4	縄文土器 深鉢	口径:(12.6) 器高:[5.5]	①良好 ②灰褐/黒褐 ③白色粒・石英・角閃石・褐色粒 ④口縁部片	外面:口縁部無節縄文(L)横位施文。 内面:口縁部ナデ。	前期後葉 内外面赤色顔料付着
5	縄文土器 深鉢	口径:(18.0) 器高:[22.0]	①普通 ②明赤褐/にぶい赤褐 ③白色粒・角閃石・黒色粒・石英 ④口縁部~胴部ほぼ完形	外面:口縁部~胴部下半ナデ。 内面:口縁部~胴部下半ナデ。	前期後葉 波状口縁 内外面ス付着
6	縄文土器 浅鉢	器高:[2.8]	①良好 ②黒褐/灰褐 ③白色粒・角閃石・雲母・石英・黒色粒 ④胴部片	外面:胴部ナデ→ミガキ。 内面:胴部ナデ→ミガキ。	前期後葉
7	縄文土器 深鉢	器高:[9.0]	①良好 ②灰黄褐/にぶい黄橙 ③白色粒・角閃石・黒色粒・石英 ④口縁部片	外面:口縁部~頸部無節縄文(L)横位施文→口縁部・頸部集合沈線文(横位:半截竹管状工具)。 内面:口縁部~頸部ナデ。	諸磯b式 波状口縁

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
8	縄文土器 深鉢	器高:[7.8]	①良好 ②灰黄褐/明黄褐 ③白色粒・角閃石・石英・黒色粒・チャート ④口縁部片	外面: 口縁部棒状貼付文→集合沈線文(横位→斜位: 3本一単位の櫛歯状工具)。 内部: 口縁部ナデ。	諸磯 b式 波状口縁
9	縄文土器 深鉢	器高:[11.9]	①普通 ②橙/褐灰 ③白色粒・チャート・片岩・角閃石・黒色粒 ④胴部片	外面: 胴部単節縄文(RL) 横位施文→集合沈線文(横位→鋏歯状: 半截竹管状工具)。 内部: 胴部ナデ。	諸磯 b式
10	縄文土器 深鉢	器高:[10.6]	①良好 ②褐灰/褐 ③白色粒・チャート・片岩・角閃石・褐色粒 ④胴部片	外面: 胴部単節縄文(RL) 横位施文→集合沈線文(横位→矢羽状・弧線状: 半截竹管状工具)。 内部: 胴部ナデ。	諸磯 b式
11	縄文土器 深鉢	器高:[10.8]	①良好 ②褐/にぶい黄褐 ③白色粒・角閃石・石英・チャート・長石・黒色粒 ④胴部片	外面: 胴部集合沈線文(横位→縦位・X字状: 半截竹管状工具)。 内部: 胴部ナデ。	諸磯 b式
12	縄文土器 深鉢	器高:[6.6]	①良好 ②灰黄褐/灰黄褐 ③白色粒・角閃石・石英・雲母・褐色粒 ④口縁部片	外面: 口縁部棒状貼付文→単節縄文(RL) 横位施文→集合沈線文(横位→矢羽状・弧線状・縦位: 半截竹管状工具)。 内部: 口縁部~胴部ナデ。	諸磯 c式
13	縄文土器 深鉢	器高:[11.0]	①普通 ②明赤褐/浅黄橙 ③角閃石・石英・チャート・黒色粒・褐色粒 ④胴部片	外面: 胴部単節縄文(LR, RL)による羽状縄文。 内部: 胴部ナデ。	前期後葉 内面スス・コゲ付着
番号	器種	法量(cm・g)	成・整形技法の特徴	備考	
14	石器 石鎌	長さ:[2.53] 幅:[1.58] 厚さ:0.3 重さ:0.63	/ 石材: 黒曜石 凹基無茎。両脚部が欠損。両側縁に微細剥離痕が顕著。		
15	石器 石錐か	長さ:3.9 幅:1.3 厚さ:0.7 重さ:1.75	/ 石材: 黒曜石 小型縦長剥片を素材とし、両側縁の周辺に連続する片面加工が施される。上部につまみ有り。下端部の断面形状は三角形状。錐部には磨耗痕がほとんどみられない。		
16	石器 石錐	長さ:2.84 幅:2.0 厚さ:0.71 重さ:1.62	/ 石材: 貞岩 礫皮を打面とする縦長剥片を素材とし、両側縁に連続する片面加工が施される。上部につまみ有り。錐部には磨耗痕がほとんどみられない。		
17	石器 スクレーパー	長さ:10.3 幅:4.7 厚さ:2.8 重さ:136.27	/ 石材: 貞岩(ホルンフェルス系) 礫皮をもつ縦長剥片を素材とし、両側縁・縁辺部には連続する片面加工が施される。縁辺部には微細剥離痕が認められ、両側縁中央部分はやや摩滅している。		
18	石器 磨・敲石	長さ:9.0 幅:9.0 厚さ:5.6 重さ:524.5	/ 石材: 安山岩 表・裏面に敲打痕。表・裏面中央に漏斗状の凹穴あり。表面と側縁にスス付着。側縁に礫面残る。敲→磨。		
19	石器 磨・敲石	長さ:10.0 幅:8.0 厚さ:5.7 重さ:581.5	/ 石材: 安山岩 表・裏面に摩耗痕が見られる。表・裏面中央に漏斗状の凹穴あり。周縁に敲打痕が認められる。赤色顔料付着か。敲→磨。		
20	石器 凹石	長さ:10.7 幅:9.7 厚さ:6.2 重さ:511.0	/ 石材: 安山岩 表・裏面中央に漏斗状の凹穴あり。周縁に敲打痕。		
21	石器 砥石	長さ:7.5 幅:5.9 厚さ:1.4 重さ:57.1	/ 石材: 砂岩 扁平な自然礫を素材とする。表・裏面に擦痕あり。裏面中央に敲打痕か。右側側縁一部欠損。		
22	石製品 有孔石製品	長さ:[7.0] 幅:3.2 厚さ:1.1 重さ:29.2	/ 石材: 砂岩 扁平な自然礫を素材とする。表・裏面に調整痕。表・裏両方向から穿孔。周縁研磨による整形。上端研磨による整形。下端欠損。		

5区 H-1号竪穴建物跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 壺	口径:11.0 器高:3.7	①普通 ②橙/橙 ③白色粒・黒色粒・長石・石英・角閃石 ④ほぼ完形	外面: 口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 内部: 口縁~体部ヨコナデ、底部ナデ。	
2	土師器 壺	口径:11.2 器高:3.5	①普通 ②橙/橙 ③白色粒・黒色粒・チャート・長石・石英 ④ほぼ完形	外面: 口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 内部: 口縁~体部ヨコナデ、底部ナデ。	内面に漆付着
3	土師器 壺	口径:(12.0) 器高:3.8	①普通 ②橙/橙 ③黒色粒・白色粒・石英・角閃石 ④1/8	外面: 口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 内部: 口縁~体部ヨコナデ、底部ナデ。	
4	須恵器 壺	口径:(11.5) 器高:[2.9]	①還元焰 ②灰白/灰白 ③黒色粒・白色粒・チャート・石英 ④1/3	外面: 輻軸整形。体部回転ヘラケズリ。 内部: 輻軸整形。	内外面磨耗
5	須恵器 蓋	口径:11.0 器高:[2.9]	①還元焰 ②灰白/灰白 ③黒色粒・白色粒・石英 ④3/4、摘み欠損	外面: 輻軸整形。天井部回転ヘラケズリ。 内部: 輻軸整形。	
6	土師器 甕	口径:(20.0) 器高:[7.5]	①良好 ②にぶい橙/にぶい橙 ③白色粒・黒色粒・石英・角閃石 ④口縁~肩部1/4	外面: 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 内部: 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	

番号	器種	法量(cm・g) / 成・整形技法の特徴	備考
7	銅製品 耳環	長さ:1.4 幅:1.4 厚さ:0.25 重さ:0.7	
8	銅製品 耳環	長さ:1.35 幅:1.5 厚さ:0.25 重さ:0.6	

5区 H-2号竪穴建物跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 塊	口径:12.2 器高:[4.0]	①還元焰 ②灰白/灰白 ③黒色粒・褐色粒・白色粒・石英 ④高台欠損	外面:轆轤整形。底部右回転糸切り後、高台貼付。 内面:轆轤整形。	
2	須恵器 塊	口径:(11.2) 底径:(6.5) 器高:4.3	①酸化焰 ②にぶい橙/淡橙 ③黒色粒・白色粒・石英 ④1/2	外面:轆轤整形。底部右回転糸切り後、高台貼付。 内面:轆轤整形。	
3	須恵器 塊	口径:(10.8) 底径:5.4 器高:3.0	①酸化焰 ②黄橙/黄橙 ③黒色粒・白色粒・チャート・石英 ④口縁部1/3、底部完形	外面:轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面:轆轤整形。	
4	須恵器 皿	口径:(11.0) 底径:5.1 器高:3.9	①還元焰 ②灰/灰 ③白色粒・黒色粒・石英 ④ほぼ完形	外面:轆轤整形。底部右回転糸切り後、高台貼付。 内面:轆轤整形。	
5	土師器 甕	口径:17.8 底径:3.1 器高:24.1	①普通 ②にぶい橙/にぶい橙 ③白色粒・黒色粒・石英・チャート ④4/5	外面:口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラケズリ。 内面:口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	外面に煤付着
6	瓦 平瓦	長さ:[28.1] 幅:[16.1] 厚さ:2.2	①還元焰 ②凹:灰/凸:灰 ③白色粒・黒色粒・石英 ④破片	凹面:粘土板糸切り痕、布目痕、模骨痕。側部・端部面取り。 凸面:ナデ。端部面取り。	

5区 H-4号竪穴建物跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考	
1	土師器 环	口径:(12.0) 器高:[4.0]	①普通 ②橙/橙 ③黒色粒・褐色粒・白色粒・石英・チャート ④1/3	外面:口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 内面:口縁～体部ヨコナデ。	内外面磨耗	
2	土師器 甕	口径:17.5 器高:[20.7]	①普通 ②にぶい橙/にぶい橙 ③白色粒・黒色粒・長石・チャート・石英 ④口縁～胴部上半ほぼ完形	外面:口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 内面:口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	内外面に黒斑	
番号	器種	法量(cm・g) / 成・整形技法の特徴				
3	石製品 砥石	長さ:6.6 幅:3.7 厚さ:2.4 重さ:51.7	／ 各面に研磨痕 石材:角閃石安山岩			

5区 H-5号竪穴建物跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 环	口径:12.5 器高:4.3	①普通 ②橙/橙 ③褐色粒・黒色粒・白色粒・チャート・石英 ④ほぼ完形	外面:口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 内面:口縁～体部ヨコナデ、底部ナデ。	内外面磨耗
2	土師器 环	口径:11.9 器高:4.4	①普通 ②橙/橙 ③褐色粒・黒色粒・白色粒・長石・石英 ④1/2	外面:口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 内面:口縁～体部ヨコナデ、底部ナデ。	内外面磨耗
3	土師器 鉢	口径:(11.0) 器高:[10.5]	①普通 ②にぶい橙/黒褐 ③白色粒・黒色粒・石英・角閃石 ④1/2	外面:口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 内面:口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ後ヘラミガキ。黒色処理。	外面磨耗
4	土師器 鉢	口径:(21.0) 器高:[10.1]	①普通 ②橙/橙 ③褐色粒・黒色粒・白色粒・長石・チャート・石英 ④1/4	外面:口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 内面:口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ後ヘラミガキ。	
5	土師器 甕	口径:22.3 底径:4.6 器高:[34.5]	①普通 ②にぶい橙/にぶい褐 ③白色粒・黒色粒・片岩・チャート・長石・石英 ④口縁～胴部上半1/2、胴部下位～底部1/2	外面:口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 内面:口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	外面に煤付着

5区 H-7号竪穴建物跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 台付甕	口径:(13.8) 器高:[8.0]	①普通 ②にぶい橙/浅黄橙 ③褐色粒・黒色粒・白色粒・石英・角閃石 ④口縁～胴部上半1/3	外面:口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ナデ。 内面:口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	外面に煤付着

5区 H-10号竪穴建物跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 壺	口径:15.8 底径:7.2 器高:5.2	①還元焰②明褐灰/明褐灰③白色粒・黒色粒・石英④口縁部1/2、底部完形	外面:轆轤整形。底部右回転糸切り後、高台貼付。 内面:轆轤整形。	
2	須恵器 壺	口径:16.0 底径:6.8 器高:4.8	①還元焰②灰白/灰③褐色粒・黒色粒・白色粒・長石・石英・角閃石④2/3	外面:轆轤整形。底部右回転糸切り後、高台貼付。 内面:轆轤整形。	
3	灰釉陶器 長頸瓶	器高:[10.0]	①還元焰②素:灰白/釉:灰白③緻密・黒色粒④胴部破片	外面:轆轤整形。胴部下半回転ケズリ。施釉。 内面:轆轤整形。	

5区 H-11号竪穴建物跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 壺	口径:10.8 底径:5.4 器高:3.3	①酸化焰②にぶい赤褐/にぶい褐③褐色粒・白色粒・黒色粒・石英・雲母④完形	外面:轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面:轆轤整形。	内外面磨耗
2	須恵器 壺	口径:11.3 底径:5.9 器高:3.2	①酸化焰②にぶい赤褐/にぶい赤褐③白色粒・長石・石英④ほぼ完形	外面:轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面:轆轤整形。	
3	灰釉陶器 壺	口径:(15.0) 底径:(7.8) 器高:5.2	①還元焰②素:灰白/釉:灰白③緻密・黒色粒④口縁部1/6、底部2/5	外面:轆轤整形。底部回転ナデ後、高台貼付。 施釉。 内面:轆轤整形。施釉。	釉薬浸し掛け
4	灰釉陶器 壺	口径:(15.0) 器高:[5.0]	①還元焰②素:灰白/釉:灰白③緻密・黒色粒・白色粒④口縁部1/3	外面:轆轤整形。施釉。 内面:轆轤整形。施釉。	釉薬浸し掛け
5	灰釉陶器 皿	口径:(13.0) 底径:6.9 器高:2.4	①還元焰②素:灰白/釉:灰白③緻密・黒色粒・白色粒④口縁部1/3、底部1/2	外面:轆轤整形。底部回転ナデ後、高台貼付。 施釉。 内面:轆轤整形。施釉。	釉薬浸し掛け
6	瓦 平瓦	長さ:[28.1] 幅:[16.1] 厚さ:2.2	①酸化焰②凹:橙/凸:にぶい橙③黒色粒・白色粒・長石・石英・角閃石④破片	凹面:布目痕。側面部取り。 凸面:ナデ。側面部取り。	

5区 H-13号竪穴建物跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 高壺	口径:(12.5) 器高:[3.0]	①普通②にぶい橙/にぶい橙③白色粒・黒色粒・石英・角閃石④口縁部1/3	外面:口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後、ヘラミガキ。 内面:口縁~体部ヘラミガキ。	外面に黒斑
番号	器種	法量(cm・g)/成・整形技法の特徴			
2	石器 磨石	長さ:11.3 幅:6.5 厚さ:2.8 重さ:306.0 / 表裏・両端・両側面に研磨痕 石材:角閃石安山岩			

5区 H-14号竪穴建物跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 壺	口径:12.7 器高:4.7	①普通②橙/橙③黒色粒・褐色粒・白色粒・チャート・石英④1/2	外面:口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 内面:口縁~体部ヨコナデ、底部ナデ。	
2	土師器 壺	口径:(13.0) 器高:4.7	①普通②にぶい褐/黒③白色粒・黒色粒・石英④1/4	外面:口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。口縁部黒色処理。 内面:口縁~体部ヨコナデ、底部ナデ。黒色処理。	
3	土師器 壺	口径:(13.0) 器高:[9.6]	①普通②橙/橙③黒色粒・白色粒・長石・片岩・石英④口縁~胴部1/4	外面:口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 内面:口縁部ヨコナデ、体部ハケ・ヘラナデ。	
番号	器種	法量(cm・g)/成・整形技法の特徴			
4	石製品 白玉	長さ:1.3 幅:1.4 厚さ:[0.4] 重さ:1.3 / 石材:滑石片岩			

5区 H-15号竪穴建物跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 壺	口径:11.0 器高:3.3	①普通②橙/橙③褐色粒・黒色粒・白色粒・石英・角閃石④1/2	外面:口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 内面:口縁~体部ヨコナデ、底部ナデ。	

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
2	土師器 壺	口径:(11.0) 器高:3.4	①普通 ②橙/橙 ③黒色粒・白色粒・石英・角閃石 ④1/3	外面:口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 内面:口縁~体部ヨコナデ、底部ナデ。	
3	土師器 壺	口径:(11.0) 器高:3.0	①普通 ②にぶい橙/橙 ③黒色粒・白色粒・長石・チャート・石英・角閃石 ④1/2	外面:口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 内面:口縁~体部ヨコナデ、底部ナデ。	
4	土師器 甕	口径:20.8 底径:5.0 器高:35.5	①普通 ②にぶい橙/にぶい橙 ③白色粒・黒色粒・石英・雲母・角閃石 ④ほぼ完形	外面:口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ。 内面:口縁部ヨコナデ、胴部~底部ヘラナデ。	外面下半に煤付着 外面に粘土付着
5	土師器 甕	口径:22.0 底径:3.8 器高:35.4	①普通 ②にぶい橙/にぶい橙 ③白色粒・黒色粒・長石・石英・角閃石 ④ほぼ完形	外面:口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ。 内面:口縁部ヨコナデ、胴部~底部ヘラナデ。	外面に煤付着 外面に粘土付着
6	土師器 甕	口径:23.2 器高:[36.2]	①普通 ②にぶい橙/にぶい橙 ③白色粒・黒色粒・長石・石英・角閃石 ④底部欠損	外面:口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 内面:口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	外面磨耗
7	土師器 甕	口径:21.5 器高:[14.8]	①普通 ②にぶい橙/にぶい橙 ③黒色粒・白色粒・石英・角閃石 ④口縁部~胴部上半	外面:口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 内面:口縁部ヨコナデ、胴部~底部ヘラナデ。	

5区 H-16号堅穴建物跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 壺	口径:(12.0) 器高:4.0	①普通 ②にぶい褐/にぶい褐 ③黒色粒・白色粒・石英・角閃石・雲母 ④1/8	外面:口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 内面:口縁~体部ヨコナデ、底部ナデ。	
2	須恵器 甕		①還元焰 ②灰/灰 ③白色粒・長石 ④胴部破片	外面:轆轤整形。平行タタキ。 内面:轆轤整形。同心円文当て具痕。	

5区 W-1号溝跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 壺	底径:(6.5) 器高:[2.1]	①還元焰 ②淡黄/淡黄 ③白色粒・黒色粒・石英 ④体部~底部1/4	外面:轆轤整形。底部回転糸切り。 内面:轆轤整形。	
番号	器種	法量(cm・g)/成・整形技法の特徴			
2	馬齒	重さ:14.7			

5区 W-2号溝跡

番号	器種	法量(cm・g)/成・整形技法の特徴	備考
1	馬齒	重さ:329.8 (18.9・39.2・32.2・35.8・48.9・49.5・52.5・52.8)	8本

5区 W-4号溝跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	瓦 平瓦	長さ:[14.5] 幅:[17.3] 厚さ:2.9	①還元焰 ②凹:灰/凸:灰 ③白色粒・黒色粒・長石・石英 ④破片	凹面:布目痕。端部面取り。 凸面:ナデ。端部面取り。	凸面に「山」の刻書

5区 O-1号落ち込み

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	軟質陶器 鉢	器高:[6.4]	①還元焰 ②灰黄/灰黄 ③黒色粒・白色粒・石英 ④破片	外面:轆轤整形。 内面:轆轤整形。	

5区 D-2号土坑

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	羽釜	口径:(19.0) 器高:[7.2]	①酸化焰 ②にぶい橙/にぶい橙 ③白色粒・黒色粒・石英 ④口縁~胴部破片	外面:轆轤整形後、鍔貼付。 内面:轆轤整形。	

5区 D-7号土坑

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	縄文土器 深鉢	器高:[5.5]	①普通 ②灰黄褐/灰黄褐 ③白色粒・角閃石・石英 ④胴部	外面:胴部集合沈線文(矢羽状→対弧→縦位:半截竹管状工具)。 内面:胴部ナデ。	諸磯C式

5区 DB-1号土壙墓

番号	器種	法量(cm・g) / 成・整形技法の特徴	備考
1	錢貨	径:2.36 孔:0.64 厚さ:0.13 重さ:2.6	祥符通寶
2	錢貨	径:2.54 孔:0.68 厚さ:0.12 重さ:3.7	皇宋通寶
3	錢貨	径:2.48 孔:0.76 厚さ:0.11 重さ:2.8	皇宋通寶
4	錢貨	径:2.45 孔:0.76 厚さ:0.10 重さ:2.9	皇宋通寶
5	錢貨	径:2.51 孔:0.57 厚さ:0.14 重さ:3.6	永樂通寶

5区 DB-2号土壙墓

番号	器種	法量(cm・g) / 成・整形技法の特徴	備考
1	錢貨	径:2.45 孔:0.66 厚さ:0.16 重さ:2.2	大觀通寶

5区 遺構外

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	縄文土器 深鉢	器高:[3.7]	①良好 ②にぶい黄橙/橙 ③角閃石・白色粒・石英 ④口縁部片	外面:口縁部集合沈線文(横位→縦位:半截竹管状工具)→貼付文(円形・貝殻状)。 内面:口縁部ナデ。	諸磯c式
2	縄文土器 深鉢	器高:[5.0]	①良好 ②明赤褐/赤褐 ③白色粒・角閃石・石英・チャート ④口縁部片	外面:口唇部刻み(丸棒状工具)。口縁部貼付文(貝殻状)→無節縄文(L)横位施文。 内面:口縁部ナデ。	諸磯c式
3	縄文土器 深鉢	器高:[4.6]	①良好 ②にぶい黄橙/にぶい黄橙 ③チャート・白色粒・角閃石・石英・雲母 ④口縁部片	外面:口縁部斜行文(半截竹管状工具)→結節浮線文(半截竹管工具による割り付け痕)。 内面:口縁部ナデ。	諸磯c式
4	縄文土器 深鉢	器高:[4.3]	①普通 ②にぶい黄橙/にぶい黄橙 ③角閃石・黑色粒・褐色粒・石英 ④胴部片	外面:胴部縄文(原体不明)横位施文→貼付文(円形・波状) 内面:胴部ナデ。	前期後葉
5	縄文土器 深鉢	器高:[4.4]	①普通 ②にぶい橙/にぶい黄橙 ③石英・角閃石・白色粒・褐色粒 ④口縁部片	外面:口縁部単節縄文(LR、RL)による羽状縄文。 内面:胴部ナデ。	前期後葉
6	縄文土器 深鉢	器高:[7.8]	①普通 ②にぶい黄橙/にぶい黄橙 ③黒色粒・褐色粒・石英・角閃石・白色粒 ④胴部片	外面:頸部鎖状貼付文。胴部単節縄文(RL)縦位施文。 内面:胴部ナデ。	堀之内1式
7	縄文土器 注口	器高:[2.7]	①普通 ②褐灰/灰黃褐 ③角閃石・白色粒・石英 ④胴部片	外面:沈線文(丸棒状工具)→単節縄文(LR)充填施文→文様外ミガキ。 内面:胴部ナデ。	堀之内2式
8	縄文土器 ミニチュア	口径:(11.4) 底径:(9.2) 器高:[3.0]	①普通 ②褐灰/にぶい黄橙 ③白色粒・角閃石・石英 ④口縁部~底部20%	外面:胴部~底面ナデ。 内面:胴部~底面ナデ。	
9	土師器 S字甕	口径:(13.0) 器高:[4.0]	①普通 ②浅黄橙/にぶい黄橙 ③黒色粒・白色粒・石英 ④口縁部1/4	外面:口縁部ヨコナデ、肩部ナデ。 内面:口縁部ヨコナデ、肩部ハケ。	
10	瓦 丸瓦	長さ:[8.4] 幅:[9.1] 厚さ:[1.8]	①還元焰 ②凸:灰/凹:オリーブ灰 ③白色粒・黒色粒・石英 ④破片	凹面:布目痕。 凸面:ナデ。	玉縁式
番号	器種	法量(cm)	法量(cm・g) / 成・整形技法の特徴	備考	
11	石製品 白玉	長さ:1.35 幅:1.25 厚さ:0.8 重さ:2.5	/ 石材:滑石		
12	錢貨	径:2.42 孔:0.62 厚さ:0.13 重さ:2.9		寛永通寶	

6区 H-1号竪穴建物跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	綠釉陶器 塊	底径:(8.2) 器高:[5.8]	①還元焰 ②素地:灰白/釉:黄褐 ③緻密・黒色粒 ④口縁部1/3、体部~底部ほぼ完形、高台欠損	外面:轆轤整形。底部回転糸切り後、高台貼付。 内面:轆轤整形。	器面剥落

6区 I-1号井戸跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	かわらけ	口径:(7.6) 底径:(5.2) 器高:1.6	①酸化焰②にぶい赤褐/にぶい橙③黒色粒・白色粒・石英④1/4	外面:轆轤整形。底部回転糸切り。 内面:轆轤整形。	

6区 P-17号ピット

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	軟質陶器 鉢	口径:(25.0) 器高:[4.2]	①還元焰②明褐灰/褐灰③白色粒・黒色粒・石英④破片	外面:轆轤整形。 内面:轆轤整形。	

6区 P-55号ピット

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	灰釉陶器 塊	底径:(9.0) 器高:[5.7]	①還元焰②素地:灰白③緻密・黒色粒・白色粒④体部~底部1/5	外面:轆轤整形、腰部回転ヘラケズリ。底部回転糸切り後、高台貼付。 内面:轆轤整形。	

7区 W-3号溝跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 塊	底径:9.3 器高:[3.3]	①還元焰②灰白/灰白③黒色粒・白色粒④体部~底部1/2	外面:轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面:轆轤整形。	
2	須恵器 高盤	口径:(27.0) 器高:[6.3]	①還元焰②灰白/灰③白色粒・黒色粒・長石・石英④口縁~脚底部1/4	外面:轆轤整形。体部下半回転ヘラケズリ。 内面:轆轤整形。体部カキメ。	
3	須恵器 甕	器高:3.0	①還元焰②灰白/灰③白色粒・黒色粒・長石・石英④口縁~脚底部1/4	外面:ナデ後、平行タタキ。 内面:ナデ後、同心円の当て具痕。	
4	瓦 丸瓦	長さ:[8.1] 幅:[6.8] 厚さ:1.1	①還元焰②凸:黄灰/凹:灰白③黒色粒・白色粒・石英④破片	凸面:ナデ。 凹面:布目痕。側部・端部面取り。	
5	瓦 丸瓦	長さ:[8.5] 幅:[9.7] 厚さ:1.4	①還元焰②凸:灰白/凹:灰白③黒色粒・石英④破片	凸面:ナデ。 凹面:布目痕。	凸面に「十」の刻書
6	瓦 平瓦	長さ:[12.4] 幅:[14.1] 厚さ:1.5	①還元焰②凹:暗灰/凸:灰③白色粒・黒色粒・チャート・石英④破片	凹面:粘土板糸切り痕、模骨痕、布目痕。 凸面:繩タタキ。	
番号	器種	法量(cm・g)	成・整形技法の特徴	備考	
7	鉄製品 釘	長さ:3.3 幅:0.9 厚さ:0.5 重さ:2.4	/ 替折釘		

7区 D-1号土坑

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 高盤	口径:(25.0) 器高:[3.3]	①還元焰②灰/灰③白色粒・長石・石英④口縁~体部1/8	外面:轆轤整形。体部回転ヘラケズリ。 内面:轆轤整形。	
2	須恵器 甕	口径:(27.0) 器高:[9.6]	①還元焰②灰白/灰③白色粒・長石・石英④口縁~胴部1/4	外面:轆轤整形。 内面:轆轤整形。同心円の当て具痕。	外面・口縁部内面に自然釉付着
3	瓦 平瓦	長さ:[11.4] 幅:[7.4] 厚さ:2.2	①還元焰②凹:灰黄/凸:灰白③黒色粒・白色粒・石英④破片	凹面:模骨痕、布目痕。 凸面:ナデ。	

7区 D-3号土坑

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	軟質陶器 鉢	底径:(10.5) 器高:[4.7]	①還元焰②灰/灰③白色粒・長石・石英④底部破片	外面:轆轤整形。体部下端回転ヘラケズリ。 内面:轆轤整形。	須恵質

7区 DB-1土壤墓

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 塊	口径:11.7 底径:(6.6) 器高:4.7	①酸化焰②浅黄橙/浅黄橙③黒色粒・褐色粒・白色粒・石英・角閃石④高台欠	外面:轆轤整形。底部静止糸切り後、高台貼付。 内面:轆轤整形。	

8区 H-1号竪穴建物跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 壺	口径:9.2 底径:4.9 器高:2.2	①酸化焰 ②にぶい黄橙 / にぶい黄橙 ③黒色粒・白色粒・石英 ④完形	外面:轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面:轆轤整形。	
2	須恵器 壺	口径:9.8 底径:5.0 器高:2.5	①酸化焰 ②にぶい黄橙 / にぶい黄橙 ③黒色粒・白色粒・石英 ④完形	外面:轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面:轆轤整形。	
3	須恵器 壺	口径:10.0 底径:5.3 器高:2.0	①酸化焰 ②浅黄橙 / 浅黄橙 ③黒色粒・石英 ④ほぼ完形	外面:轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面:轆轤整形。	
4	須恵器 壺	口径:10.2 底径:5.1 器高:2.8	①酸化焰 ②にぶい橙 / にぶい橙 ③白色粒・黒色粒・石英・雲母・長石 ④ほぼ完形	外面:轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面:轆轤整形。	
5	須恵器 壺	口径:(9.8) 底径:6.3 器高:2.9	①酸化焰 ②淡橙 / 淡橙 ③黒色粒・褐色粒・石英・長石 ④1/2	外面:轆轤整形。底部静止糸切り。 内面:轆轤整形。	
6	須恵器 壺	口径:10.8 底径:(6.6) 器高:4.8	①酸化焰 ②にぶい褐 / にぶい褐 ③白色粒・黒色粒・石英 ④ほぼ完形	外面:轆轤整形。底部右回転糸切り後、高台貼付。 内面:轆轤整形。	
7	須恵器 壺	口径:14.1 底径:9.0 器高:6.1	①酸化焰 ②にぶい橙 / にぶい橙 ③黒色粒・白色粒・石英 ④4/5	外面:轆轤整形。底部回転ナデ後、高台貼付。 内面:轆轤整形。	
8	須恵器 壺	口径:15.9 底径:7.1 器高:5.5	①酸化焰 ②にぶい橙 / 黒 ③黒色粒・褐色粒・白色粒・石英・角閃石 ④4/5	外面:轆轤整形。底部回転ナデ後、高台貼付。 内面:轆轤整形後、ミガキ。黒色処理。	
9	須恵器 壺	口径:(14.5) 底径:6.7 器高:6.1	①酸化焰 ②浅黄橙 / 黒 ③黒色粒・白色粒・石英・角閃石 ④口縁~体部1/4、底部完形	外面:轆轤整形。底部回転ナデ後、高台貼付。 内面:轆轤整形後、ミガキ。黒色処理。	
10	須恵器 壺	口径:15.9 底径:7.1 器高:5.5	①酸化焰 ②にぶい橙 / 黒褐 ③黒色粒・褐色粒・白色粒・石英・角閃石 ④完形	外面:轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面:轆轤整形後、ミガキ。黒色処理。	
11	須恵器 皿	口径:(10.2) 底径:6.0 器高:2.8	①酸化焰 ②浅黄橙 / 浅黄橙褐 ③黒色粒・白色粒・石英・角閃石 ④1/3	外面:轆轤整形。底部回転ナデ後、高台貼付。 内面:轆轤整形。	白色土器
12	灰釉陶器 壺	底径:(6.6) 器高:[3.0]	①還元焰 ②素:灰白 ③緻密・白色粒・黒色粒 ④1/2	外面:轆轤整形。底部右回転糸切り後、高台貼付。 内面:轆轤整形。重ね焼き痕。	
13	羽釜	器高:[9.3]	①酸化焰 ②にぶい褐 / にぶい褐 ③白色粒・黒色粒・石英 ④口縁部破片	外面:轆轤整形後、鍔貼付。 内面:轆轤整形。	
14	土釜	口径:(21.5) 器高:[24.0]	①普通 ②にぶい褐 / にぶい褐 ③白色粒・黒色粒・チャート・長石・石英・角閃石 ④口縁~胴部1/4	外面:口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 内面:口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	外面胴部上位以下 に煤付着
15	瓦 軒丸瓦	長さ:42.2 幅:16.1 厚さ:1.8	①還元焰 ②凸:灰オリーブ / 四:灰オリーブ ③白色粒・石英 ④ほぼ完形	瓦当:車輪状。弁区を放射状に8分割。裏 面に無絞り布目痕。 凹面:布目痕。 凸面:ナデ。	一本作り 上野国分寺分類M 003か
16	瓦 丸瓦	長さ:35.9 幅:16.0 厚さ:2.1	①還元焰 ②凸:灰オリーブ / 四:灰オリーブ ③白色粒・長石・石英 ④3/4	凸面:ナデ。 凹面:布目痕。縫い合わせ目痕。	
17	瓦 平瓦	長さ:[21.1] 幅:[16.5] 厚さ:2.2	①還元焰 ②凹:灰黄 / 凸:暗灰黄 ③白色粒・黒色粒・石英 ④破片	凹面:布目痕。側面部取り。 凸面:ナデ。	
番号	器種		法量(cm・g) / 成・整形技法の特徴		備考
18	鉄製品 不明	長さ:[8.9] 幅:1.5 厚さ:0.25 重さ:16.8			刀子の茎か

8区 H-2号竪穴建物跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 壺	口径:9.5 底径:5.3 器高:2.0	①還元焰 ②灰白 / 灰白 ③黒色粒・石英・角閃石 ④完形	外面:轆轤整形。底部静止糸切り。 内面:轆轤整形。	
2	須恵器 壺	底径:4.1 器高:[2.7]	①還元焰 ②灰 / 灰白 ③黒色粒・白色粒・石英・角閃石 ④底部完形	外面:轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面:轆轤整形。	柱状高台土器
3	須恵器 壺	口径:11.1 底径:6.3 器高:4.0	①酸化焰 ②浅黄橙 / にぶい黄橙 ③白色粒・黒色粒・石英 ④口縁部1/2、底部完形	外面:轆轤整形。底部回転ナデ後、高台貼付。 内面:轆轤整形。	

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
4	瓦 平瓦	長さ:[25.0] 幅:[18.9] 厚さ:2.1	①還元焰②凹:灰/凸:灰③白色粒・黒色粒・長石・石英④破片	凹面:布目痕。 凸面:縄タタキ。自然釉付着。	

8区 H-3号竪穴建物跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 塊	口径:(15.0) 底径:7.6 器高:5.2	①酸化焰②にぶい橙/にぶい橙③白色粒・黒色粒・石英・角閃石④口縁部1/4、底部完形	外面:轆轤整形。底部回転ナデ後、高台貼付。 内面:轆轤整形。	
番号	器種	法量(cm・g)/成・整形技法の特徴			
2	石器 台石	長さ:26.4 幅:30.0 厚さ:8.0 重さ:9,450.0	/ 大型礫の表裏に研磨痕、左右側面に欠損 石材: 安山岩		

8区 H-4号竪穴建物跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 塊	底径:7.0 器高:[3.2]	①酸化焰②にぶい橙/黒③白色粒・黒色粒・石英④底部完形	外面:轆轤整形。底部静止糸切り後、高台貼付。 内面:轆轤整形後、ミガキ。黒色処理。	

8区 H-6号竪穴建物跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 塊	口径:(10.0) 底径:4.0 器高:2.5	①酸化焰②にぶい橙/淡橙③黒色粒・白色粒・石英④1/2	外面:轆轤整形。底部ナデ。 内面:轆轤整形。	
2	須恵器 塊	口径:(9.8) 底径:(4.6) 器高:2.0	①酸化焰②橙/にぶい橙③白色粒・黒色粒・石英・角閃石④1/2	外面:轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面:轆轤整形。	
3	須恵器 塊	口径:(10.0) 底径:4.2 器高:3.1	①酸化焰②浅黄橙/浅黄橙③黒色粒・白色粒・石英④1/4	外面:轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面:轆轤整形。	
4	須恵器 塊	口径:(14.0) 底径:6.5 器高:4.1	①酸化焰②にぶい橙/浅黄橙③黒色粒・白色粒・石英④口縁部1/4、底部ほぼ完形	外面:轆轤整形。底部静止糸切り。 内面:轆轤整形。	
5	須恵器 塊	口径:(11.0) 底径:6.3 器高:4.8	①還元焰②明褐灰/浅黄橙③黒色粒・白色粒・石英④1/3	外面:轆轤整形。底部静止糸切り後、高台貼付。 内面:轆轤整形。	
6	灰釉陶器 塊	口径:15.5 底径:7.7 器高:6.5	①還元焰②素:灰黄/釉:灰白③緻密・白色粒・黒色粒④ほぼ完形	外面:轆轤整形。腰部回転ヘラケズリ。底部回転ナデ後、高台貼付。施釉。 内面:轆轤整形。施釉。	釉薬浸し掛け
7	灰釉陶器 皿	口径:10.8 底径:6.0 器高:1.8	①還元焰②素:灰白/釉:灰白③緻密・黒色粒④4/5	外面:轆轤整形。底部回転ナデ後、高台貼付。 内面:轆轤整形。施釉。重ね焼き痕。	釉薬浸し掛け
8	羽釜	口径:(23.0) 器高:[10.7]	①酸化焰②にぶい褐/にぶい褐③白色粒・黒色粒・石英・角閃石④口縁~胴部1/4	外面:轆轤整形、胴部ヘラケズリ後、鍔貼付。 内面:轆轤整形。	内面に煤付着
番号	器種	法量(cm・g)/成・整形技法の特徴			
9	鉄製品 刀子	長さ:[6.9] 幅:1.4 厚さ:0.3 重さ:7.3	/ 片刃 刀身先・茎尻欠損		
10	鉄製品 紡錘車	径:4.0 孔径:0.25 厚さ:0.1 重さ:5.3	/ 紡輪		
11	鉄製品 釘	長さ:7.2 幅:1.1 厚さ:0.7 重さ:9.5	/ 皆折釘		

8区 H-7号竪穴建物跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 塊	口径:9.6 底径:4.4 器高:2.7	①酸化焰②にぶい橙/にぶい橙③黒色粒・褐色粒・白色粒・石英④ほぼ完形	外面:轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面:轆轤整形。	
2	須恵器 塊	器高:[2.6]	①酸化焰②灰白/灰白③黒色粒・褐色粒・白色粒・石英・角閃石④底部破片	外面:轆轤整形。底部回転ナデ後、高台貼付。 内面:轆轤整形。	高台内面にベンガラ付着
3	須恵器 小鉢	口径:(4.7) 底径:3.2 器高:2.8	①酸化焰②灰白/黒③黒色粒・褐色粒・白色粒・石英④1/2	外面:轆轤整形。体部下半ヘラケズリ後、ミガキ。底部ミガキ。 内面:轆轤整形。体部~底部ミガキ。黒色処理。	

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
4	羽釜	口径:(24.0) 器高:[13.9]	①酸化焰 ②橙/橙 ③白色粒・黒色粒・石英・チャート・角閃石 ④口縁～胴部1/4	外面:轆轤整形、胴部ヘラケズリ後、鍔貼付。 鍔に穿孔。 内面:轆轤整形。	
5	羽釜	器高:[18.6]	①酸化焰 ②明褐灰/にぶい橙 ③白色粒・黒色粒・石英 ④口縁～胴部破片	外面:轆轤整形、胴部ヘラケズリ。鍔貼付。 内面:轆轤整形。	外面に煤付着
6	瓦 丸瓦	長さ:[15.0] 幅:[14.7] 厚さ:2.4	①還元焰 ②凸:灰/凹:灰オリーブ ③白色粒・黒色粒・長石・石英 ④1/3	凸面:ナデ。 凹面:布目痕。両側部・端部面取り。	

8区 H-9号竪穴建物跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	羽釜	器高:[6.1]	①酸化焰 ②にぶい橙/にぶい褐 ③白色粒・黒色粒・石英・雲母 ④口縁～胴部破片	外面:轆轤整形。鍔貼付。 内面:轆轤整形。	

8区 H-11号竪穴建物跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 壺	口径:(13.6) 器高:[3.5]	①酸化焰 ②にぶい橙/にぶい橙 ③黒色粒・白色粒・石英 ④1/2	外面:轆轤整形。 内面:轆轤整形。	
2	須恵器 壺	底径:4.0 器高:[2.1]	①酸化焰 ②淡橙/淡橙 ③黒色粒・白色粒・石英 ④底部完形	外面:轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面:轆轤整形。	柱状高台 周囲磨痕

8区 W-1号溝跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	軟質陶器 擂鉢	底径:(13.0) 器高:[8.7]	①還元焰 ②黒/灰 ③黒色粒・白色粒・石英 ④体～底部破片	外面:轆轤整形。 内面:轆轤整形。	
2	軟質陶器 内耳鍋	口径:(26.0) 器高:[9.5]	①還元焰 ②オリーブ黒/灰 ③白色粒・黒色粒・石英 ④口縁～体部破片	外面:轆轤整形。 内面:轆轤整形。	外面に煤付着

8区 W-4号溝跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 高壺	底径:(11.0) 器高:[3.0]	①普通 ②浅黄橙/浅黄橙 ③黒色粒・白色粒・褐色粒・石英 ④底部1/4	外面:裾部ヨコナデ、脚柱部ヘラケズリ。 内面:裾部ヨコナデ、脚柱部ヘラケズリ。	
2	陶器 壺	器高:[5.1]	①還元焰 ②素地:黄灰/釉:暗赤褐 ③白色粒・長石・石英 ④肩部破片	外面:轆轤整形、5本単位の平行沈線文。施釉。 内面:轆轤整形。	
番号	器種	法量(cm・g)/成・整形技法の特徴			
3	石製品 茶臼	長さ:[10.2] 幅:[8.2] 厚さ:2.5 重さ:214.5 / 石材:粗粒安山岩 下臼(受皿)破片			

8区 I-1号井戸跡

番号	器種	法量(cm・g)/成・整形技法の特徴	備考
1	羽口	長さ:[11.7] 外径:8.1×8.6 孔径:2.3 重さ:623.0 / 羽口先端部の破片。表面に簀巻き状の成形痕、成形時の指痕が残る。先端部は黒色ガラス質化し、滓が付着し下方に垂れている。孔内へ滓が3cmほど流れ込んでいる。胎土:白色粒・黒色粒・石英	
2	羽口	長さ:[9.6] 外径:8.0×8.7 孔径:2.0 重さ:601.0 / 羽口先端部の破片。表面に簀巻き状の成形痕、成形時の指痕が残る。先端部は黒色ガラス質化し、滓が付着し下方に垂れている。胎土:白色粒・黒色粒・石英	

8区 D-1号土坑

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	白磁 碗	口径:(19.0) 器高:[3.2]	①還元焰 ②素地:灰白/釉:灰白 ③緻密 ④口縁部破片	外面:轆轤整形。 内面:轆轤整形。	玉縁碗

8区 D-2号土坑

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 壺	口径:9.6 底径:4.4 器高:2.6	①酸化焰 ②にぶい橙/にぶい橙 ③白色粒・黒色粒・石英 ④口縁部1/3、底部完形	外面:轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面:轆轤整形。	

8区 P-4号ピット

番号	器種	法量(cm・g) / 成・整形技法の特徴	備考
1	鉄製品 小刀	長さ:31.9 幅:2.0 厚さ:0.45 重さ:61.4 ／ 棟関	

8区 遺構外

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	縄文土器 深鉢	器高:[7.4]	①普通 ②にぶい橙/にぶい橙 ③繊維・角閃石・石英・白色粒・褐色粒・チャート ④胴部片	外面: 胴部平行沈線文(菱形: 半截竹管状工具)→平行沈線間に連点刺突(櫛歯状工具)。内面: 胴部ナデ。	有尾式
2	土師器 高环	底径:(11.5) 器高:[2.4]	①普通 ②橙/にぶい橙 ③黒色粒・白色粒・石英 ④底部1/4	外面: 補部ヨコナデ、脚柱部ヘラケズリ。 内面: 補部ヨコナデ、脚柱部ナデ。	
3	灰釉陶器 塊	口径:(8.8) 底径:(4.3) 器高:3.5	①還元焰 ②素:灰白/釉:灰白 ③緻密・黒色粒 ④1/3	外面: 輻輳整形。高台貼付。 内面: 輻輳整形。施釉。	釉薬浸し掛け
4	瓦 軒丸瓦	幅:[11.3] 厚さ:2.5	①還元焰 ②瓦当:灰/裏:灰オリーブ ③白色粒・黒色粒・石英 ④瓦当1/4	瓦当: 車輪状文。弁区を放射に分割。裏面に無絞り布目痕。	一本作り 上野国分寺分類M 003か
5	支脚	上端径:(5.0) 器高:[5.5]	①普通 ②にぶい黄橙/褐灰 ③白色粒・黒色粒・石英 ④上半1/2	外面: ナデ。 内面: ユビナデ。	

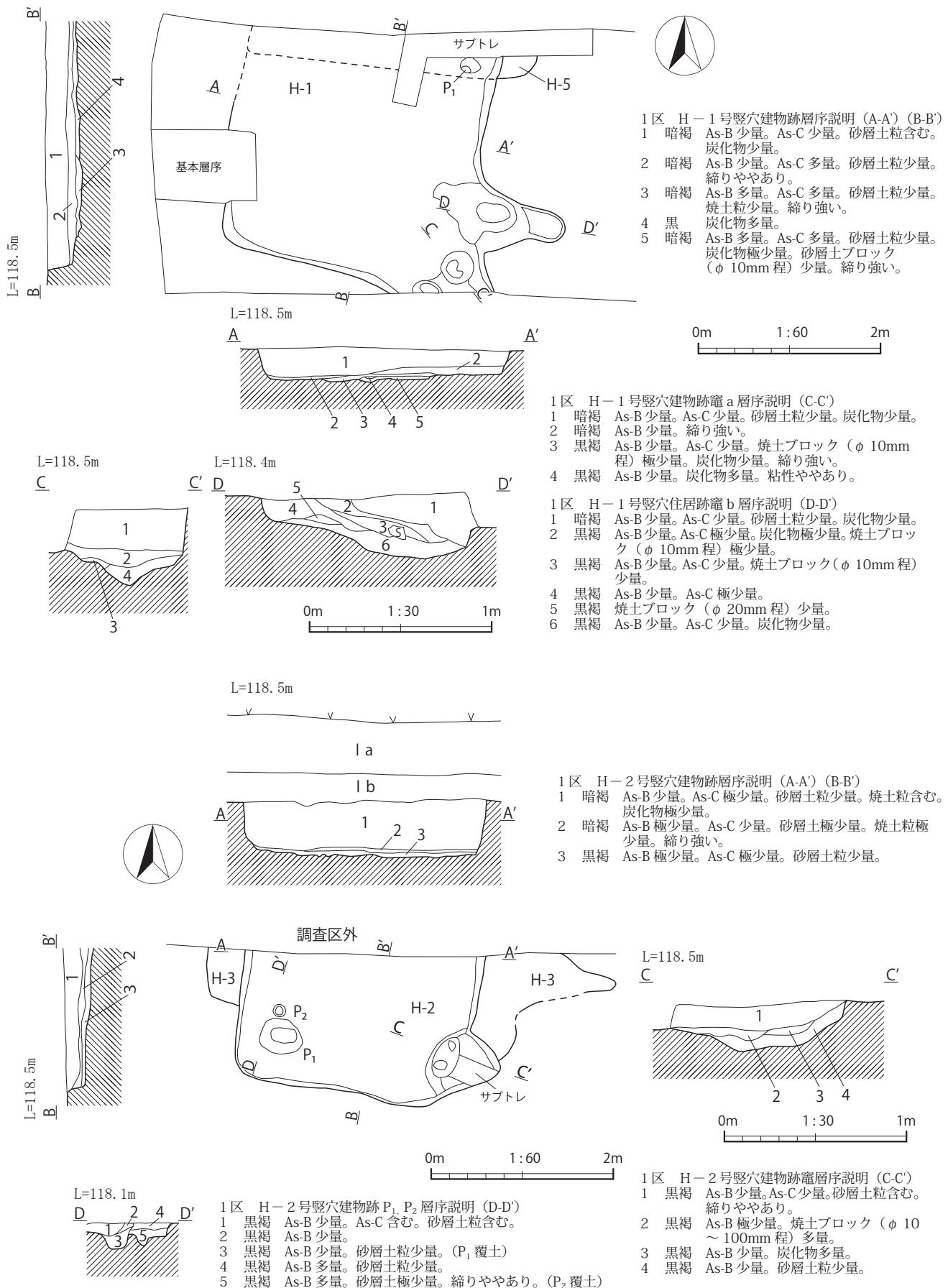
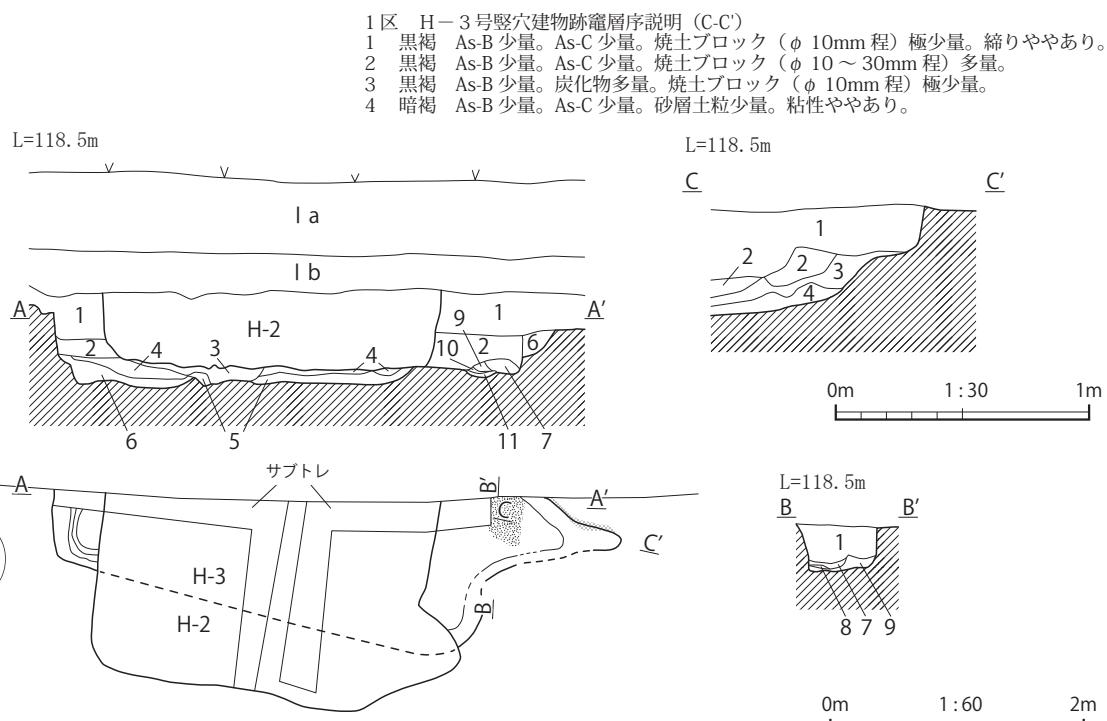


Fig.11 1区 H-1・2号竪穴建物跡



1区 H-3号竪穴建物跡層序説明 (A-A') (B-B')

1 暗褐 As-B 少量。砂層土粒少量。焼土粒少量。
 2 暗褐 As-B 極少量。砂層土粒少量。焼土粒少量。
 3 灰黄褐 細粒。砂質。焼土粒少量。締り強い。
 4 黒褐 As-B 極少量。As-C 少量。砂層土ブロック (ϕ 30mm 程) 極少量。締り強い。
 5 黒褐 As-B 極少量。As-C 極少量。砂層土粒含む。焼土粒含む。
 6 黒褐 As-C 少量。砂層土粒少量。

7 焼土層
 8 暗褐 As-B 少量。炭化物少量。焼土粒少量。
 9 焼土層
 10 灰層
 11 焼土層

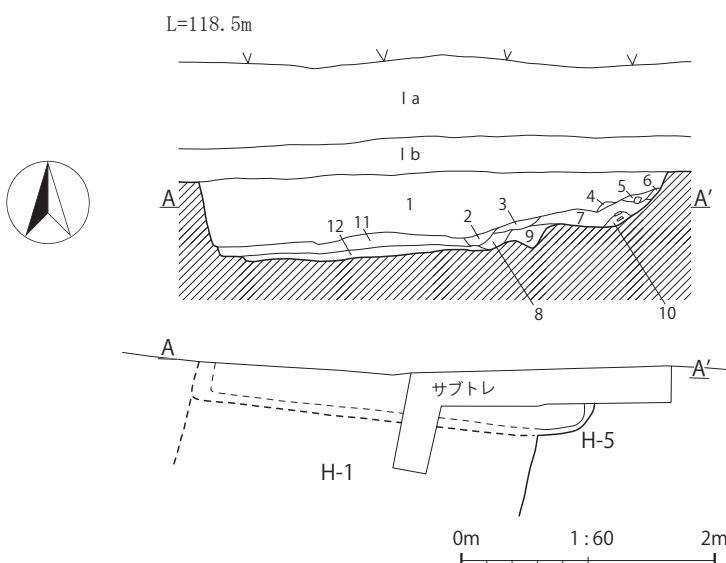
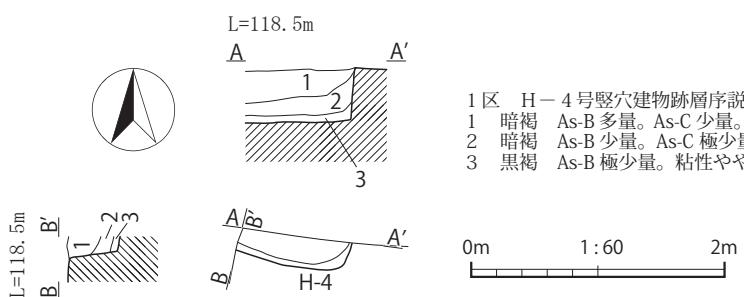


Fig.12 1区 H-3・4・5号竪穴建物跡

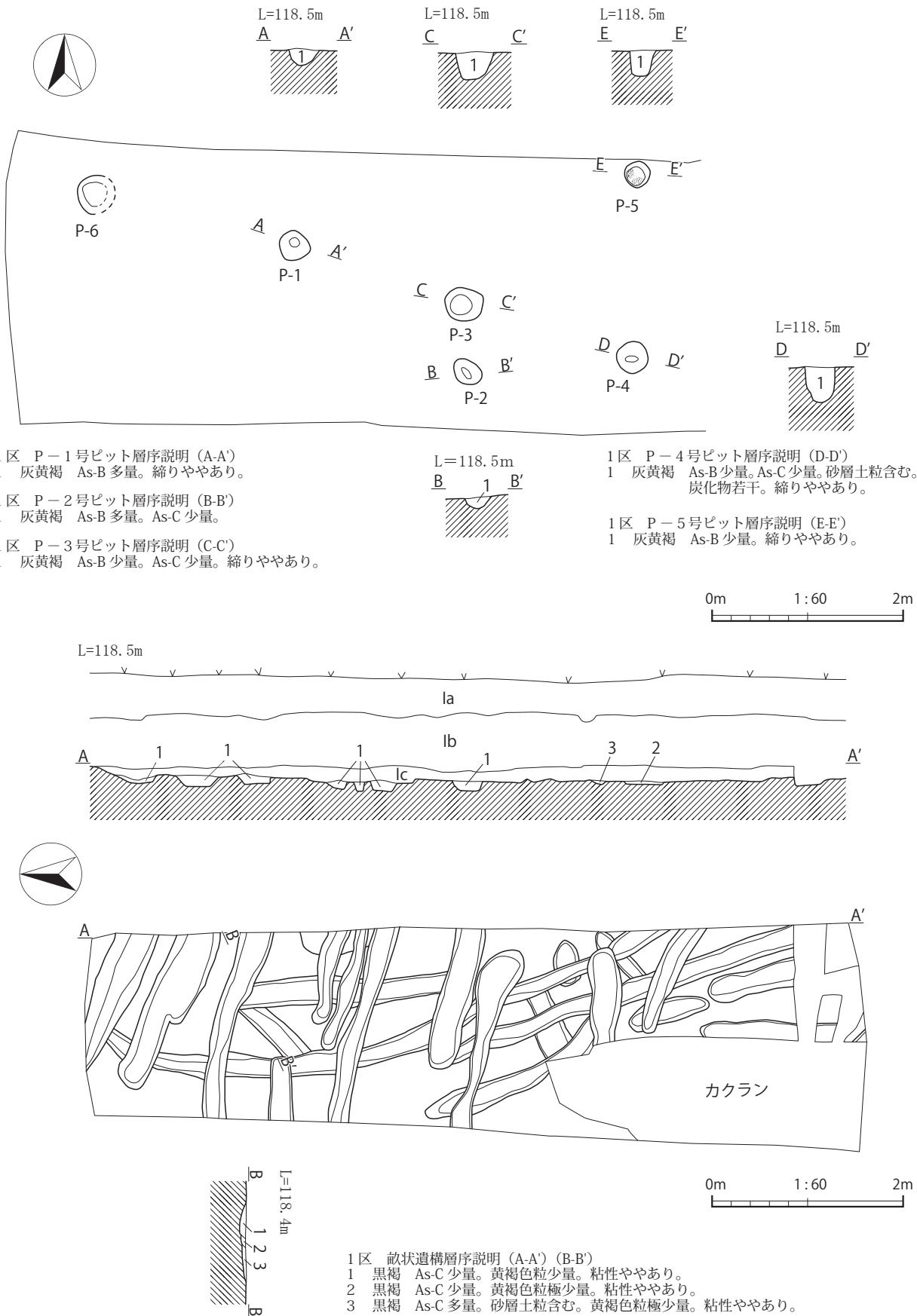


Fig.13 1区 P-1～6号ピット、畝状遺構

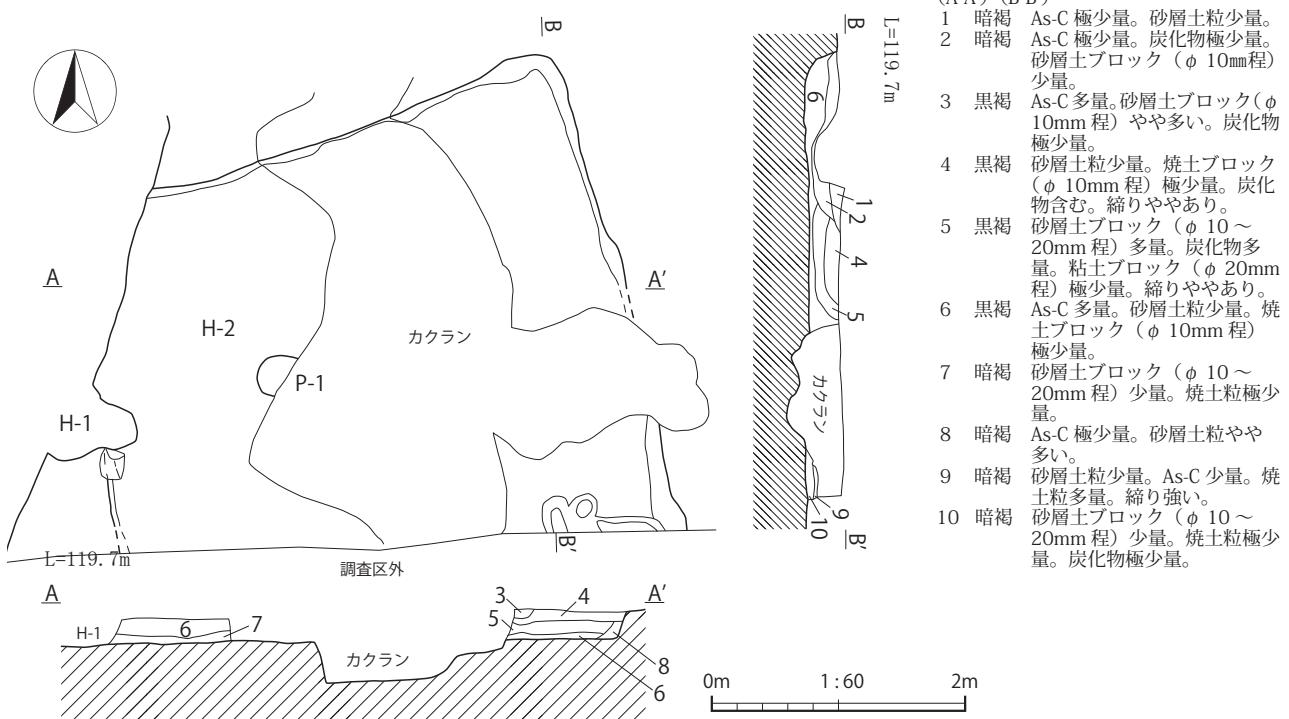
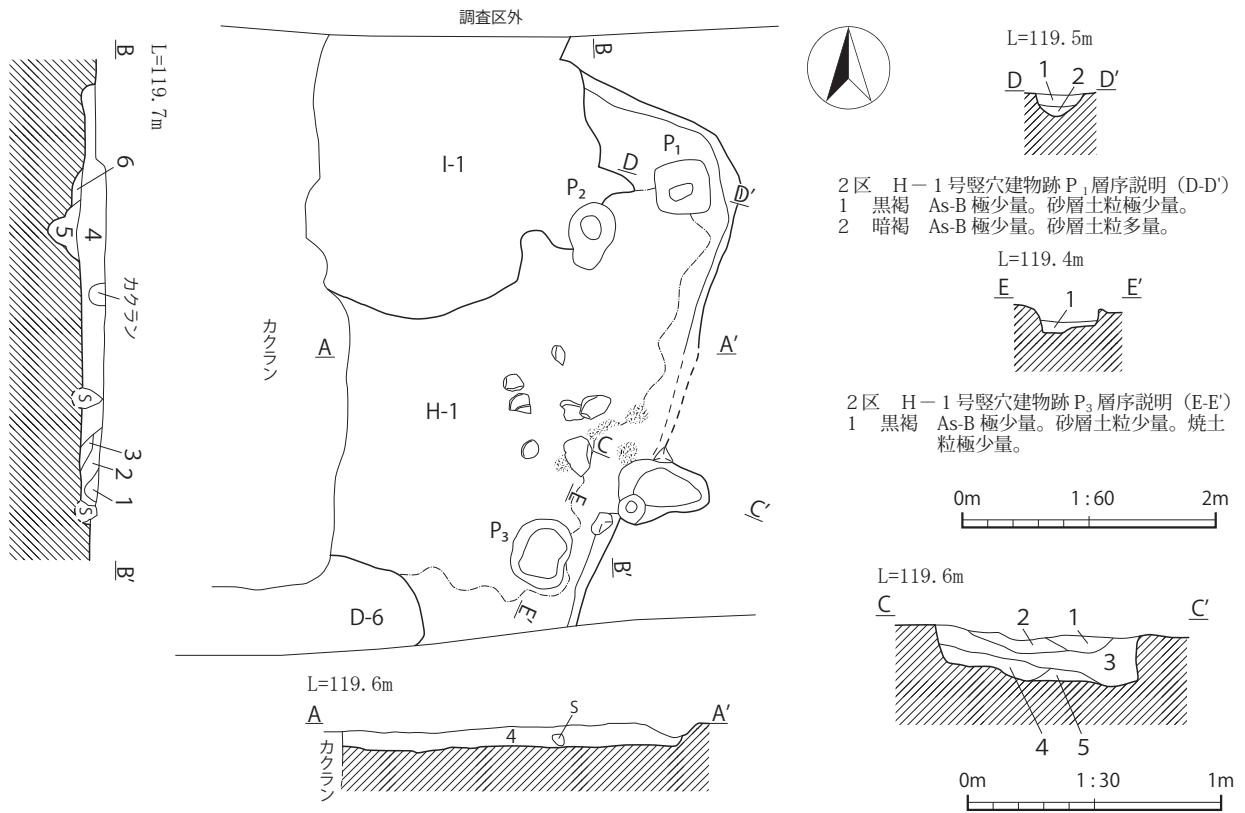


Fig.14 2区 H-1・2号竪穴建物跡

- 2区 H-3号竪穴建物跡、W-1号溝跡層序説明 (A-A') (B-B')
- 1 黒褐 As-C 極少量。砂層土多量。(W-1号溝跡覆土)
 - 2 黒褐 As-C 極少量。砂層土ブロック(Φ 10mm 程)少量。焼土粒極少量。(H-3号竪穴建物跡覆土)
 - 3 暗褐 砂層土粒やや多い。締り強い。炭化物極少量。(H-3号竪穴建物跡床面)
 - 4 暗褐 砂層土粒やや多い。(H-3号竪穴建物跡壁周溝覆土)

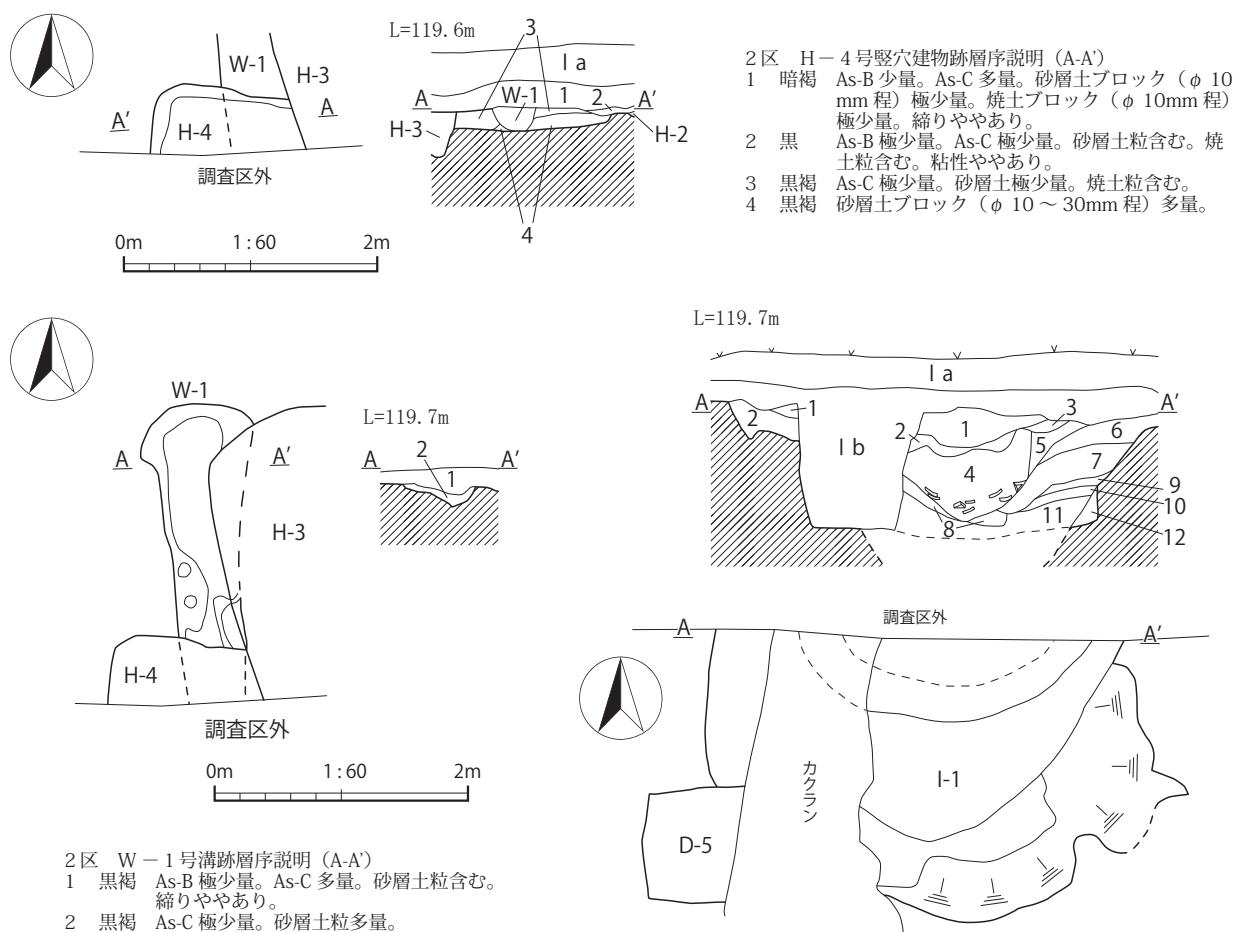
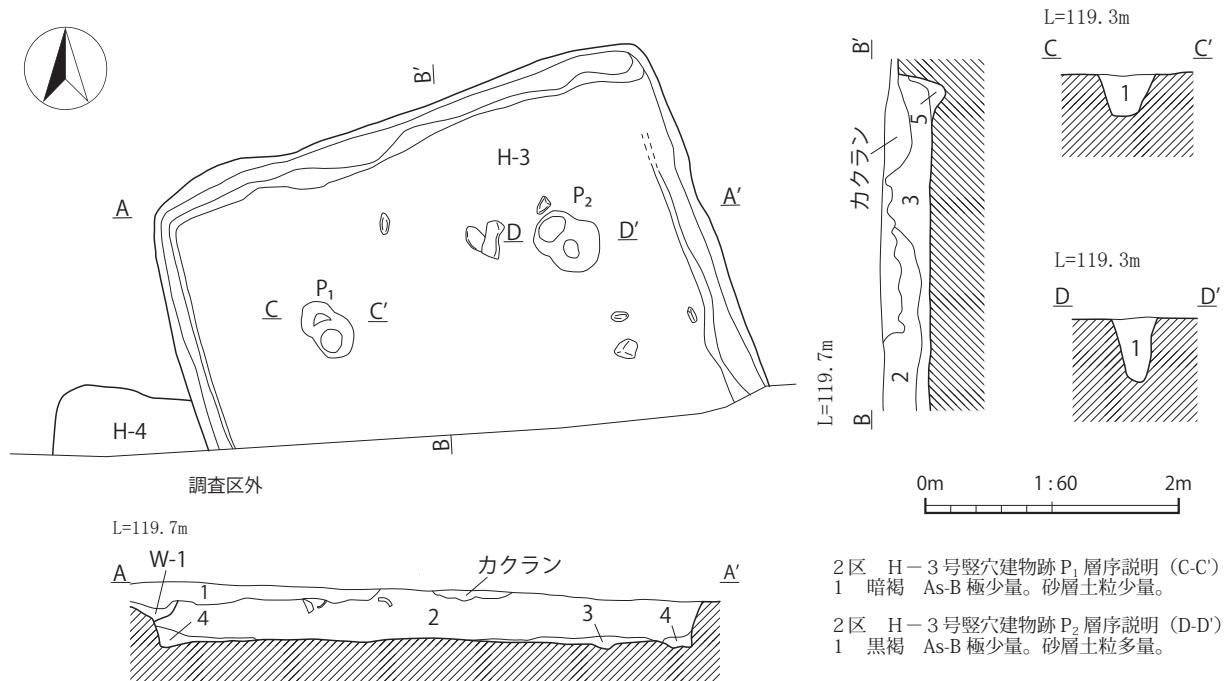


Fig.15 2区 H-3・4号竪穴建物跡、I-1号井戸跡

2区 I - 1号井戸跡層序説明 (A-A')	6 灰黄褐 シルト質。炭化物少量。粘土ブロック (ϕ 10 ~ 50mm 程) 多量。
1 黒褐 As-B 多量。炭化物少量。	7 暗褐 As-B 多量。炭化物少量。
2 褐灰 As-B 多量。炭化物多量。粘土ブロック (ϕ 10 ~ 50mm 程) 多量。縮りやや強い。	8 黒褐 As-B 多量。炭化物極少量。粘土ブロック (ϕ 10 ~ 30mm 程) 少量。縮りややあり。
3 黒褐 As-B 多量。炭化物少量。粘土ブロック (ϕ 20mm 程) 極少量。縮りやや強い。	9 黒褐 As-B 少量。焼土粒極少量。
4 黒褐 As-B 多量。炭化物極少量。	10 黒褐 As-B 少量。焼土粒極少量。縮りややあり。
5 黒褐 As-B 多量。炭化物極少量。	11 暗褐 As-B 少量。砂層土極少量。
	12 黒褐 As-B 多量。

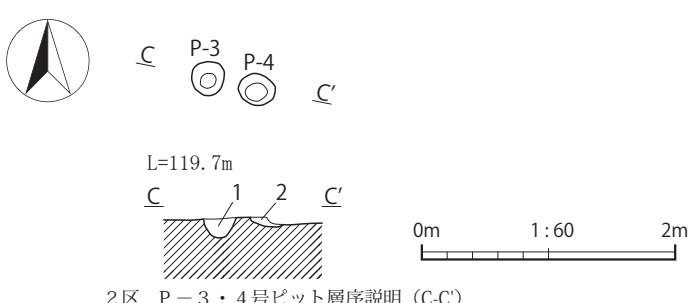
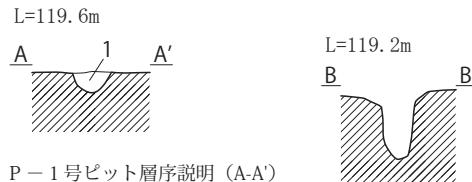
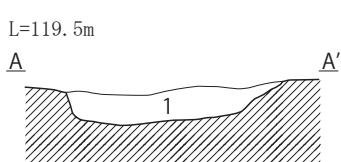
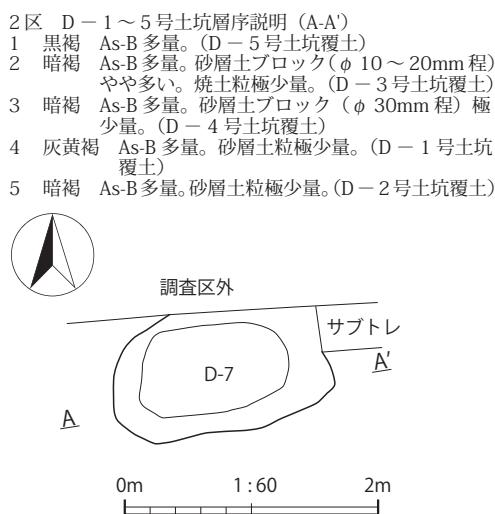
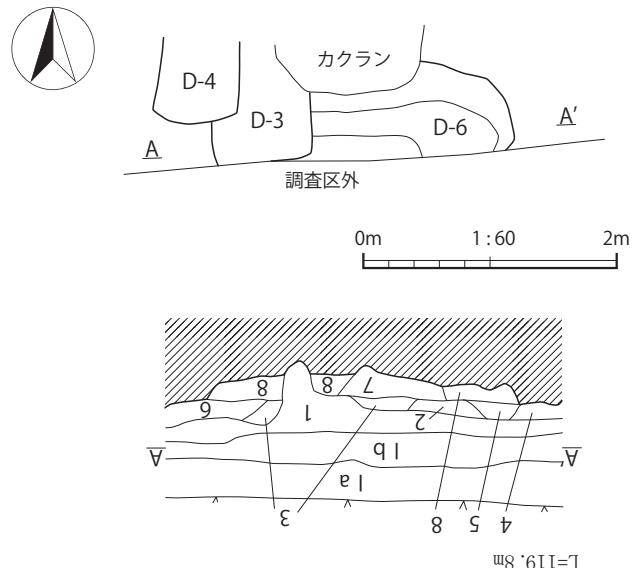
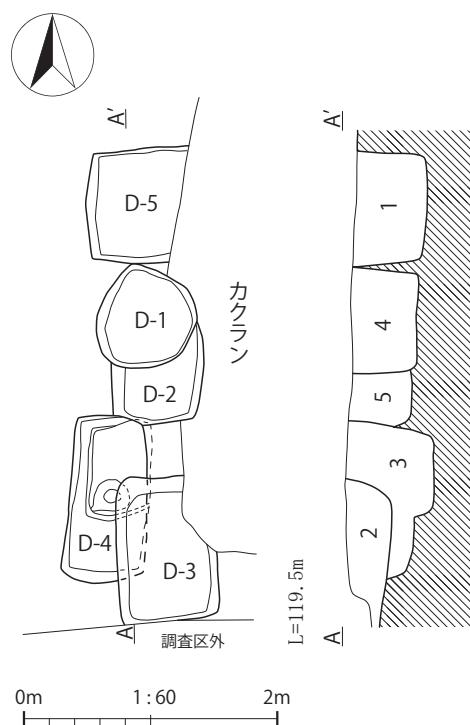


Fig.16 2区 D - 1～7号土坑、P - 1～4号ピット

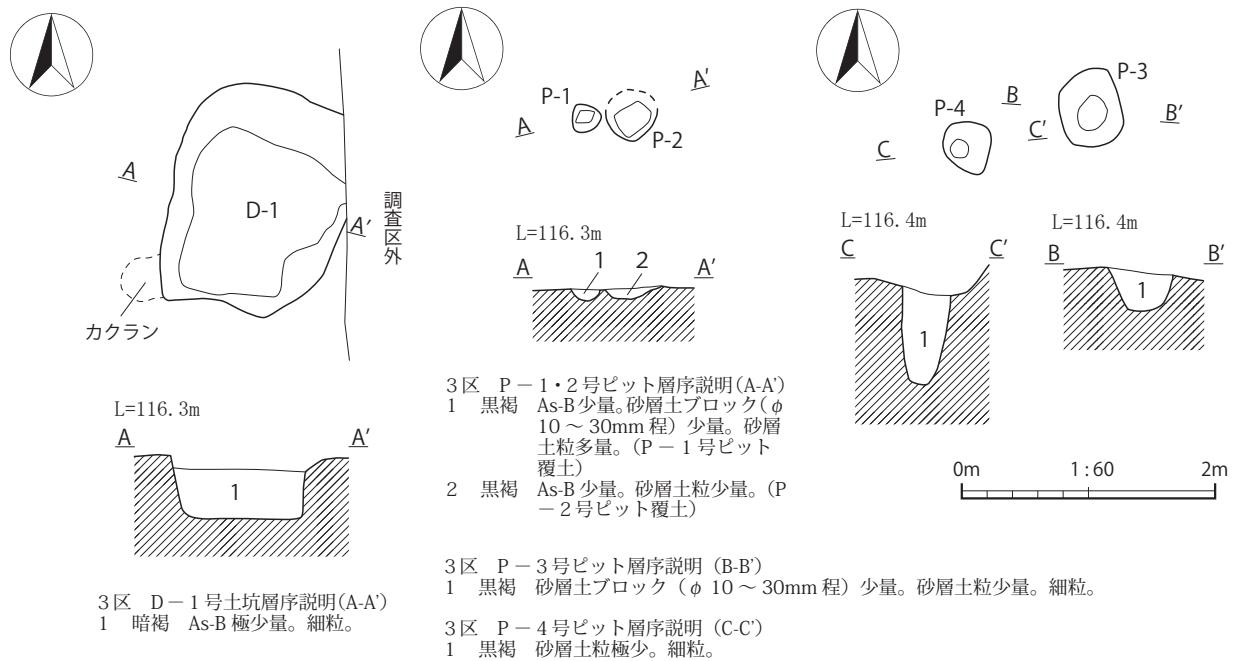


Fig.17 3区 D-1号土坑、P-1~4号ピット

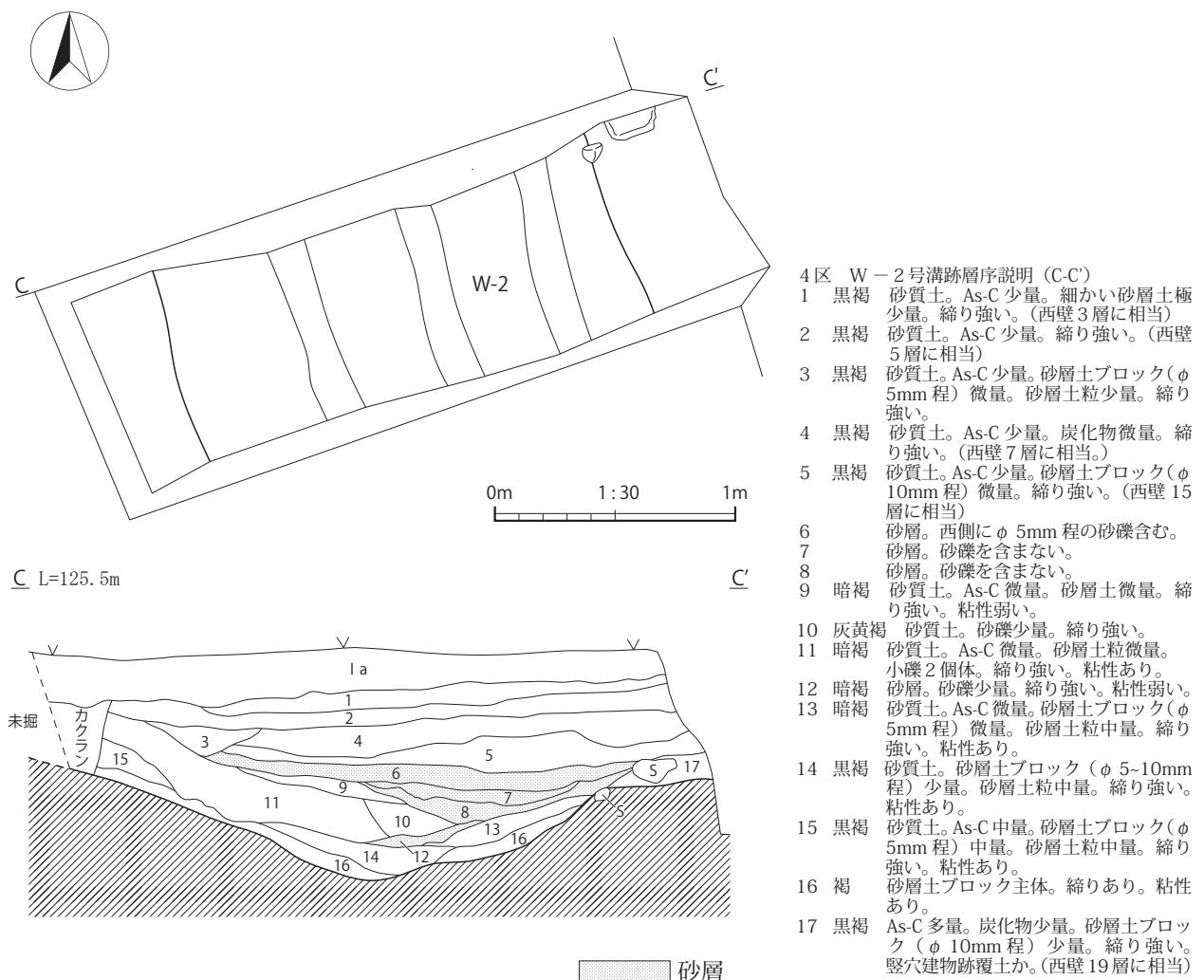
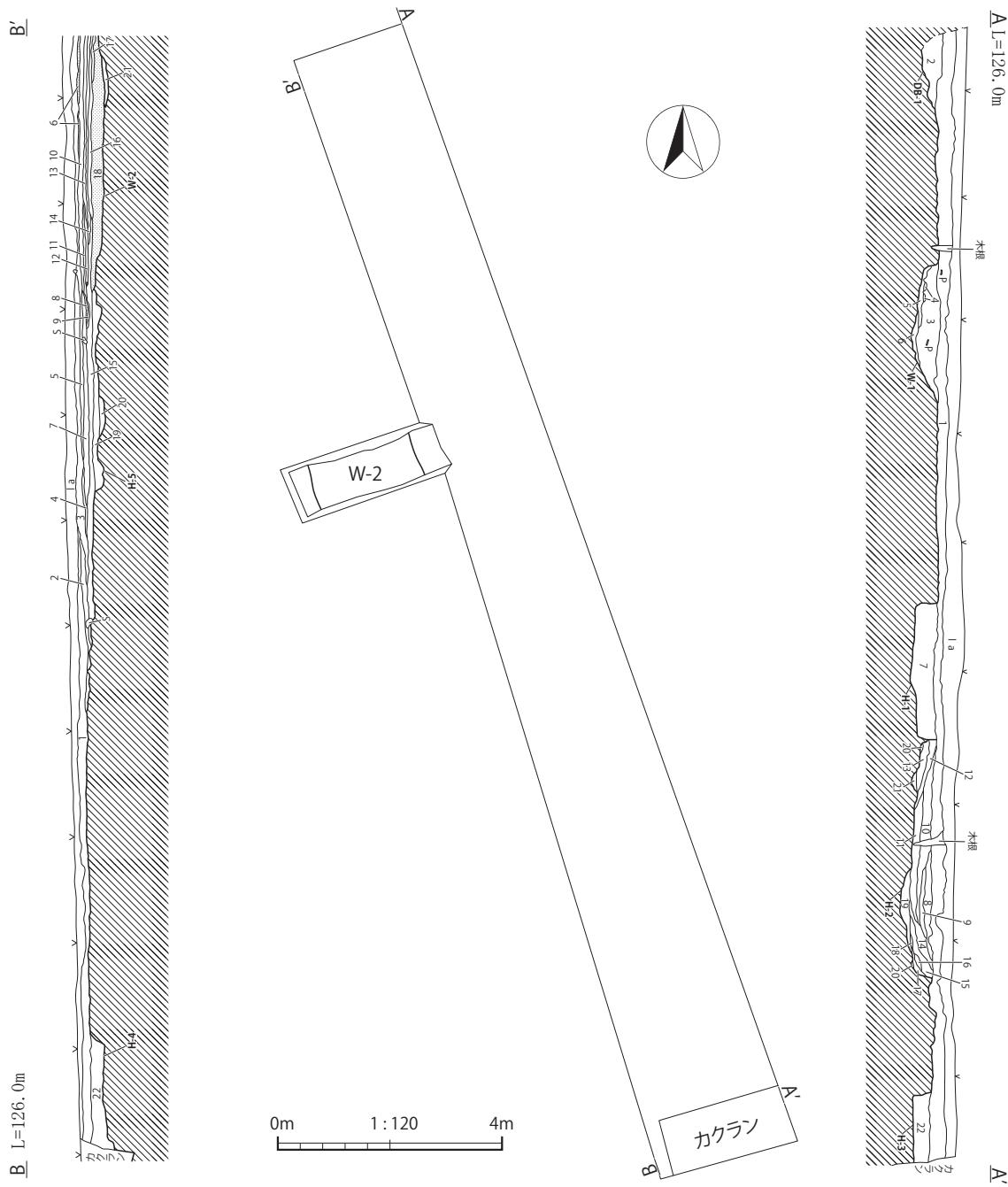


Fig.18 4区 W-2号溝跡



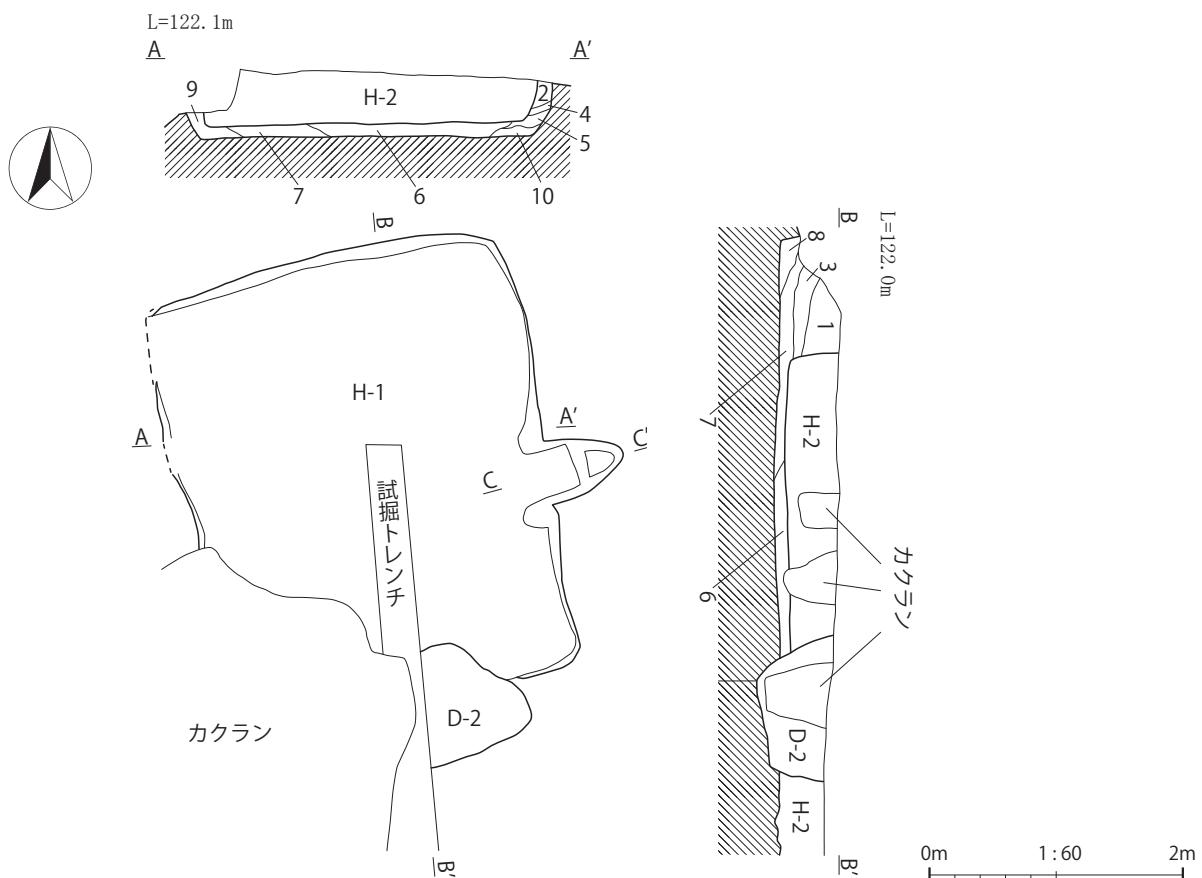
4区 調査区東壁層序説明 (A-A')

- 1 黒褐 As-B 多量。As-C 極少量。砂層土ブロック少量。砂層土粒少量。締り強い。
- 2 暗褐 As-C 極少量。砂層土ブロック (ϕ 5mm 程) 少量。砂層土粒少量。締り強い。粘性弱い。(DB - 1号土壌墓覆土)
- 3 黒褐 As-C 中量。砂層土ブロック (ϕ 5mm 程) 少量。砂層土粒少量。焼土粒極少量。炭化物極少量。締りあり。粘性あり。(W - 1号溝跡覆土)
- 4 黒褐 砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 10mm 程) 中量。砂層土粒中量。硬化したブロック状の土。締り強い。粘性あり。(W - 1号溝跡覆土)
- 5 黒褐 As-C 極少量。砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 20mm 程) 中量。砂層土粒中量。焼土粒極少量。締りあり。粘性あり。(W - 1号溝跡覆土)
- 6 暗褐 砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 30mm 程) 多量。砂層土粒多量。上部に硬化面あり。締りあり。粘性あり。(W - 1号溝跡覆土)
- 7 黒褐 As-C 中量。砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 30mm 程) 中量。砂層土粒多量。炭化物少量。焼土粒少量。締りあり。粘性あり。自然堆積が確認できなかったため、人為的に埋め戻しが行われたものと考えられる(H - 1号竪穴建物跡覆土)
- 8 黒褐 As-C 少量。砂層土ブロック (ϕ 5mm 程) 極少量。砂層土粒極少量。締りあり。粘性あり。(H - 2号竪穴建物跡覆土)
- 9 暗褐 As-C 極少量。砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 10mm 程) 多量。砂層土粒中量。締りあり。粘性あり。(H - 2号竪穴建物跡覆土)
- 10 黒褐 As-C 極少量。砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 30mm 程) 中量。砂層土粒中量。締りあり。粘性あり。(H - 2号竪穴建物跡覆土)
- 11 黒褐 As-C 少量。砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 30mm 程) 少量。砂層土粒少量。炭化物極少量。締りあり。粘性あり。(H - 2号竪穴建物跡覆土)
- 12 黒褐 As-C 極少量。砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 20mm 程) 中量。砂層土粒中量。締りあり。粘性あり。(H - 2号竪穴建物跡覆土)
- 13 黒褐 As-C 極少量。砂層土ブロック (ϕ 5mm 程) 少量。砂層土粒少量。黒色土ブロック 1 個体含む。締りあり。粘性あり。(H - 2号竪穴建物跡覆土)
- 14 黒褐 砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 30mm 程) 多量。砂層土粒多量。炭化物極少量。焼土ブロック (ϕ 5mm 程) 極少量。締りあり。粘性あり。(H - 2号竪穴建物跡覆土)
- 15 黒褐 As-C 極少量。砂層土ブロック (ϕ 5mm 程) 少量。砂層土粒極少量。焼土粒少量。締りあり。粘性あり。(H - 2号竪穴建物跡覆土)
- 16 極暗赤褐 焼土粒主体。焼土ブロック (ϕ 5mm 程) 極少量。炭化物極少量。締りあり。粘性あり。(H - 2号竪穴建物跡覆土)
- 17 黒褐 As-C 極少量。砂層土粒極少量。焼土粒極少量。締りあり。粘性あり。(H - 2号竪穴建物跡覆土)
- 18 黒褐 砂層土ブロック主体。貼り床の一部と考えられる硬化面。締り強い。粘性あり。(H - 2号竪穴建物跡覆土)
- 19 褐 黄橙色ブロック主体。床下土坑か。締りあり。粘性あり。(H - 2号竪穴建物跡覆土)
- 20 暗褐 砂層土粒主体。壁周溝。締りあり。粘性あり。(H - 2号竪穴建物跡覆土)
- 21 暗褐 砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 10mm 程) 極少量。砂層土粒多量。締りあり。粘性あり。(H - 2号竪穴建物跡覆土)
- 22 黒褐 As-C 中量。砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 20mm 程) 少量。砂層土粒少量。炭化物極少量。焼土粒極少量。締りあり。粘性あり。自然堆積が確認できなかったため、人為的な埋め戻しが行われたものと考えられる(H - 3号竪穴建物跡覆土)

Fig.19 4区 H - 1 ~ 3号竪穴建物跡、W - 1号溝跡、DB - 1号土壌墓

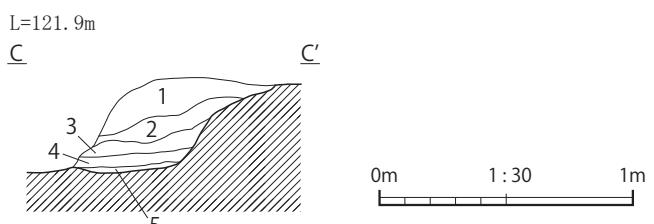
4区 西壁層序説明 (B-B')

- | | | | |
|-------|---|-------|--|
| 1 黒褐 | As-B 多量。砂礫少量。縮り強い。 | 15 黒褐 | 砂質土。As-C 少量。砂層土ブロック (ϕ 10mm 程) 極少量。縮り強い。 |
| 2 暗褐 | 細かい砂層土少量。砂層土ブロック (ϕ 10~20mm 程) 極少量。 | 16 黒褐 | 砂質土。縮り強い。 |
| 3 黒褐 | 砂質土。As-C 少量。細かい砂層土極少量。縮り強い。 | 17 暗褐 | 細かい砂層土粒少量。縮り強い。 |
| 4 黒褐 | As-C 少量。細かい砂層土少量。縮り強い。 | 18 砂層 | 上部はシルト質、下部に砂礫多量。 |
| 5 黒褐 | 砂質土。As-C 少量。縮り強い。 | 19 黒褐 | As-C 多量。炭化物少量。砂層土ブロック (ϕ 10mm 程) 少量。縮り強い。(H-5号竪穴建物跡覆土) |
| 6 砂層 | 砂礫を含まない。 | 20 暗褐 | 砂層土ブロック (ϕ 10~20mm 程) 多量。焼土少量。(H-5号竪穴建物跡覆土) |
| 7 黒褐 | As-C 少量。炭化物微量。縮り強い。 | 21 暗褐 | やや砂質土。砂層土ブロック (ϕ 10mm 程) 少量。縮り強い。 |
| 8 砂層 | 砂礫少量。 | 22 黒褐 | As-C 極少量。黄橙色ブロック (ϕ 5~20mm 程) 極少量。黄橙色土粒少量。床面直上に炭化物(消失住居?)極少量。焼土粒極少量。自然堆積が確認できないため、人為的に埋め戻しが行われたものと考えられる(H-4号竪穴建物跡覆土) |
| 9 黒褐 | シルト質土。炭化物少量。焼土粒少量。縮り強い。 | | |
| 10 黒褐 | シルト質土。As-C 少量。炭化物極少量。縮り強い。 | | |
| 11 暗褐 | 砂質土。炭化物極少量。縮り強い。 | | |
| 12 黒褐 | シルト質土。砂礫極少量。縮り強い。 | | |
| 13 黒褐 | 砂質土。砂礫極少量。縮り強い。 | | |
| 14 黒褐 | 砂層土ブロック (ϕ 10~20mm 程) 少量。砂層土粒少量。縮り強い。 | | |



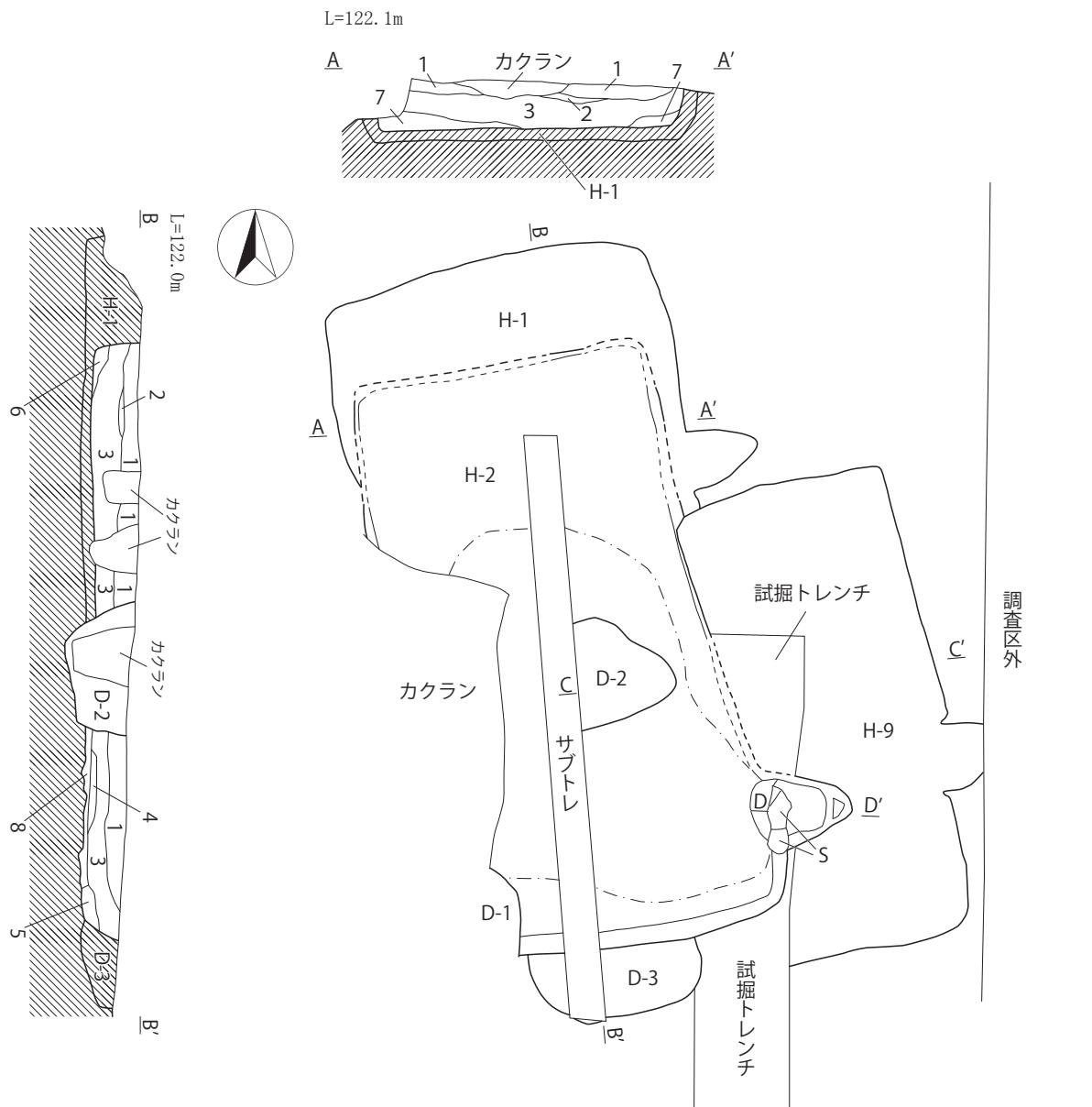
5区 H-1号竪穴建物跡層序説明 (A-A') (B-B')

- | | |
|---------|---|
| 1 暗褐 | As-C 含む。焼土粒やや多い。炭化物多量。縮り強い。 |
| 2 暗褐 | As-C 少量。焼土粒少量。白色粘土ブロック少量。 |
| 3 暗褐 | As-C 少量。焼土粒少量。炭化物少量。 |
| 4 暗褐 | As-C 含む。白色粘土ブロック少量。炭化物少量。 |
| 5 灰黄褐 | As-C 少量。白色粘土粒・ブロック主体。縮りややあり。 |
| 6 黒褐 | As-C 少量。焼土粒・ブロック多量。白色粘土ブロック多量。灰・炭化物含む。粘性ややあり。 |
| 7 黒褐 | As-C やや多い。焼土粒・ブロック含む。白色粘土ブロック含む。 |
| 8 黒褐 | As-C 少量。焼土粒少量。炭化物少量。 |
| 9 にぶい黄褐 | As-C 少量。砂層土粒含む。砂層土ブロック (ϕ 5mm 程) 含む。 |
| 10 黒褐 | As-C 少量。焼土粒・ブロック含む。白色粘土粒含む。炭化物少量。 |



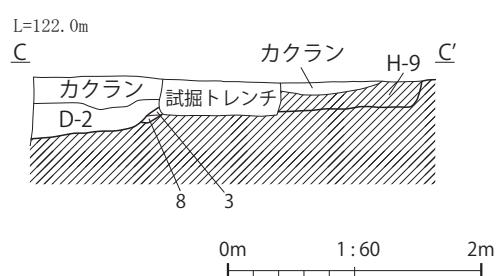
- 5区 H-1号竪穴建物跡層序説明 (C-C')
- | | |
|-------|---|
| 1 褐灰 | As-C 極少量。炭化物極少量。白色粘土ブロック多量。縮りややあり。粘性ややあり。 |
| 2 灰黄褐 | As-C 極少量。焼土粒極少量。白色粘土ブロック主体。縮りややあり。粘性あり。 |
| 3 黒褐 | As-C 極少量。白色粘土粒・ブロックやや多量。焼土粒・ブロック少量。縮りややあり。粘性ややあり。 |
| 4 黒褐 | As-C 極少量。焼土ブロックやや多量。粘性ややあり。 |
| 5 黒褐 | As-C 極少量。焼土粒少量。 |

Fig.20 5区 H-1号竪穴建物跡



5区 H-2号豊穴建物跡層序説明 (A-A') (B-B') (C-C')

1 にぶい黄褐 As-C 含む。砂層土粒少量。炭化物少量。焼土粒少量。締りややあり。
2 暗褐 As-C 少量。炭化物多量。
3 暗褐 As-C やや多量。砂層土粒少量。砂層土ブロック ($\phi 5 \sim 25\text{mm}$ 程) 少量。炭化物少量。焼土粒少量。
4 褐 As-C 少量。砂層土粒・ブロック主体。締りややあり。
5 にぶい黄褐 As-C 少量。砂層土粒やや多量。
6 暗褐 As-C 含む。砂層土粒少量。焼土粒やや多量。炭化物少量。
7 暗褐 As-C 含む。砂層土粒少量。焼土粒少量。
8 にぶい黄褐 As-C 含む。砂層土粒多量。砂層土ブロック ($\phi 5 \sim 10\text{mm}$) 多量。掘り方覆土。締りあり。上部に床面と見られる堅緻面あり。



5区 H-2号豊穴建物跡層序説明 (D-D')

1 黒褐 As-C 少量。焼土粒少量。
2 にぶい褐 As-C 少量。白色粘土ブロック主体。焼けは弱い。焼土ブロック少量。粘性あり。
3 褐灰 灰層。焼土ブロック少量。
4 暗褐 As-C 少量。焼土粒少量。炭化物少量。

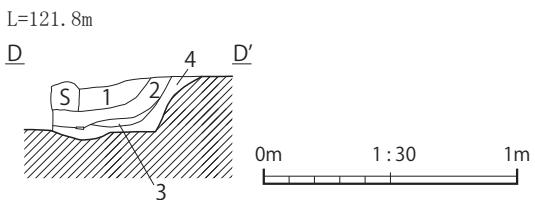
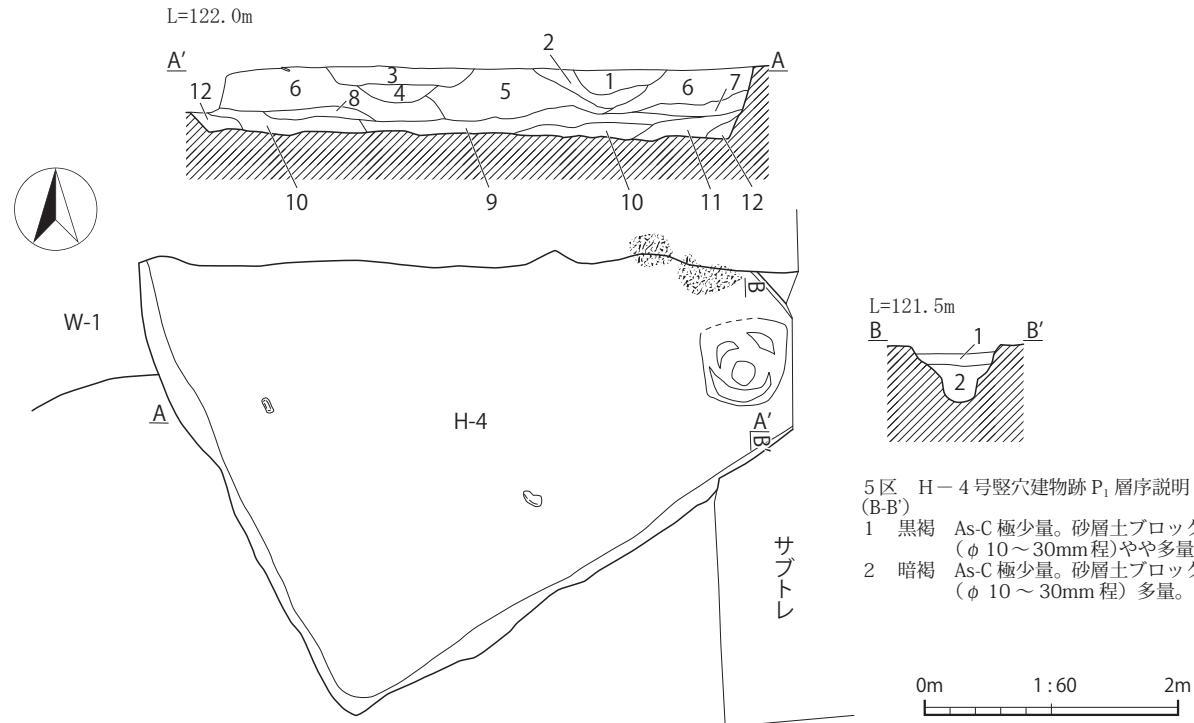


Fig.21 5区 H-2号豊穴建物跡

5区 H-4号竪穴建物跡層序説明 (A-A')

- | | | | |
|------|--|-------|---|
| 1 暗褐 | As-C 極少量。砂層土粒極少量。 | 8 黒褐 | As-C 少量。砂層土ブロック (ϕ 20mm 程) やや多量。締りややあり。 |
| 2 暗褐 | As-C 極少量。 | 9 黒褐 | As-C 極少量。砂層土粒少量。 |
| 3 暗褐 | As-C 少量。焼土粒若干。 | 10 黒褐 | As-C 少量。砂層土ブロック (ϕ 10mm 程) 極少量。焼土粒極少量。 |
| 4 黒褐 | As-C 極少量。砂層土粒極少量。 | 11 暗褐 | As-C 極少量。砂層土粒やや多量。炭化物極少量。 |
| 5 暗褐 | As-C 多量。砂層土ブロック (ϕ 10mm 程) 少量。焼土粒少量。 | 12 暗褐 | As-C 極少量。砂層土粒多量。 |
| 6 暗褐 | As-C 多量。砂層土ブロック (ϕ 10 ~ 30mm 程) 少量。焼土粒極少量。 | 13 暗褐 | As-C 少量。砂層土粒少量。炭化物少量。 |
| 7 黒褐 | As-C 少量。砂層土粒少量。 | | |



5区 H-4号竪穴建物跡 P₁ 層序説明 (B-B')

- | | |
|------|--|
| 1 黒褐 | As-C 極少量。砂層土ブロック (ϕ 10 ~ 30mm 程) やや多量。 |
| 2 暗褐 | As-C 極少量。砂層土ブロック (ϕ 10 ~ 30mm 程) 多量。 |

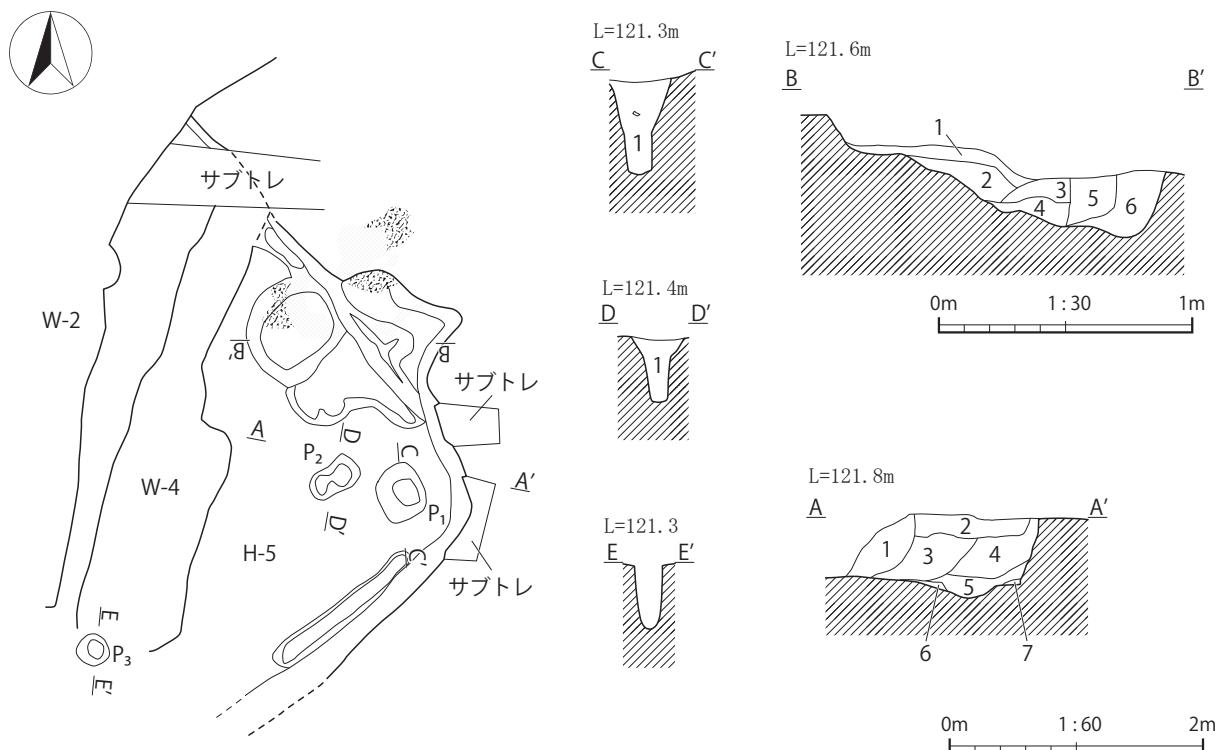


Fig.22 5区 H-4・5号竪穴建物跡

5区 H-5号竪穴建物跡層序説明 (A-A')

- 1 暗褐 As-B 少量。As-C 多量。砂層土ブロック ($\phi 10 \sim 20\text{mm}$ 程) やや多量。締りあり。(W-2号溝跡覆土)
- 2 暗褐 As-C 多量。焼土粒やや多量。砂層土ブロック ($\phi 10\text{mm}$ 程) 少量。締りややあり。
- 3 黒褐 As-C 多量。砂層土粒やや多量。黒色土少量。
- 4 暗褐 As-C やや多量。焼土粒若干。締りややあり。
- 5 暗褐 As-C やや多量。砂層土やや多量。砂層土ブロック ($\phi 10\text{mm}$ 程) 少量。
- 6 黒褐 As-C 極少量。砂層土ブロック ($\phi 10\text{mm}$ 程) 締り強い。貼り床面。

5区 H-5号竪穴建物跡 P₁ 層序説明 (C-C')

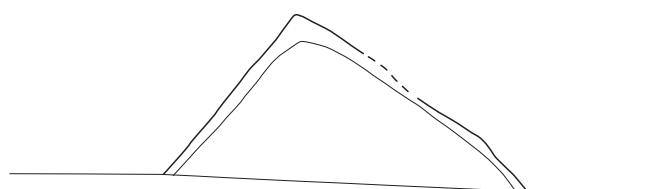
- 1 黒褐 As-C 少量。砂層土ブロック ($\phi 10\text{mm}$ 程) 極少量。締り強い。粘性あり。

5区 H-5号竪穴建物跡竪層序説明 (B-B')

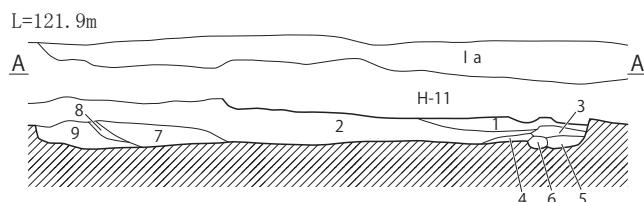
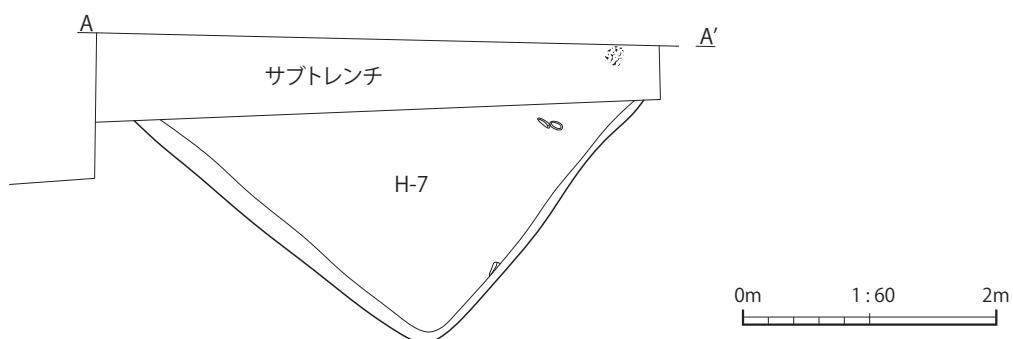
- 1 黒褐 As-B 極少量。As-C 多量。砂層土少量。焼土粒極少量。
- 2 黒褐 As-B 極少量。As-C 少量。砂層土少量。焼土粒少量。
- 3 暗褐 As-B 極少量。As-C 少量。焼土ブロック ($\phi 10 \sim 20\text{mm}$ 程) 少量。
- 4 黒褐 As-C 極少量。細粒。
- 5 暗褐 As-C 極少量。焼土ブロック ($\phi 10 \sim 20\text{mm}$ 程) 多量。粘性ややあり。
- 6 黒褐 As-C 極少量。砂層土粒含む。粘性ややあり。

5区 H-5号竪穴建物跡 P₂ 層序説明 (D-D')

- 1 暗褐 砂層土ブロック ($\phi 10\text{mm}$ 程) 多量。焼土粒含む。締り強い。粘性強い。



カクラン



5区 H-7号竪穴建物跡層序説明 (A-A')

- 1 暗褐 As-C 多量。砂層土粒極少量。
- 2 暗褐 As-C 多量。砂層土粒少量。焼土粒少量。炭化物少量。粘土ブロック ($\phi 30\text{mm}$ 程) 極少量。
- 3 黒褐 As-C 多量。砂層土粒含む。炭化物少量。
- 4 黒褐 As-C 極少量。砂層土ブロック ($\phi 20\text{mm}$ 程) 少量。粘土ブロック ($\phi 10 \sim 20\text{mm}$ 程) 多量。粘性強い。
- 5 黒褐 As-C 極少量。粘土ブロック ($\phi 10\text{mm}$ 程) 極少量。粘性ややあり。
- 6 粘土層。
- 7 黒褐 As-C 少量。砂層土ブロック ($\phi 10 \sim 30\text{mm}$ 程) 少量。焼土粒含む。
- 8 暗褐 As-C 極少量。砂層土やや多い。締りややあり。粘性ややあり。
- 9 黒褐 As-C 少量。粘土ブロック ($\phi 10 \sim 30\text{mm}$ 程) 少量。焼土粒含む。粘性あり。

Fig.23 5区 H-7号竪穴建物跡

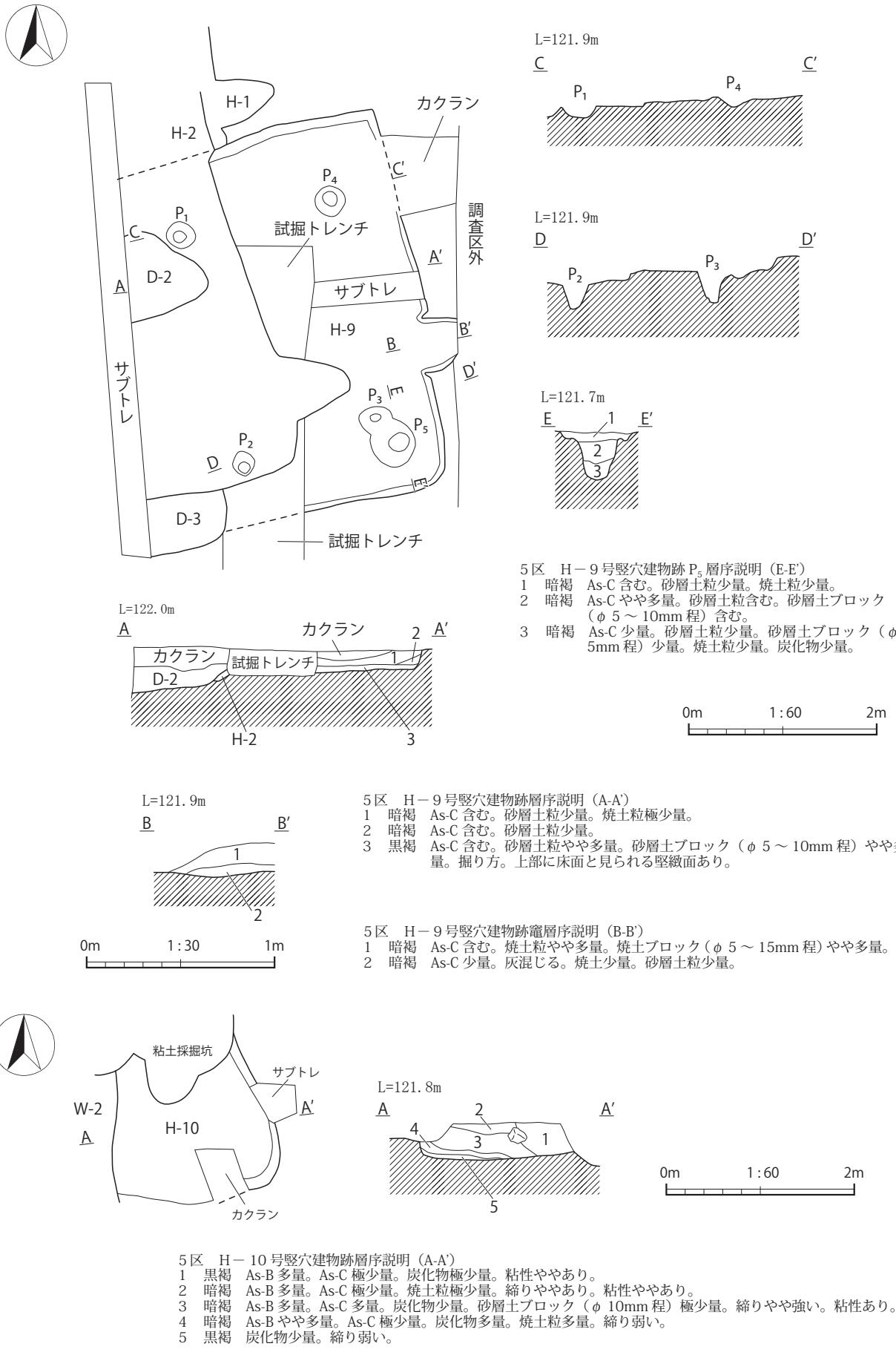
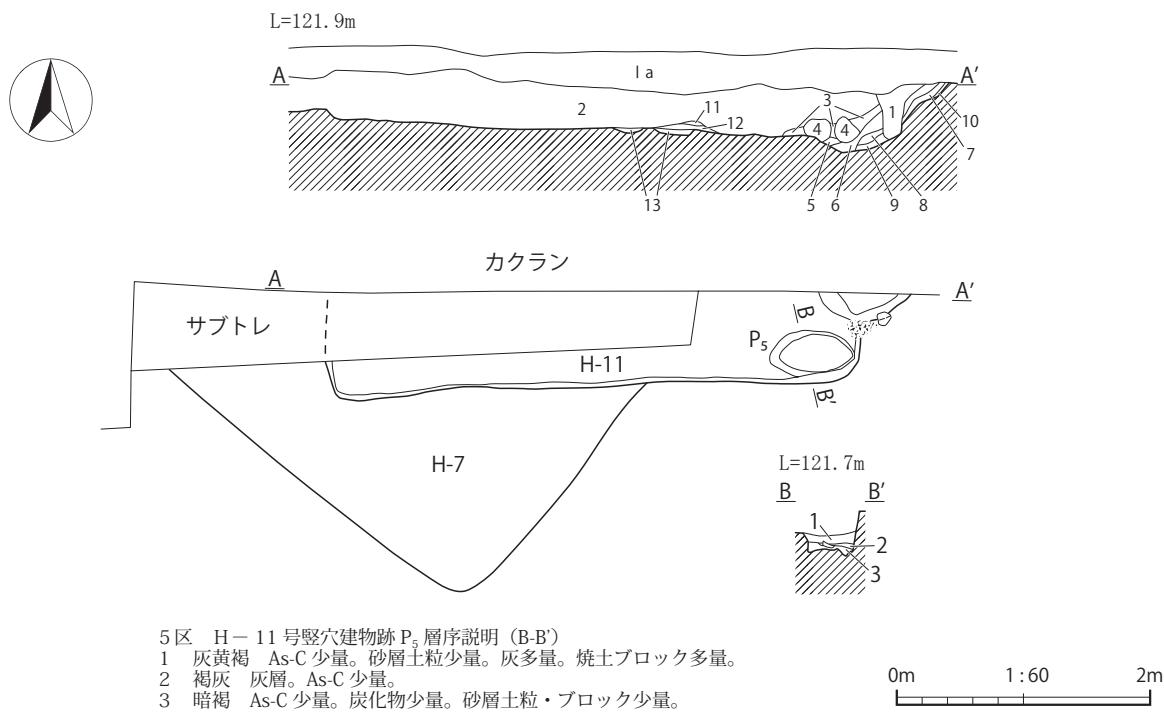


Fig.24 5区 H-9・10号竪穴建物跡

5区 H-11号竪穴建物跡層序説明 (A-A')

- 1 暗褐 As-B 多量。As-C 多量。
- 2 暗褐 As-C 多量。砂層土ブロック (ϕ 20mm 程) 極少量。
- 3 黒褐 As-C やや多量。焼土粒含む。粘土粒含む。
- 4 黒褐 As-C やや多量。焼土粒含む。締り強い。粘性強い。
- 5 黒褐 砂層土粒極少量。締り弱い。
- 6 暗褐 As-C 少量。焼土粒少量。砂層土粒少量。
- 7 黒褐 As-C 少量。炭化物少量。焼土ブロック (ϕ 10mm 程) 少量。

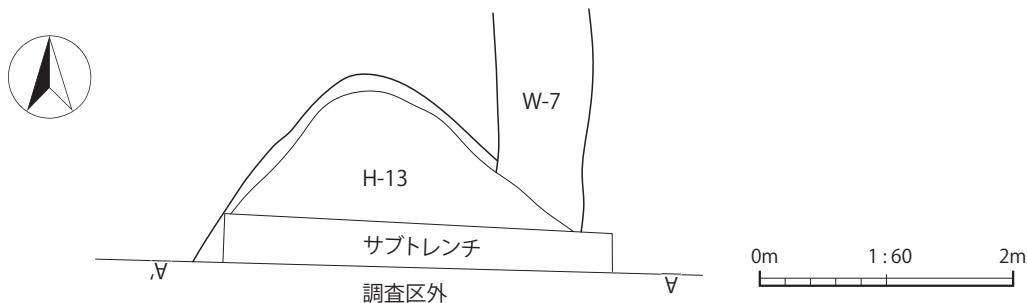
- 8 黒褐 As-C 少量。炭化物極少量。焼土ブロック (ϕ 10mm 程) 少量。灰少量。
- 9 暗褐 As-C 極少量。焼土ブロック (ϕ 10mm 程) やや多量。黄褐色粒若干。
- 10 黒褐 As-C 極少量。焼土粒極少量。
- 11 暗褐 As-C 多量。砂層土粒含む。焼土粒若干。締り強い。
- 12 黒褐 As-C やや多量。砂層土粒含む。締り強い。
- 13 暗褐 As-C 多量。焼土粒やや多量。締り強い。貼り床面。



5区 H-11号竪穴建物跡 P₅層序説明 (B-B')

- 1 灰黄褐 As-C 少量。砂層土粒少量。灰多量。焼土ブロック多量。
- 2 褐灰 灰層。As-C 少量。
- 3 暗褐 As-C 少量。炭化物少量。砂層土粒・ブロック少量。

0m 1:60 2m



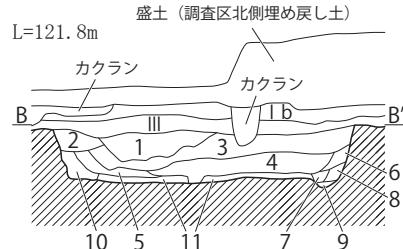
5区 H-13号竪穴建物跡層序説明 (A-A')

- 1 黒褐 As-C 多量。砂層土ブロック (ϕ 10 ~ 20mm 程) 少量。黄褐色粒少量。
- 2 暗褐 As-C 少量。砂層土粒多量。
- 3 暗褐 As-C 少量。砂層土粒多量。砂層土ブロック (ϕ 10mm 程) 少量。
- 4 黒褐 As-C 多量。砂層土ブロック (ϕ 10 ~ 20mm 程) 少量。黄褐色粒含む。炭化物少量。
- 5 黒褐 As-C 極少量。砂層土粒含む。
- 6 暗褐 As-C 極少量。砂層土粒少量。炭化物若干。
- 7 黒褐 As-C やや多量。砂層土ブロック (ϕ 10 ~ 20mm 程) やや多量。炭化物少量。締りややあり。掘り方覆土。

Fig.25 5区 H-11・13号竪穴建物跡

5区 H-14号竪穴建物跡層序説明 (B-B')

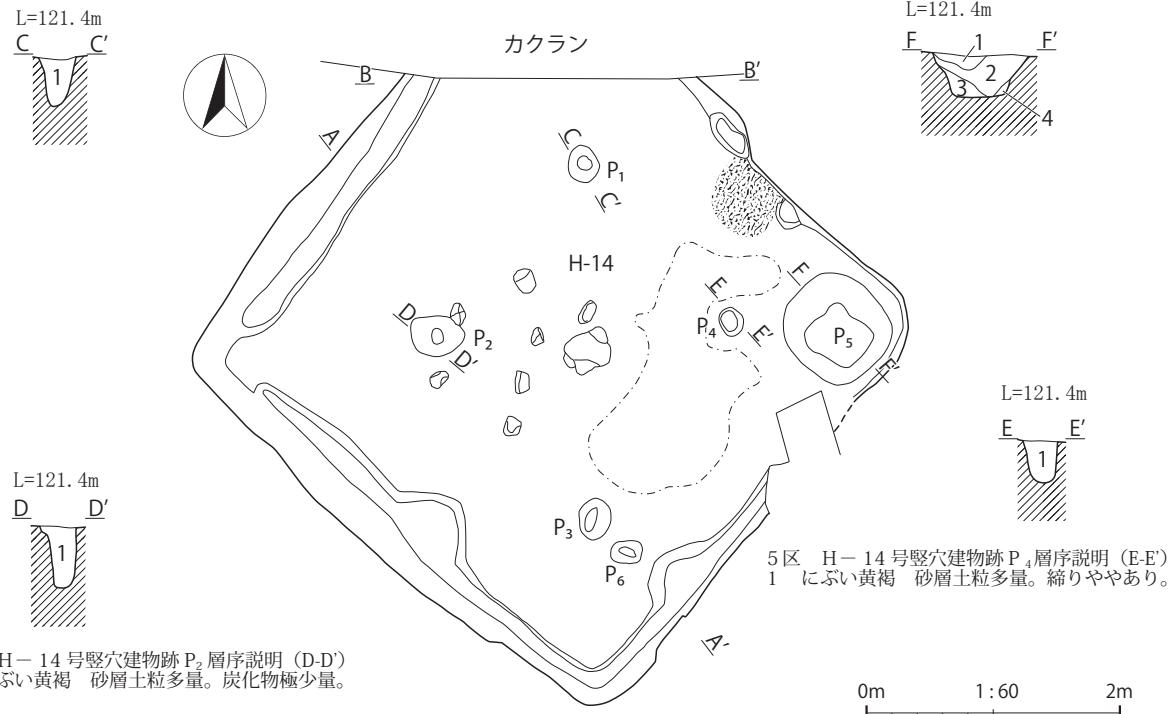
- | | |
|--|-----------------------------------|
| 1 暗黄褐 As-C 少量。砂層土粒極少量。暗灰色シルト多量。粘性ややあり。 | 6 にぶい黄褐 As-C 極少量。砂層土ブロック・粒多量。 |
| 2 黒褐 As-C 少量。砂層土粒極少量。 | 7 灰黄褐 As-C 極少量。砂層土粒やや多量。 |
| 3 暗褐 砂層土ブロック・粒極少量。暗灰色シルトブロックやや多量。 | 8 にぶい黄褐 砂層土主体。締りややあり。 |
| 4 暗褐 As-C 少量。砂層土ブロック・粒少量。 | 9 灰黄褐 砂層土粒やや多量。 |
| 5 黒褐 As-C 少量。砂層土ブロック・粒少量。 | 10 にぶい黄褐 As-C 極少量。砂層土ブロック・粒やや多量。 |
| | 11 灰黄褐 As-C 極少量。砂層土ブロック・粒多量。貼り床面。 |



5区 H-14号竪穴建物跡 P₁層序説明(C-C')

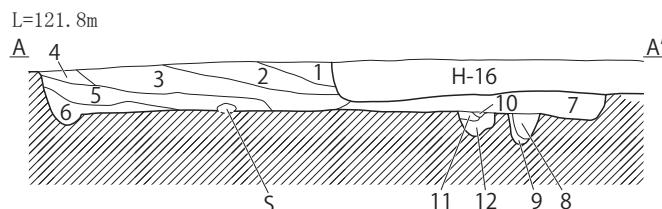
- 1 にぶい黄褐 砂層土粒多量。炭化物少量。

- 5区 H-14号竪穴建物跡 P₅層序説明(F-F')
- | |
|-------------------------------------|
| 1 にぶい黄褐 焼土ブロック多量。白色粘土ブロック多量。締りややあり。 |
| 2 黒褐 As-C 少量。砂層土ブロック・粒やや多量。 |
| 3 にぶい黄褐 As-C 少量。砂層土ブロック・粒多量。 |
| 4 にぶい黄橙 砂層土ブロック・粒主体。 |



5区 H-14号竪穴建物跡 P₂層序説明(D-D')

- 1 にぶい黄褐 砂層土粒多量。炭化物極少量。



5区 H-14号竪穴建物跡・P₃・P₆層序説明(A-A')

- | |
|---|
| 1 にぶい黄褐 As-C やや多量。白色シルトブロック多量。粘性ややあり。 |
| 2 灰黄褐 As-C やや多量。砂層土粒少量。粘性ややあり。 |
| 3 暗褐 As-C 少量。砂層土粒やや多量。砂層土ブロック ($\phi 5 \sim 20mm$ 程) やや多量。粘性ややあり。 |
| 4 黒褐 As-C 少量。砂層土粒やや多量。砂層土ブロック ($\phi 5 \sim 10mm$ 程) やや多量。締りややあり。粘性ややあり。 |
| 5 灰黄褐 As-C 極少量。砂層土粒少量。砂層土ブロック ($\phi 5mm$ 程) 少量。粘性ややあり。 |
| 6 暗褐 As-C 極少量。砂層土粒多量。砂層土ブロック ($\phi 5 \sim 10mm$ 程) 多量。炭化物極少量。 |
| 7 暗褐 As-C やや多量。砂層土粒やや多量。砂層土ブロック ($\phi 5 \sim 10mm$ 程) やや多量。炭化物極少量。焼土粒極少量。 |
| 8 黒褐 砂層土粒少量。砂層土ブロック ($\phi 10mm$ 程) 極少量。締りややあり。(P ₆ 覆土) |
| 9 灰黄褐 砂層土粒多量。(P ₆ 覆土) |
| 10 黒褐 砂層土粒少量。締りややあり。(P ₃ 覆土) |
| 11 灰黄褐 砂層土粒少量。砂層土ブロック ($\phi 10mm$ 程) 極少量。締りややあり。(P ₃ 覆土) |
| 12 にぶい黄褐 砂層土粒やや多量。炭化物極少量。締りややあり。(P ₃ 覆土) |

Fig.26 5区 H-14号竪穴建物跡

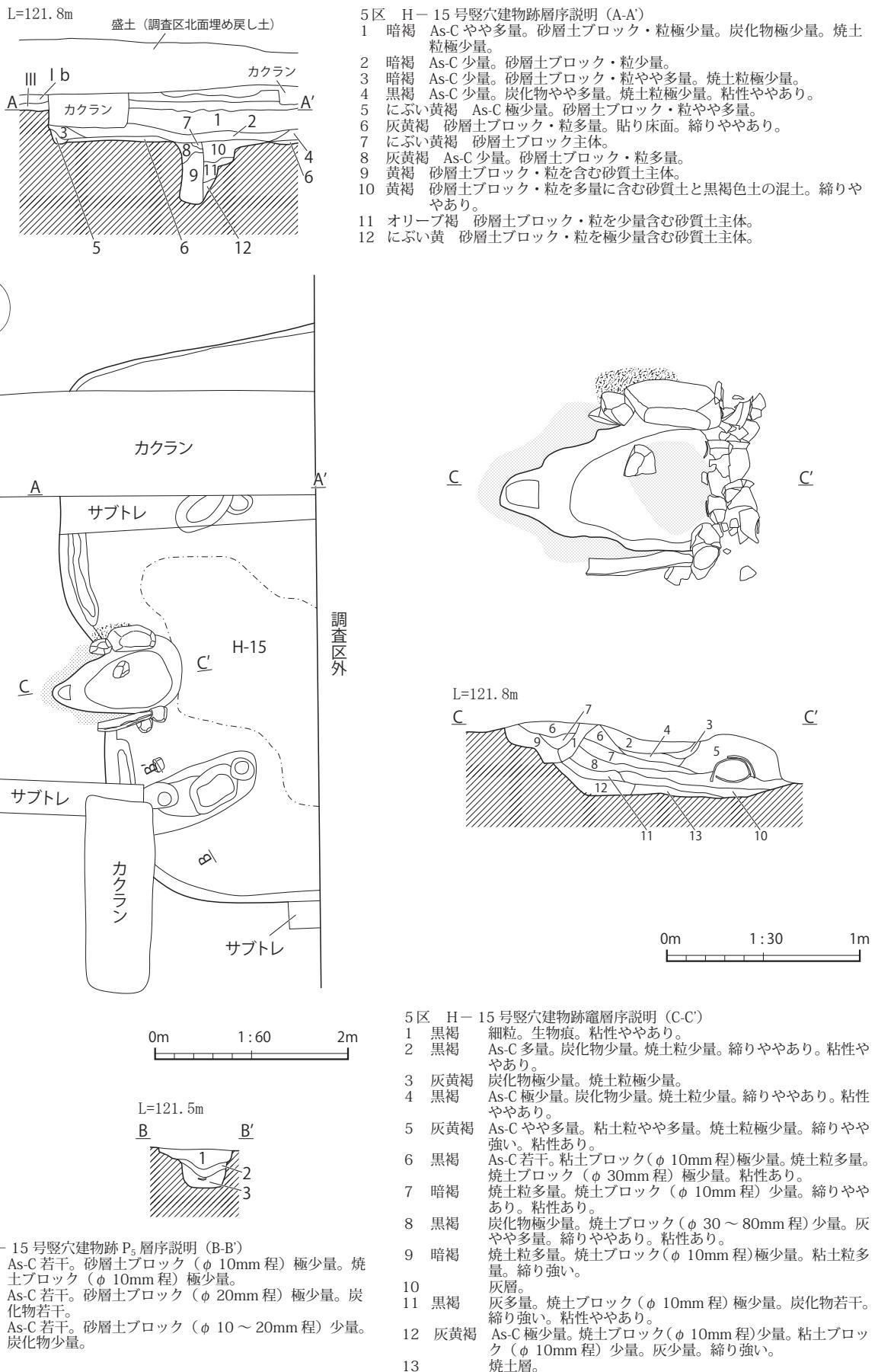


Fig.27 5区 H-15号竪穴建物跡

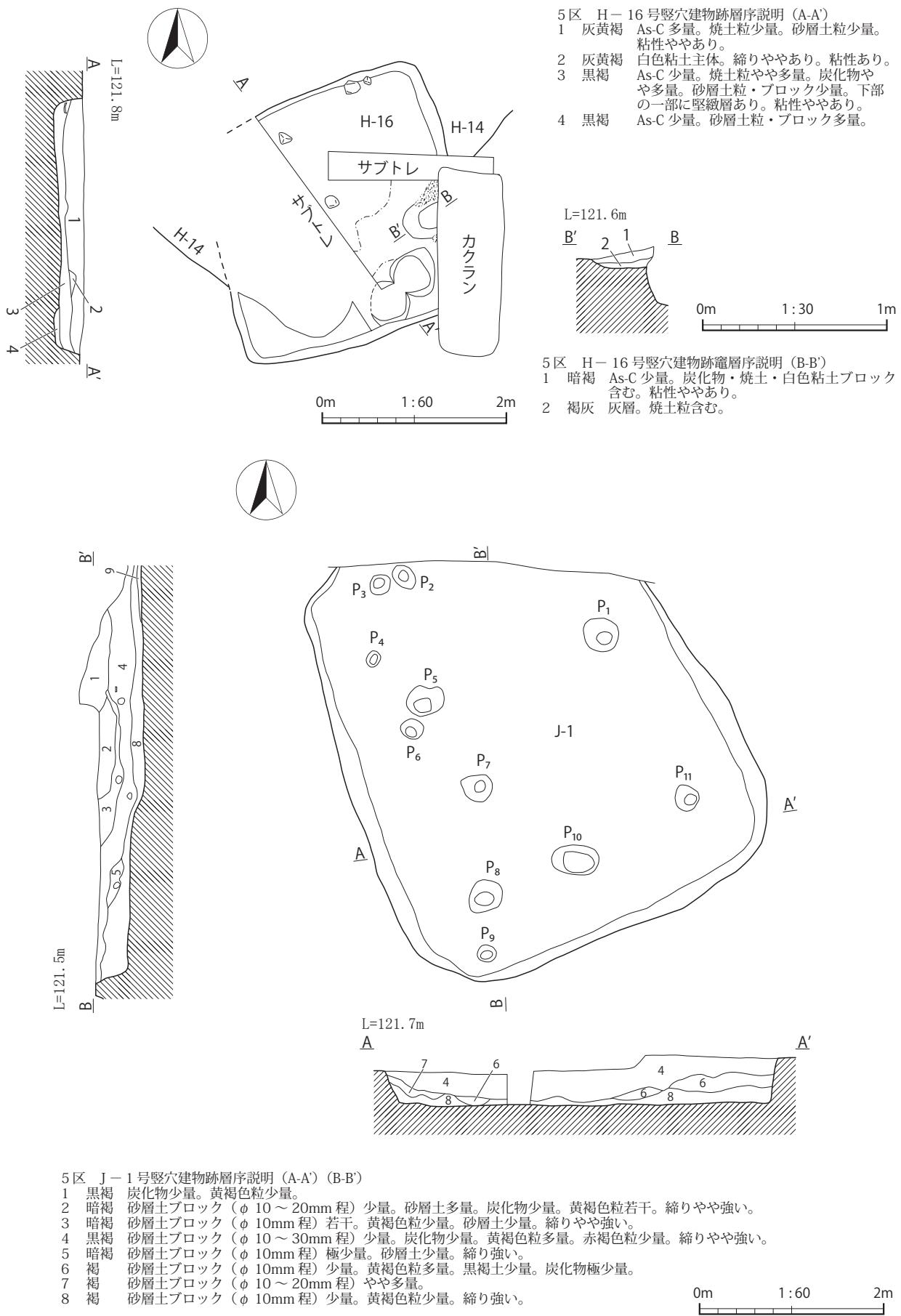


Fig.28 5区 H - 16号堅穴建物跡、J - 1号堅穴建物跡 (1)

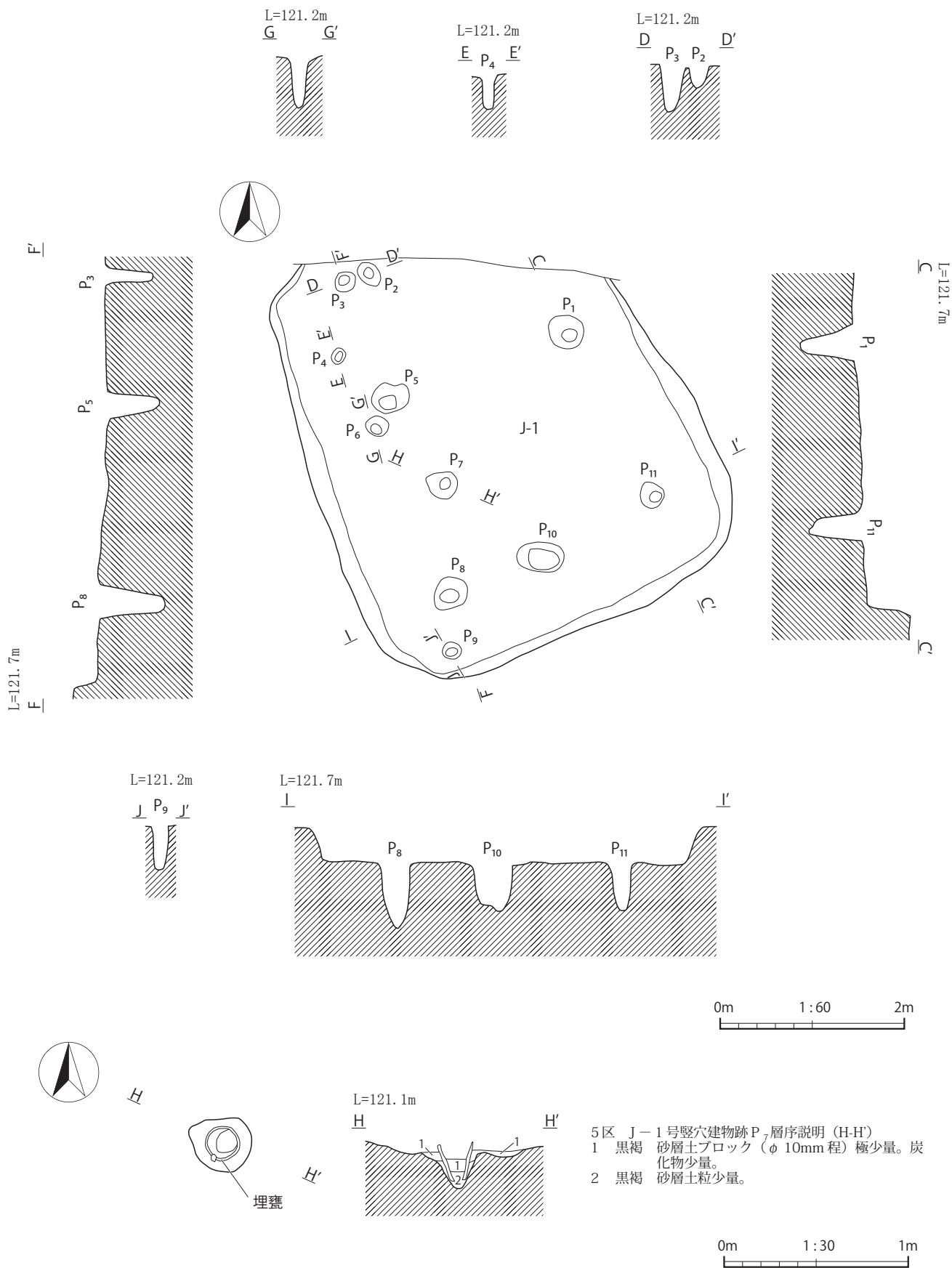


Fig.29 5区J-1号竪穴建物跡 (2)

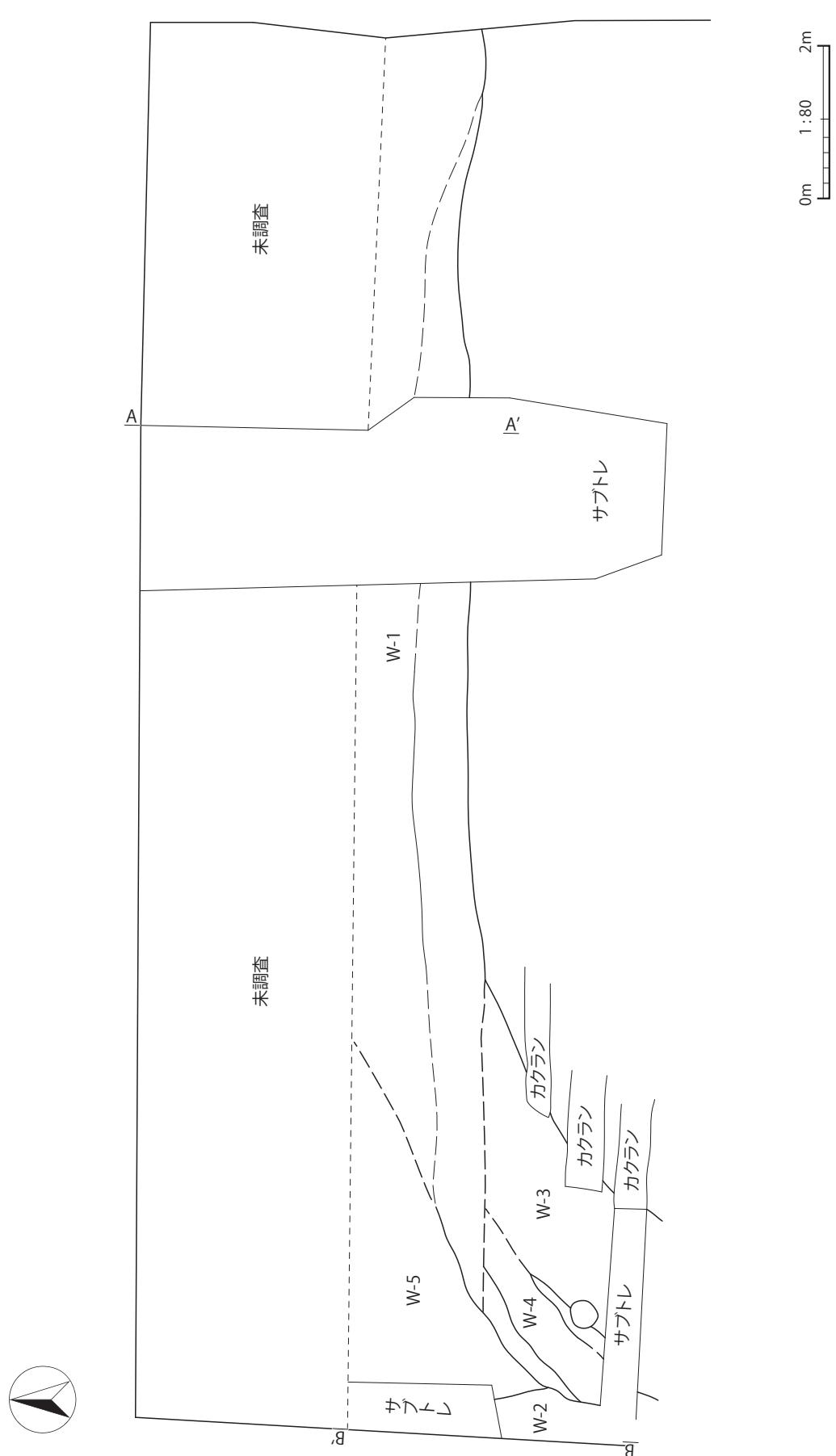


Fig.30 5区 W-1号溝跡 (1)

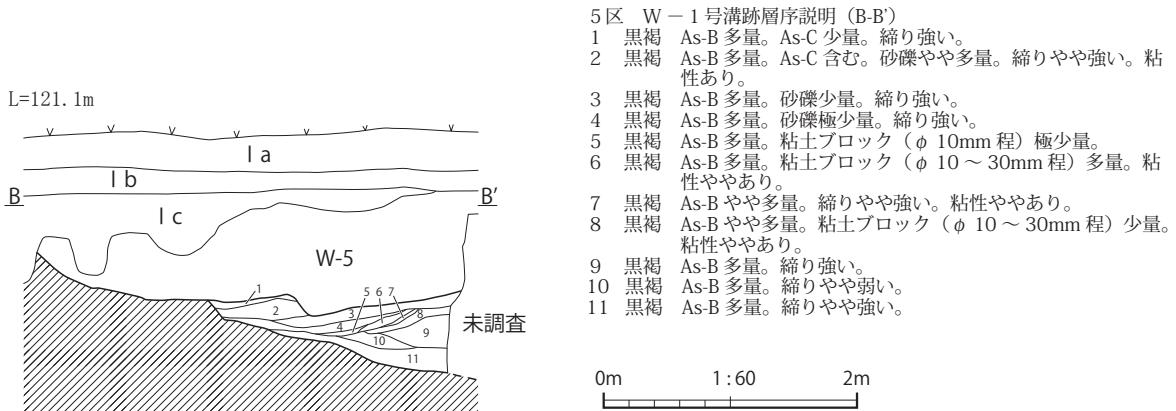
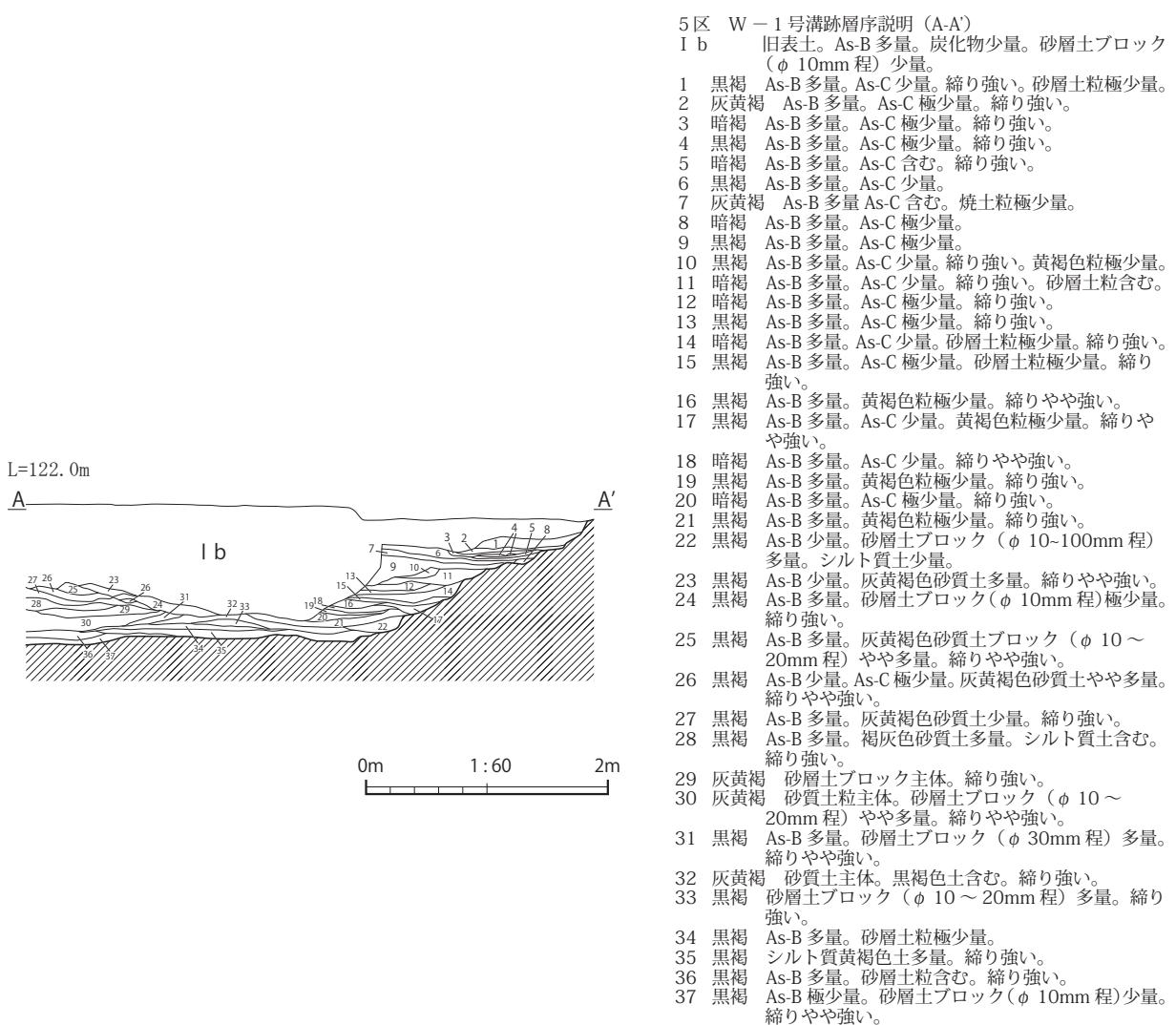


Fig.31 5区 W-1号溝跡 (2)

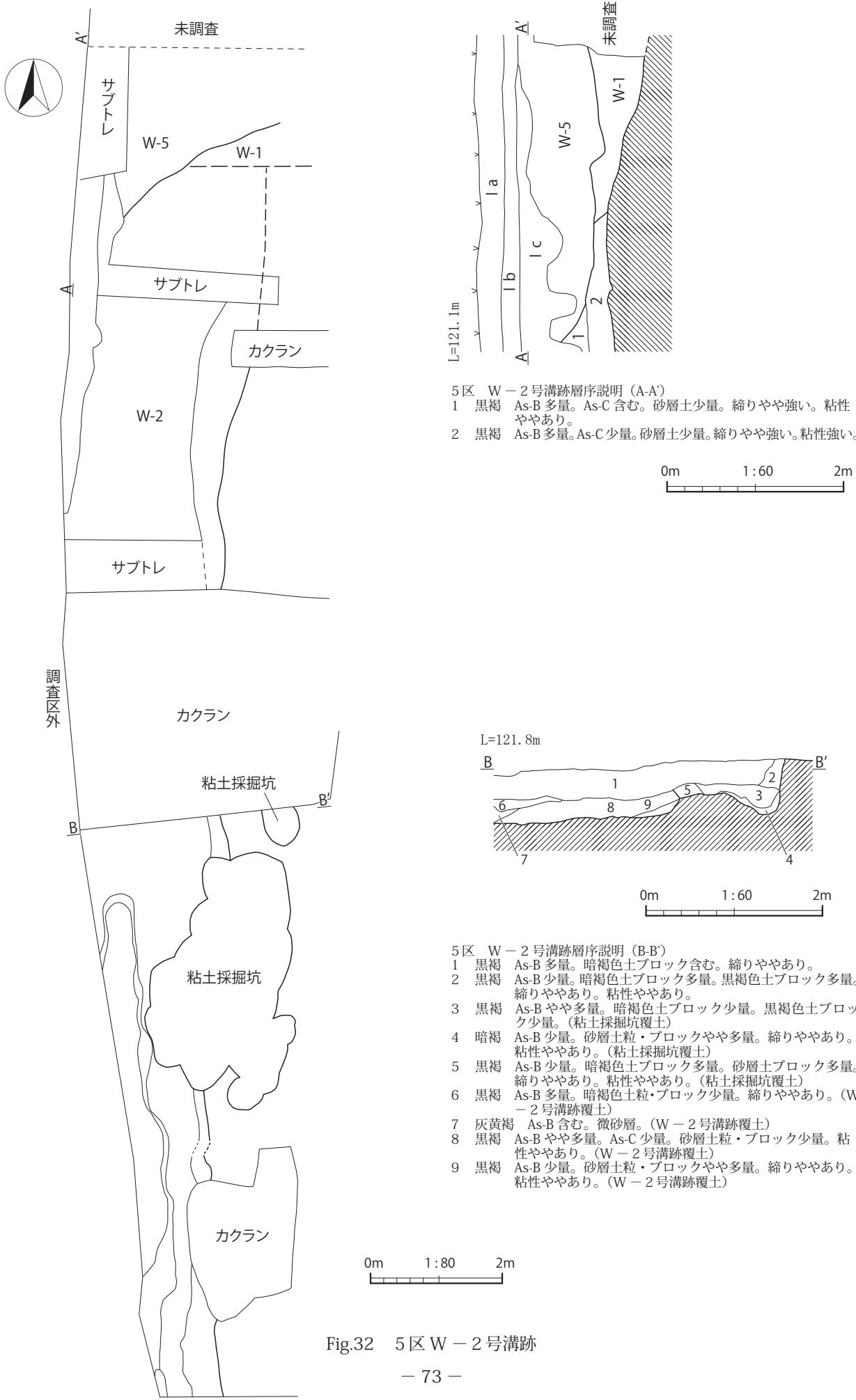


Fig.32 5区 W - 2号溝跡

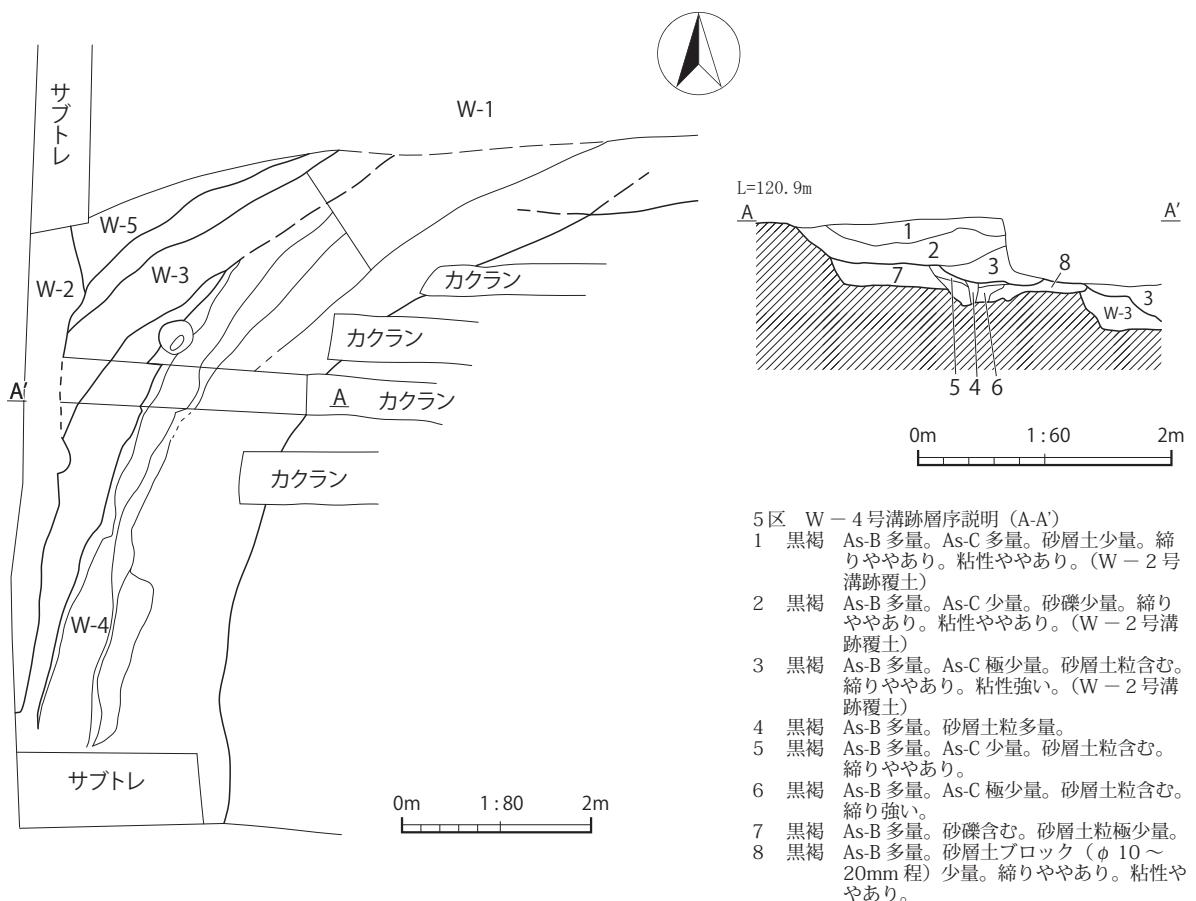
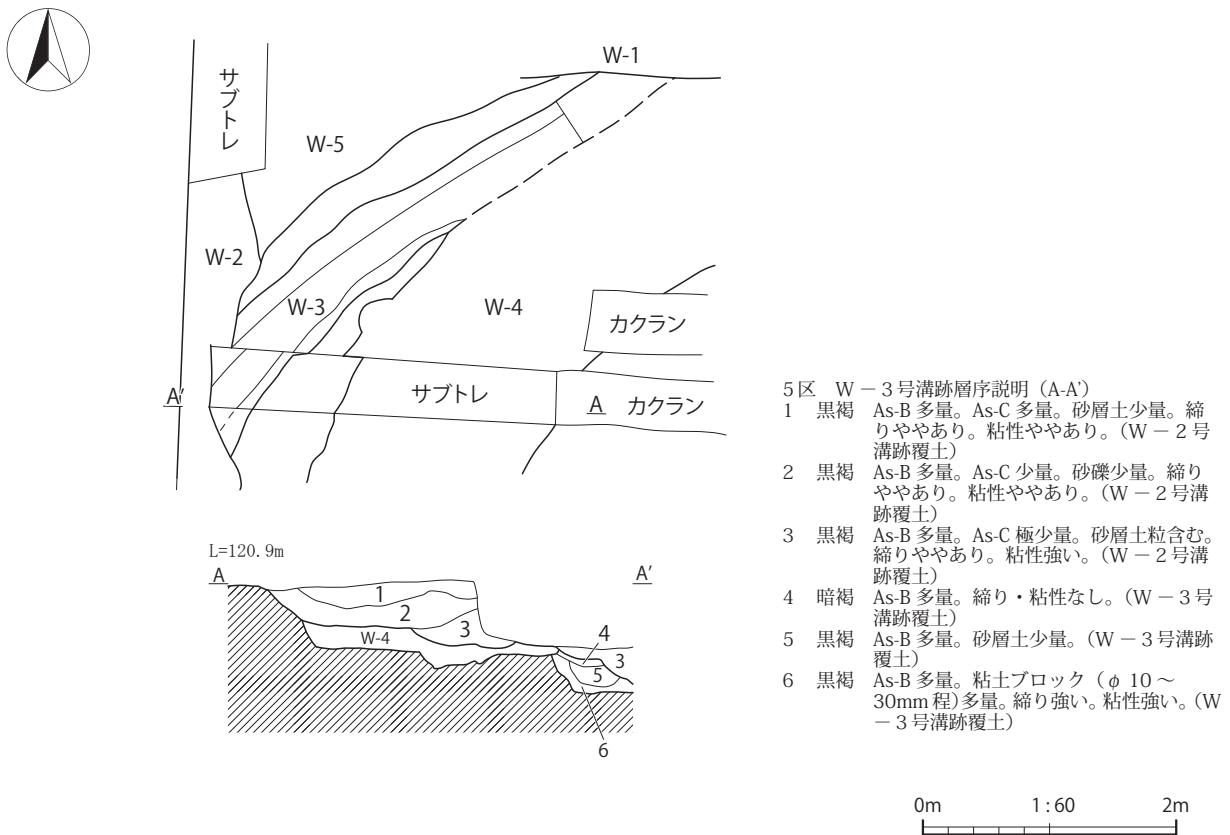
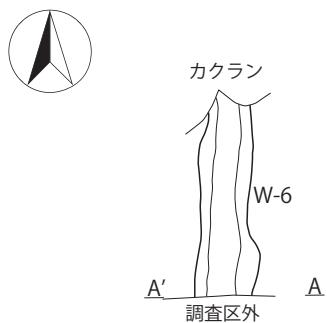
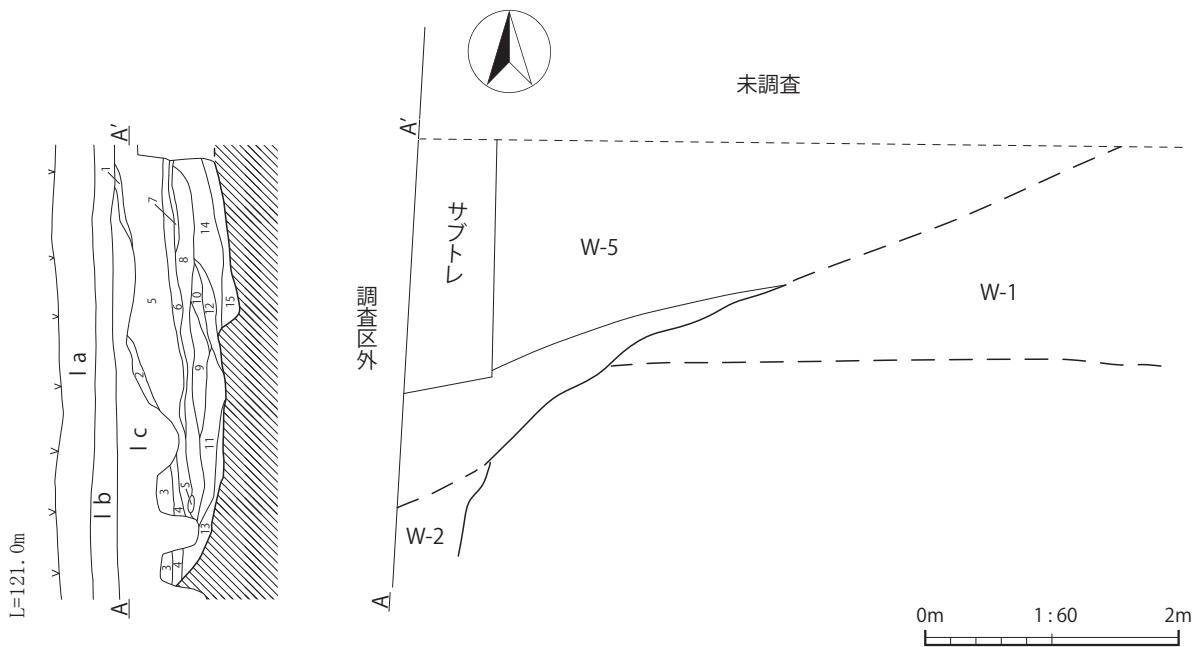


Fig.33 5区 W - 3・4号溝跡



5区 W - 6号溝跡層序説明 (A-A')

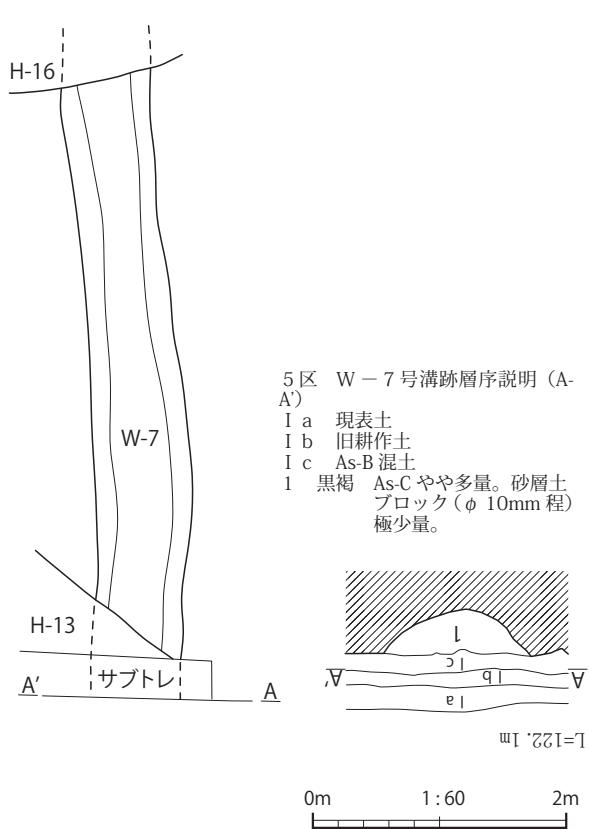
I a 現表土
I b 旧耕作土
I c As-B 混土

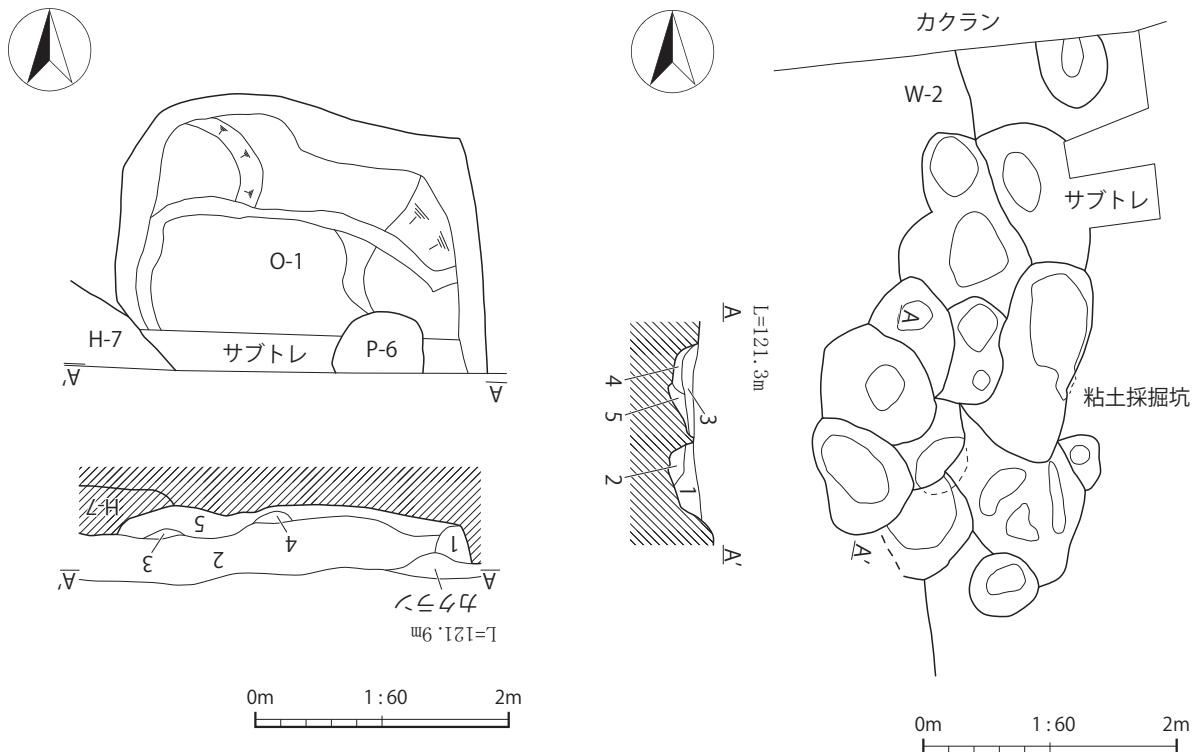
1 黒褐 As-B 少量。As-C やや多量。締りややあり。粘性ややあり。

2 黒褐 As-B 多量。As-C 少量。締りややあり。

0m 1:60 2m

Fig.34 5区 W - 5・6・7号溝跡





5区 O-1号落ち込み層序説明 (A-A')

- 黒褐 As-C 極少量。砂層土粒極少量。
- 暗褐 As-C 多量。砂層土粒少量。炭化物少量。
- 黒褐 As-C 多量。砂層土粒少量。炭化物極少量。締り強い。
- 暗褐 As-C 多量。砂層土粒少量。炭化物少量。締りややあり。
- 暗褐 As-C 少量。砂層土粒やや多量。

5区 粘土採掘坑層序説明 (A-A')

- 黒褐 As-B 多量。赤褐色粒多量。締りやや強い。粘性あり。
- 黒褐 As-B 多量。粘土ブロック (ϕ 10mm 程) 少量。締りややあり。粘性ややあり。
- 黒褐 As-B 多量。締りやや強い。粘性あり。
- 黒褐 As-B 多量。粘土ブロック (ϕ 10mm 程) 少量。粘性ややあり。
- 黒褐 As-B 多量。粘土ブロック (ϕ 10mm 程) 多量。締り強い。粘性強い。

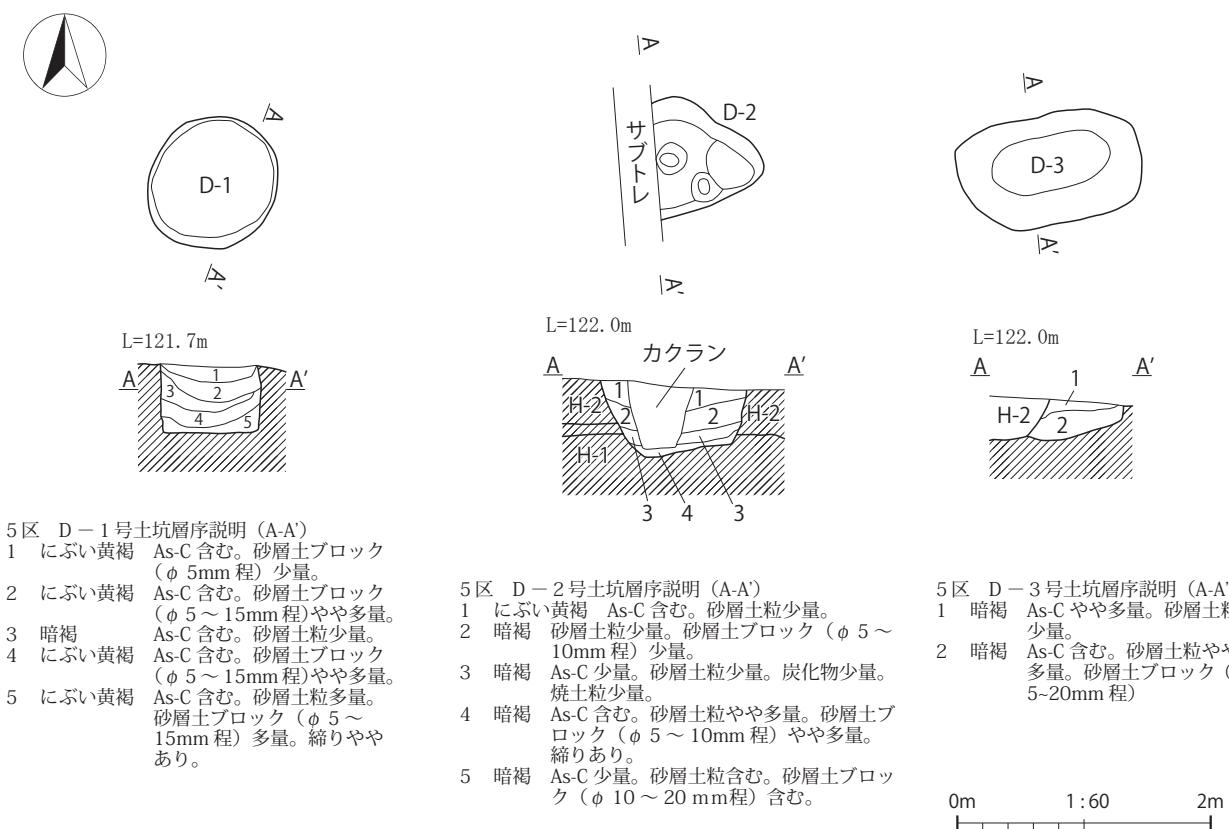
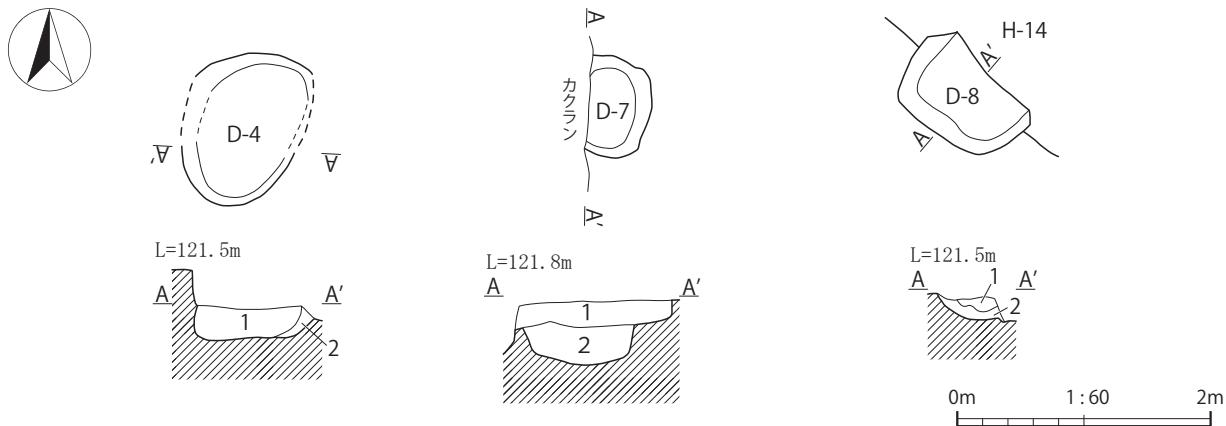


Fig.35 5区 O-1号落ち込み、粘土採掘坑、D-1~3号土坑



5区 D-4号土坑層序説明 (A-A')

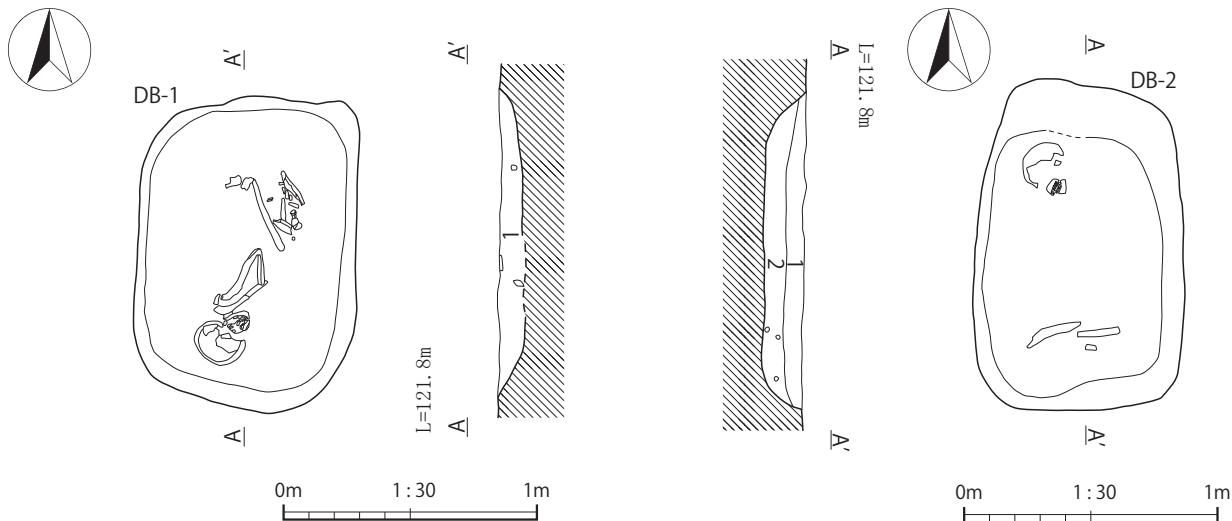
- 1 黒褐 As-C 多量。砂層土ブロック (ϕ 10 ~ 30mm 程) 多量。炭化物多量。焼土粒少量。縮りややあり。
- 2 黒褐 As-C 多量。砂層土ブロック (ϕ 10 ~ 30mm 程) 少量。焼土ブロック (ϕ 10mm 程) やや多量。炭化物多量。

5区 D-7号土坑層序説明 (A-A')

- 1 黒褐 砂層土粒少量。砂層土ブロック (ϕ 10mm 程) 少量。
- 2 暗褐 砂層土粒少量。砂層土ブロック (ϕ 10~20mm 程) 少量。

5区 D-8号土坑層序説明 (A-A')

- 1 黒褐 砂層土粒少量。縮りややあり。
- 2 黄褐色 砂層土粒・ブロックやや多量。縮りあり。

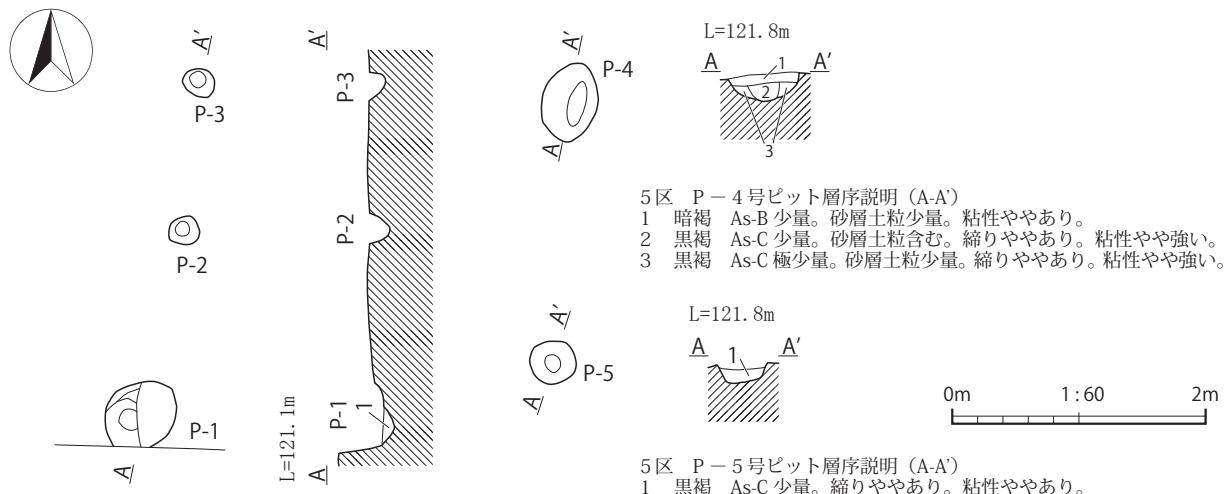


5区 DB-1号土壤墓層序説明 (A-A')

- 1 黒褐 As-B 含む。砂層土粒少量。炭化物少量。細砂。

5区 DB-2号土壤墓層序説明 (A-A')

- 1 褐灰 As-B 含む。砂層土粒少量。砂層土ブロック少量。細砂。
- 2 黒褐 As-B 含む。砂層土粒極少量。細砂。



5区 P-5号ピット層序説明 (A-A')

- 1 黒褐 As-C 少量。縮りややあり。粘性ややあり。

Fig.36 5区 D-4・7・8号土坑、DB-1・2号土壤墓、P-1～5号ピット

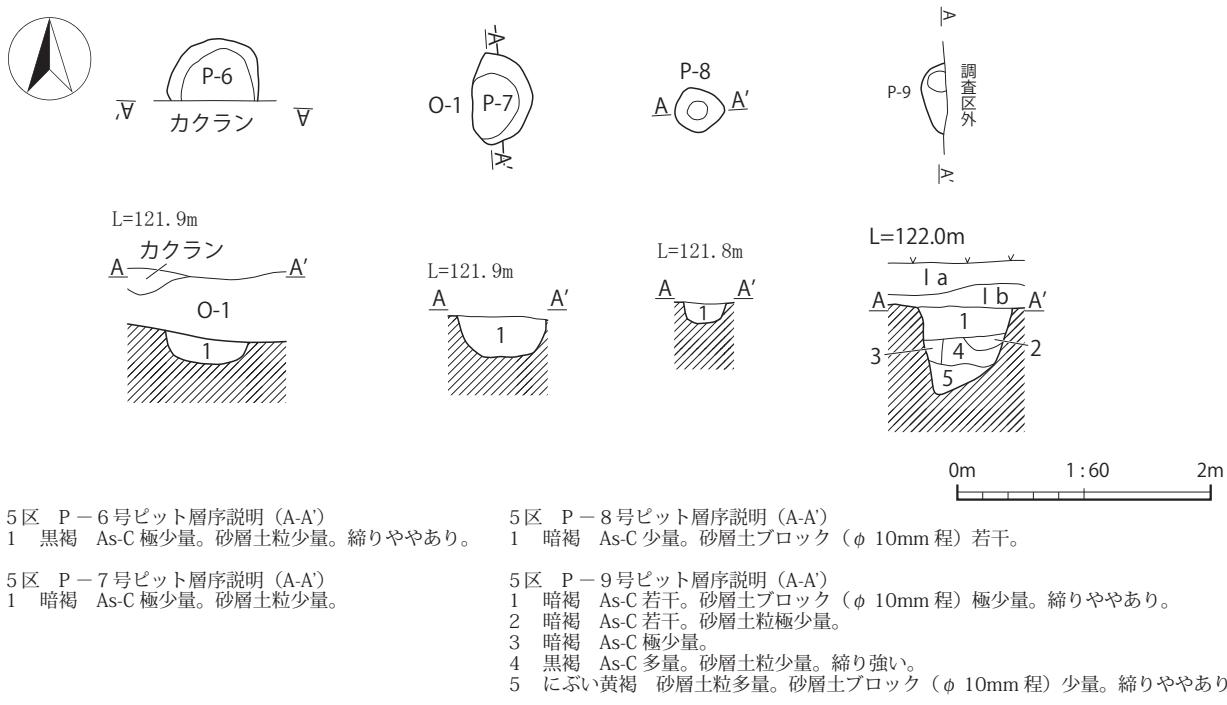


Fig.37 5区 P-6～9号ピット

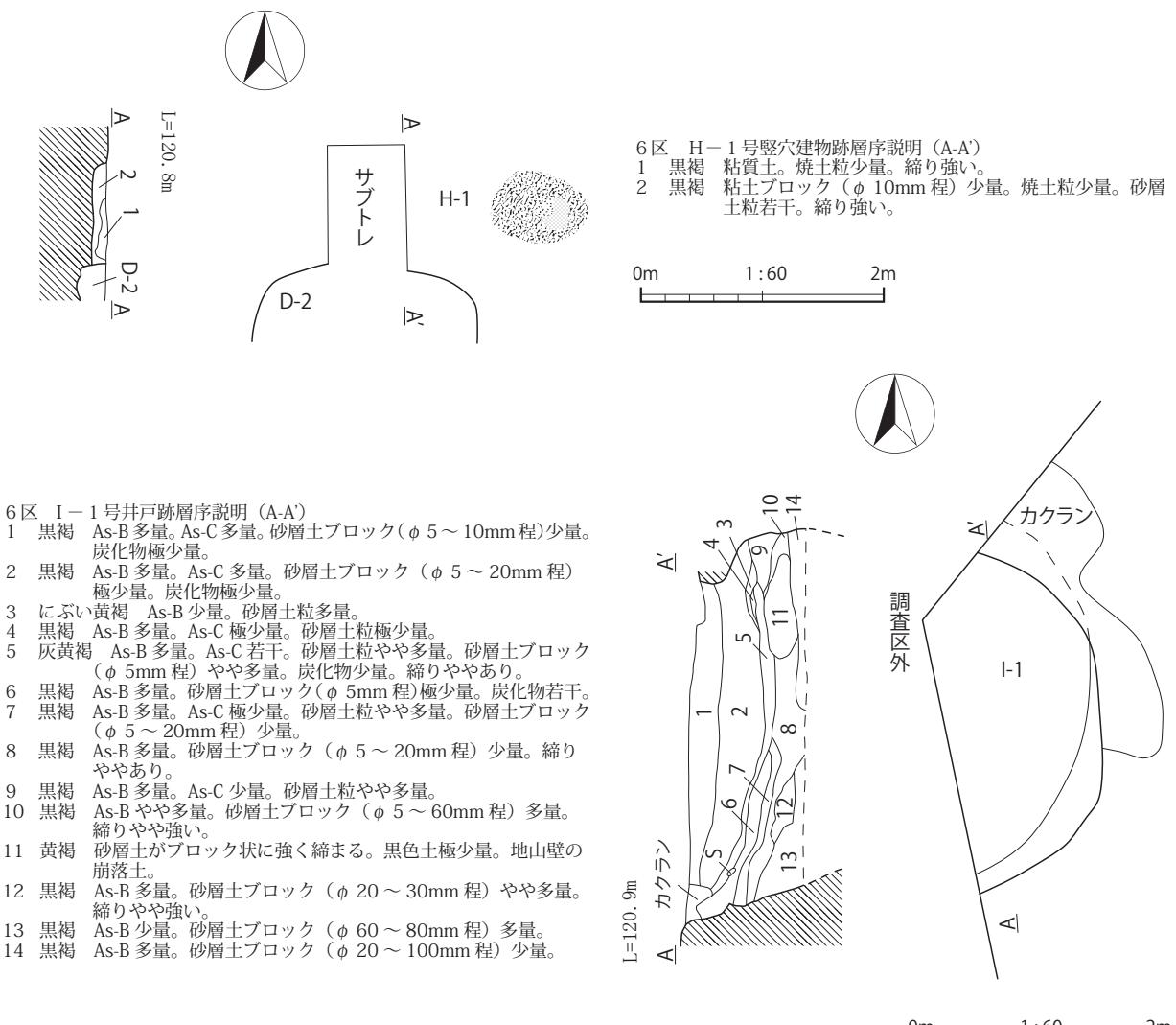
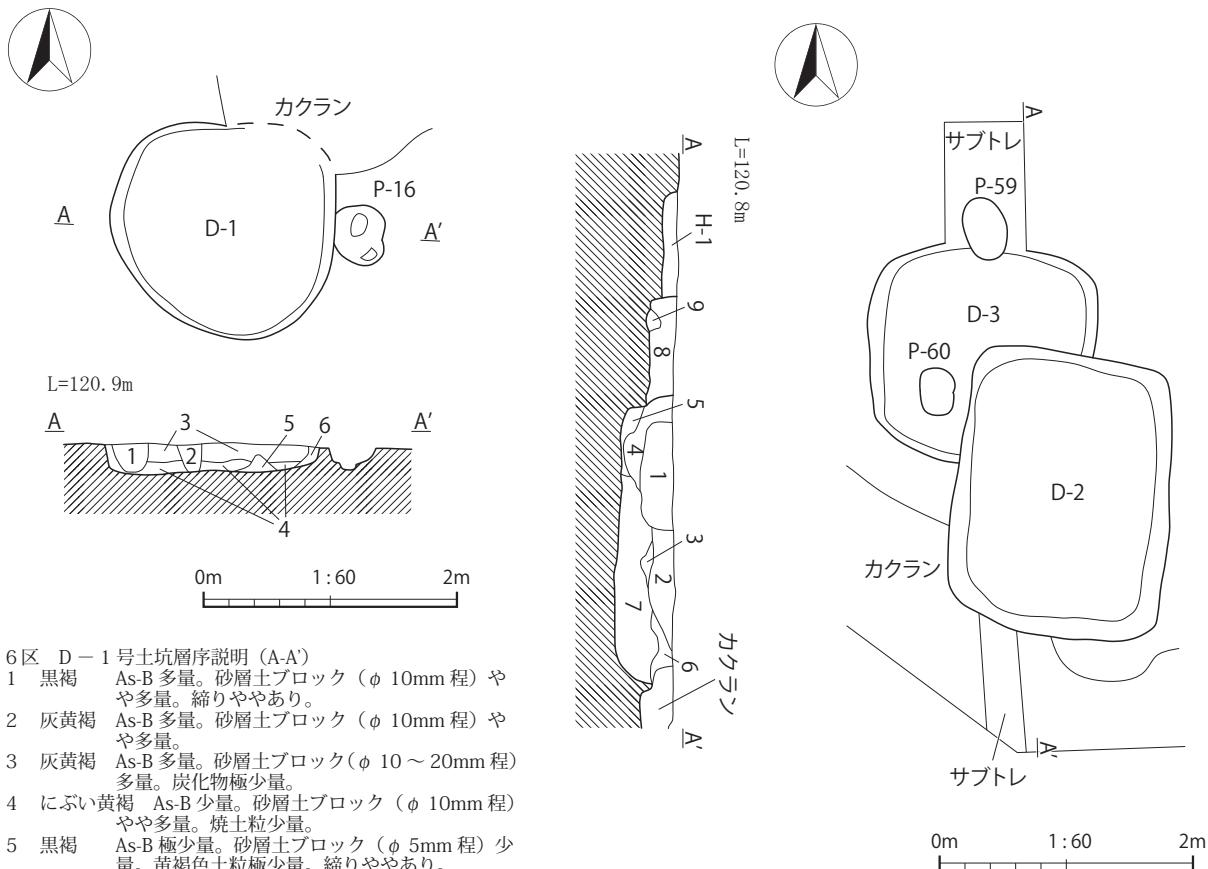


Fig.38 6区 H-1号豊穴建物跡、I-1号井戸跡

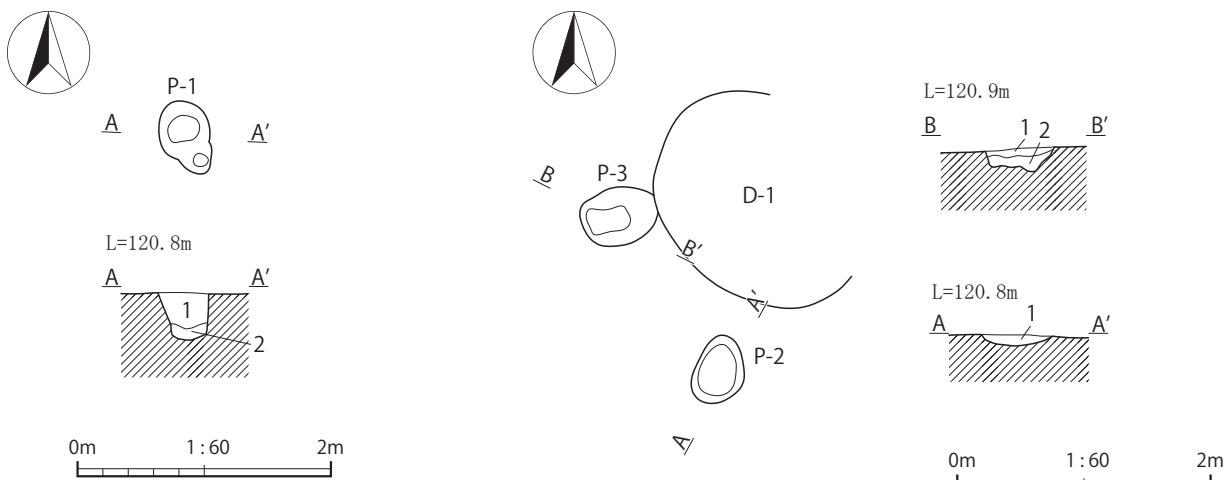


6区 D-1号土坑層序説明 (A-A')

- 1 黒褐 As-B 多量。砂層土ブロック (ϕ 10mm 程) や
や多量。締りややあり。
- 2 灰黄褐 As-B 多量。砂層土ブロック (ϕ 10mm 程) や
や多量。
- 3 灰黄褐 As-B 多量。砂層土ブロック (ϕ 10 ~ 20mm 程)
多量。炭化物極少量。
- 4 にぶい黄褐 As-B 少量。砂層土ブロック (ϕ 10mm 程)
やや多量。焼土粒少量。
- 5 黒褐 As-B 極少量。砂層土ブロック (ϕ 5mm 程) 少
量。黄褐色土粒極少量。締りややあり。
- 6 にぶい黄褐 As-B 極少量。砂層土粒多量。

6区 D-2・3号土坑層序説明 (A-A')

- 1 黒褐 As-B 多量。As-C 極少量。砂層土ブロック (ϕ 20mm 程) 極少量。締りややあり。(D-2号土坑覆土)
- 2 黒褐 As-B 多量。砂層土粒少量。締りややあり。(D-2号土坑覆土)
- 3 黒褐 As-B 多量。砂層土少量。砂層土ブロック (ϕ 10 ~ 20mm 程) 少量。(D-2号土坑覆土)
- 4 黒褐 As-B 少量。砂層土ブロック (ϕ 10 ~ 30mm 程) 多量。締りあり。(D-2号土坑覆土)
- 5 黒褐 As-B 少量。砂層土ブロック (ϕ 10mm 程) 極少量。炭化物含む。(D-2号土坑覆土)
- 6 灰黄褐 As-B 多量。砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 20mm 程) 少量。(D-2号土坑覆土)
- 7 にぶい黄褐 As-B 極少量。砂層土粒多量。砂層土ブロック (ϕ 10 ~ 100mm 程) 多量。黒色土含む。(D-2号土坑覆土)
- 8 黒褐 As-B 多量。As-C 少量。砂層土ブロック (ϕ 10 ~ 20mm 程) 少量。(D-2号土坑覆土)
- 9 灰黄褐 As-B 極少量。砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 10mm 程) 少量。締りあり。(D-3号土坑覆土)



6区 P-1号ピット層序説明 (A-A')

- 1 黒褐 As-B 少量。砂層土ブロック (ϕ 5mm 程) 少量。
締りややあり。
- 2 灰黄褐 砂層土ブロック (ϕ 5mm 程) 極少量。砂層
土粒多量。

6区 P-3号ピット層序説明 (B-B')

- 1 黒褐 As-B 極少量。砂層土ブロック (ϕ 10 ~ 30mm 程) やや多量。締りややあり。
- 2 にぶい黄褐 砂層土ブロック (ϕ 10 ~ 30mm 程) 多量。締りやや強い。

6区 P-2号ピット層序説明 (A-A')

- 1 暗褐 As-B 極少量。粘土ブロック (ϕ 10mm 程) 極少量。砂層土粒含む。締り
やや強い。粘性ややあり。

Fig.39 6区 D-1～3号土坑、P-1～3・16号ピット

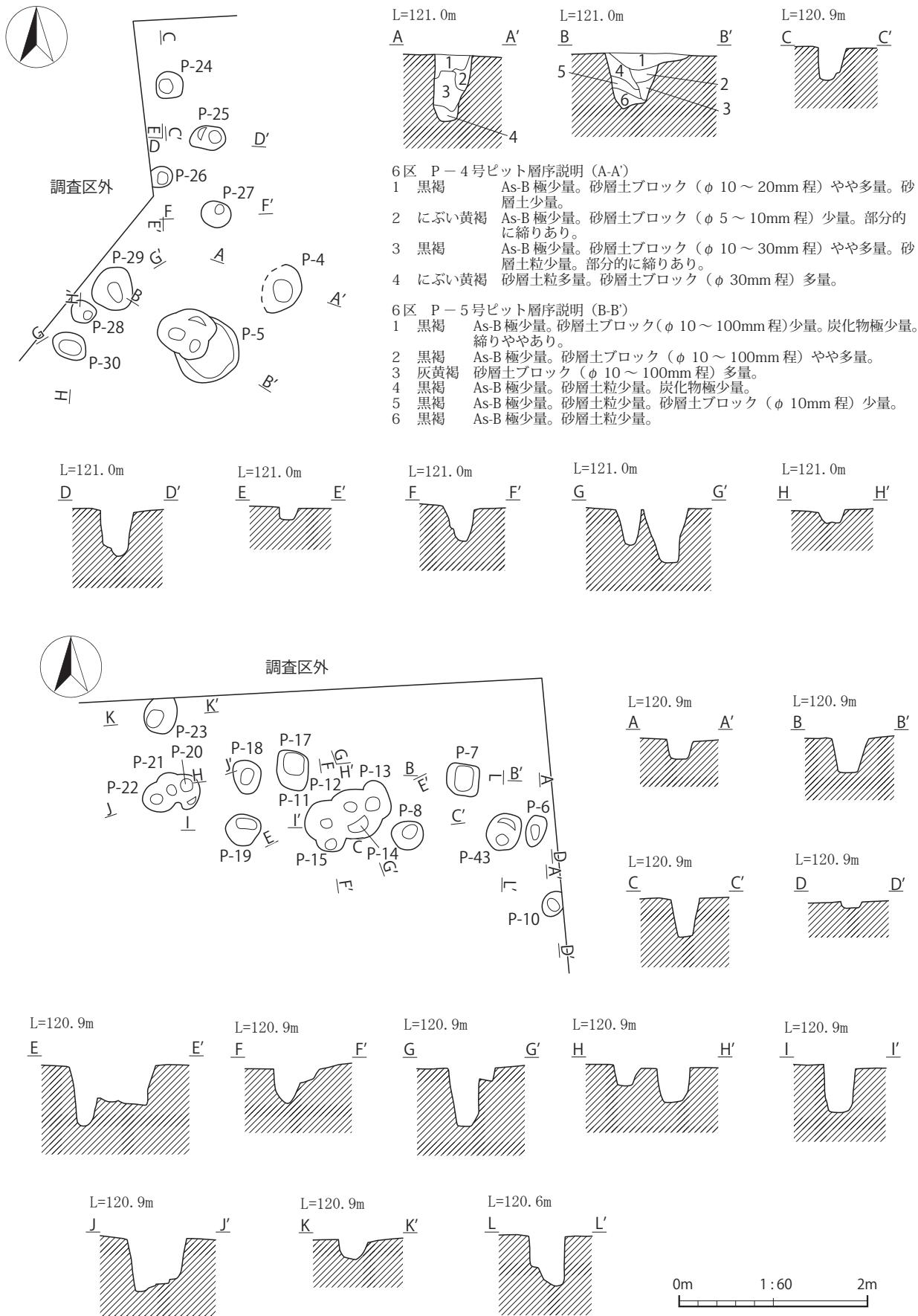


Fig.40 6区 P-4~8・10~15・17~30・43号ピット

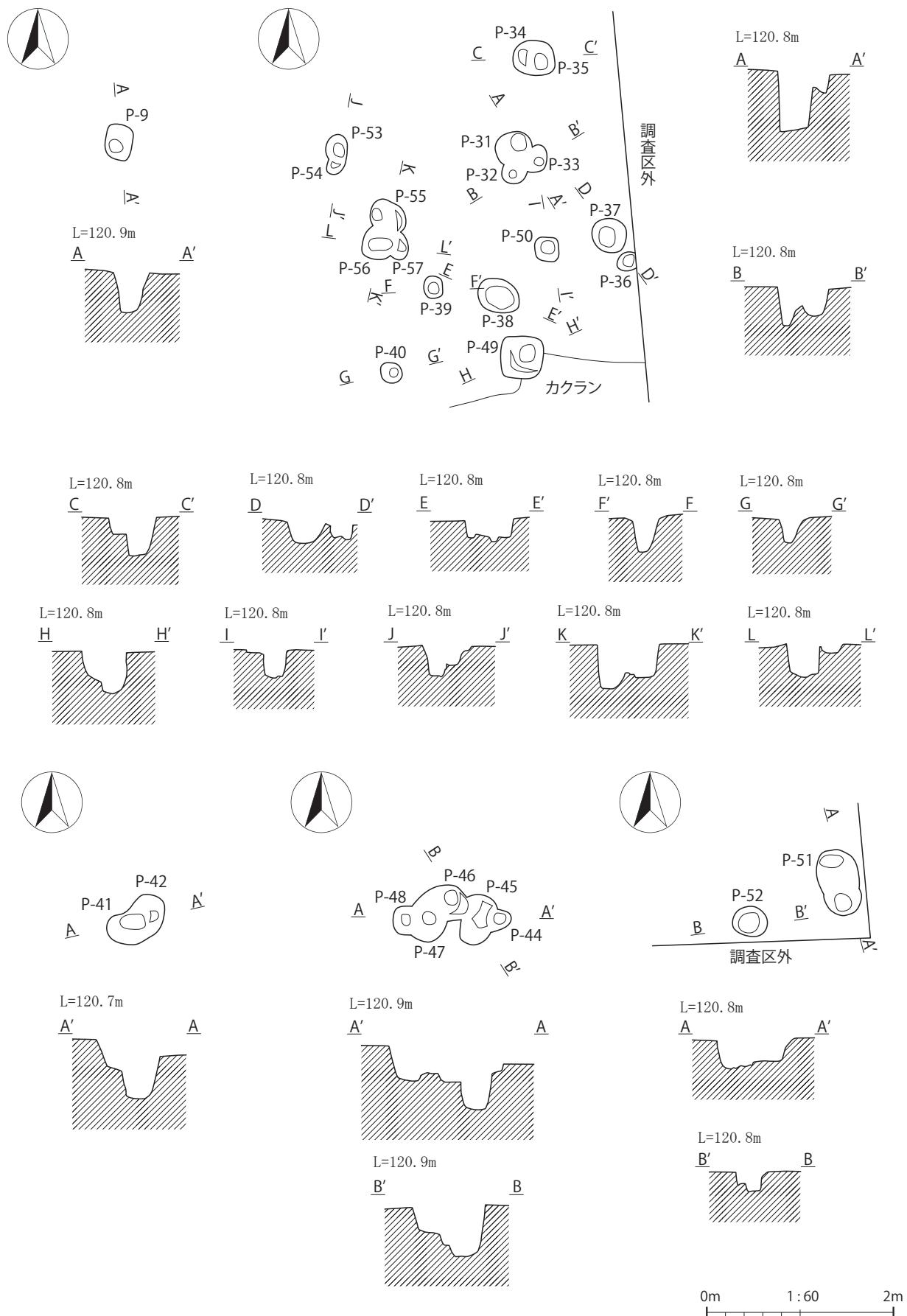


Fig.41 6区P-9・31～42・44～57号ピット

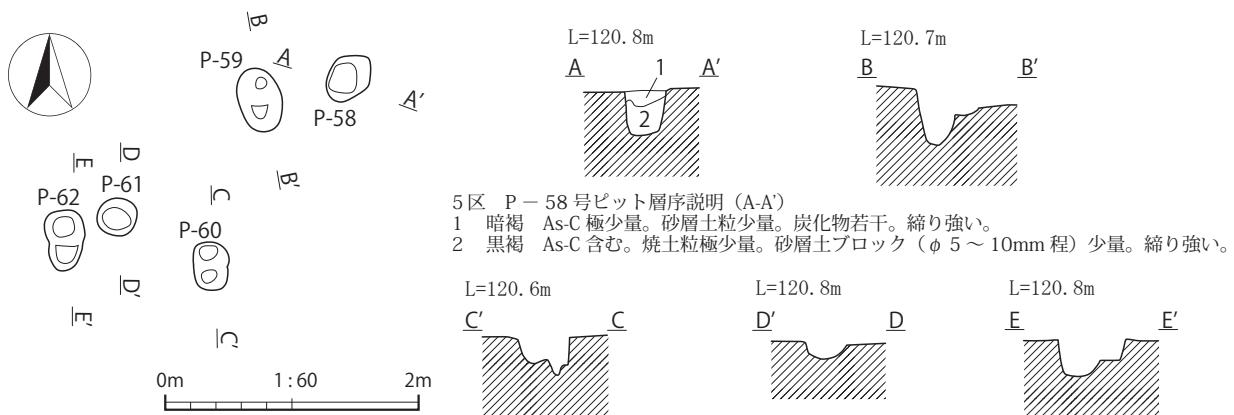


Fig.42 6区 P-58 ~ 62号ピット

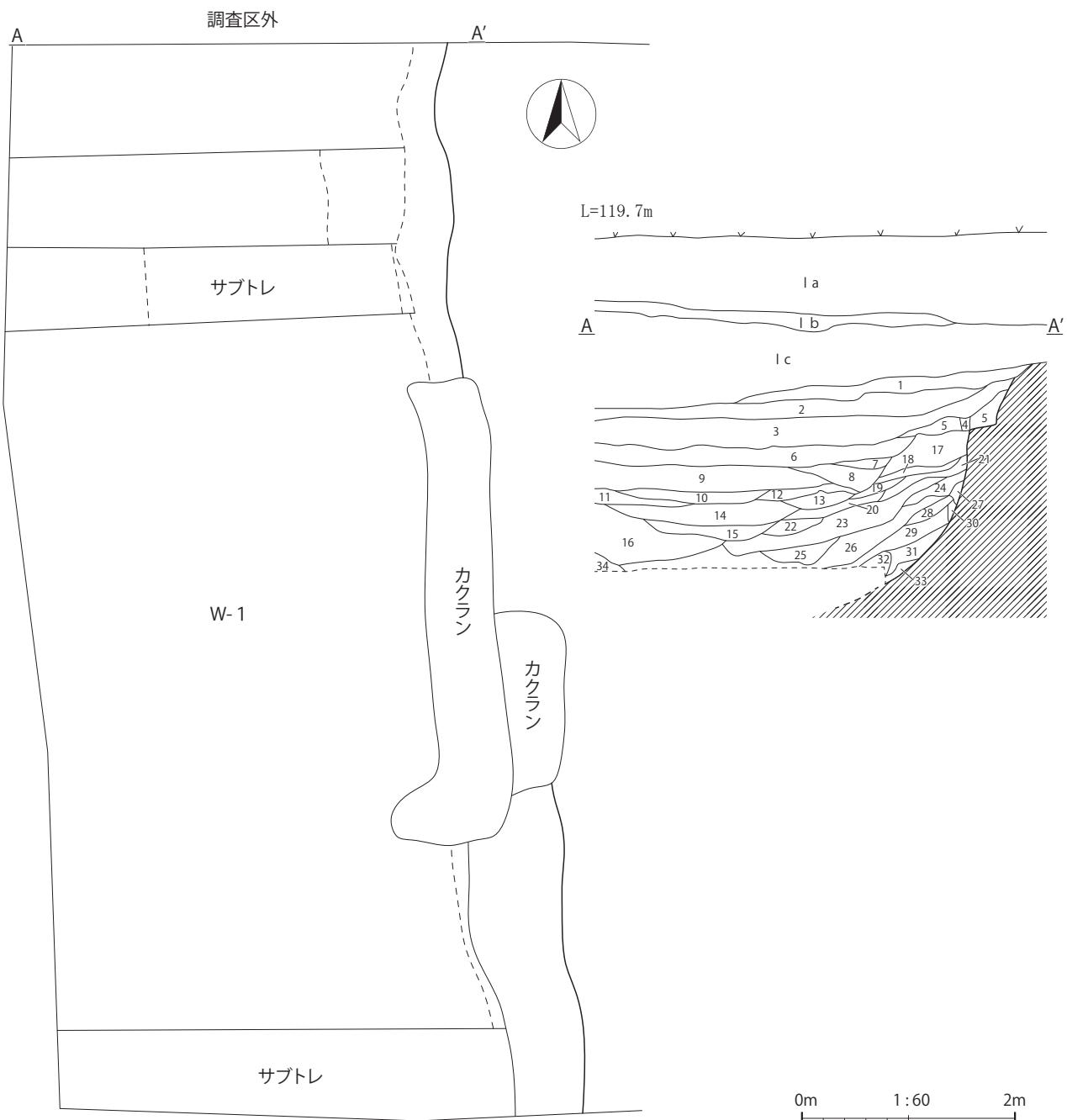


Fig.43 7区 W-1号溝跡

7区 W-1号溝跡層序説明 (A-A')

- I a 現表土
- I b 旧表土
- I c 灰黄褐 As-B 混土。
- 1 にぶい黄褐 As-B 多量。砂層土ブロック少量。灰白色シルトブロック少量。締りあり。
- 2 にぶい黄褐 As-B やや多量。砂層土ブロック多量。灰白色シルトブロック多量。締りややあり。
- 3 灰黄褐 As-B 多量。砂層土ブロック極少量。
- 4 灰黄褐 As-B やや多量。砂層土ブロック主体。粘性ややあり。
- 5 灰黄褐 As-B やや多量。灰白色シルトブロック多量。粘性ややあり。
- 6 にぶい黄褐 As-B やや多量。砂層土ブロック少量。黒色土ブロック少量。
- 7 灰黄褐 As-B やや多量。
- 8 灰黄褐 As-B 少量。灰白色シルトブロックやや多量。粘性ややあり。
- 9 灰黄褐 As-B やや多量。砂層土ブロック極少量。締りややあり。
- 10 灰黄褐 As-B 少量。砂層土ブロック少量。灰白色シルトブロック少量。締りややあり。
- 11 灰黄褐 As-B 少量。砂層土ブロック極少量。灰白色シルトブロックやや多量。
- 12 灰黄褐 As-B 少量。砂層土ブロック少量。灰白色シルトブロックやや多量。粘性ややあり。
- 13 黒褐 As-B やや多量。灰白色シルトブロック少量。
- 14 灰黄褐 As-B やや多量。砂層土ブロック少量。
- 15 灰黄褐 As-B 少量。灰白色シルトブロック少量。
- 16 灰黄褐 As-B やや多量。砂層土ブロック極少量。灰白色シルトブロック少量。極少量。
- 17 にぶい黄橙 灰白色シルト主体。粘性ややあり。
- 18 にぶい黄橙 灰白色シルト含む。灰黄褐色粗砂含む。
- 19 にぶい黄橙 灰白色シルト主体。粘性ややあり。
- 20 にぶい黄橙 灰白色シルト主体。灰黄褐色粗砂少量。粘性ややあり。
- 21 にぶい黄橙 灰白色シルト含む。灰黄褐色粗砂含む。
- 22 にぶい黄橙 灰白色シルト主体。灰黄褐色粗砂少量。粘性ややあり。
- 23 にぶい黄橙 灰白色シルト含む。灰黄褐色粗砂含む。
- 24 にぶい黄橙 灰白色シルト主体。灰黄褐色粗砂少量。
- 25 灰黄褐 灰白色シルト・灰黄褐色粗砂少量。砂層土ブロック少量。
- 26 にぶい黄橙 灰白色シルト・灰黄褐色粗砂やや多量。砂層土ブロックやや多量。
- 27 にぶい黄橙 灰白色シルト主体。灰白色シルトブロック含む。砂層土ブロック含む。
- 28 灰黄褐 As-B 少量。灰白色シルトブロックやや多量。砂層土ブロックやや多量。
- 29 灰黄褐 As-B 少量。灰白色シルトブロック少量。砂層土ブロック少量。
- 30 にぶい黄橙 灰白色シルト含む。灰黄褐色粗砂少量化。砂層土ブロック少量。
- 31 灰黄褐 As-B 少量。灰白色シルトブロック多量。砂層土ブロック多量。
- 32 にぶい黄橙 灰白色砂質土主体。締りあり。
- 33 にぶい黄橙 灰白色シルト含む。砂層土ブロック含む。
- 34 褐灰 As-B 多量。砂層土ブロック少量。

7区 W-2号溝跡層序説明 (C-C')

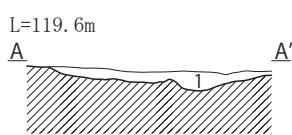
- 1 黒褐 As-B 多量。As-C 多量。砂層土粒含む。
- 2 黒褐 As-B 多量。As-C 多量。砂層土ブロック (ϕ 10mm 程) 少量。砂層土粒含む。締り強い。
- 3 灰黄褐 As-B 極少量。As-C 多量。砂層土粒多量。締り強い。
- 4 暗褐 As-C 極少量。砂層土ブロック (ϕ 5mm 程) 少量。
- 5 にぶい黄褐 As-C 多量。砂層土粒多量。砂層土ブロック (ϕ 10mm 程) 少量。締り強い。粘性ややあり。
- 6 黒褐 As-B 極少量。As-C 多量。砂層土粒少量。
- 7 灰黄褐 As-C 少量。砂層土ブロック (ϕ 10mm 程) 極少量。
- 8 灰黄褐 As-C 少量。砂層土粒少量。
- 9 暗褐 As-C 極少量。砂層土粒含む。砂層土ブロック (ϕ 10mm 程) 極少量。
- 10 暗褐 As-C 含む。砂層土やや多量。
- 11 暗褐 As-C 極少量。砂層土多量。
- 12 にぶい黄褐 砂層土粒多量。
- 13 黒褐 砂層土粒少量。

7区 W-2号溝跡層序説明 (D-D')

- 1 黒褐 As-B 多量。砂層土ブロック (ϕ 10mm 程) 少量。締りやや強い。
- 2 黒褐 As-B 少量。As-C 多量。黄褐色粒極少量。締りやや強い。
- 3 暗褐 As-B 極少量。As-C やや多量。締りやや強い。
- 4 灰黄褐 砂層土多量。As-C 極少量。締りやや強い。
- 5 黒褐 As-C 多量。砂層土極少量。
- 6 暗褐 As-C 多量。砂層土含む。締りやや強い。
- 7 暗褐 As-C 多量。砂層土ブロック (ϕ 10mm 程) 少量。
- 8 灰黄褐 As-C 極少量。
- 9 暗褐 As-C 含む。砂層土やや多量。

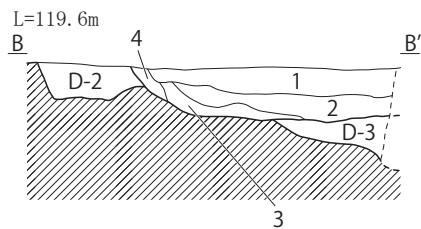
7区 W-2号溝跡層序説明 (E-E')

- 1 暗褐 As-C 多量。砂層土粒含む。締り強い。
- 2 暗褐 As-C 多量。黄褐色粒極少量。砂層土少量。
- 3 にぶい黄褐 As-C 極少量。砂層土ブロック (ϕ 5mm 程) 極少量。
- 4 暗褐 砂層土多量。細粒。
- 5 にぶい黄褐 As-C 極少量。砂層土粒多量。
- 6 黒褐 As-C 極少量。砂層土多量。締り強い。
- 7 にぶい黄褐 As-C 含む。黒色土若干。砂層土ブロック (ϕ 5mm 程) 多量。締りややあり。
- 8 黒褐 As-C 極少量。砂層土ブロック (ϕ 5mm 程) 少量。締りやや強い。
- 9 にぶい黄褐 細粒。
- 10 灰黄褐 砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 10mm 程) 多量。



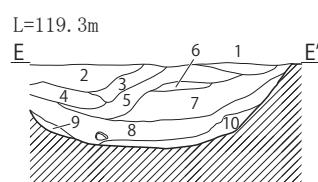
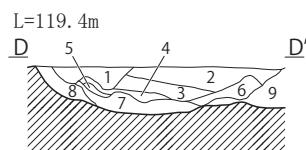
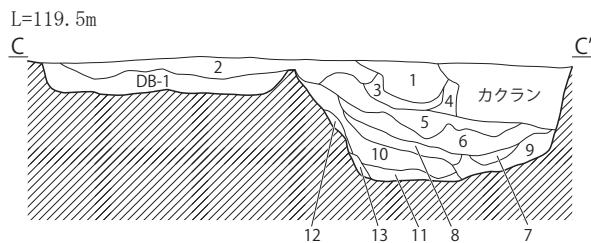
7区 W-2号溝跡層序説明 (A-A')

1 灰黄褐 As-B 少量。As-C 少量。砂層土粒極少量。締りややあり。



7区 W-2号溝跡層序説明 (B-B')

- 1 黒褐 As-B 少量。As-C 多量。砂層土粒極少量。砂層土ブロック極少量。締りややあり。
- 2 暗褐 As-B 少量。As-C やや多量。砂層土粒やや多量。砂層土ブロックやや多量。締りあり。
- 3 にぶい黄褐 As-C 少量。砂層土粒やや多量。砂層土ブロックやや多量。締りややあり。粘性ややあり。
- 4 褐 As-C 少量。砂層土粒多量。砂層土ブロック多量。締りあり。粘性ややあり。



0m 1:60 2m

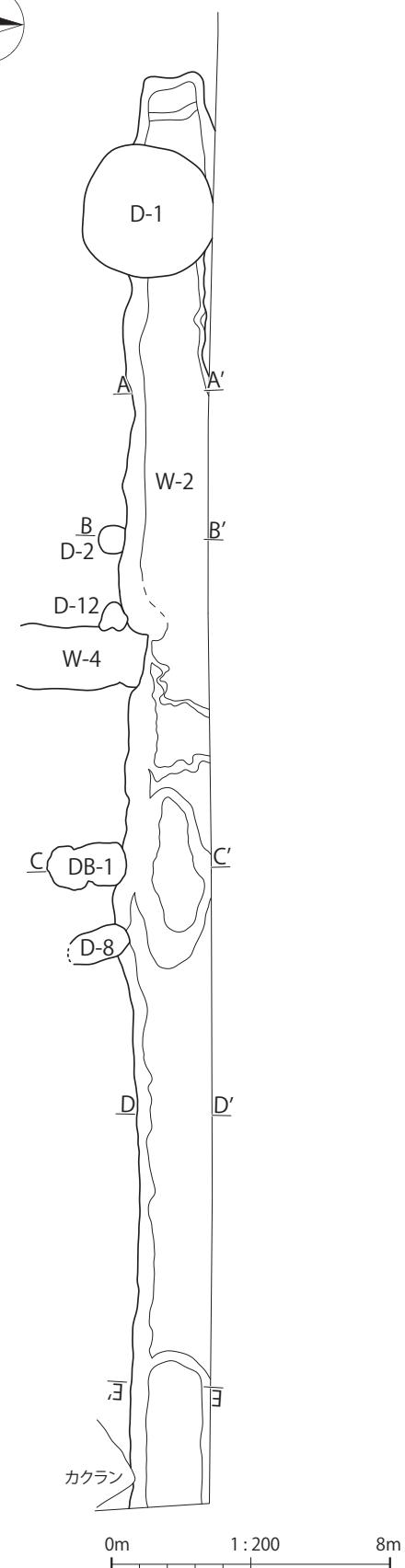


Fig.44 7区 W-2号溝跡

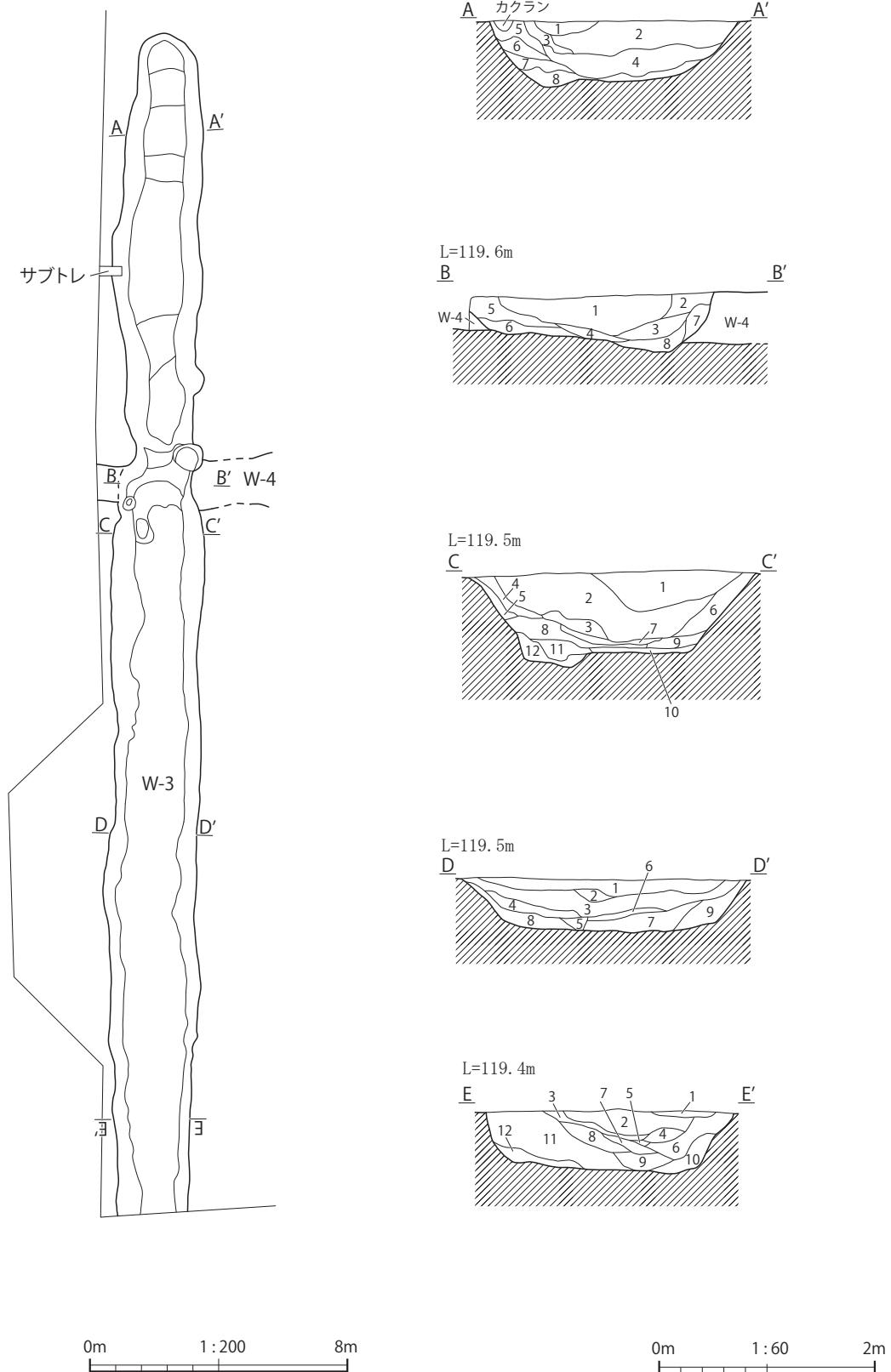


Fig.45 7区W-3号溝跡

7区 W - 3号溝跡層序説明 (A-A')

- 1 暗褐 As-B 極少量。As-C 多量。砂礫やや多量。締りややあり。
- 2 黒褐 As-C やや多量。砂層土やや多量。砂礫多量。締りややあり。
- 3 暗褐 As-C やや多量。砂礫少量。
- 4 暗褐 As-C 少量。砂層土粒少量。
- 5 黒褐 As-B 極少量。As-C 少量。締りややあり。
- 6 黒褐 As-B 少量。As-C 極少量。砂層土粒少量。
- 7 黒褐 As-B 少量。砂層土粒少量。
- 8 褐 As-B 含む。砂層土粒多量。粗粒。

7区 W - 3号溝跡層序説明 (B-B')

- 1 暗褐 As-C 少量。白色粘土・砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 20mm 程) 多量。締りあり。粘性ややあり。
- 2 黒褐 As-C 少量。砂層土粒少量。締りあり。
- 3 黒褐 As-C 少量。砂層土粒少量。砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 10mm 程) 少量。締りあり。粘性ややあり。
- 4 にぶい黄褐 As-C 極少量。砂層土粒やや多量。締りややあり。
- 5 にぶい黄褐 As-C やや多量。砂層土粒極少量。締りあり。
- 6 にぶい黄褐 As-C 少量。砂層土粒やや多量。砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 10mm 程) やや多量。締りややあり。
- 7 にぶい黄褐 As-C やや多量。砂層土粒少量。締りあり。
- 8 にぶい黄褐 As-C 少量。砂層土粒やや多量。砂層土ブロック (ϕ 10 ~ 30mm 程) やや多量。締りややあり。

7区 W - 3号溝跡層序説明 (C-C')

- 1 暗褐 As-C 少量。白色粘土・砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 10mm 程) 多量。締りあり。粘性ややあり。
- 2 暗褐 As-C 少量。白色粘土・砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 30mm 程) 多量。締りあり。粘性あり。
- 3 黒褐 As-C 少量。黒色粘土主体。白色粘土・砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 20mm 程) 少量。締りあり。粘性あり。
- 4 黒褐 As-C 少量。砂層土粒少量。締りややあり。
- 5 灰褐 As-C 極少量。砂層土粒やや多量。締りややあり。粘性ややあり。
- 6 黒褐 As-C やや多量。砂層土粒少量。締りややあり。
- 7 灰黄褐 As-C 極少量。粗砂主体。
- 8 黒褐 As-C やや多量。白色粘土ブロック (ϕ 5 ~ 10mm 程) 少量。
- 9 黒褐 As-C やや多量。締りあり。粘性ややあり。白色粘土ブロック (ϕ 5 ~ 10mm 程) 少量。
- 10 褐灰 As-C 極少量。白色粘土ブロック (ϕ 5 ~ 10mm 程) やや多量。締りあり。粘性ややあり。
- 11 黒褐 As-C やや多量。白色粘土ブロック (ϕ 5 ~ 30mm 程) やや多量。締りあり。粘性ややあり。
- 12 黒褐 As-C 極少量。白色粘土ブロック (ϕ 5 ~ 20mm 程) 締りあり。粘性ややあり。

7区 W - 3号溝跡層序説明 (D-D')

- 1 暗褐 As-C 多量。砂層土粒極少量。締りあり。
- 2 にぶい黄褐 As-C 少量。砂層土粒多量。締りあり。
- 3 黒褐 As-C やや多量。砂層土粒極少量。締りややあり。
- 4 黒褐 As-C 少量。砂層土粒少量。
- 5 黒褐 As-C 極少量。砂層土粒極少量。
- 6 暗褐 As-C やや多量。砂層土粒やや多量。砂礫多量。締りあり。
- 7 暗褐 As-C 少量。砂層土粒少量。砂礫少量。締りややあり。
- 8 にぶい黄褐 As-C 極少量。砂層土粒やや多量。粘性ややあり。
- 9 暗褐 As-C 極少量。砂層土粒極少量。

7区 W - 3号溝跡層序説明 (E-E')

- 1 As-B 多量。As-C 多量。砂層土ブロック (ϕ 5mm 程) 極少量。締りあり。
- 2 にぶい黄褐 As-C 多量。砂層土粒多量。砂層土ブロック (ϕ 5mm 程) 少量。締りあり。
- 3 黒褐 As-C 極少量。砂層土粒含む。締りややあり。
- 4 黒褐 As-C 極少量。砂層土粒含む。締りややあり。
- 5 暗褐 細粒。締りあり。
- 6 黒褐 As-C やや多量。砂層土粒少量。砂層土ブロック (ϕ 5mm 程) 極少量。締りややあり。
- 7 にぶい黄褐 As-C 極少量。砂層土粒やや多量。黄褐色粒若干。
- 8 にぶい黄褐 砂層土粒多量。
- 9 灰黄褐 As-C 極少量。砂層土ブロック (ϕ 5mm 程) 多量。締りあり。
- 10 黒褐 As-C 含む。
- 11 にぶい黄褐 砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 20mm 程) 多量。締りややあり。
- 12 にぶい黄褐 砂層土ブロック (ϕ 5mm 程) 含む。砂層土粒多量。

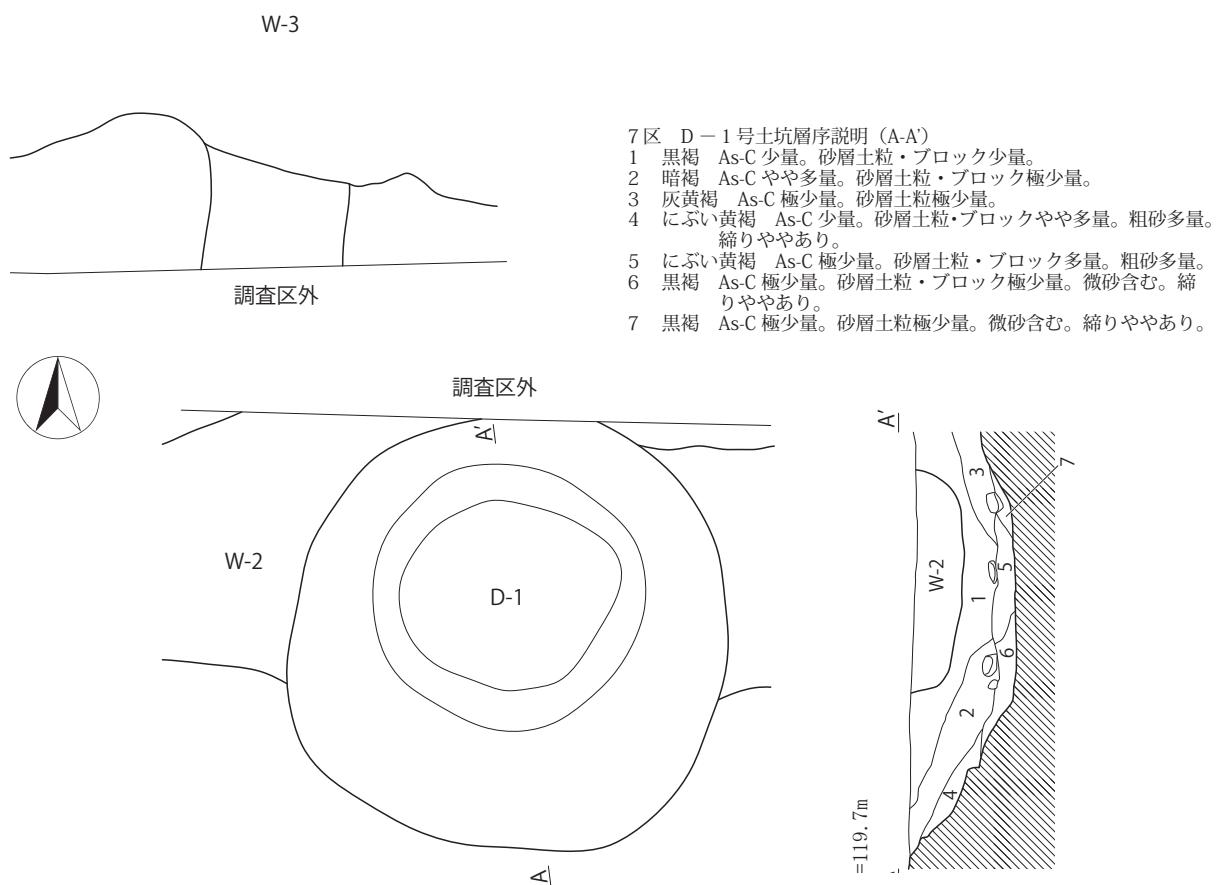
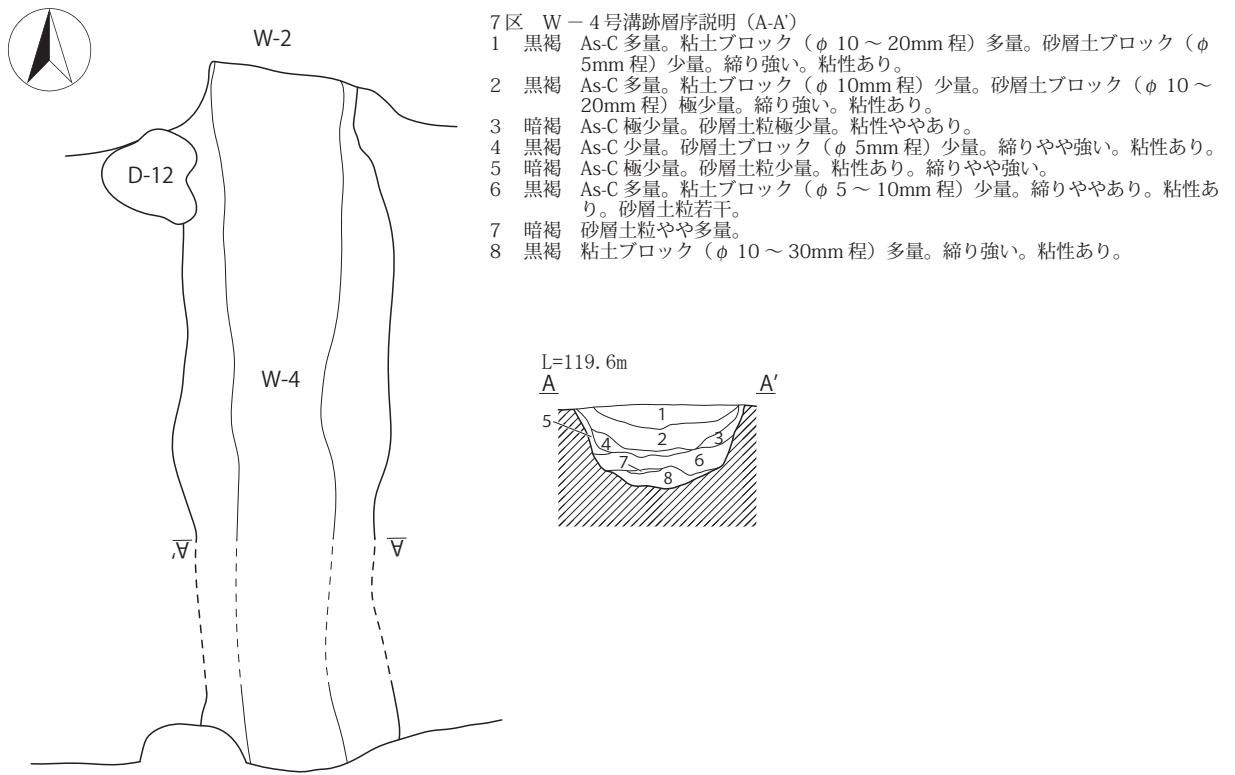


Fig.46 7区 W-4号溝跡、D-1号土坑

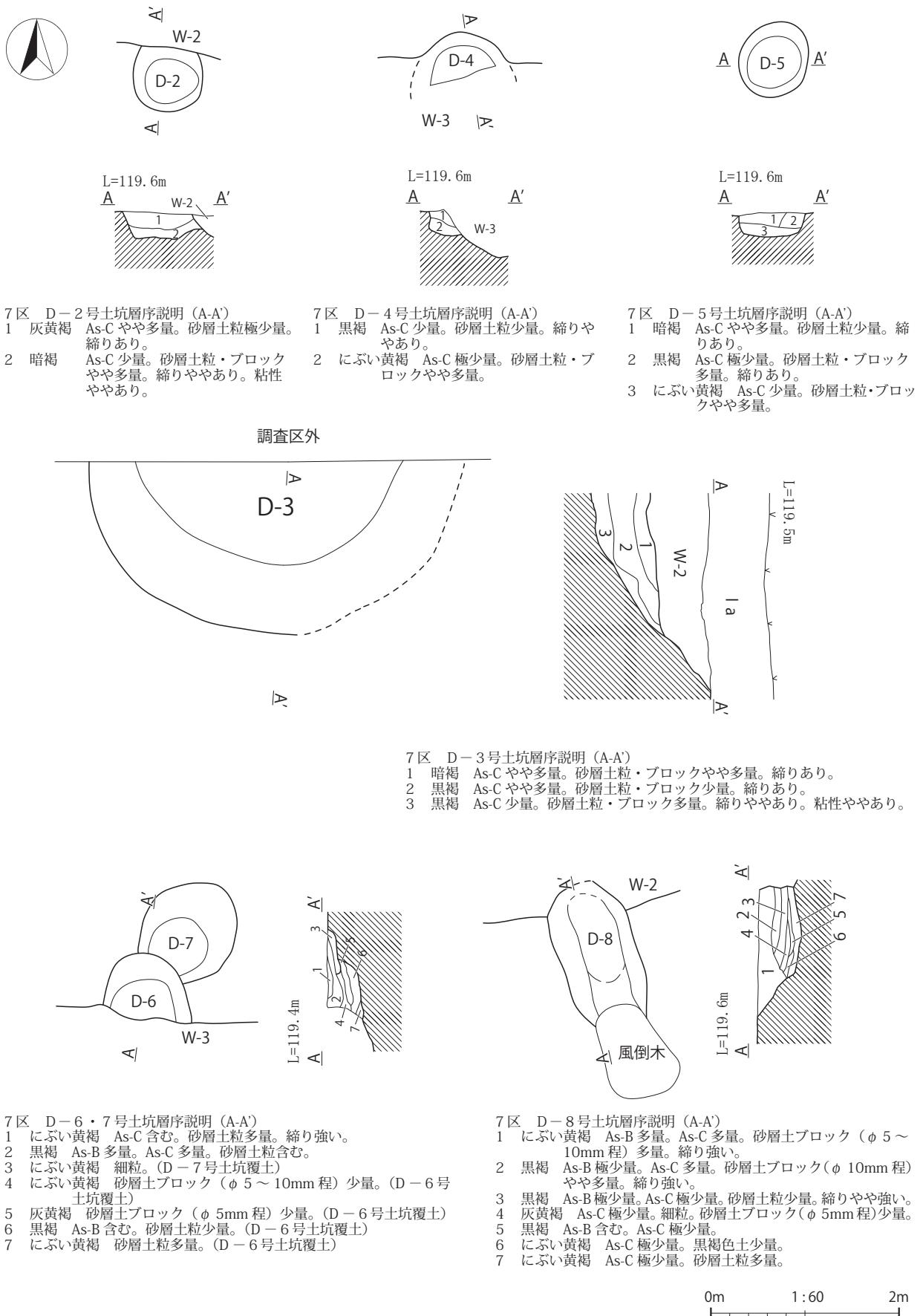
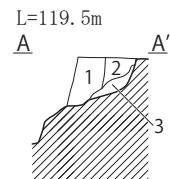
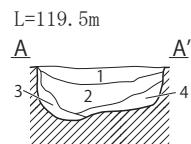
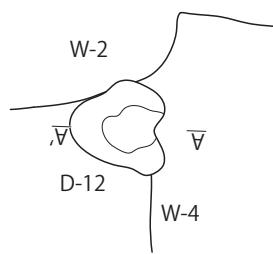
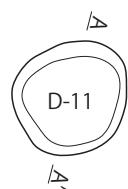


Fig.47 7区 D-2～8号土坑



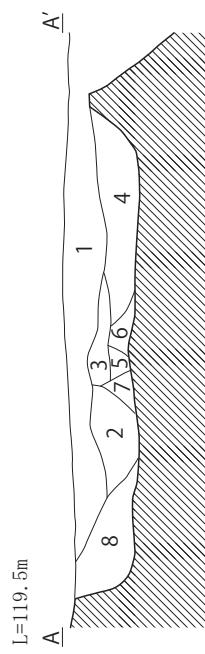
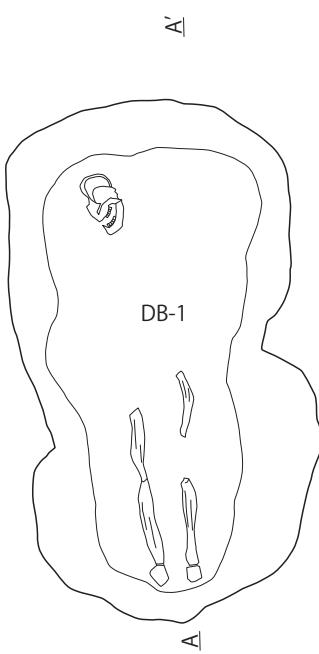
7区 D-11号土坑層序説明 (A-A')

- 1 灰黄褐 As-C 多量。黄褐色土粒極少量。締りあり。
- 2 黒褐 As-C やや多量。白色粘土粒・ブロック (ϕ 5 ~ 20mm 程) 少量。黄褐色土粒・ブロック (ϕ 5 ~ 20mm 程) 少量。締りあり。
- 3 黒褐 As-C 少量。褐色粘土粒・ブロック (ϕ 5 ~ 10mm 程) やや多量。締りややあり。
- 4 褐 As-C 極少量。褐色粘土粒多量。締りややあり。粘性ややあり。

7区 D-12号土坑層序説明 (A-A')

- 1 黒褐 As-C 多量。砂層土粒やや多量。黄褐色土粒極少量。砂層土ブロック (ϕ 5mm 程) 少量。締りややあり。粘性あり。
- 2 黒褐 As-C 極少量。黄褐色土粒極少量。砂層土粒含む。締り強い。粘性あり。
- 3 灰黄褐 As-C 極少量。粘土ブロック (ϕ 10mm 程) 少量。砂層土粒含む。締り強い。粘性強い。

0m 1:60 2m



0m 1:30 1m

7区 DB-1号土壙墓層序説明 (A-A')

- 1 黒褐 As-B 多量。As-C 多量。砂層土ブロック (ϕ 10mm 程) 少量。砂層土粒含む。締り強い。
- 2 黒褐 As-B 極少量。As-C 多量。砂層土粒少量。締り強い。
- 3 暗褐 As-C 多量。砂層土粒少量。締り強い。
- 4 暗褐 As-C 多量。砂層土粒やや多量。砂層土ブロック (ϕ 10mm 程) 極少量。締り強い。
- 5 黒褐 As-C 多量。砂層土粒極少量。締り強い。
- 6 灰黄褐 As-C 少量。砂層土粒多量。締り強い。
- 7 黒褐 As-C 少量。砂層土粒極少量。締り強い。
- 8 黒褐 As-B 極少量。As-C やや多量。砂層土粒少量。締り強い。

Fig.48 7区 D-11・12号土坑、DB-1号土壙墓

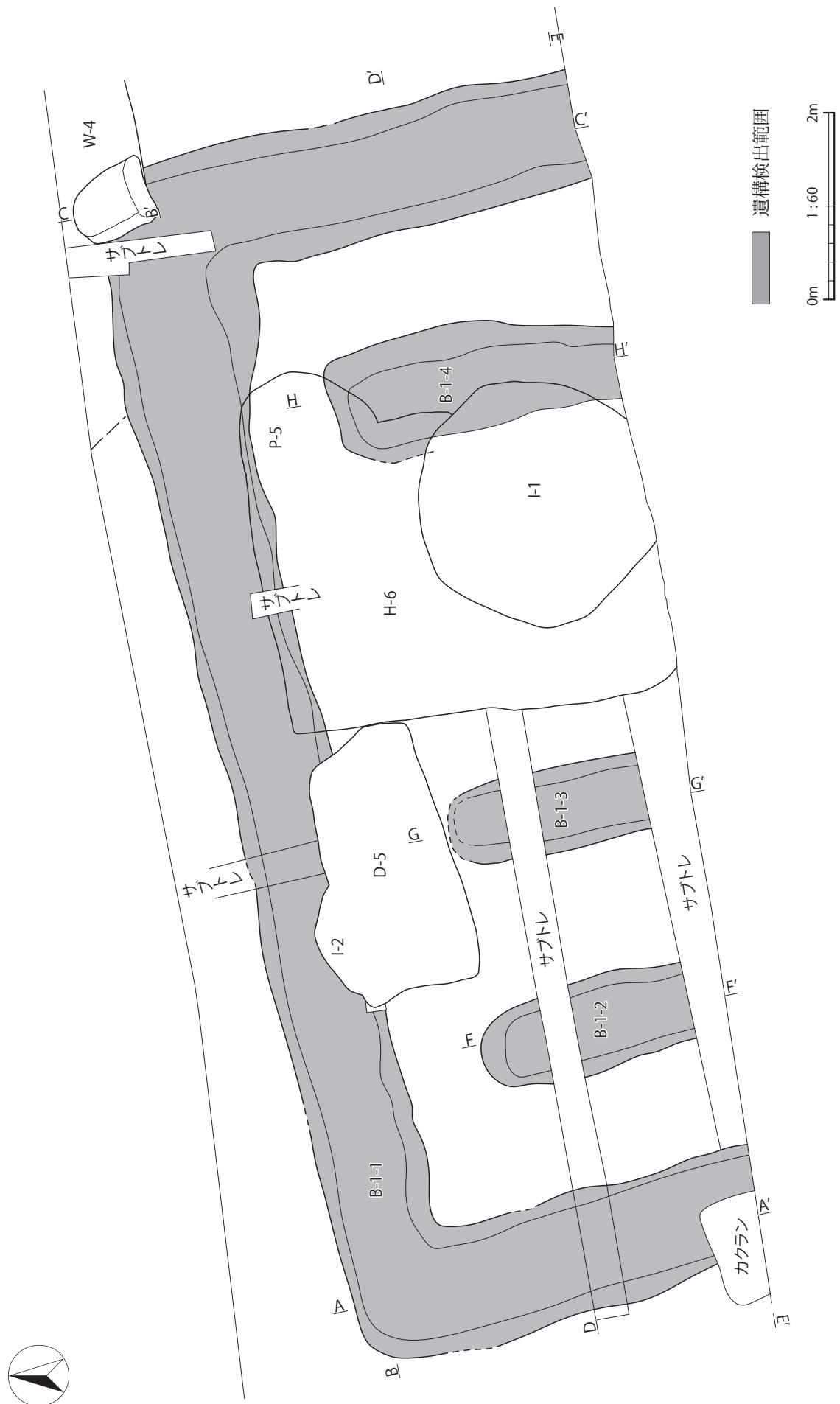


Fig.49 8区B-1号礎石建物跡（1）

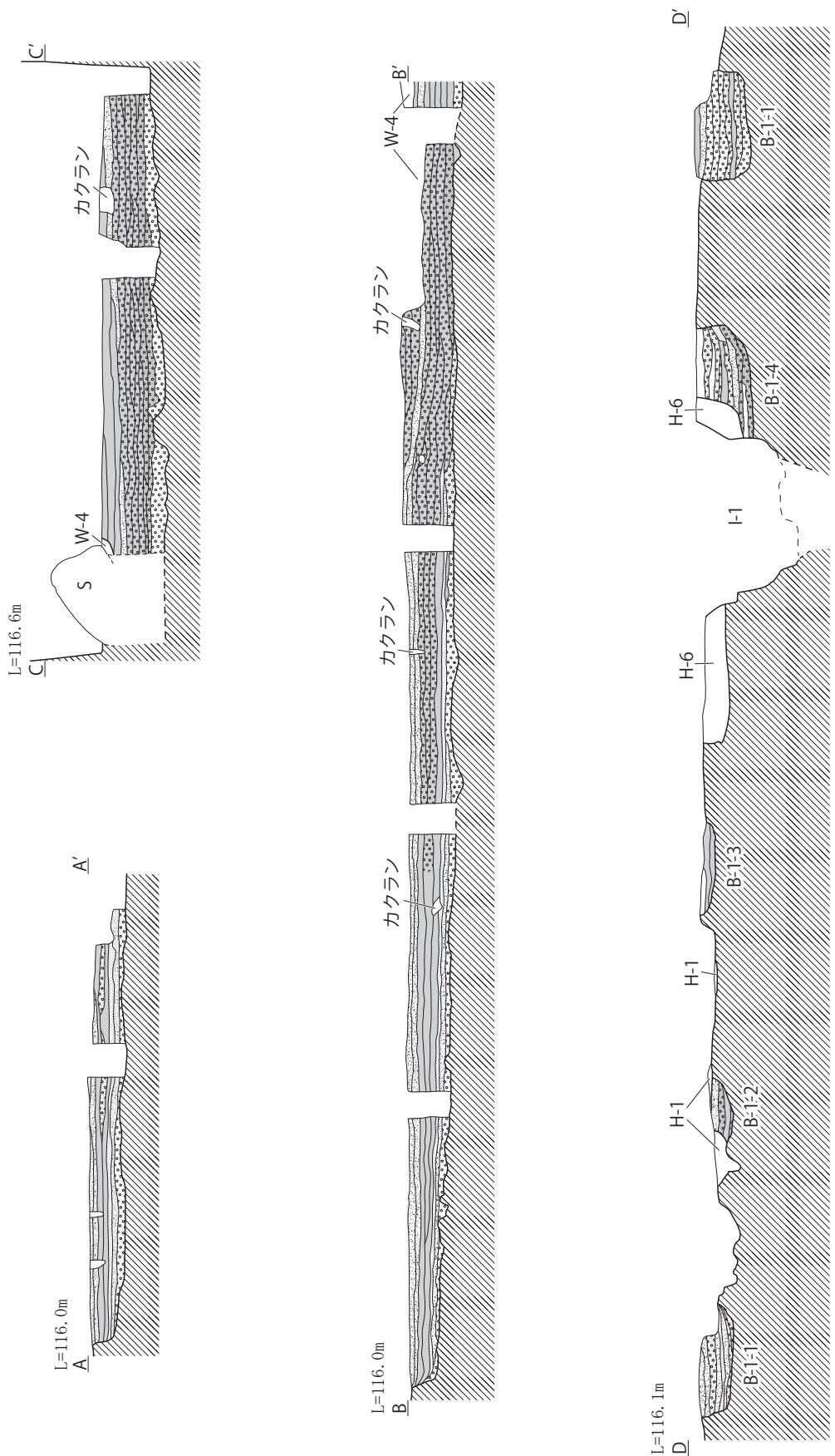


Fig.50 8区B-1号礎石建物跡（2）

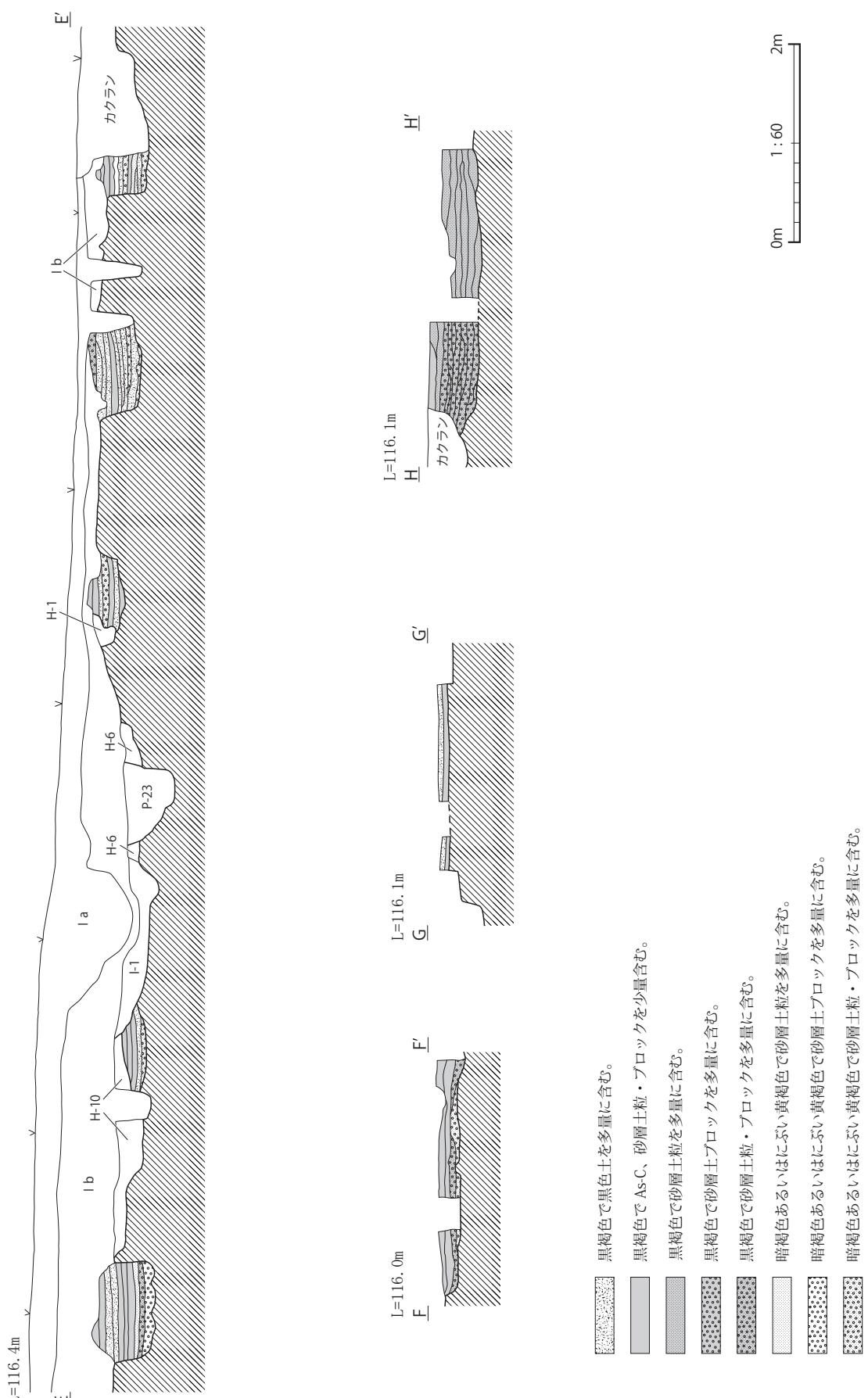


Fig.51 8区B-1号礎石建物跡（3）

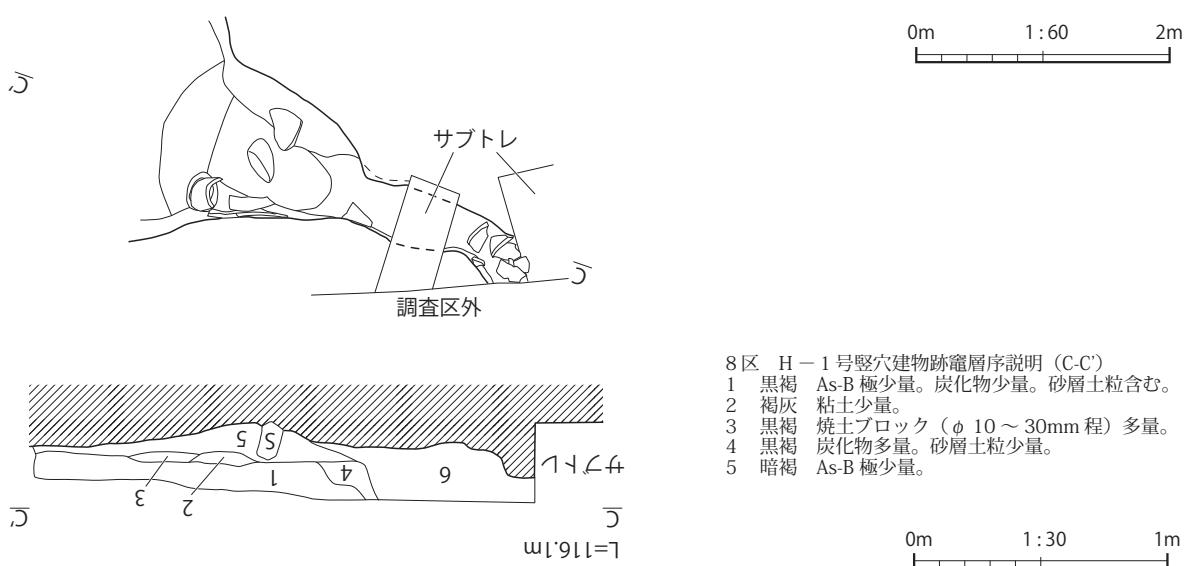
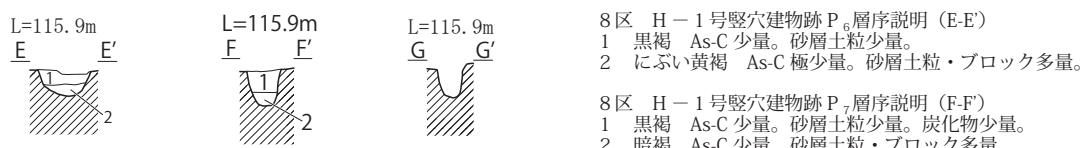
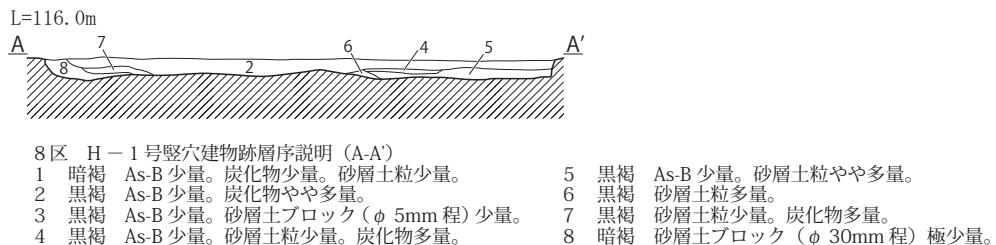
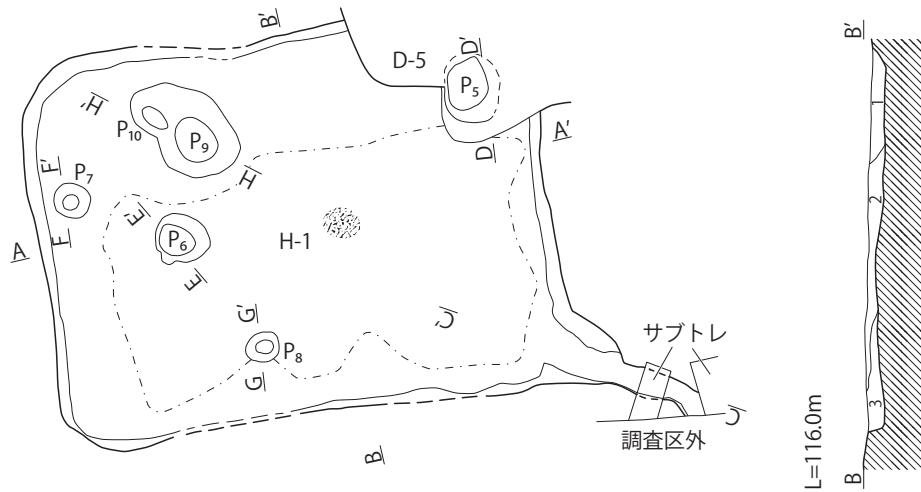
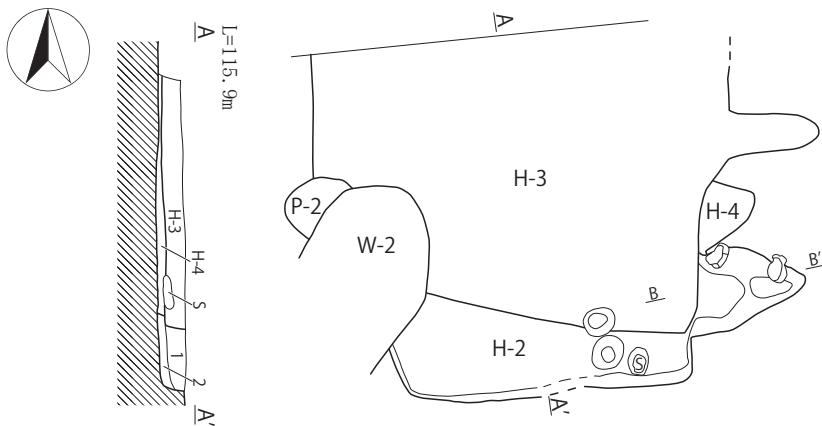
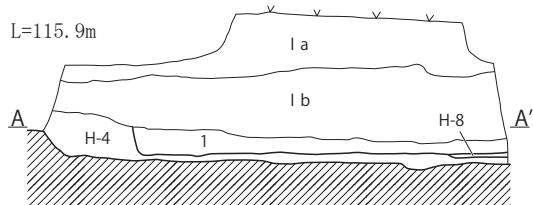
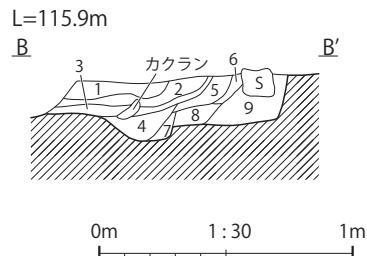


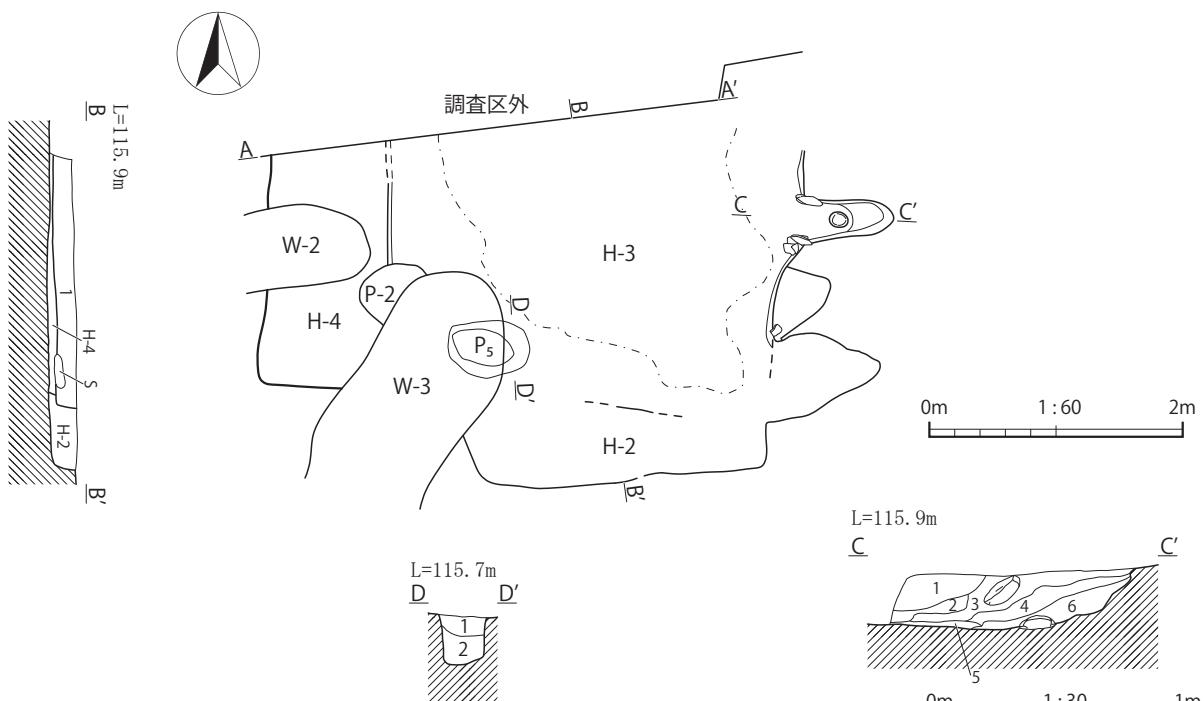
Fig.52 8区 H - 1号竪穴建物跡



- 8区 H - 2号豊穴建物跡層序説明 (B-B')
- 1 黒褐 As-B 少量。砂層土ブロック (ϕ 20mm 程) 極少量。
 - 2 焼土層
 - 3 灰層
 - 4 黒褐 炭化物やや多量。焼土ブロック (ϕ 20mm 程) 極少量。
 - 5 黒褐 炭化物多量。焼土粒多量。
 - 6 黒褐 炭化物極少量。砂層土粒含む。
 - 7 暗褐 烧土粒多量。砂層土粒含む。
 - 8 黒褐 砂層土粒多量。



- 8区 H - 3号豊穴建物跡層序説明 (A-A') (B-B')
- 1 黒褐 As-B 少量。As-C 含む。炭化物極少量。
砂層土ブロック (ϕ 10mm 程) 含む。



- 8区 H - 3号豊穴建物跡層序説明 (C-C')
- 1 暗褐 As-C 少量。焼土粒少量。縮りややあり。
 - 2 褐灰 灰層。白色粘土ブロック少量。焼土粒少量。
 - 3 暗褐 As-C 少量。焼土ブロック多量。
 - 4 黒褐 烧土粒少量。
 - 5 褐灰 灰層
 - 6 暗褐 As-C 少量。焼土粒少量。砂層土粒少量。縮りややあり。

Fig.53 8区 H - 2・3号豊穴建物跡

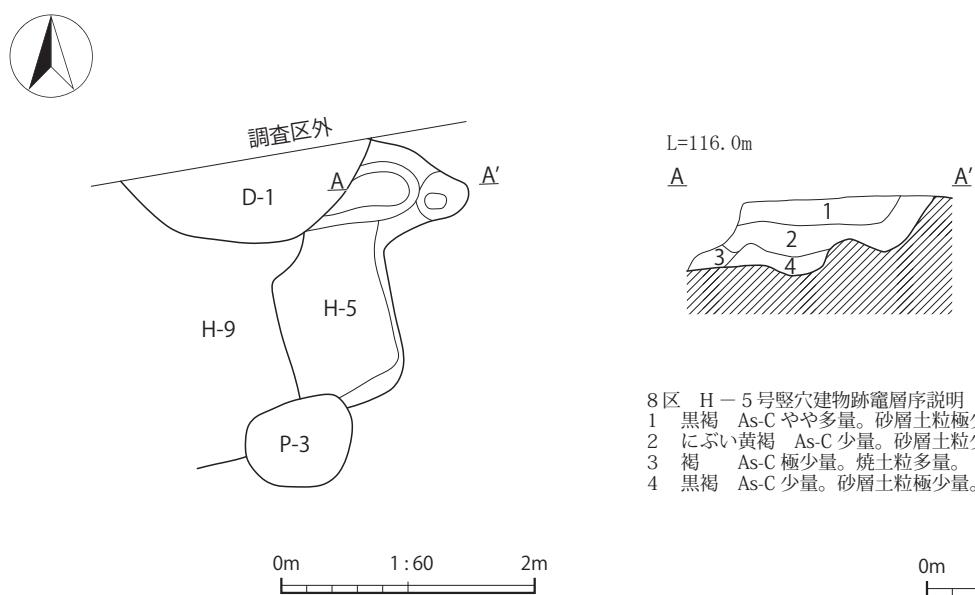
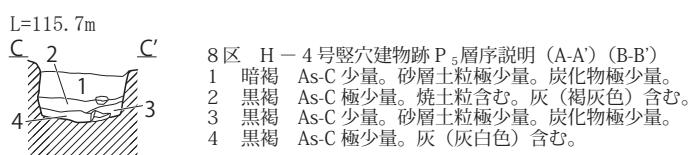
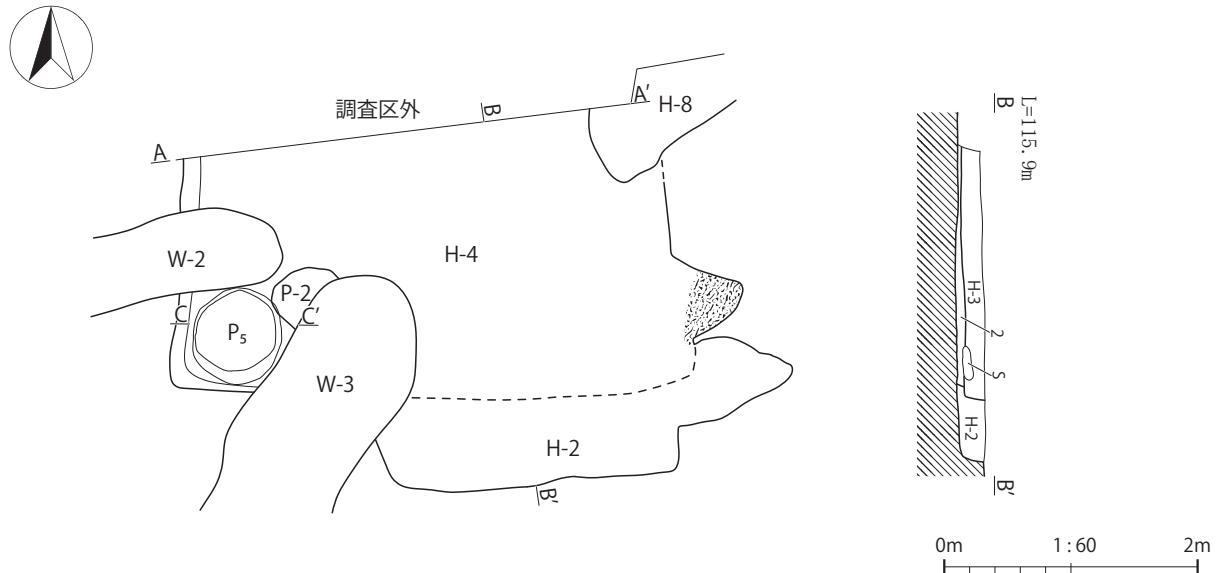
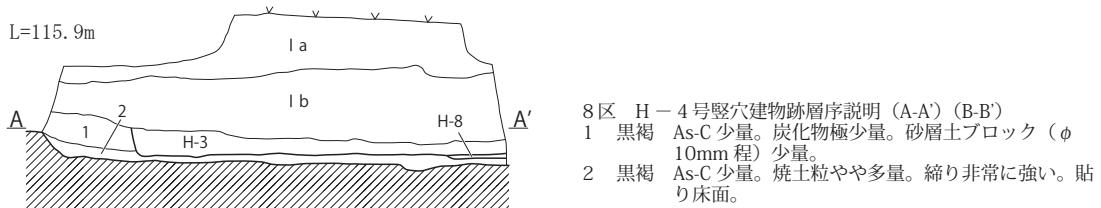


Fig.54 8区 H-4・5号竪穴建物跡

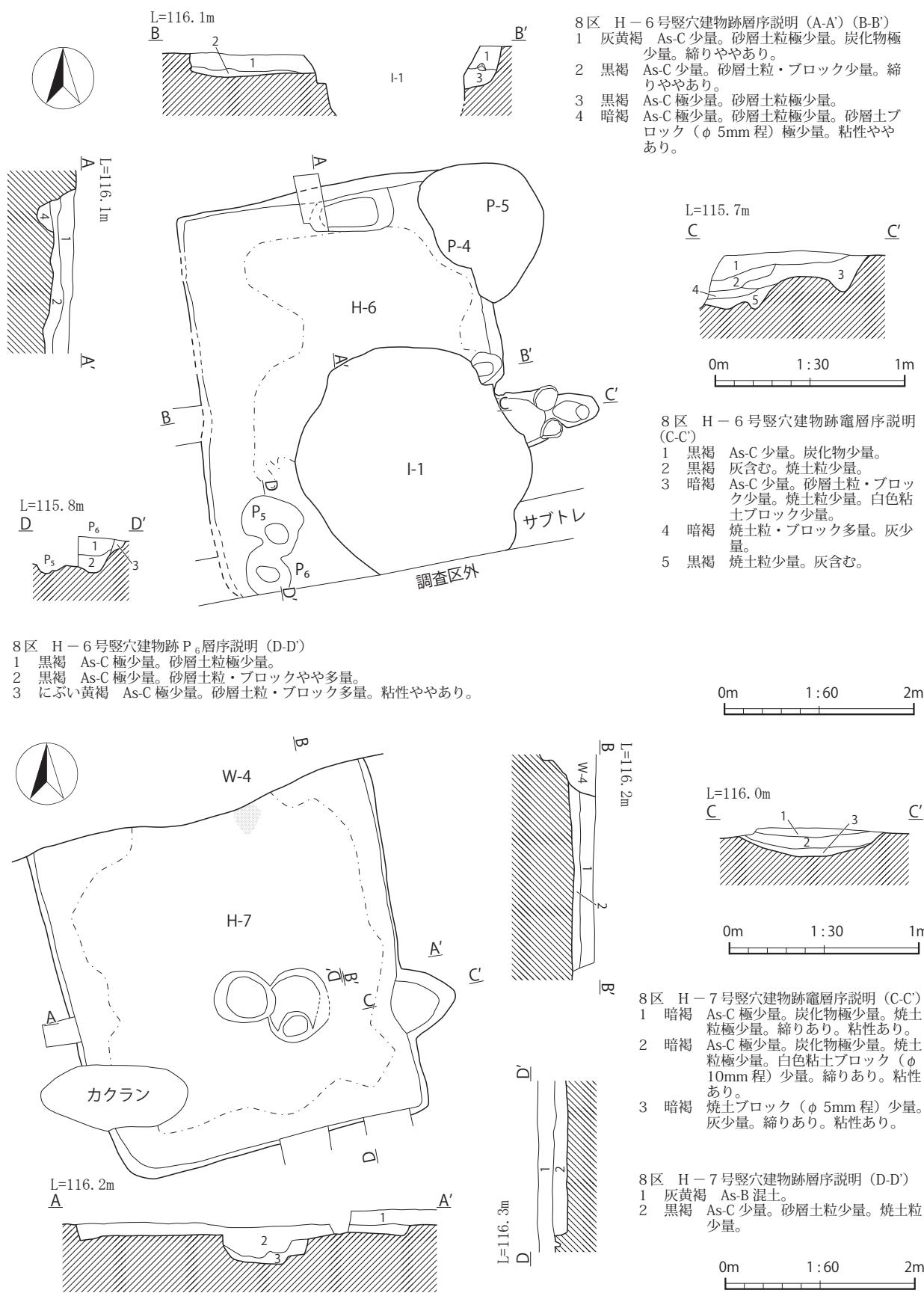
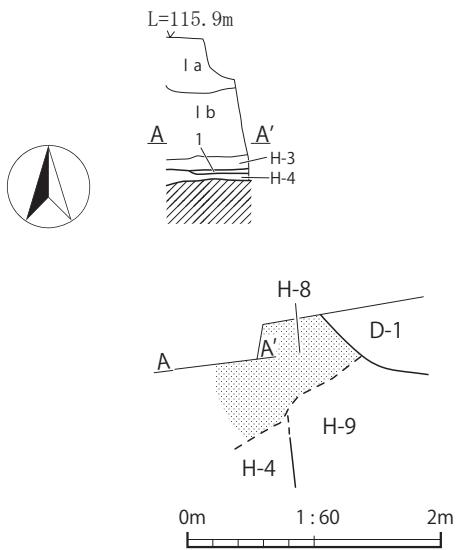
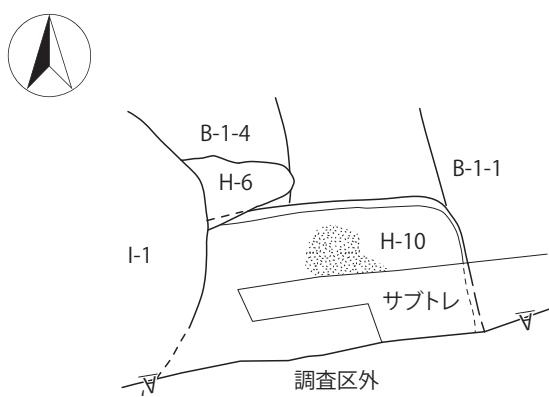
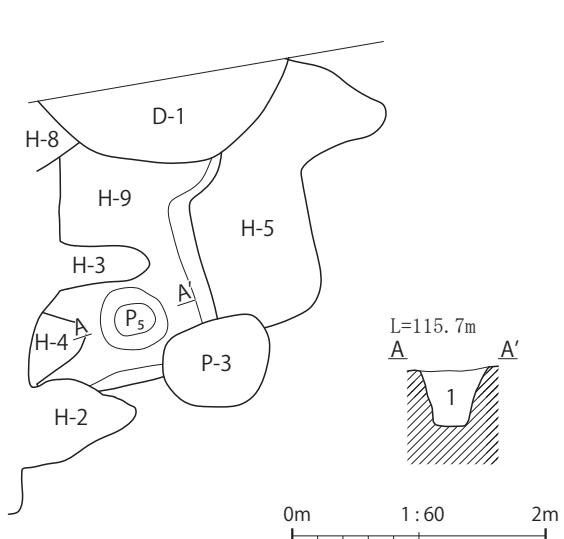


Fig.55 8区 H - 6・7号竪穴建物跡

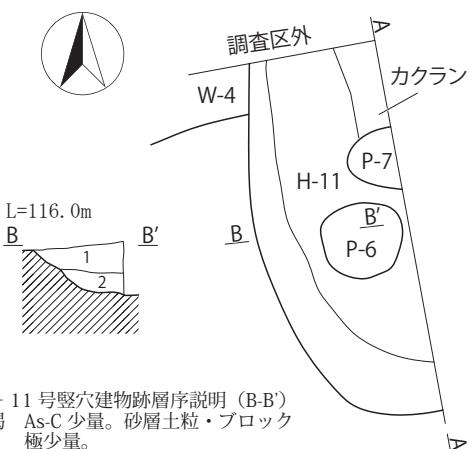
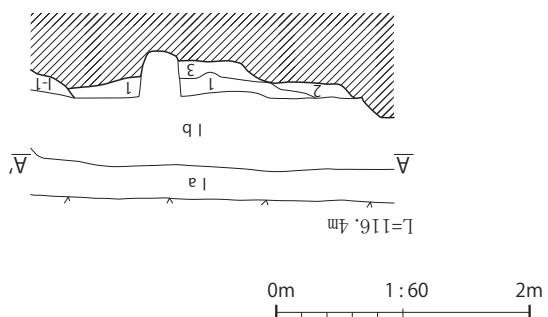
8区 H-8号竪穴建物跡層序説明 (A-A')
1 黒褐 As-C 極少量。焼土粒やや多量。締り非常に強い。



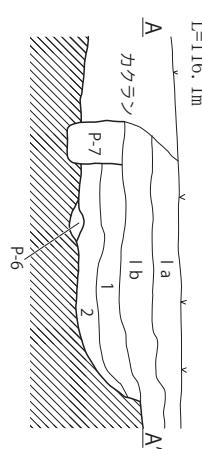
8区 H-9号竪穴建物跡 P₅層序説明 (A-A')
1 黒褐 細粒。砂質。砂層土ブロック (ϕ 10mm 程) 含む。



8区 H-10号竪穴建物跡層序説明 (A-A')
1 黒 As-C 少量。炭化物少量。砂層土粒含む。
2 黒褐 砂礫極少量。砂層土ブロック (ϕ 30~100mm 程) 含む。
3 黒 砂層土粒極少量。締り強い。



8区 H-11号竪穴建物跡層序説明 (B-B')
1 灰黄褐 As-C 少量。砂層土粒・ブロック
極少量。



8区 H-11号竪穴建物跡層序説明(A-A')
1 暗褐 As-B 少量。As-C やや多量。砂層
土粒含む。
2 暗褐 As-C 少量。砂層土粒少量。砂層
土ブロック (ϕ 10mm 程) 少量。

Fig.56 8区 H-9~11号竪穴建物跡

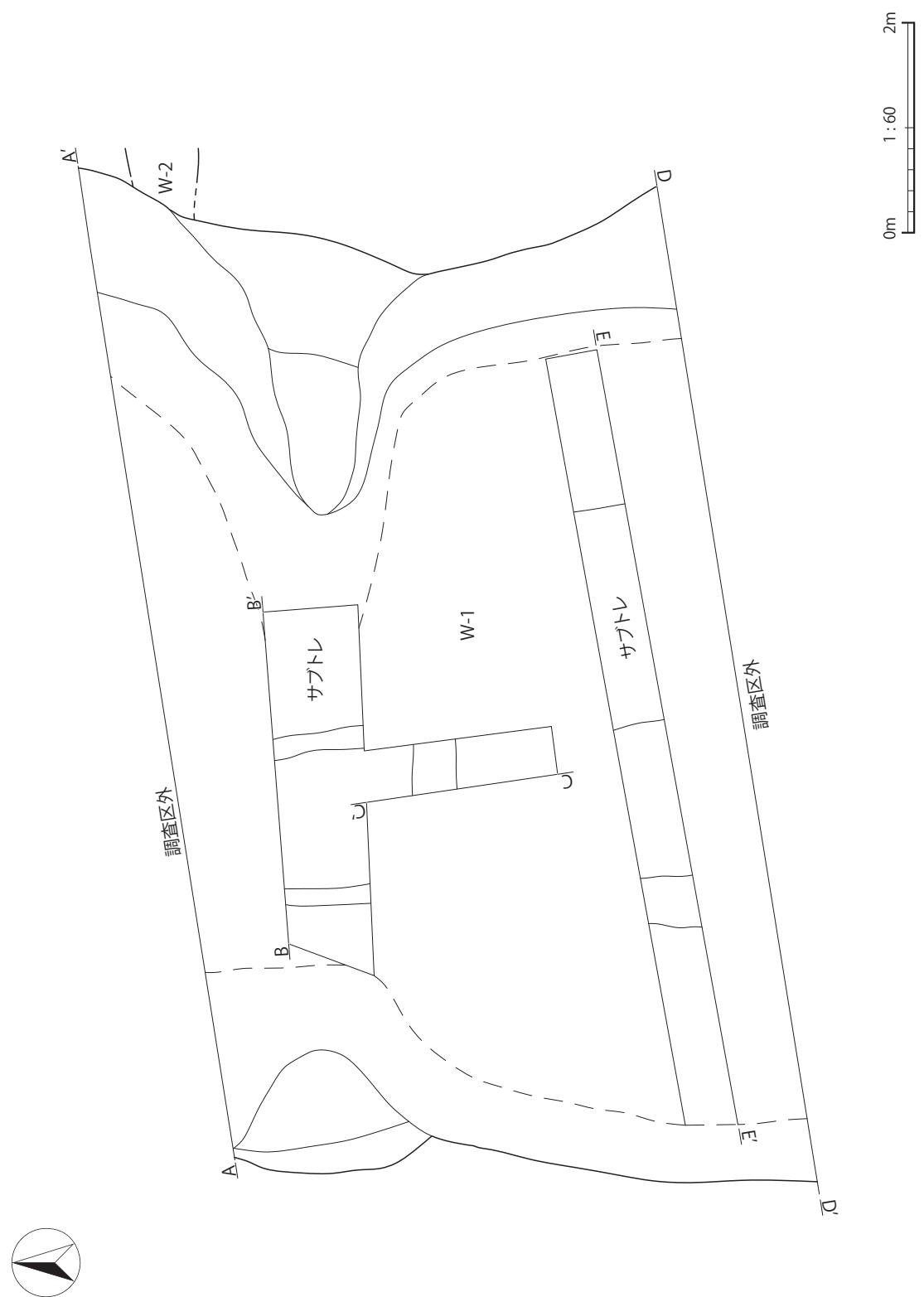
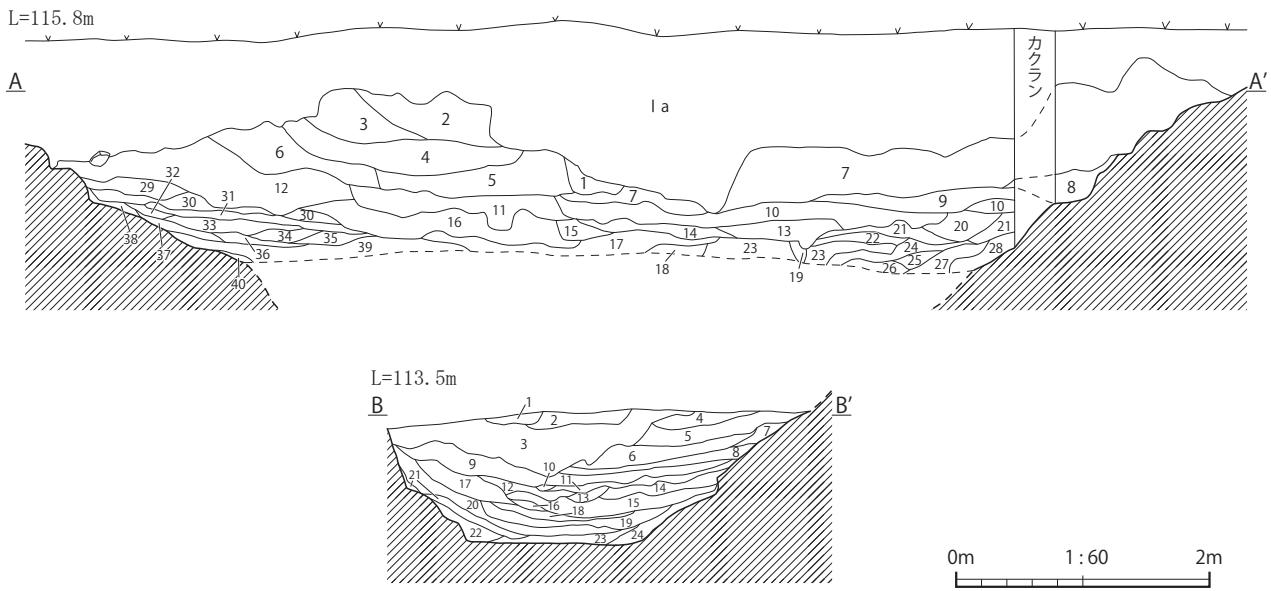


Fig.57 8区W-1号溝跡(1)



8区 W - 1号溝跡層序説明 (A-A')

- 1 黒褐 As-B 多量。砂層土ブロック (ϕ 10mm 程) 極少量。
- 2 黒褐 As-B 多量。砂層土ブロック (ϕ 10mm 程) 少量。
- 3 黒褐 As-B 多量。砂層土ブロック (ϕ 10 ~ 50mm 程) 少量。
- 4 黒褐 As-B 多量。砂層土ブロック (ϕ 20mm 程) 少量。
- 5 黒褐 As-B 多量。砂層土ブロック (ϕ 10mm 程) 極少量。
- 6 黒褐 As-B 多量。砂層土ブロック (ϕ 10 ~ 20mm 程) 極少量。
- 7 褐灰 As-B 多量。砂層土ブロック (ϕ 10 ~ 20mm 程) 極少量。
- 8 黒褐 As-B 多量。砂層土ブロック (ϕ 20mm 程) 少量。
- 9 黒褐 As-B 多量。砂層土粒多量。砂層土ブロック (ϕ 10 ~ 50mm 程) 多量。
- 10 暗褐 砂層土粒多量。炭化物極少量。灰白色シルトブロック (ϕ 10mm 程) 少量。締り強い。
- 11 灰黄褐 砂層土粒やや多量。炭化物極少量。砂層土ブロック (ϕ 60mm 程) 極少量。
- 12 灰黄褐 砂層土粒やや多量。炭化物少量。砂層土ブロック (ϕ 10 ~ 30mm 程) 多量。
- 13 黒褐 砂層土粒やや多量。黄褐色粒含む。砂層土ブロック (ϕ 60mm 程) 極少量。
- 14 黒褐 砂層土粒少量。
- 15 灰黄褐 砂層土粒少量。
- 16 灰黄褐 砂層土粒少量。砂層土ブロック (ϕ 10mm 程) 少量。締りやや強い。
- 17 灰黄褐 砂層土ブロック (ϕ 10mm 程) 少量。灰白色シルト粒多量。締りやや強い。
- 18 灰黄褐 砂層土ブロック (ϕ 20mm 程) 極少量。砂層土粒多量。灰白色シルト粒多量。締り強い。
- 19 灰黄褐 砂層土粒少量。灰白色シルト粒含む。
- 20 暗褐 砂層土ブロック (ϕ 10 ~ 70mm 程) 少量。砂層土粒少量。
- 21 黒褐 砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 10mm 程) 極少量。

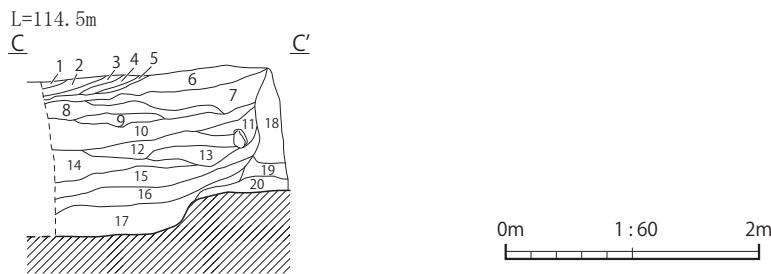
- 22 灰黄褐 砂層土ブロック (ϕ 10 ~ 20mm 程) 多量。黄褐色粒多量。灰白色シルト粒多量。締り強い。
- 23 灰黄褐 砂層土ブロック (ϕ 5mm 程) 多量。黄褐色粒多量。灰白色シルト粒多量。締りやや強い。
- 24 褐灰 砂層土ブロック (ϕ 10 ~ 20mm 程) 多量。黄褐色粒少量。締りやや強い。
- 25 褐灰 砂層土粒多量。灰白色シルトブロック (ϕ 5mm 程) 少量。
- 26 黒褐 砂層土ブロック (ϕ 5mm 程) 灰白色シルトブロック (ϕ 5mm 程) 少量。
- 27 暗褐 砂層土粒多量。
- 28 にぶい黄褐 砂層土粒多量。
- 29 褐灰 灰白色シルトブロック (ϕ 30mm 程) 多量。灰白色シルト粒多量。
- 30 褐灰 砂層土ブロック (ϕ 10 ~ 20mm 程) 多量。灰白色シルトブロック (ϕ 10 ~ 20mm 程) 多量。
- 31 にぶい黄褐 砂層土粒多量。
- 32 にぶい黄褐 黒褐色土少量。締りやや強い。
- 33 褐灰 砂層土ブロック (ϕ 10 ~ 60mm 程) 多量。灰白色シルト粒極少量。締り強い。
- 34 褐灰 砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 10mm 程) 多量。締り強い。
- 35 褐灰 砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 10mm 程) 少量。灰白色シルト粒少量。締り強い。
- 36 黒褐 砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 20mm 程) 少量。締り強い。
- 37 黒褐 砂層土粒少量。灰白色シルトブロック (ϕ 20mm 程) 極少量。灰白色粒多量。締り強い。
- 38 灰黄褐 砂層土粒多量。灰白色シルト粒含む。締り強い。
- 39 褐灰 砂層土ブロック (ϕ 10 ~ 100mm 程) 多量。灰白色シルトブロック (ϕ 30mm 程) 少量。砂層土粒多量。灰白色シルト粒多量。締り強い。
- 40 褐灰 砂層土粒多量。灰白色シルト粒多量。締りやや強い。

8区 W - 1号溝跡層序説明 (B-B')

- 1 褐灰 砂層土ブロック (ϕ 10mm 程) 多量。灰白色シルトブロック (ϕ 5mm 程) 多量。締り強い。
- 2 褐灰 砂層土粒多量。灰白色シルト粒多量。砂層土ブロック (ϕ 10mm 程) 少量。締り強い。
- 3 褐灰 As-B 多量。砂層土粒少量。砂層土粒がラミナ状に堆積。砂層土ブロック (ϕ 10 ~ 20mm 程) 少量。締りやや強い。
- 4 褐灰 砂層土ブロック (ϕ 20mm 程) 多量。灰白色シルトブロック (ϕ 5 ~ 20mm 程) 多量。
- 5 褐灰 砂層土ブロック (ϕ 5mm 程) 少量。灰白色シルトブロック (ϕ 10 ~ 50mm 程) 多量。
- 6 褐灰 砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 40mm 程) 多量。砂層土粒多量。灰白色シルト粒多量。締り強い。
- 7 褐灰 砂層土粒少量。
- 8 黒褐 砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 10mm 程) 少量。
- 9 褐灰 砂層土粒多量。砂層土ブロック (ϕ 10mm 程) 少量。
- 10 褐灰 砂層土粒極少量。

- 11 灰黄褐 黒褐色土含む。砂層土粒多量。
- 12 褐灰 砂層土粒やや多量。灰白色シルト粒やや多量。
- 13 褐灰 砂層土粒極少量。灰白色シルト粒極少量。
- 14 褐灰 砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 20mm 程) 少量。砂層土粒少量。
- 15 灰黄褐 黄褐色粒多量。灰白色シルトブロック (ϕ 30mm 程) 極少量。締りやや強い。
- 16 褐灰 砂層土粒極少量。
- 17 褐灰 砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 10mm 程) 少量。砂層土粒多量。
- 18 褐灰 砂層土粒含む。細粒。
- 19 褐灰 砂層土粒やや多量。細粒。
- 20 褐灰 砂層土粒極少量。細粒。
- 21 褐灰 砂層土粒やや多量。黄褐色粒多量。
- 22 褐灰 細粒。黄褐色粒極少量。
- 23 灰白 細粒。
- 24 灰白 細粒。黄褐色粒極少量。

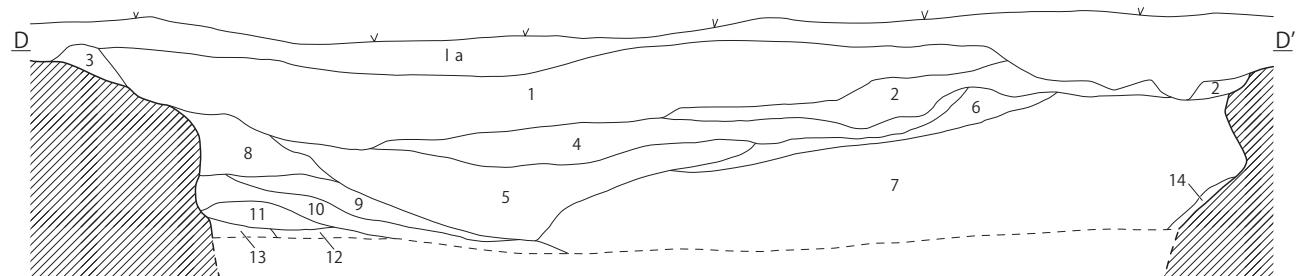
Fig.58 8区 W - 1号溝跡 (2)



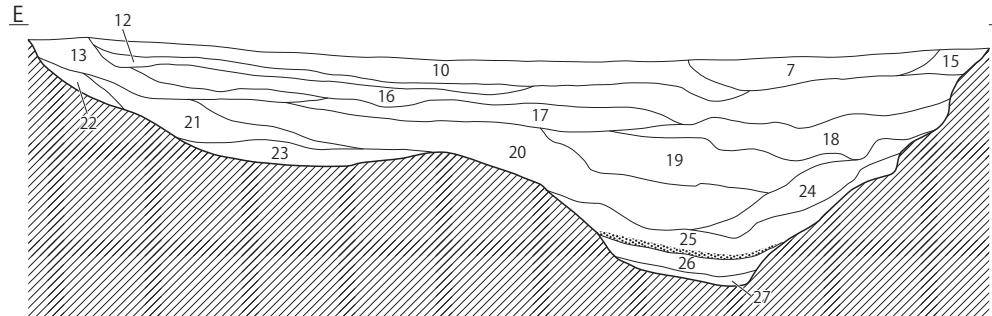
8区 W - 1号溝跡層序説明 (C-C')

- | | |
|--|--|
| 1 褐灰 黄褐色土ブロック (ϕ 5mm 程) 多量。灰白色シルトブロック (ϕ 5mm 程) 多量。締り強い。 | 11 黒褐 黄褐色粒少量。締り強い。 |
| 2 灰白 シルト質。黄褐色土含む。締り強い。 | 12 褐灰 砂層土ブロック (ϕ 10mm 程) やや多量。締りやや強い。 |
| 3 褐灰 黄褐色土含む。灰白色シルトブロック (ϕ 20mm 程) やや多量。締り強い。 | 13 褐灰 灰白色シルトブロック (ϕ 10 ~ 100mm 程) やや多量。締りやや強い。 |
| 4 灰白 シルト質。砂層土ブロック (ϕ 5mm 程) 少量。締り強い。 | 14 褐灰 砂層土ブロック (ϕ 10mm 程) 多量。締り強い。 |
| 5 にぶい黄褐 砂質。黄褐色粒多量。 | 15 黒褐 砂層土ブロック (ϕ 20mm 程) 極少量。締りやや強い。 |
| 6 灰白 シルト質。黄褐色粒少量。黒褐色土含む。締り強い。 | 16 褐灰 締りやや強い。 |
| 7 にぶい黄褐 砂質。黄褐色粒多量。 | 17 黒褐 砂層土ブロック (ϕ 30mm 程) 極少量。締り強い。 |
| 8 褐灰 シルト質。黒褐色土少量。砂層土粒含む。締り強い。 | 18 褐灰 As-B 多量。砂層土ブロック (ϕ 10mm 程) 少量。締りやや強い。 |
| 9 褐灰 灰白色シルトブロック (ϕ 10 ~ 30mm 程) やや多量。締り強い。 | 19 灰黄褐 締り・粘性なし。 |
| 10 褐灰 砂層土ブロック (ϕ 10 ~ 30mm 程) 多量。締り強い。 | 20 灰黄褐 細粒。 |

L=115.8m



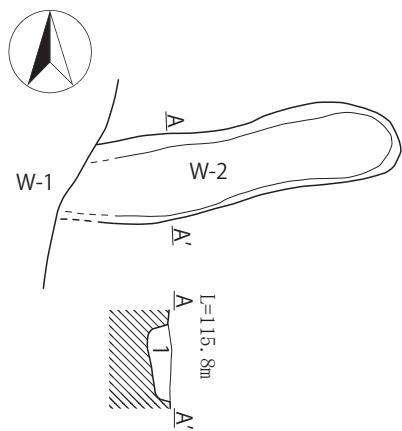
L=114.2m



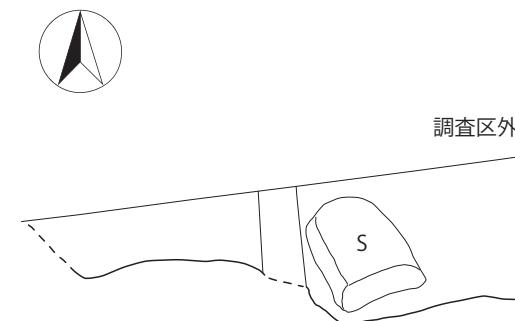
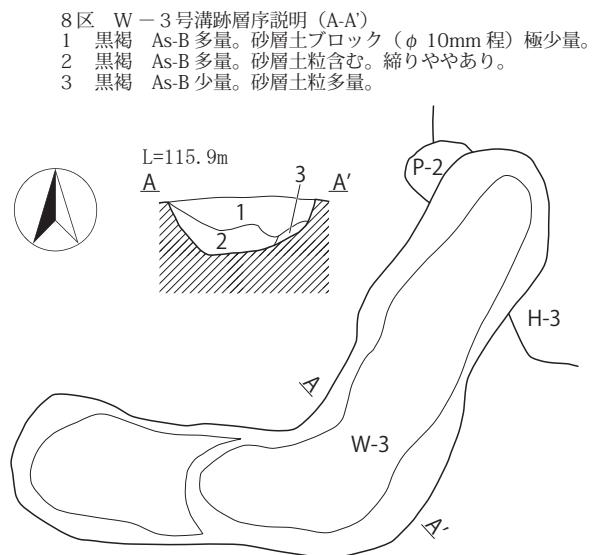
8区 W - 1号溝跡層序説明 (D-D') (E-E')

- | | |
|--|---|
| 1 黒褐 As-B 多量。砂層土粒少量。砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 30mm 程) 少量。 | 15 にぶい黄褐 As-B 少量。砂層土粒少量。砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 10mm 程) 少量。 |
| 2 灰黄褐 As-B 少量。砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 40mm 程) やや多量。灰白色シルトブロック (ϕ 5 ~ 40mm 程) やや多量。砂層土粒やや多量。白色シルト粒やや多量。締りあり。 | 16 灰黄 灰白色シルトブロック主体。黒色土・黒褐色土ブロック (ϕ 5 ~ 40mm 程) 少量。締りあり。粘性あり。 |
| 3 にぶい黄褐 砂層土粒・ブロック主体。粘性ややあり。 | 17 灰黄褐 As-B 少量。砂層土・灰白色シルト粒多量。砂層土・灰白色シルトブロック (ϕ 5 ~ 50mm 程) 多量。締りあり。 |
| 4 灰黄褐 As-B 多量。砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 10mm 程) 極少量。砂層土粒極少量。締りややあり。 | 18 黒褐 As-B やや多量。砂層土・灰白色シルト粒多量。砂層土・白色シルトブロック (ϕ 5 ~ 40mm 程) 多量。締りあり。 |
| 5 灰黄褐 As-B 多量。砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 20mm 程) 少量。砂層土粒少量。締りややあり。 | 19 黒褐 As-B やや多量。砂層土・灰白色シルト粒やや多量。締りややあり。 |
| 6 にぶい黄褐 As-B 少量。砂層土粒・黒色土粒・灰白色シルト粒多量。砂層土・黒色土・灰白色シルトブロック (ϕ 5 ~ 40mm 程) 多量。締りややあり。粘性ややあり。 | 20 黒 As-B 多量。砂層土粒やや多量。砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 40mm 程) やや多量。締りあり。 |
| 7 灰黄褐 As-B 極少量。灰白色シルト主体。黒色土ブロック少量。 | 21 にぶい黄褐 砂層土粒・ブロック主体。 |
| 8 黒褐 As-B 多量。砂層土粒少量。砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 20mm 程) 少量。 | 22 黒 As-B やや多量。砂層土粒極少量。砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 20mm 程) 極少量。締りややあり。粘性ややあり。 |
| 9 灰黄褐 As-B やや多量。砂層土粒極少量。砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 10mm 程) 極少量。 | 23 灰黄褐 As-B やや多量。砂層土粒少量。砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 10mm 程) 少量。締りややあり。 |
| 10 黒褐 As-B やや多量。砂層土・黒色土粒やや多量。砂層土・黒色土ブロック (ϕ 5 ~ 40mm 程) やや多量。 | 24 にぶい黄褐 砂層土粒・ブロック主体。 |
| 11 オリーブ褐 砂層土主体。崩落土。 | 25 灰黄褐 砂層土・灰白色シルトブロック少量。下部に粗砂・シルトがラミナ状に堆積。流水痕あり。 |
| 12 黒褐 As-B やや多量。砂層土粒多量。砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 40mm 程) 多量。締りややあり。粘性ややあり。 | 26 褐灰 粗砂・シルトがラミナ状に堆積。淡水痕。締りややあり。粘性ややあり。 |
| 13 オリーブ褐 砂層土粒・ブロック主体。崩落土。 | 27 黒褐 粗砂・シルトがラミナ状に堆積。淡水痕。 |
| 14 オリーブ褐 砂層土粒・ブロック主体。黒色土ブロック少量。崩落土。 | |

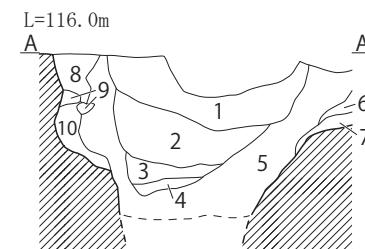
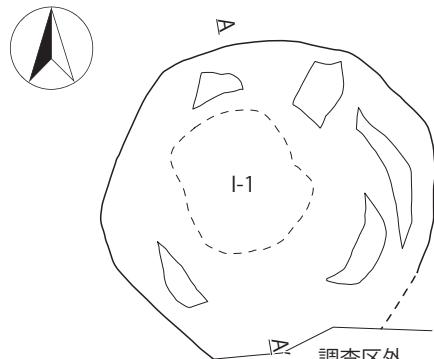
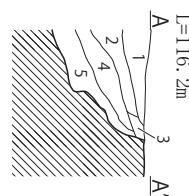
Fig.59 8区 W - 1号溝跡 (3)



8区 W-2号溝跡層序説明 (A-A')
1 As-B 多量。砂層土ブロック (ϕ 10mm 程) 極少量。



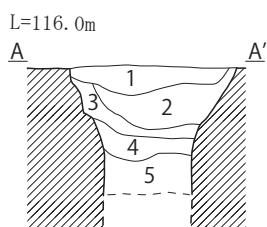
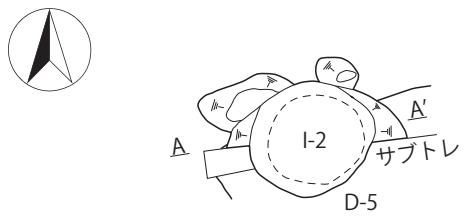
8区 W-4号溝跡層序説明 (A-A')
1 灰黄褐 As-B 少量。白色シルト・砂層土ブロック主体。締りあり。
2 黒褐 As-B 多量。白色シルト・砂層土ブロックやや多量。締りあり。
3 灰黄褐 As-B やや多量。白色シルト・砂層土ブロック少量。締りあり。
4 灰黄褐 As-B 少量。白色シルト・砂層土ブロック主体。締りあり。
5 灰黄褐 As-B やや多量。白色シルト・砂層土ブロック少量。締りあり。



8区 I-1号井戸跡層序説明 (A-A')
1 灰黄褐 As-B 多量。炭化物少量。
2 灰黄褐 As-B 多量。砂層土ブロック (ϕ 10mm 程) 少量。締りややあり。
3 黒褐 As-B 多量。
4 褐灰 As-B 多量。
5 黒 炭化物多量。焼土ブロック (ϕ 10 ~ 20mm 程) やや多量。締り弱い。
6 褐灰 As-B 多量。砂層土ブロック (ϕ 30mm 程) 少量。
7 にぶい黄褐 砂層土多量。
8 灰黄褐 As-B 多量。
9 暗褐 砂層土ブロック (ϕ 10mm 程) 多量。締り強い。
10 暗褐 砂層土粒多量。

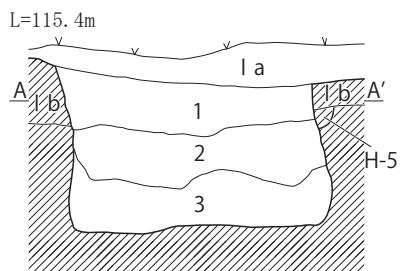
0m 1:60 2m

Fig.60 8区 W-2~4号溝跡、I-1号井戸跡



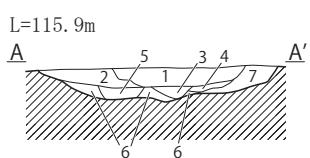
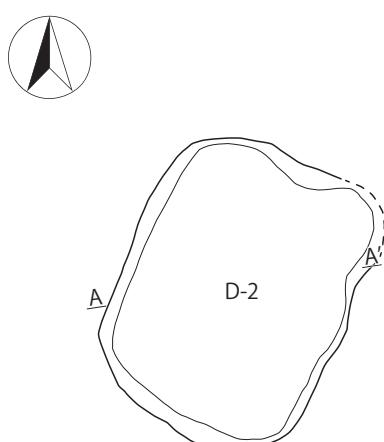
8区 I-2号井戸跡層序説明 (A-A')

1 灰黄褐 As-B 含む。白色シルトブロックやや多量。
2 黒褐 As-B 含む。白色シルトブロック少量。砂層土粒・ブロック少量。
3 灰黄褐 As-B 含む。白色シルトブロック多量。
4 黒褐 As-B 含む。白色シルトブロック少量。
5 灰黄褐 As-B 含む。白色シルトブロック多量。



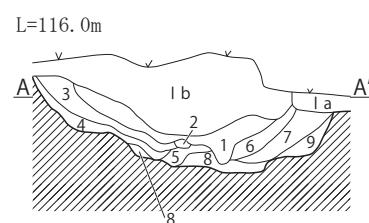
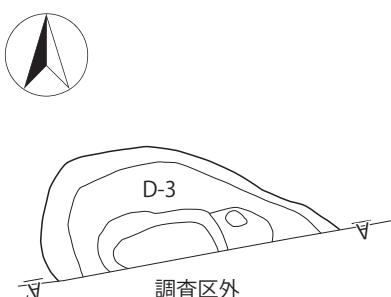
8区 D-1号土坑層序説明 (A-A')

I a 現表土
I b As-B 混土。
1 暗褐 As-B 多量。細かい砂層土少量。
2 黒褐 As-B やや多量。細かい砂層土含む。砂層土ブロック (ϕ 10 ~ 20mm 程) 少量。焼土極少量。締りややあり。
3 黒褐 As-B 少量。細かい砂層土含む。締りややあり。



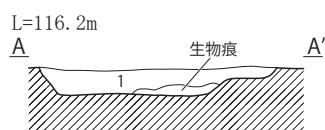
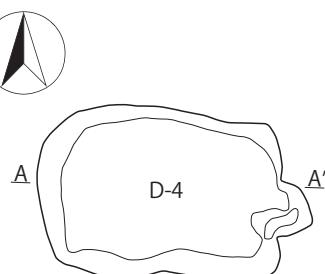
8区 D-2号土坑層序説明 (A-A')

1 黒褐 As-B 多量。砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 10mm 程) 少量。
2 黒褐 As-B 多量。砂層土ブロック (ϕ 10 ~ 20mm 程) やや多量。
3 黒褐 As-B 多量。砂層土ブロック (ϕ 5mm 程) 極少量。砂層土粒やや多量。
4 黒褐 As-B 多量。砂層土ブロック (ϕ 10mm 程) 少量。
5 黒褐 As-B 少量。砂層土粒やや多量。
6 灰黄褐 As-B 極少量。砂層土粒多量。
7 黒褐 As-C 極少量。As-B 少量。砂層土粒含む。



8区 D-3号土坑層序説明(A-A')

1 暗褐 砂層土ブロック (ϕ 10 ~ 30mm 程) 多量。
2 黒褐 As-B 含む。砂層土粒含む。
3 黒褐 As-B 含む。砂層土粒やや多量。
4 黒褐 As-B 極少量。砂層土粒やや多量。砂層土ブロック (ϕ 10mm 程) 少量。
5 黒褐 砂層土ブロック (ϕ 10 ~ 30mm 程) 少量。
6 灰黄褐 As-B 多量。砂層土ブロック (ϕ 10mm 程) 少量。
7 灰黄褐 As-B 多量。砂層土粒少量。
8 黒褐 砂層土粒含む。
9 黒褐 砂層土少量。砂層土ブロック (ϕ 10mm 程) 少量。



8区 D-4号土坑層序説明(A-A')

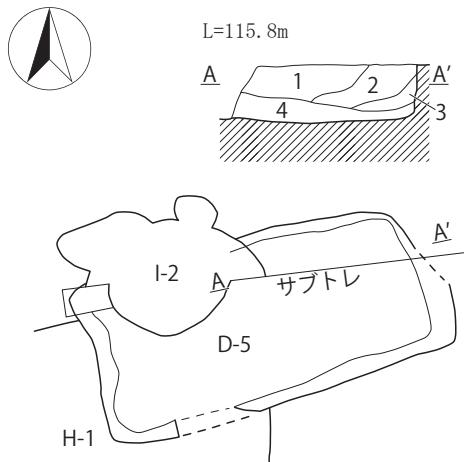
1 暗褐 As-B 多量。砂層土ブロック (ϕ 10mm 程) 極少量。

0m 1:60 2m

Fig.61 8区 I-2号井戸跡、D-1~4号土坑

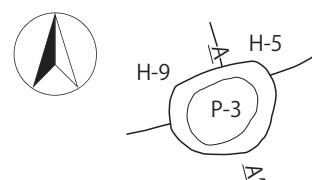
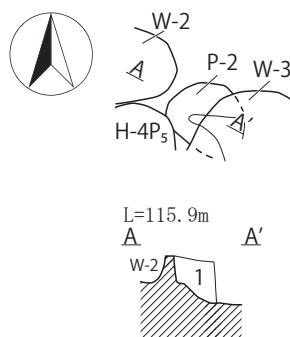
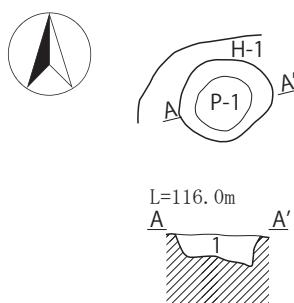
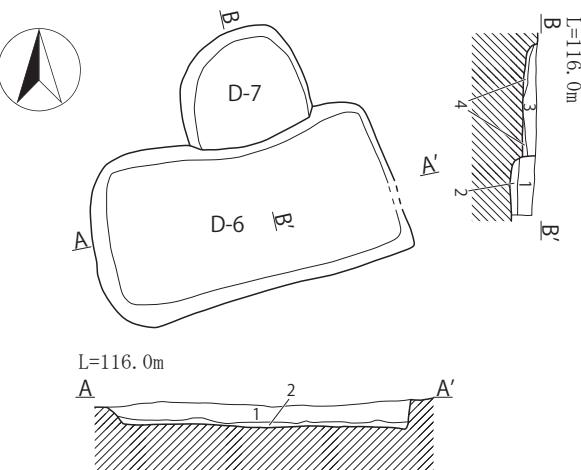
8区 D-5号土坑層序説明 (A-A')

- 1 にぶい黄褐 As-C 少量。砂層土粒多量。砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 20mm 程) 多量。
- 2 黒褐 As-C 少量。砂層土粒少量。砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 20mm 程) 少量。
- 3 にぶい黄褐 As-C 少量。砂層土粒多量。砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 30mm 程) 多量。
- 4 暗褐 As-C 極少量。砂層土粒少量。砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 10mm 程) 少量。



8区 D-6・7号土坑層序説明 (A-A') (B-B')

- 1 灰黄褐 As-C 少量。砂層土粒極少量。砂層土ブロック (ϕ 5mm 程) 極少量。(D-6号土坑覆土)
- 2 にぶい黄褐 As-C 極少量。砂層土粒多量。(D-6号土坑覆土)
- 3 黒褐 As-C やや多量。砂層土粒少量。締りややあり。(D-7号土坑覆土)
- 4 にぶい黄褐 As-C 少量。砂層土粒やや多量。締りややあり。部分的に締り強い。(D-7号土坑覆土)



8区 P-1号ピット層序説明 (A-A')

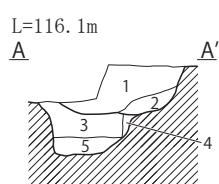
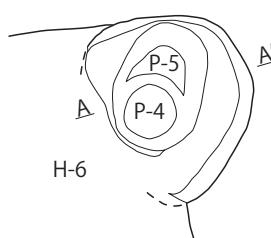
- 1 黒褐 As-B 少量。砂層土粒少量。締り弱い。

8区 P-2号ピット層序説明 (A-A')

- 1 黒褐 As-B 多量。炭化物多量。

8区 P-3号ピット層序説明 (A-A')

- 1 黒褐 As-C 少量。砂層土粒・ブロックやや多量。
- 2 にぶい黄褐 As-C 極少量。砂層土粒・ブロック多量。



8区 P-4・5号ピット層序説明 (A-A')

- 1 黒褐 As-C 少量。砂層土粒極少量。炭化物極少量。締りややあり。(P-5号ピット覆土)
- 2 にぶい黄褐 As-C 極少量。砂層土粒・ブロック少量。(P-5号ピット覆土)
- 3 暗褐 As-C 極少量。砂層土粒・ブロックやや多量。(P-4号ピット覆土)
- 4 にぶい黄褐 As-C 極少量。砂層土粒・ブロック多量。(P-4号ピット覆土)
- 5 黒褐 As-C 極少量。砂層土粒・ブロック多量。(P-4号ピット覆土)

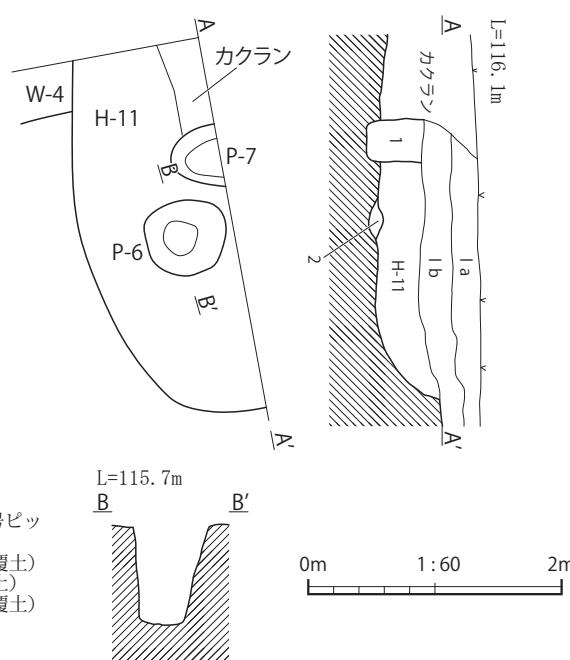
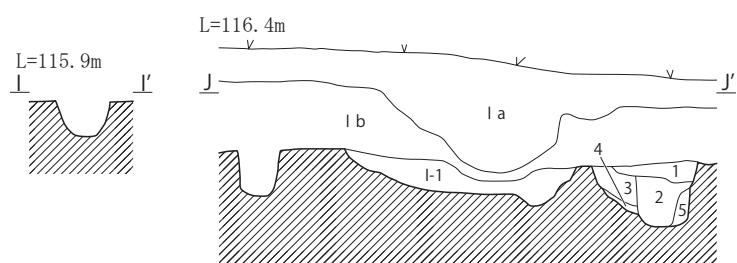
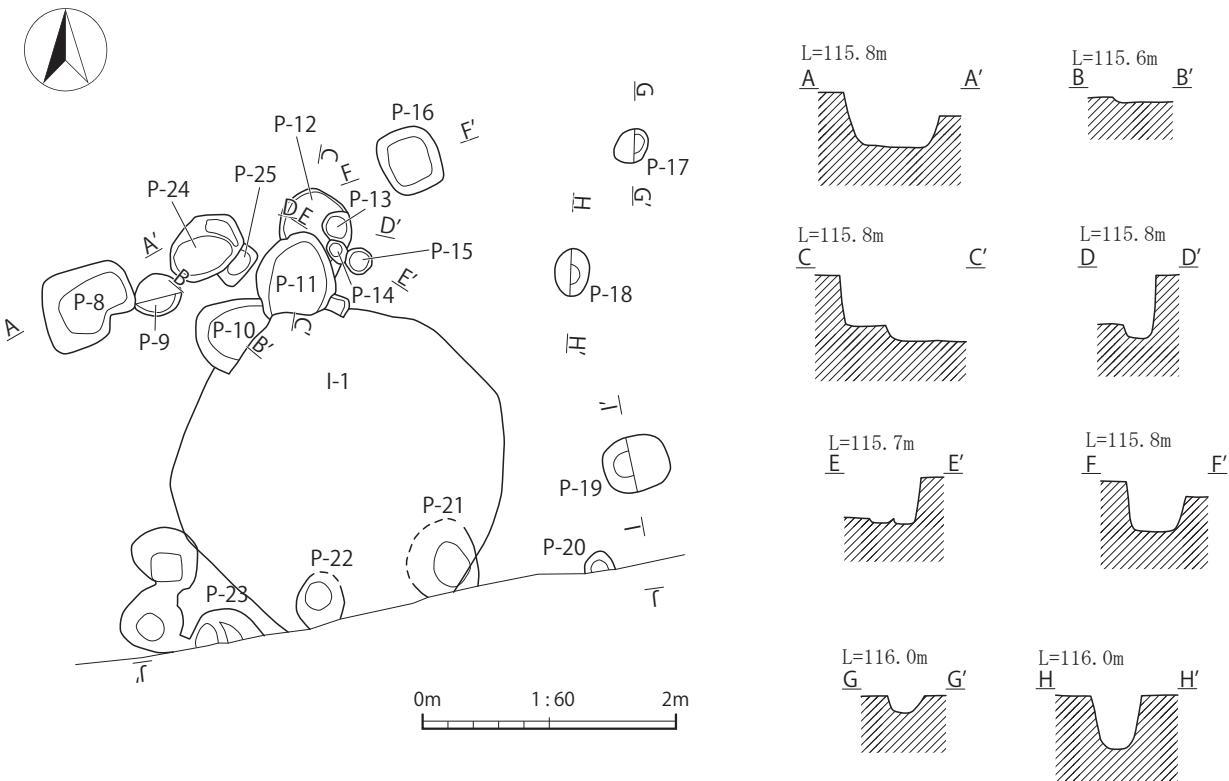
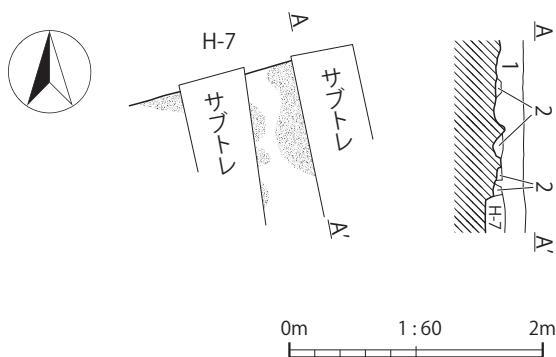


Fig62 8区 D-5~7号土坑、P-1~7号ピット



- 8区 P-23号ピット層序説明 (J-J')
- 1 黒褐 As-C やや多量。砂層土粒・ブロック (ϕ 5 ~ 20mm 程) 少量。縮りややあり。
 - 2 にぶい黄褐 As-C 極少量。砂層土ブロック (ϕ 5 ~ 20mm 程) 多量。縮りややあり。
 - 3 黒褐 As-C やや多量。砂層土粒・ブロック (ϕ 5 ~ 10mm 程) やや多量。縮りややあり。
 - 4 黒褐 As-C 少量。砂層土粒・ブロック (ϕ 5mm 程) 少量。縮りややあり。
 - 5 黒褐 As-C 少量。砂層土・黒色土ブロック (ϕ 5 ~ 10mm 程) 極少量。縮りややあり。



- 8区 硬化遺構層序説明 (A-A')
- 1 灰黄褐 As-B 混土。縮り・粘性なし。
 - 2 黒褐 As-C やや多量。砂層土粒・ブロック少量。縮りあり。

Fig.63 8区 P-8 ~ 23号ピット、硬化遺構

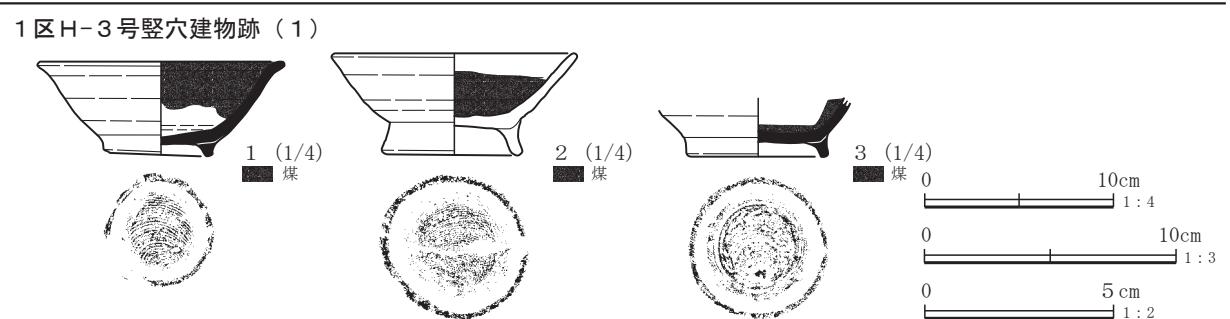
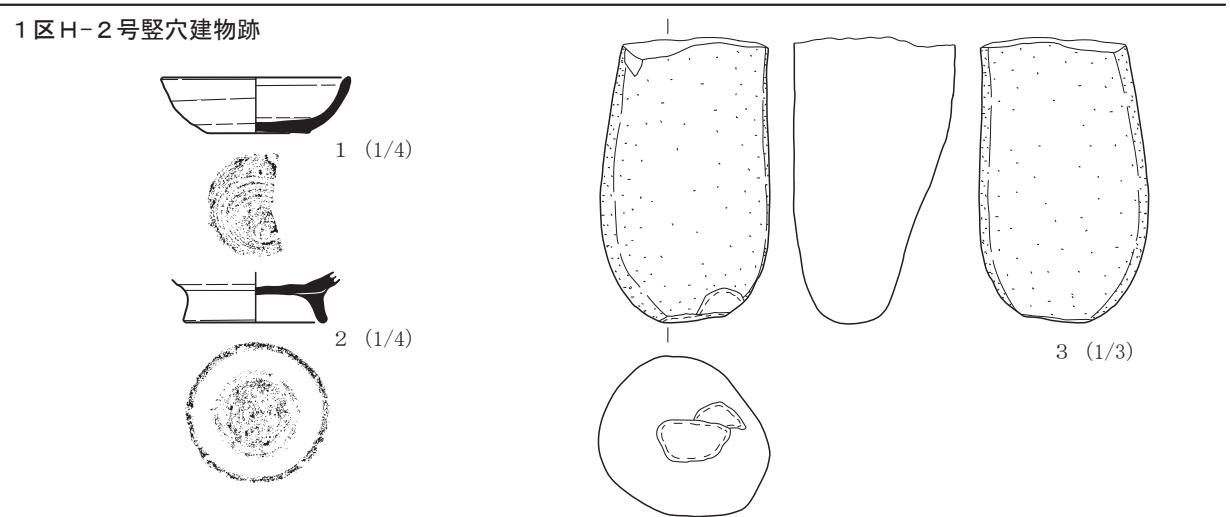
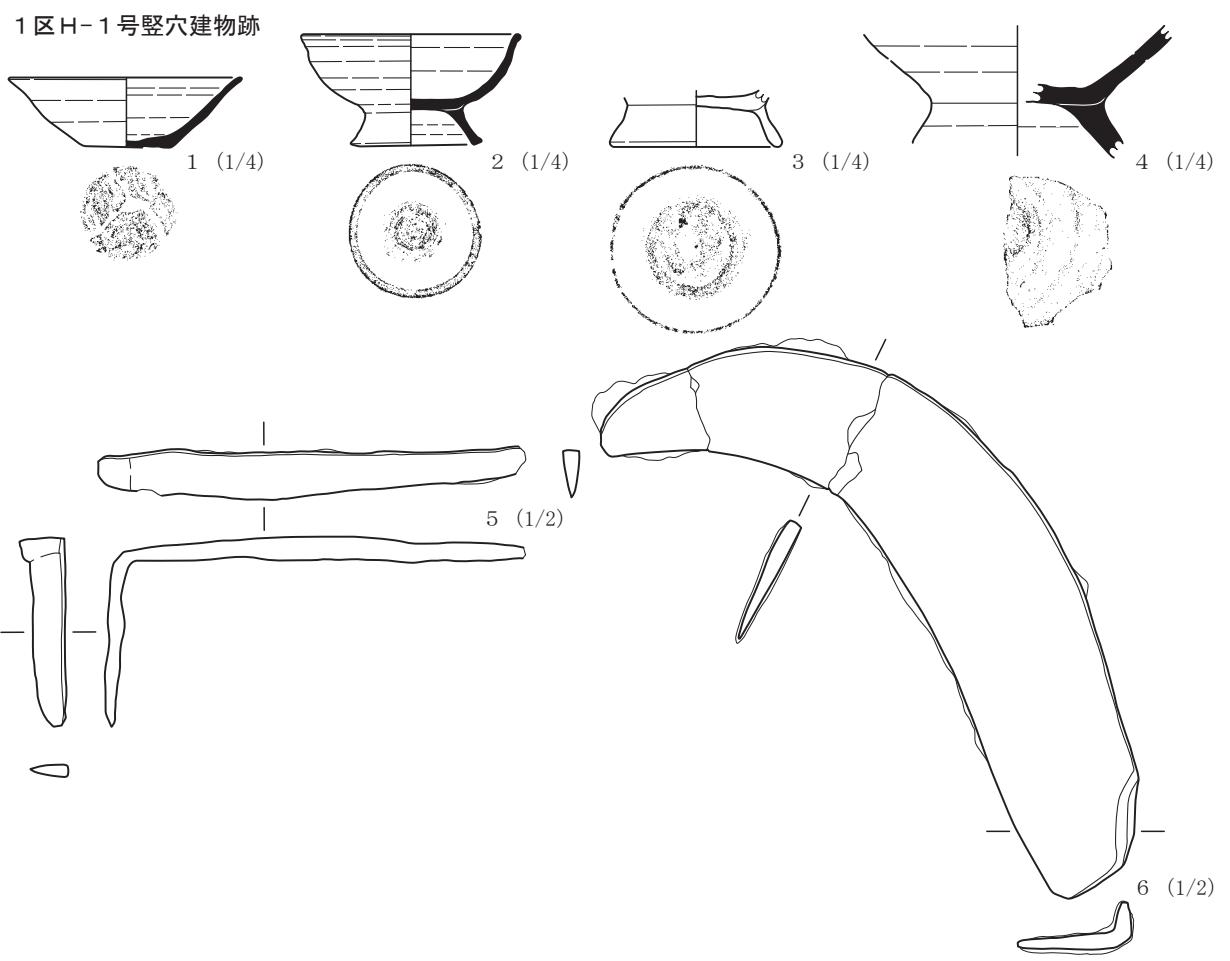
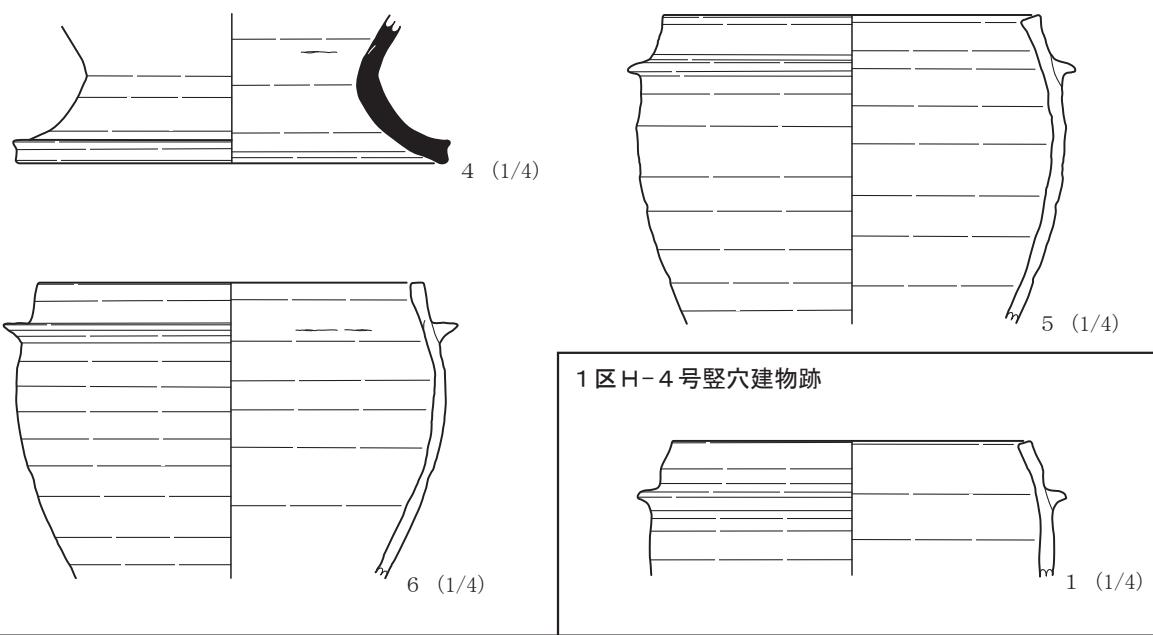


Fig.64 1区出土遺物 (1)

1区H-3号竪穴建物跡（2）



1区遺構外



2区H-1号竪穴建物跡（1）

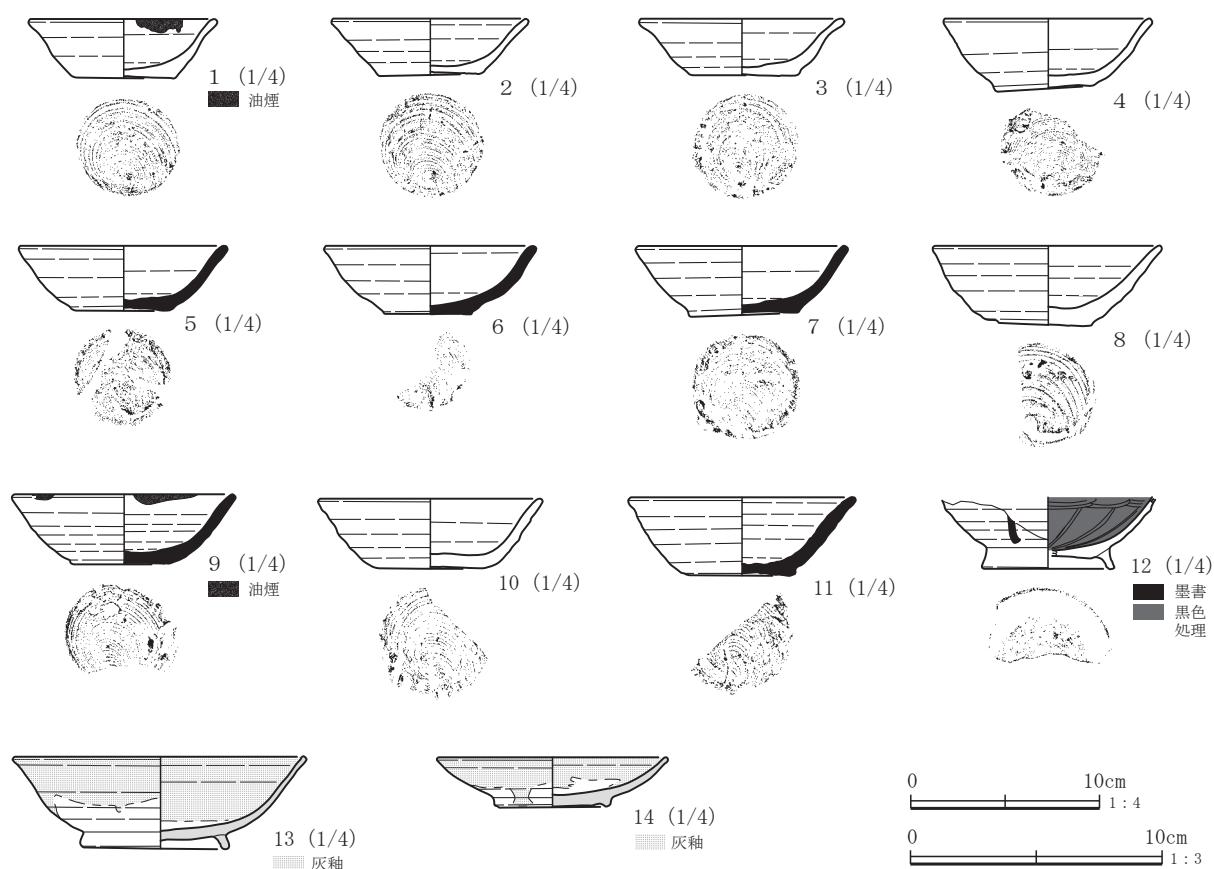
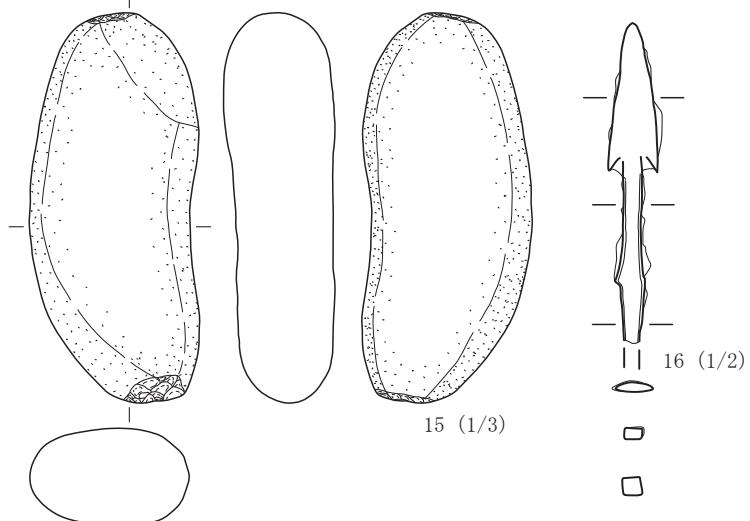
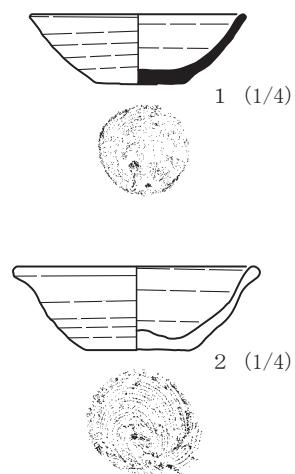


Fig.65 1区出土遺物（2）、2区出土遺物（1）

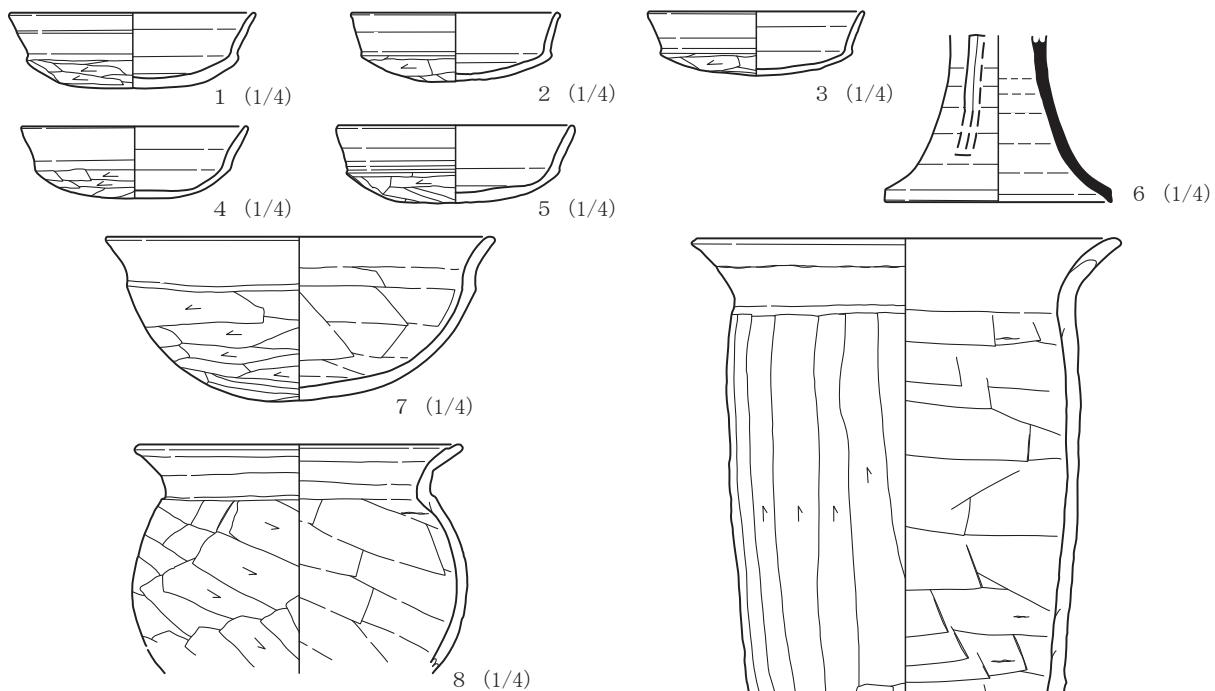
2区H-1号竪穴建物跡（2）



2区H-2号竪穴建物跡



2区H-3号竪穴建物跡



2区遺構外

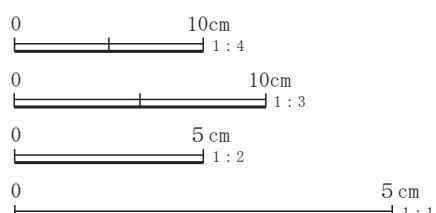
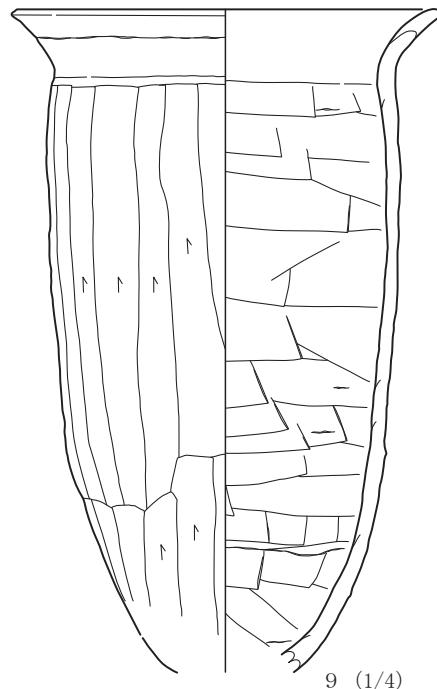
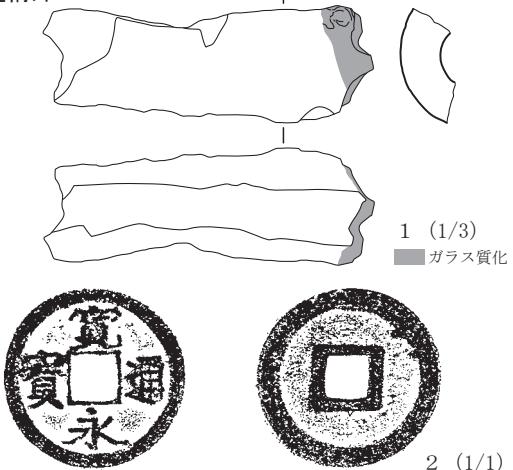
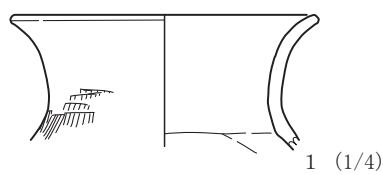
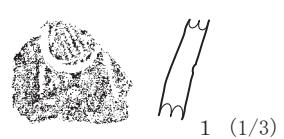


Fig.66 2区出土遺物（2）

3区P-3号ピット



3区遺構外



5区J-1号竪穴建物跡（1）

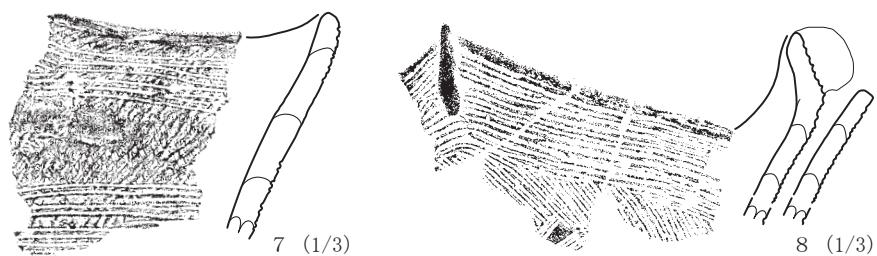
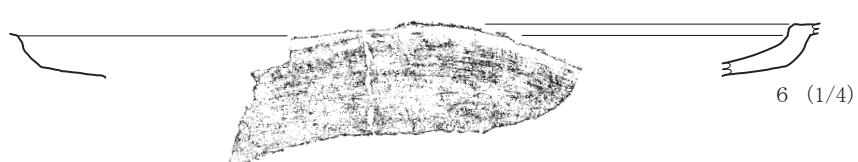
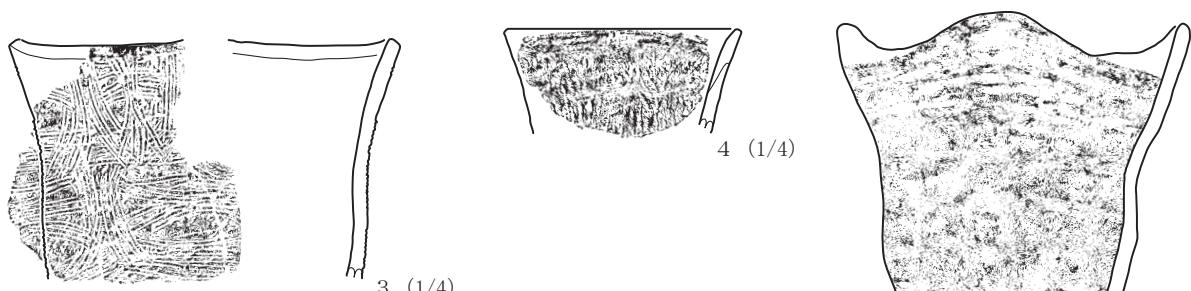
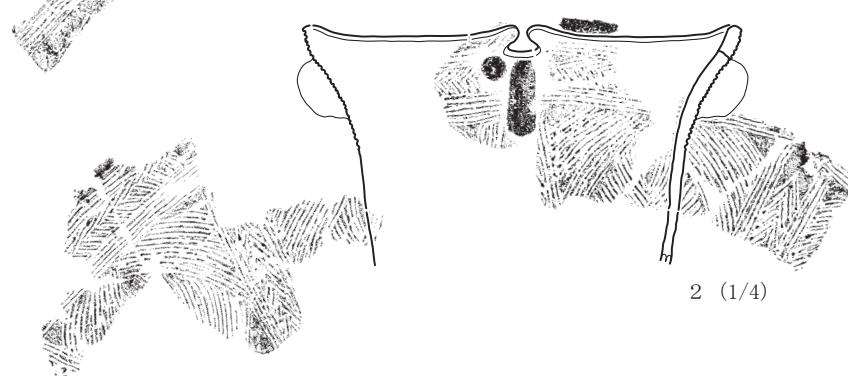


Fig.67 3区出土遺物、5区出土遺物（1）

5区J-1号竖穴建物跡（2）

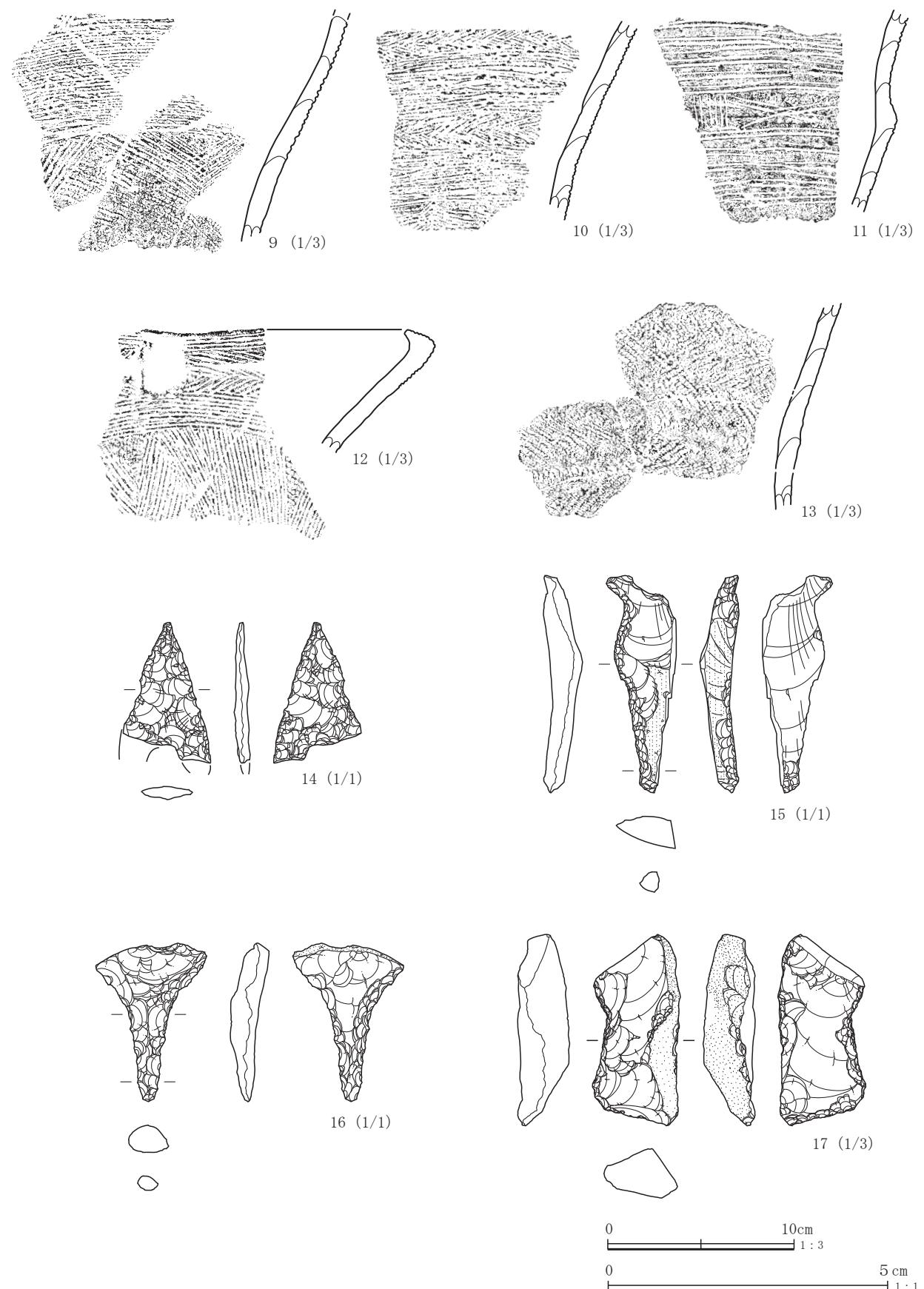


Fig.68 5区出土遺物（2）

5区 J-1号竪穴建物跡 (3)



5区 H-1号竪穴建物跡

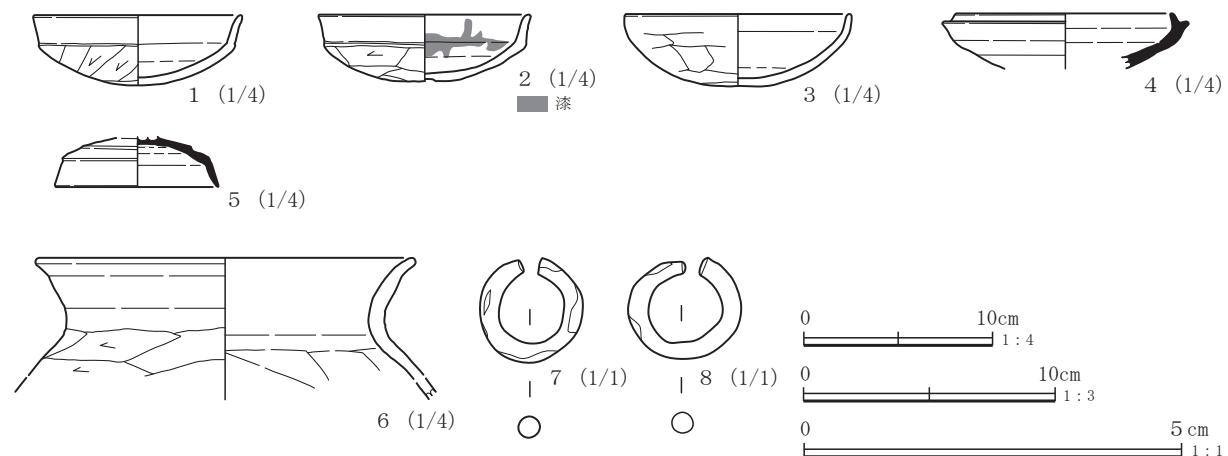
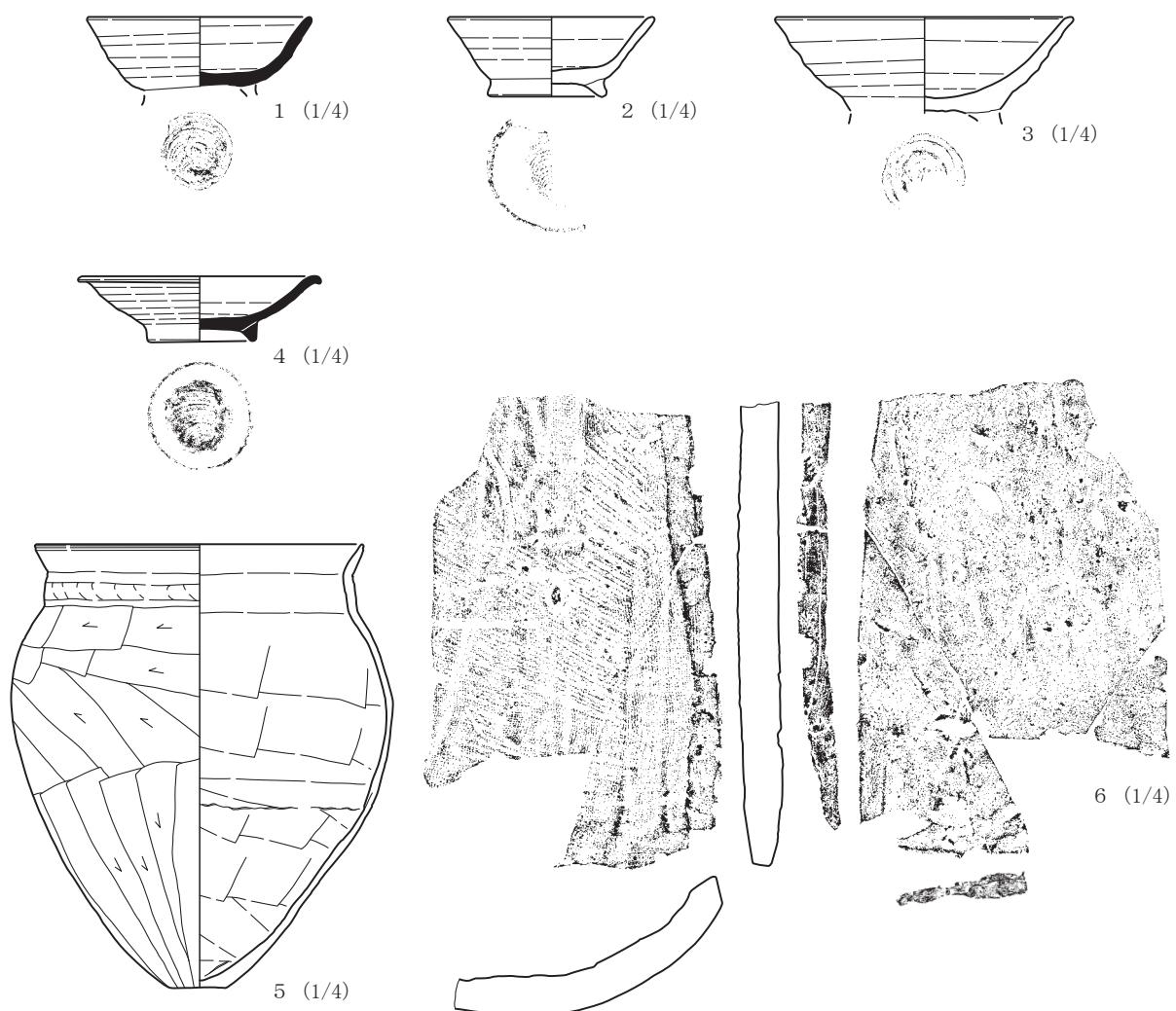
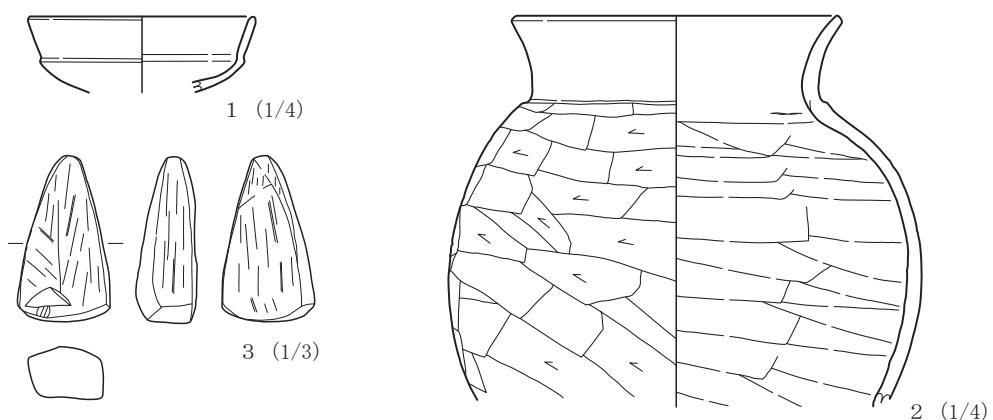


Fig.69 5区出土遺物 (3)

5区H-2号竪穴建物跡



5区H-4号竪穴建物跡



5区H-5号竪穴建物跡 (1)

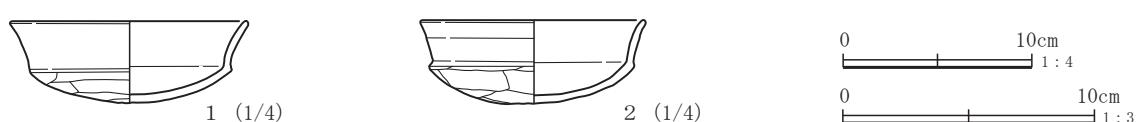
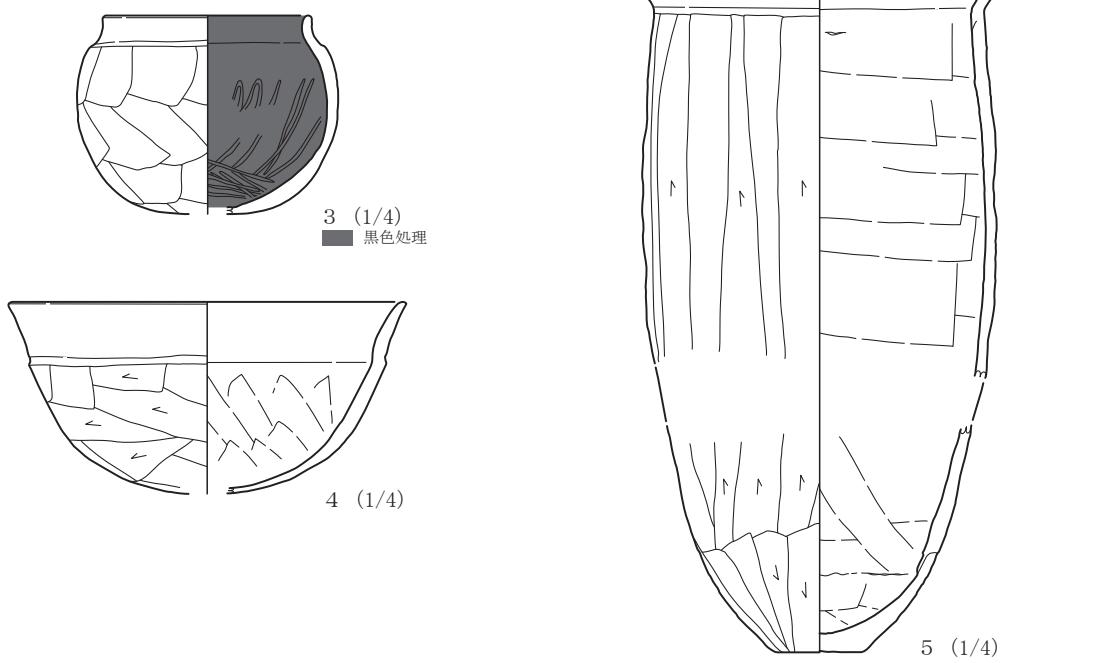
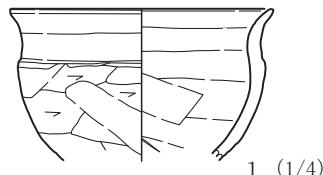


Fig.70 5区出土遺物 (4)

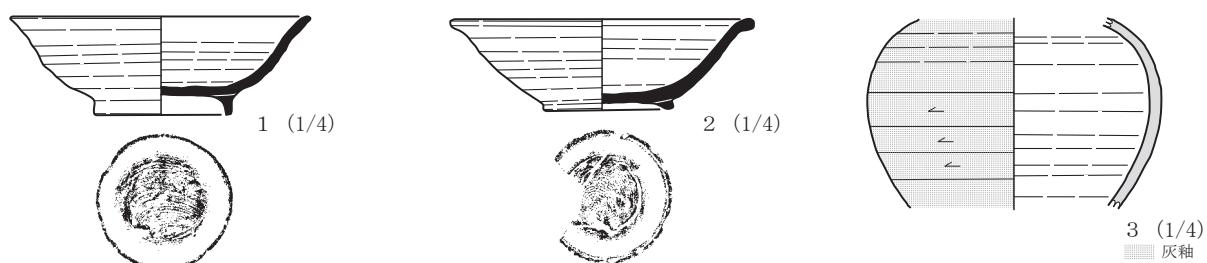
5区H-5号竪穴建物跡（2）



5区H-7号竪穴建物跡



5区H-10号竪穴建物跡



5区H-11号竪穴建物跡（1）

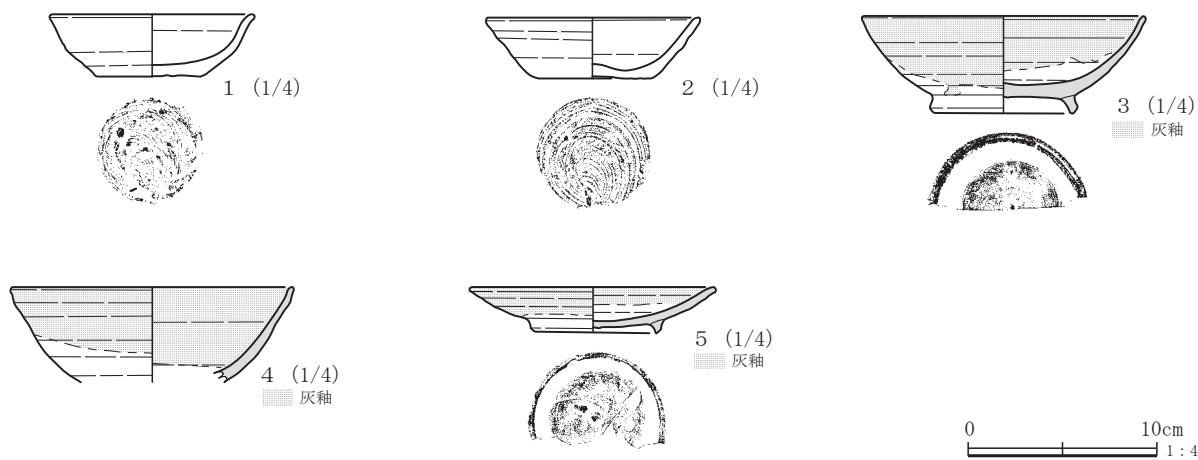
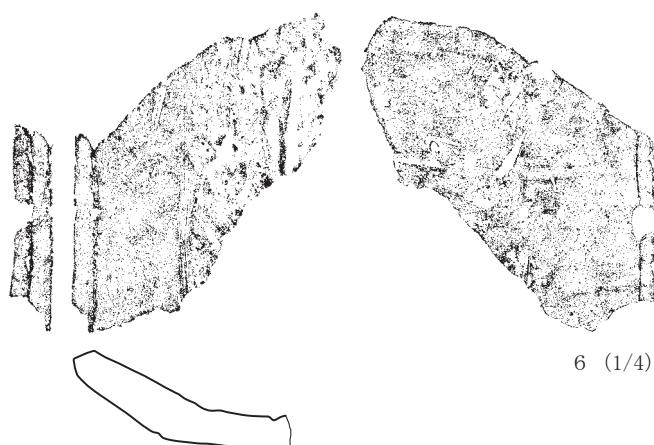
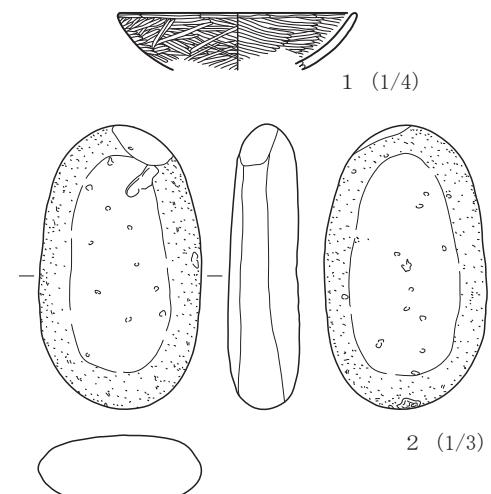


Fig.71 5区出土遺物（5）

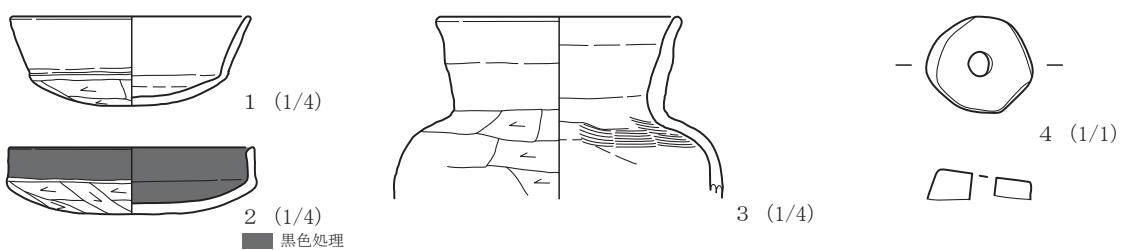
5区H-11号竪穴建物跡（2）



5区H-13号竪穴建物跡



5区H-14号竪穴建物跡



5区H-15号竪穴建物跡（1）

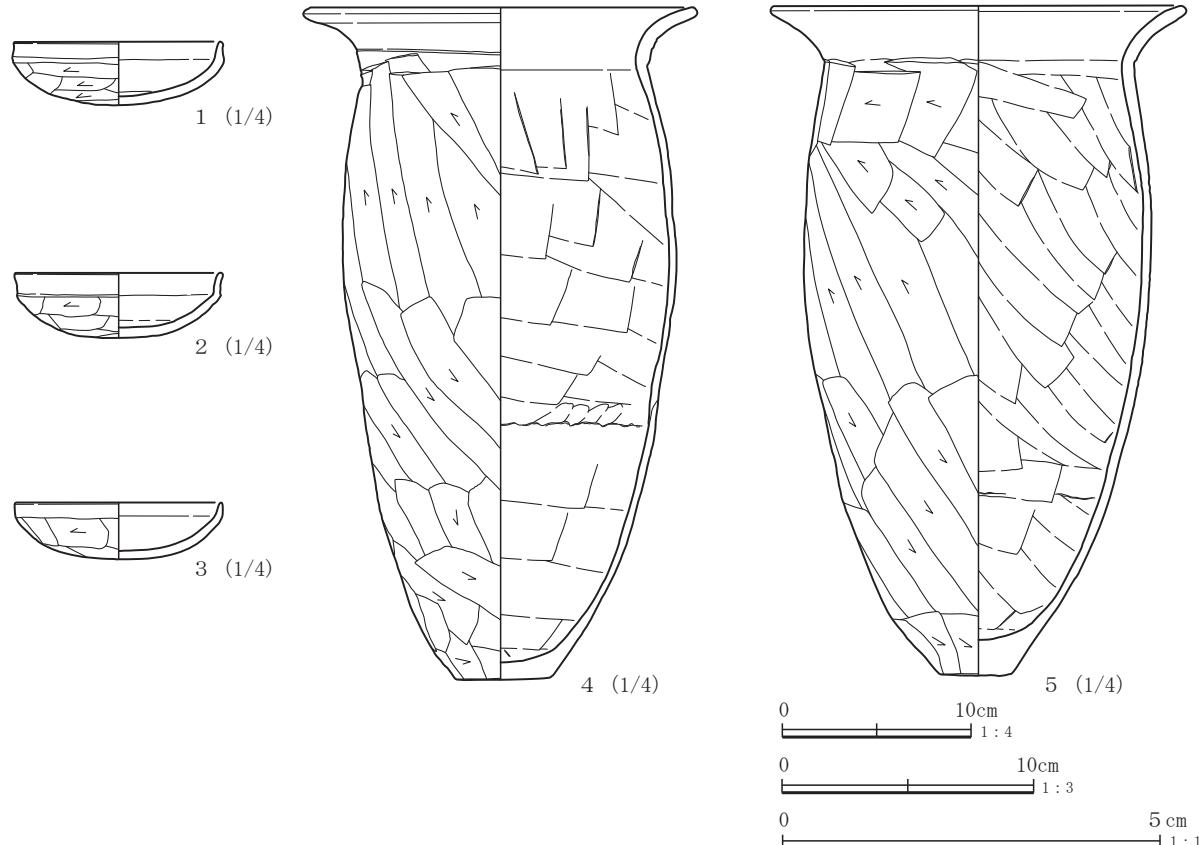
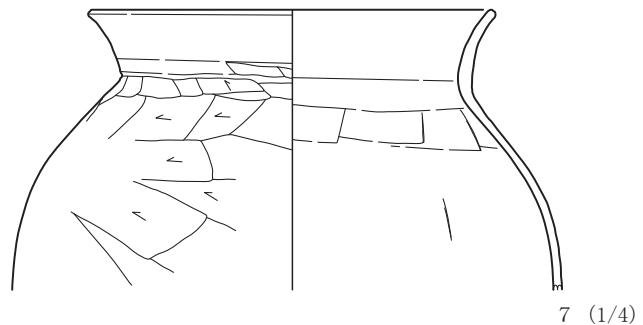
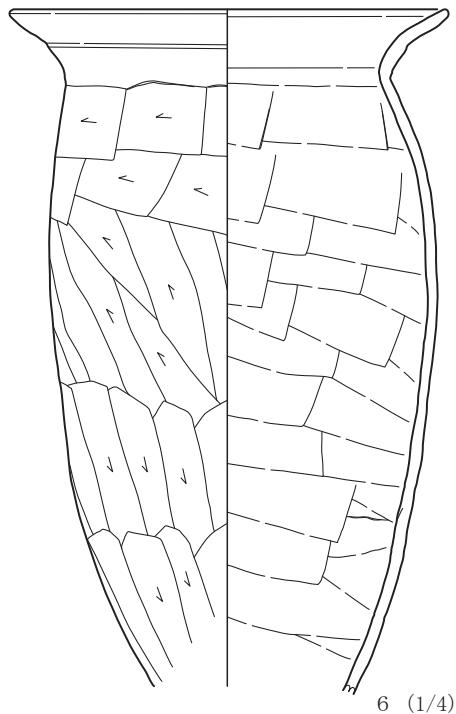


Fig.72 5区出土遺物（6）

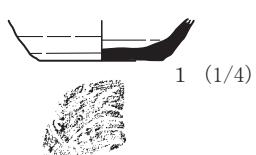
5区H-15号竪穴建物跡（2）



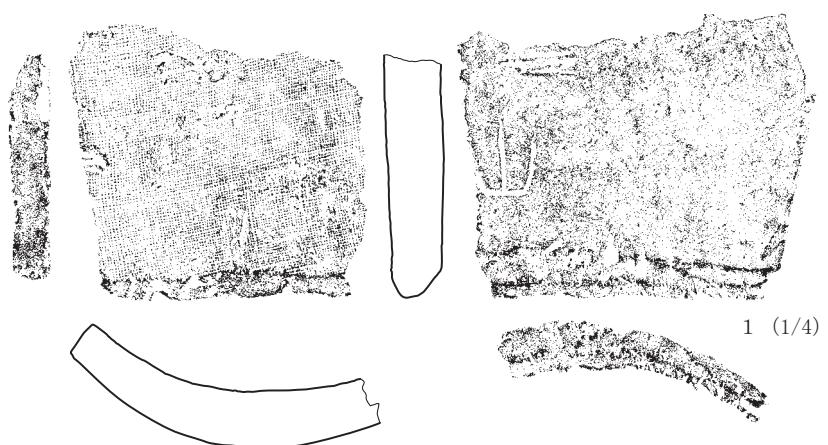
5区H-16号竪穴建物跡



5区W-1号溝跡



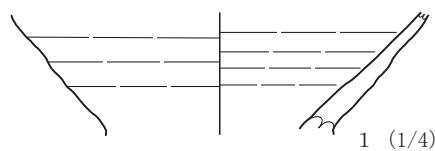
5区W-4号溝跡



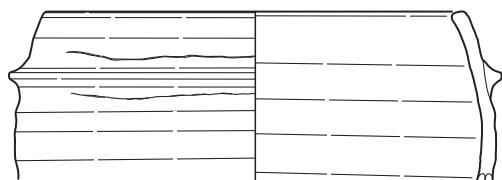
0 10cm
1 : 4

Fig.73 5区出土遺物（7）

5区O-1号落ち込み



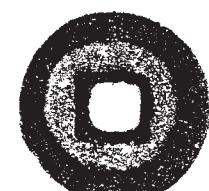
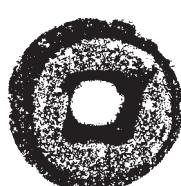
5区D-2号土坑



5区D-7号土坑

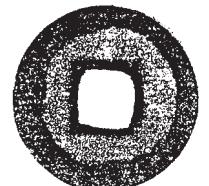
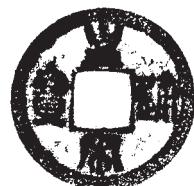
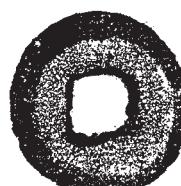
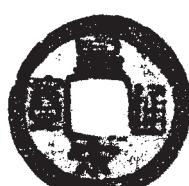


5区DB-1号土壤墓



1 (1/1)

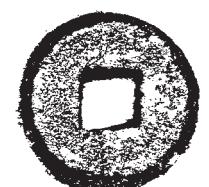
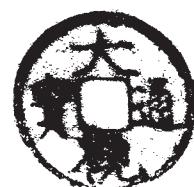
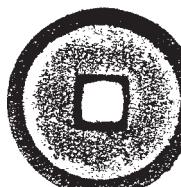
2 (1/1)



3 (1/1)

4 (1/1)

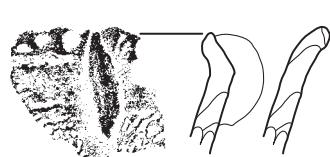
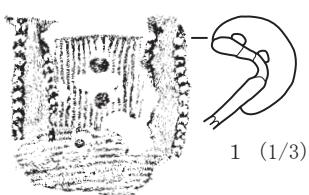
5区DB-2号土壤墓



5 (1/1)

1 (1/1)

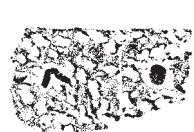
5区遺構外 (1)



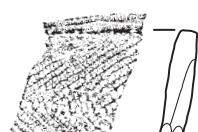
1 (1/3)

2 (1/3)

3 (1/3)



4 (1/3)



5 (1/3)

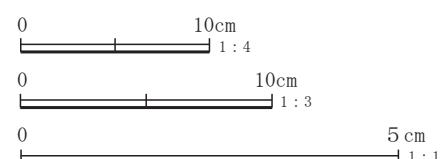
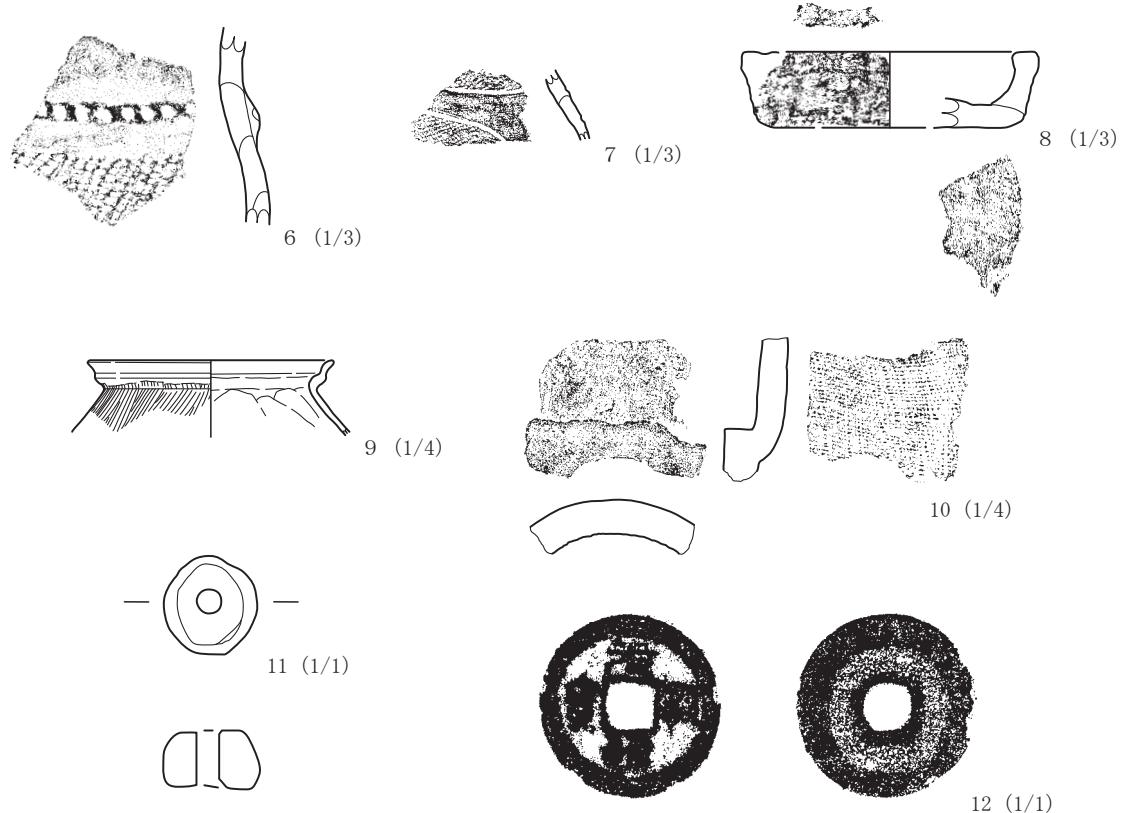
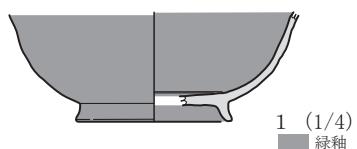


Fig.74 5区出土遺物 (8)

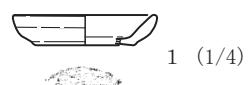
5区遺構外（2）



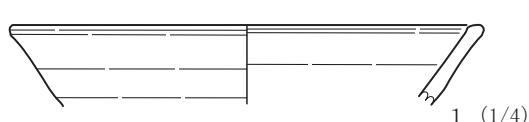
6区H-1号竪穴建物跡



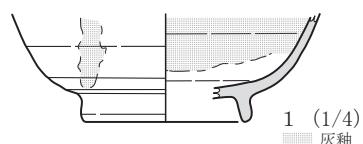
6区I-1号井戸跡



6区P-17号ピット



6区P-55号ピット



7区W-3号溝跡（1）

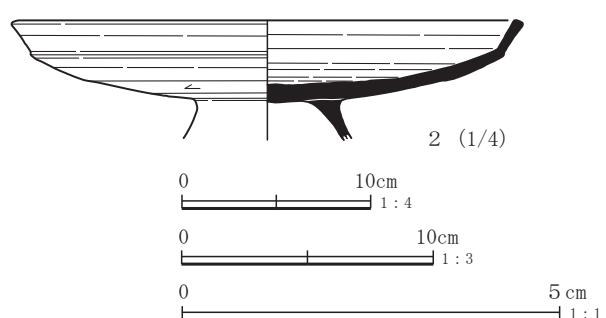
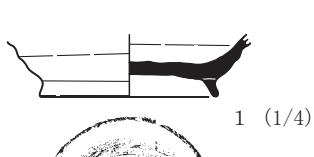
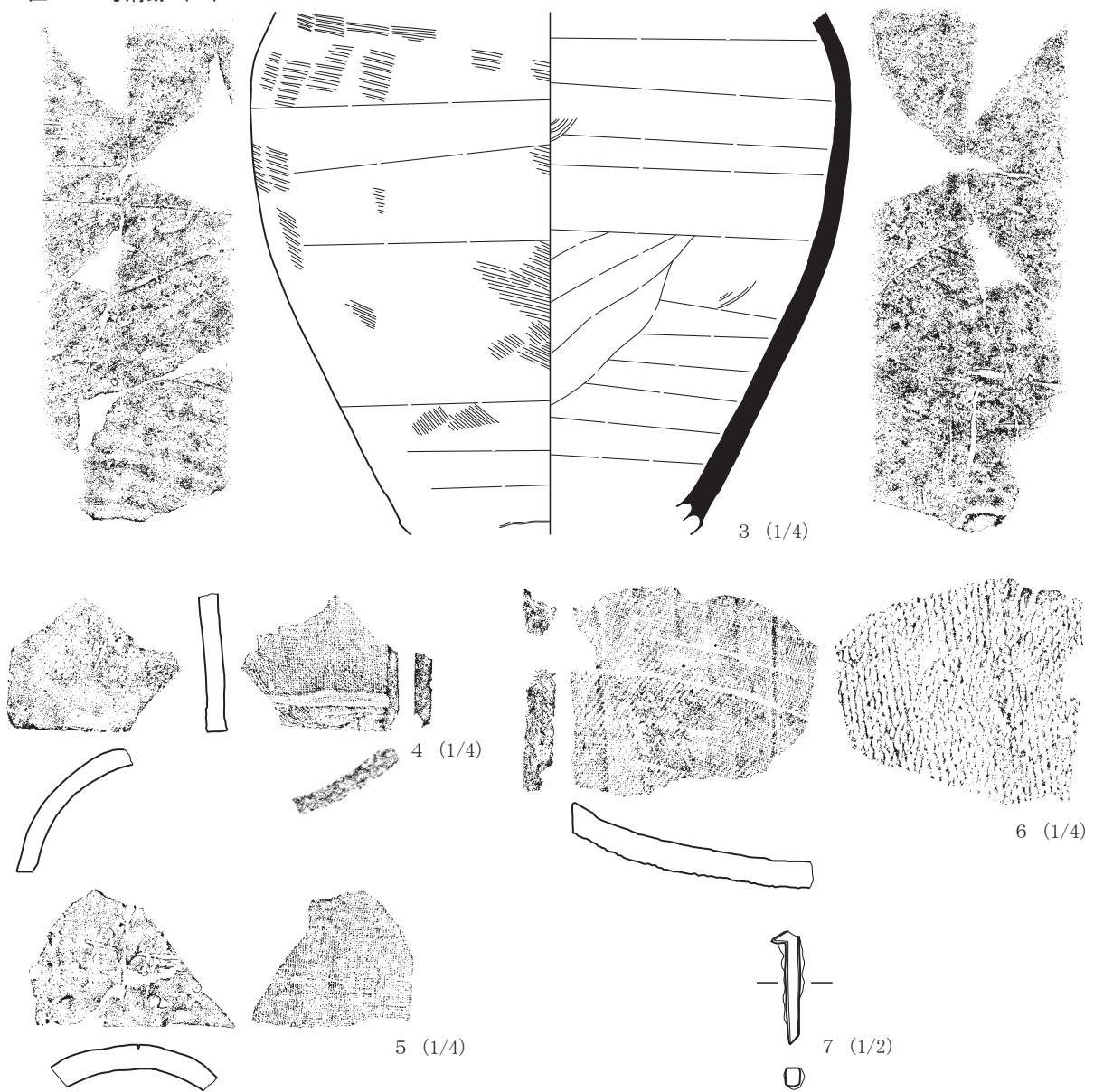


Fig.75 5区出土遺物（9）、6区出土遺物、7区出土遺物（1）

7区W-3号溝跡（2）



7区D-1号土坑

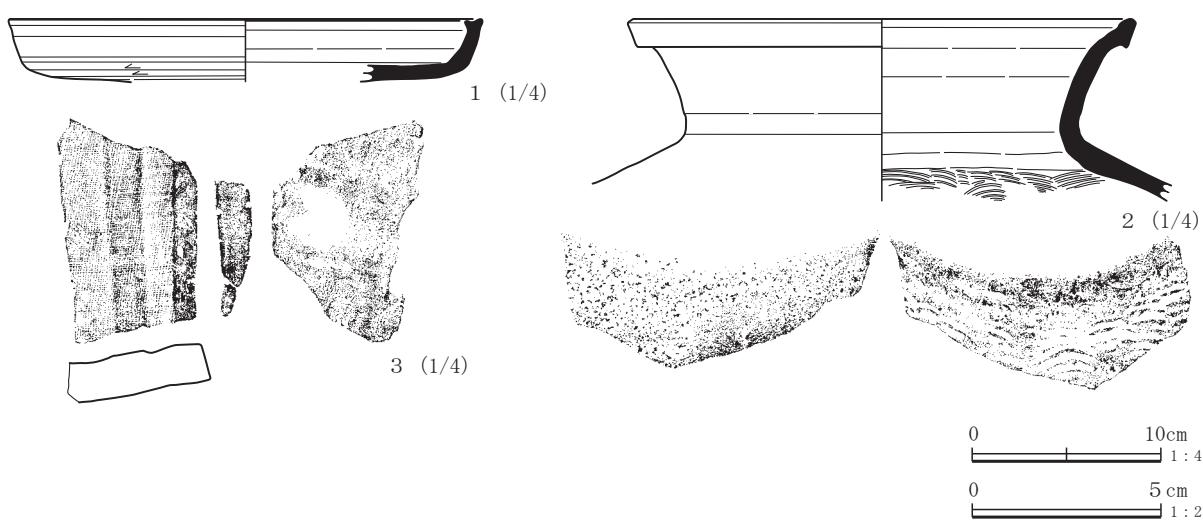
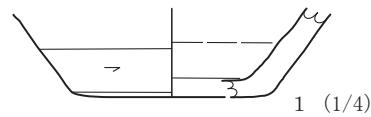
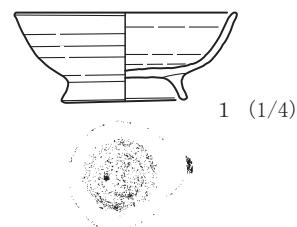


Fig.76 7区出土遺物（2）

7区D-3号土坑



7区D-B-1号土壤墓



8区H-1号竖穴建物跡 (1)

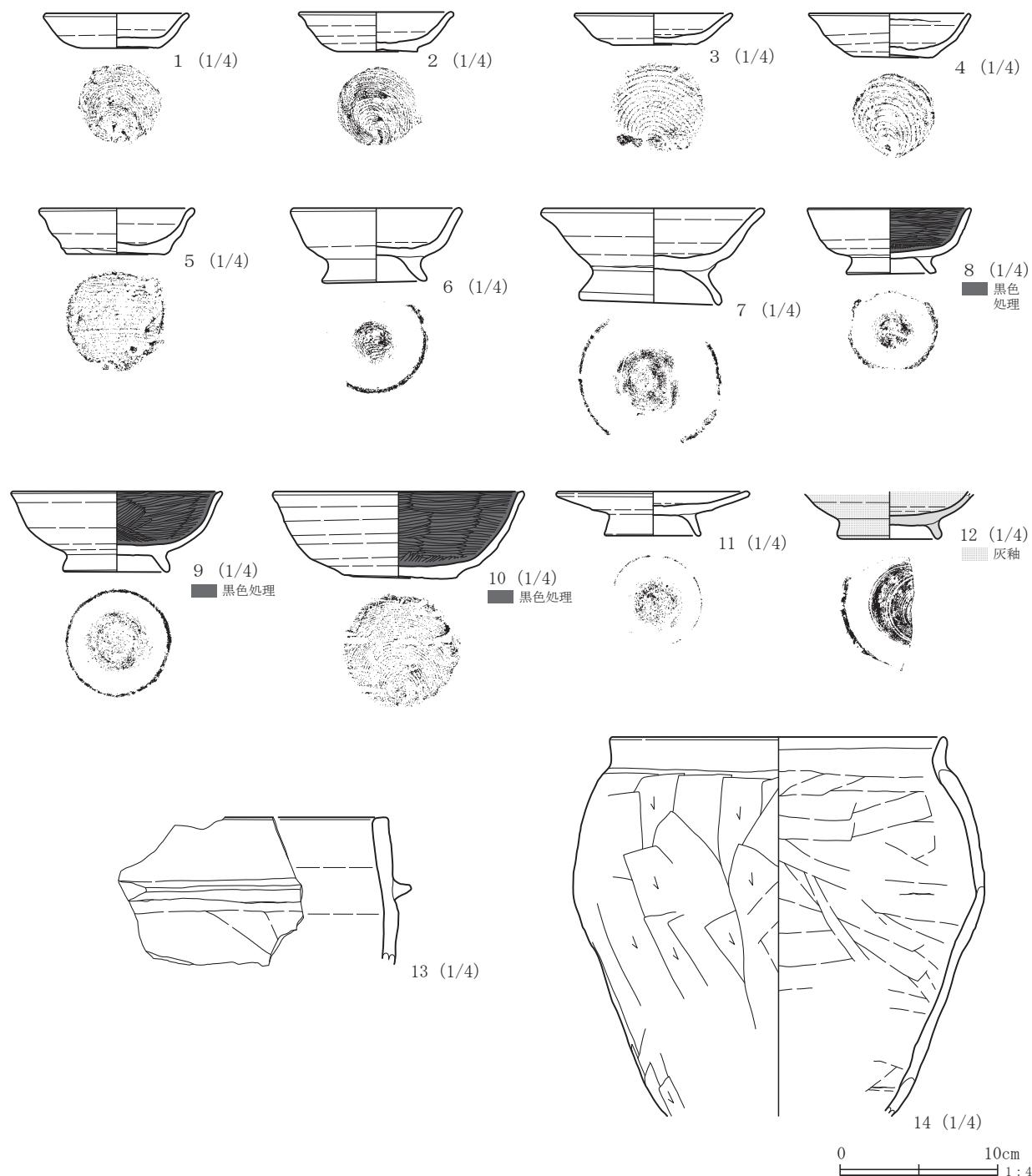


Fig.77 7区出土遺物 (3)、8区出土遺物 (1)

8区H-1号竪穴建物跡（2）

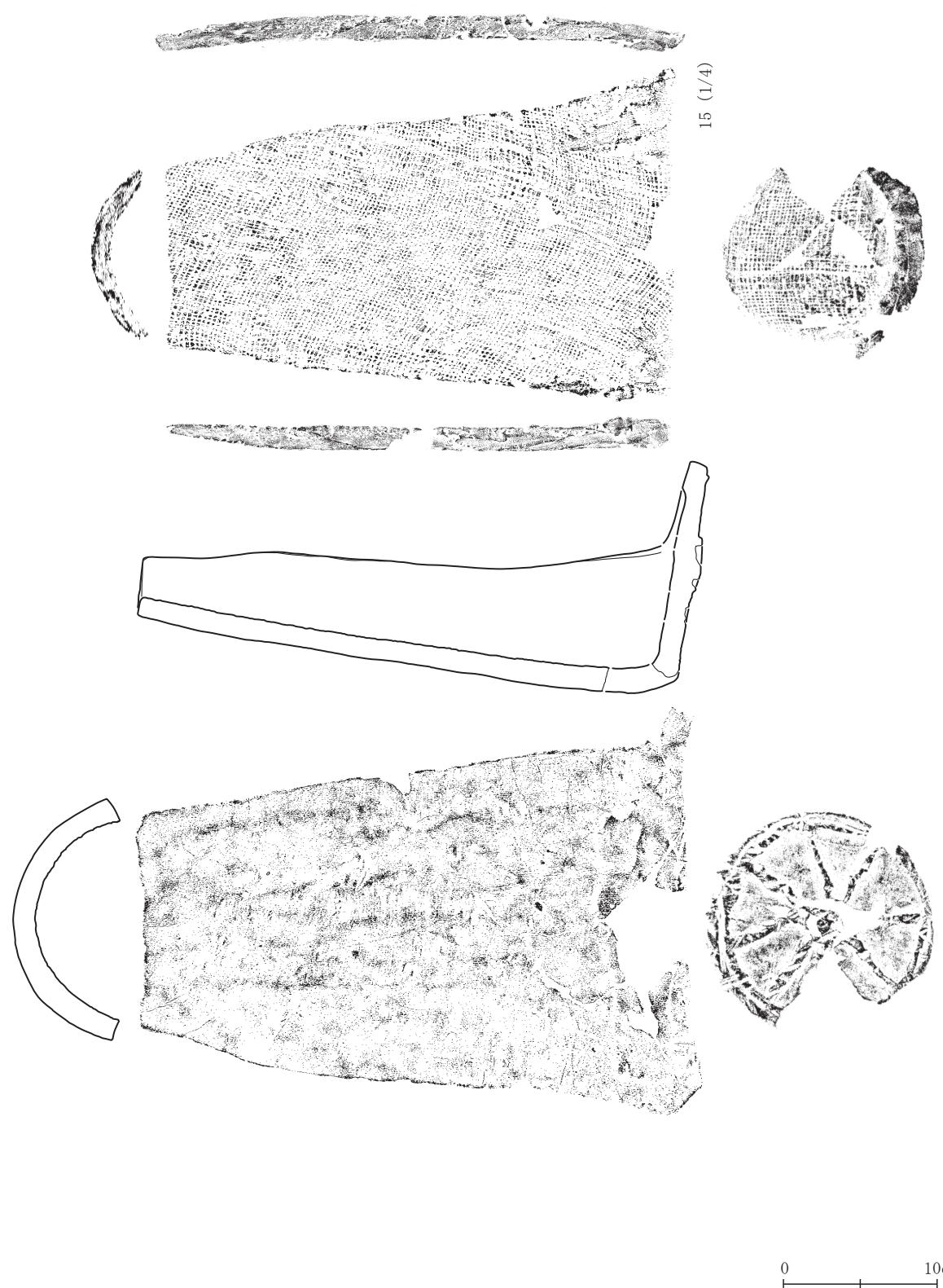
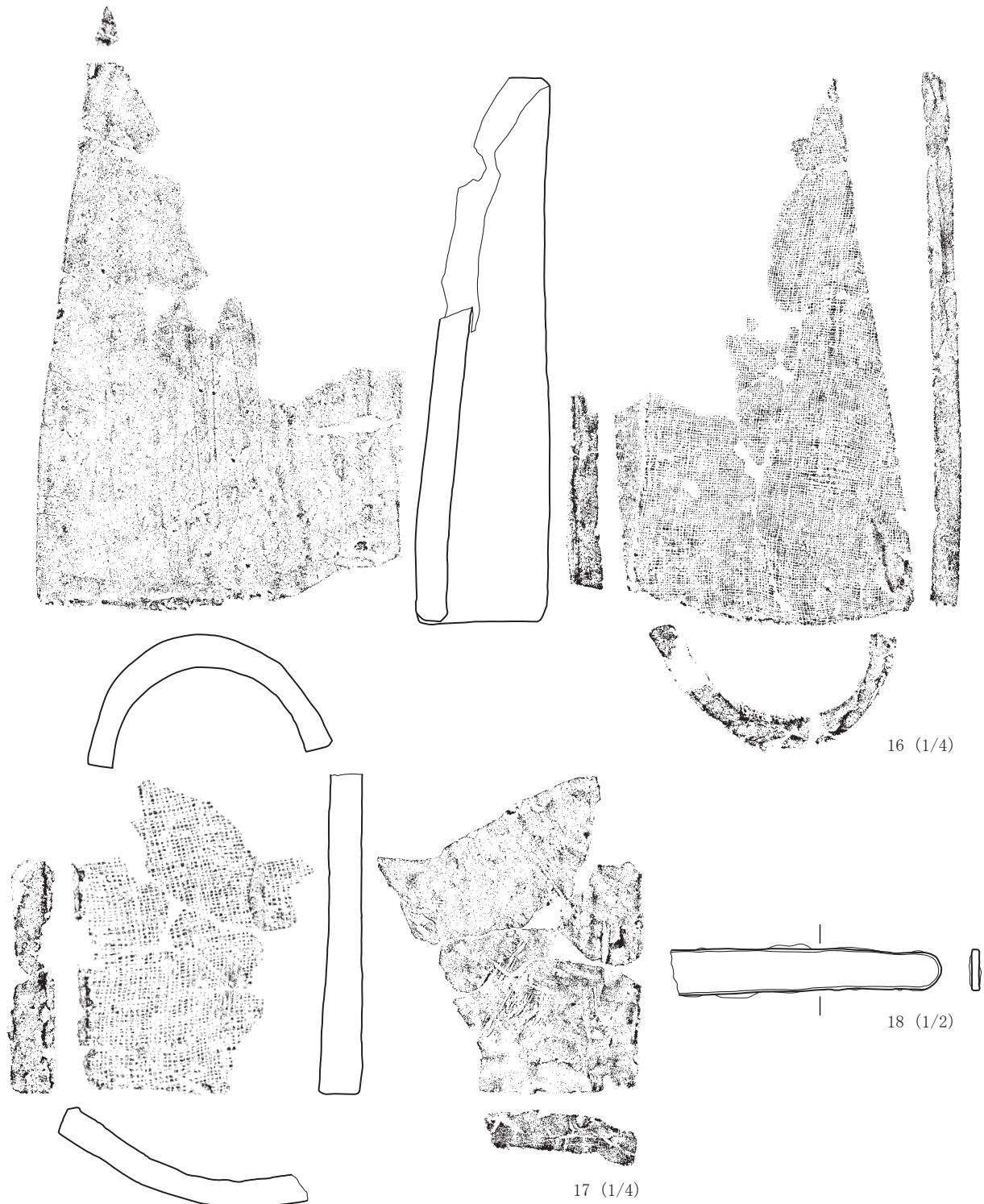


Fig.78 8区出土遺物（2）

8区H-1号竪穴建物跡（3）



8区H-2号竪穴建物跡（1）

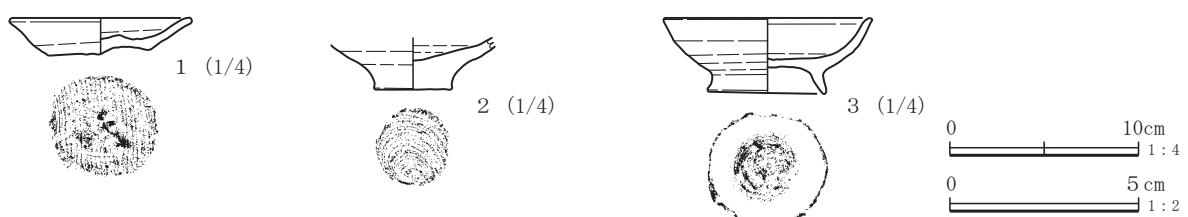


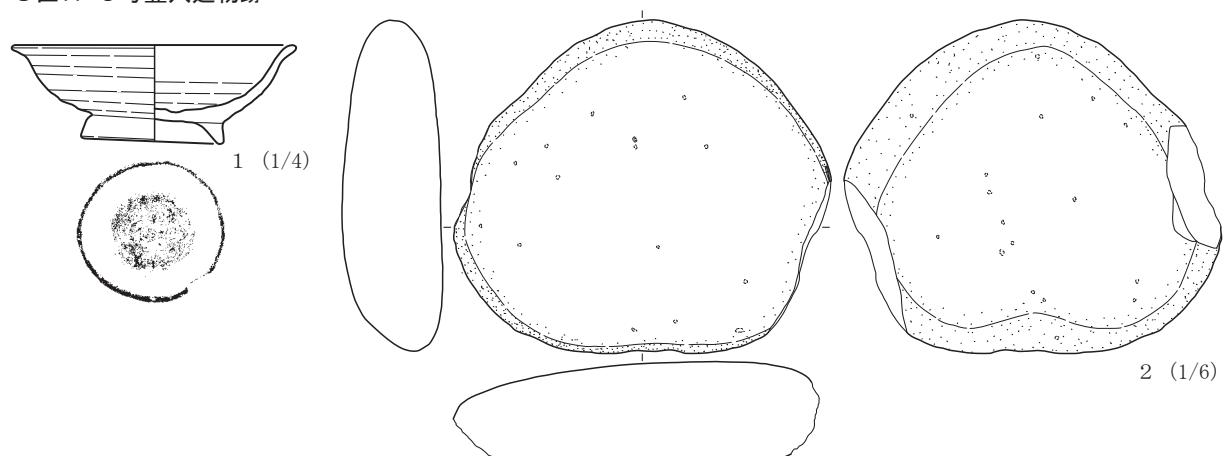
Fig.79 8区出土遺物（3）

8区H-2号竪穴建物跡（2）



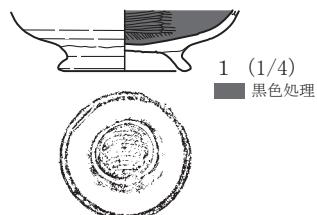
4 (1/4)

8区H-3号竪穴建物跡



2 (1/6)

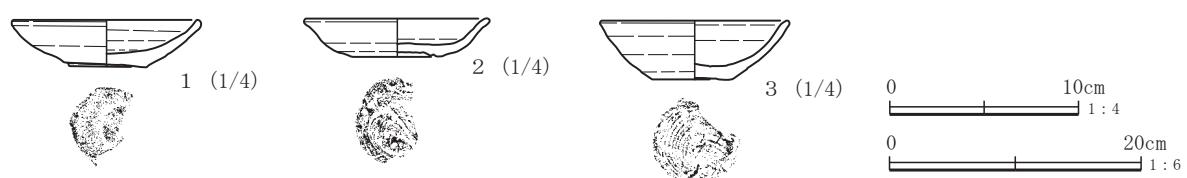
8区H-4号竪穴建物跡



1 (1/4)

■ 黒色処理

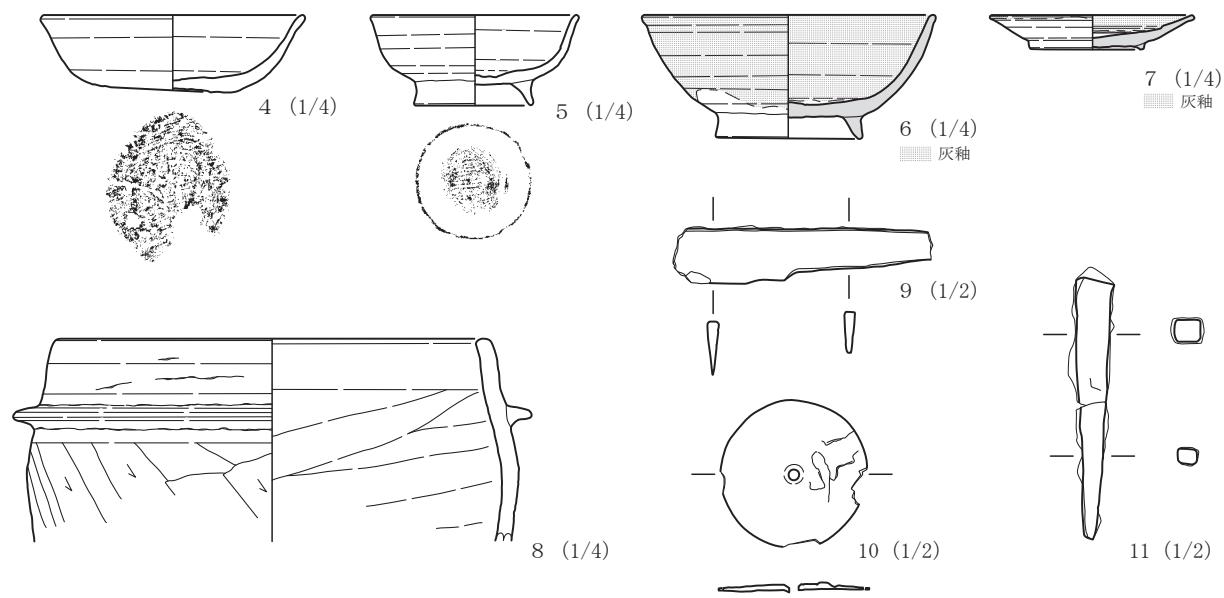
8区H-6号竪穴建物跡（1）



0 10cm 1 : 4
0 20cm 1 : 6

Fig.80 8区出土遺物（4）

8区H-6号竪穴建物跡（2）



8区H-7号竪穴建物跡

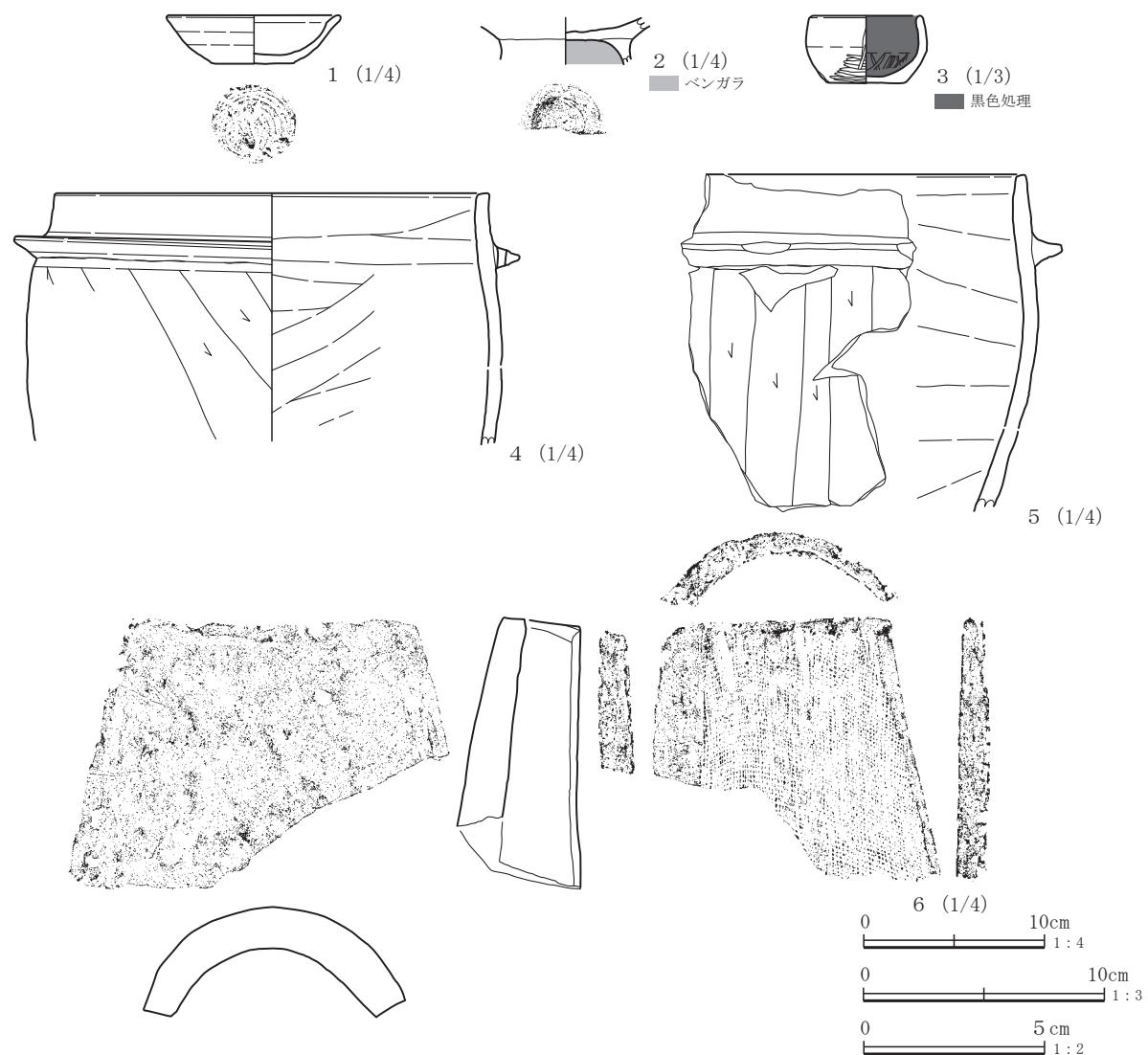
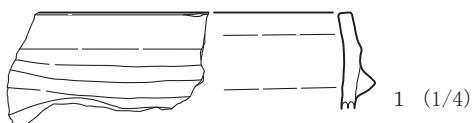
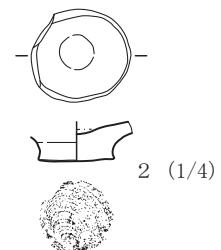
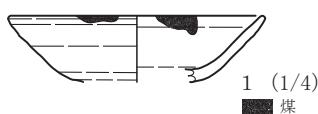


Fig.81 8区出土遺物(5)

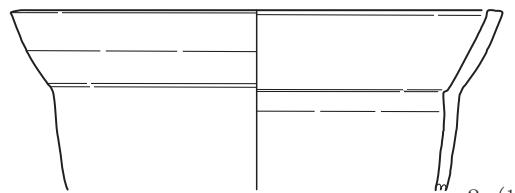
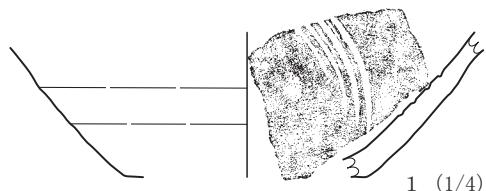
8区H-9号竪穴建物跡



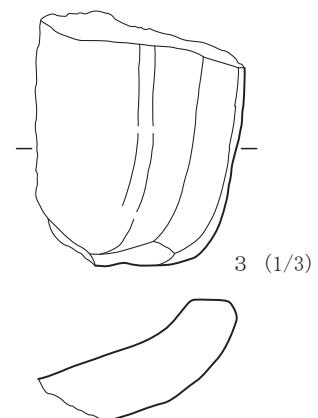
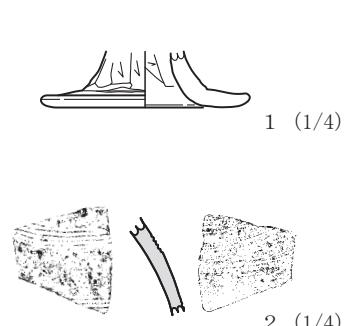
8区H-11号竪穴建物跡



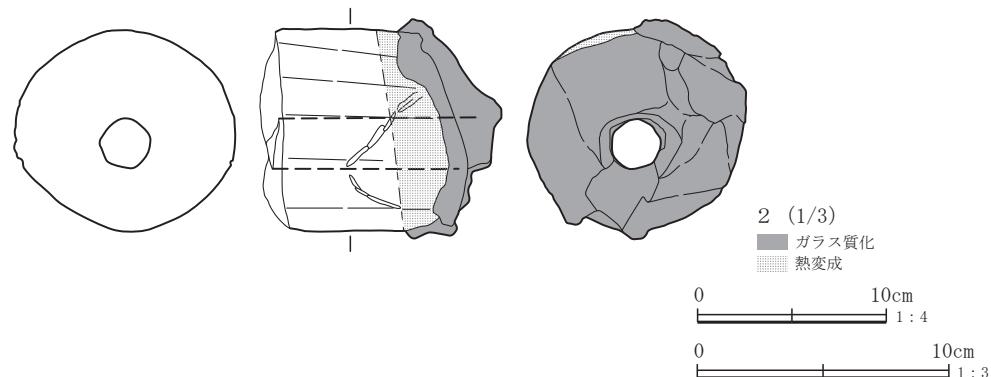
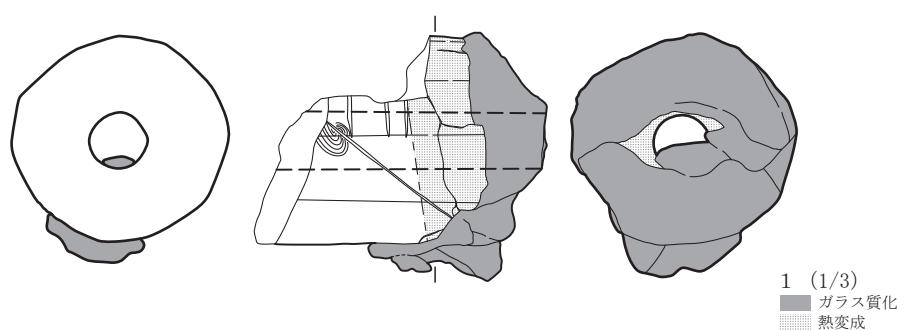
8区W-1号溝跡



8区W-4号溝跡



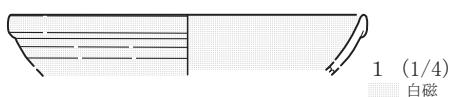
8区I-1号井戸跡



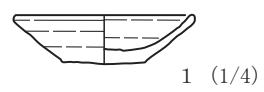
0 10cm 1:4
0 10cm 1:3

Fig.82 8区出土遺物 (6)

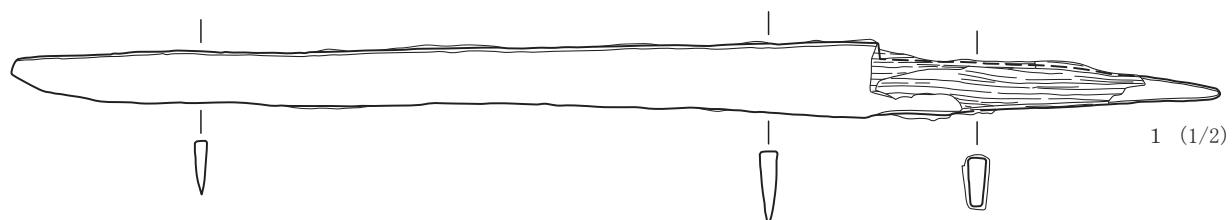
8区D-1号土坑



8区D-2号土坑



8区P-4号ピット



8区遺構外

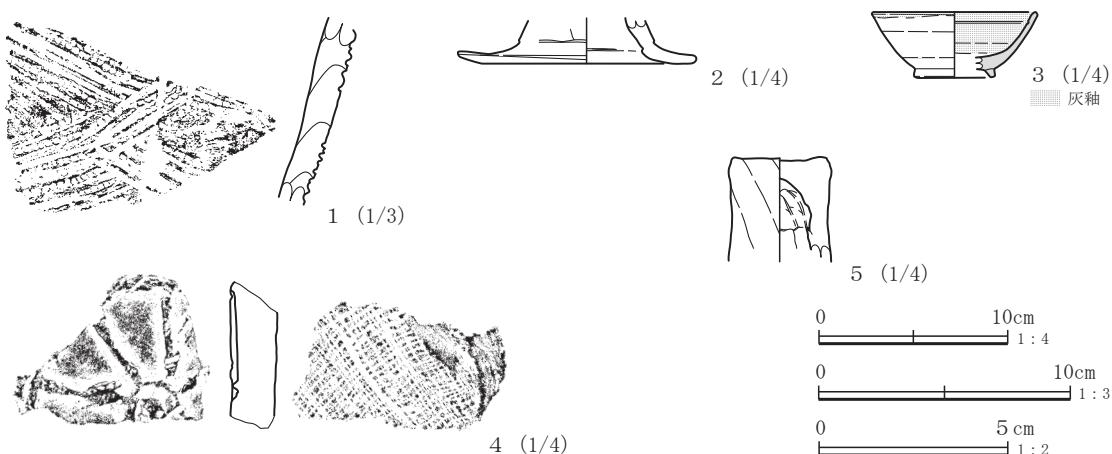


Fig.83 8区出土遺物(7)

VI まとめ

元総社蒼海遺跡群（146）では、全8区の調査区で発掘調査を実施し、古墳時代から平安時代にかけての集落跡や中世の蒼海域に関連する遺構等を検出した中で、特筆すべき遺構として8区にて官衙に関連すると見られる礎石建物跡を検出した。本章では、この礎石建物跡とそれに関連する調査成果について総括する。

（1）8区B-1号礎石建物跡について

8区で検出したB-1号礎石建物跡は、布地業を伴うものであり、外周を約1m幅で枠形に掘り囲んだ地業が施されている。本調査では南半面が調査区外となってしまっているため「コ」の字状に廻っている状態でしか確認できなかったが、令和4年度上野国府等範囲内容確認調査⁽¹⁾で延伸と南東隅を検出したため、「口」の字状に廻ることが確認できた。令和4年度に検出した延伸を含めると、規模は東西12.7m、南北7.8mを測る。そして、「口」の字に囲われた外周の内側にもまた、約1.2～3m幅の間隔で、同じく約1m幅の帯状の地業が南北方向に3条施されていた。柱穴や礎石の据え付け痕等は見られなかつたが、地業の形状から推測するに、桁行5間、梁行3間の建物と見られる。B-1-3、B-1-4の間はH-6号竪穴建物跡、I-1号井戸跡に壊されているため大きく間隔が空いているが、建物の構造を考えると本来はこの位置にも束柱列が存在し、もう1条地業が施されていたものと見られ、帯状の地業は全部で4条あったと考えられる。また、傾きは正方位から12°西に傾いた状態で検出されている。

出土遺物は地業層内から土師器・須恵器の小破片が出土しているが、本遺構の時期については判定が困難な状況であった。ただし、本遺構を壊している遺構はいずれも10世紀以降のものであったため、少なくとも10世紀代には建物としての役割を終えていたものと考えられる。また、本遺構の下層には遺構が見られなかつたため、上限についても考察することは難しいが、小破片であるため図示はしなかつたものの、7世紀後半頃と思われる土師器壺が地業層から出土していることから、この時期より古くはならないことが考えられる。ところで、本遺構を壊している竪穴建物跡について、1号竪穴建物跡や6号竪穴建物跡はB-1-1の内側に構築されており、壁の建ち上がりは掘込地業の建ち上がりとほぼ同位置にある。堅い地業層を避けるように掘り込まれている点は興味深く、礎石建物廃絶後、地業の位置を把握したうえで竪穴建物を構築したものと推測される。したがって、これらの竪穴建物跡は本遺構が廃絶してから大きく時間は空いていない時期に構築されたものと考えられる。

本調査区周辺に目を向けると、本遺構と非常に類似した例が元総社蒼海遺跡群（136）（以下蒼海（○○）と略す。）A区で見られる。蒼海（136）で検出されたB-1号建物跡は、本遺構から8.1m東に位置しており、建物の規模は東西12.6m、南北7.8m、桁行5間、梁行3間と共に通し、布地業の形状もほぼ同一と言ってよいほど似通っている。建物の傾きが正方位から西に11°程傾く点も似通っている。

この二つの建物跡は規模や構造がほとんど同等であるうえに、南北の側柱の柱筋が一直線に並ぶ並列配置をとっていることから、同時期に建てられた一連の建物群に属しているものと考えられる。掘込地業が施された礎石建ちの建物であることから、官衙に関連した建物であったことが想定され、そのような性格を持った建物群であるとするならば、本調査で検出したような規模・形状の建物跡が同時期に2棟のみであることは考えにくく、周辺に同等の建物が複数棟建っていたであろうことが推測される。その場合、本遺構よりも西側では礎石建物跡の検出はなかつたため、東西方向へ建物が並び建っていたものと仮定すると、本遺構は最も西側に位置した棟と考えができる。ただし、2棟の棟間距離は8.1mとやや狭い印象を受けるため、同時期並存としての可能性は高いものの、一抹の疑問も残る。これについては、今後の調査で同等の棟間距離をとる事例の登場に期待したい。

ここで、2つの礎石建物跡の傾きについて着目したい。前述の通り、2棟に共通している点は正方位から10°

程度西への傾きを持つ点である。これに対応する傾きを持った古代の大溝が、本調査8区の南で検出されている。蒼海(95)2・3号溝跡がこれに該当し、2号溝跡は西に13°傾き、3号溝跡は15°傾く。その延伸は上野国府範囲内容確認調査47トレンチ(以下国府○○トレンチと略す)2・3号溝跡、国府67トレンチ1号溝跡、国府68トレンチ1号溝跡として確認されており、これら2条の溝跡は古代の区画溝と考えられている(前橋市教育委員会 2018)。2条はほぼ同一の位置に重複しており、蒼海(95)3号溝跡の上位に2号溝跡が走行することから、掘り直しの可能性が指摘されている(前橋市教育委員会 2015)。上位の2号溝跡は、9世紀後半には使用されなくなったものと考えられており、本遺構も前述のとおり10世紀代には既に廃絶していたであろうことを考慮すると、前述の2棟と同時期に並存した溝跡である可能性は高い。この東西方向に走行する区画溝の傾きに準拠して2棟以上の建物群が形成されていったものと仮定すると、本遺構を含めた2棟は区画溝から北に10.9mと近接した位置にあるため、この区画溝に区切られた建物群の中で最も南に位置している建物列を考えることもできる。

また、本調査区より17m北方の地点に位置する国府73トレンチでも1号礎石建物跡と報告されている、10°西へ傾く布地業を伴った礎石建物跡が検出されており、規模は東西13.2m、南北8.8mを測り、本遺構と類似している。しかし、こちらの建物跡では外周の内側に施される帯状の地業は検出されておらず、構造の面で差異が見られるため、同一の建物群に属するかについては断定できないが、傾きが区画溝に沿ったものである点については注目すべきである。

本遺構は、近年宮鍋神社周辺で相次いで検出されている複数の建物跡の一つに数えられ、上野国府をはじめとする官衙に関連している可能性が示唆される。今回検出したものを含め、これまでの調査成果から、各建物跡の関連性や性格についての解明が今後の課題として挙げられる。

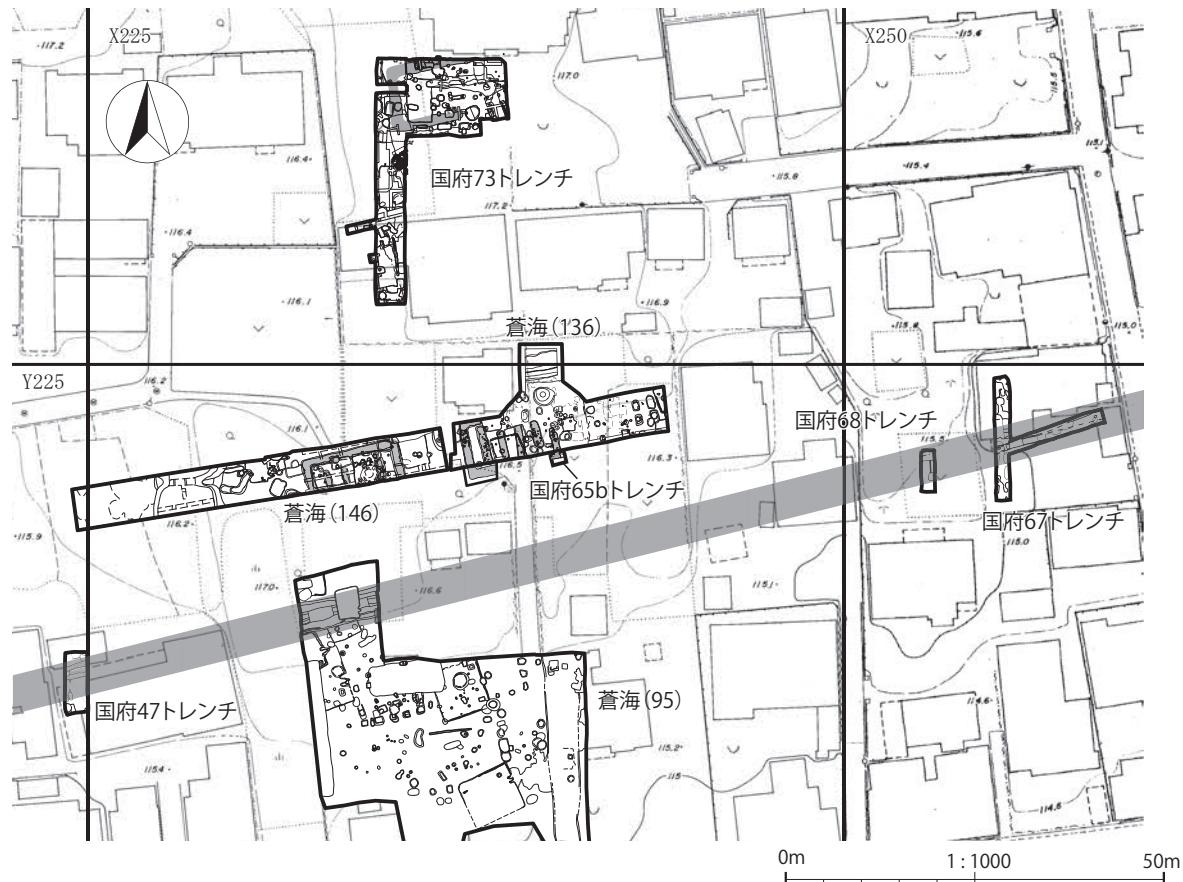


図1 宮鍋神社周辺における布地業を伴う礎石建物跡と古代大溝跡の検出位置図

(2) 8区出土の高坏について

礎石建物跡を壊しているW-4号溝跡や8区遺構外から、酸化焰焼成の高坏の底部が出土している。この高坏は特徴的な造りをしており、同様の特徴を持ったものは宮鍋神社以南でのみ出土している。その他の場所での出土例は報告されておらず、上野国府域の特徴的な遺物の一つとして挙げられるため、本項ではこの高坏について取り上げる。

8区出土の高坏は、底部の中央が空洞となっており、失われている脚部から坏部の中央まで穿孔したものであろうと考えられる。時期は10世紀頃と考えられ、本調査8区のB-1号礎石建物跡が廃絶した後の年代に帰属する。

類似した遺物は蒼海(99)、(133)から出土しており、元総社小学校で出土したと伝えられる遺物にも同様のものが存在する。蒼海(99)ではほぼ完形に近い状態で出土しているため、その全容を捉えることができる。蒼海(99)ほかで出土している高坏は、白色の土師質で胎土は粗く、底部と脚部、脚部と坏部の連結部には面取りをしたような縦方向の箇削り痕が見られる。さらにそこへ前述したような底部から坏部までの穿孔が見られるのが特徴で、この形状は木器を模したものと考えられる。今回出土した2点の高坏片も、器形としては過年度の調査で出土したものと同様のものと考えられるが、異なる点も見られる。

一点は、法量の違いである。下図に示した蒼海(99)出土の高坏は、底部の直径17.2cmを測っており、蒼海(133)では底部・坏部ではなく脚部のみの出土であったが、蒼海(99)とほぼ同等の直径をもつ脚部のため、遺物全体の大きさも同等のものと推測できる。それに対して、本調査で出土した2点は直径11cmと一回り小さいものとなっている。今回は脚部・坏部ともに出土しなかったためそれぞれの部位ごとの大きさは不明だが、脚部ほかも底部の直径に比例するものと考えれば、これまで出土したものよりも、やはり一回りほど小さな物となる。

もう一点は、胎土の色調である。これまで白色のものだけが出土してきたが、本調査で出土したものはいずれも浅黄橙色を呈しており、土師器により近い色調となっている。以上の2点の特徴は、これまで見つかっている高坏の変種であることを示していると考えられ、こうして変種の例は今回が初めてのこととなる。未だ用途等が不明な点もあるが、上野国府域を特徴付ける高坏にいくつかの変種が存在することを示唆する史料として新たな発見と言えるのではないだろうか。

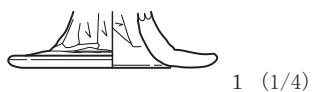


図2 蒼海(146)8区W-4号溝跡出土遺物

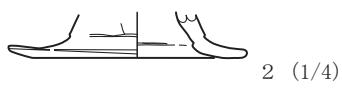


図3 蒼海(146)8区遺構外出土遺物

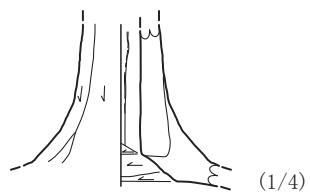


図4 蒼海(133)O-1号落ち込み出土遺物

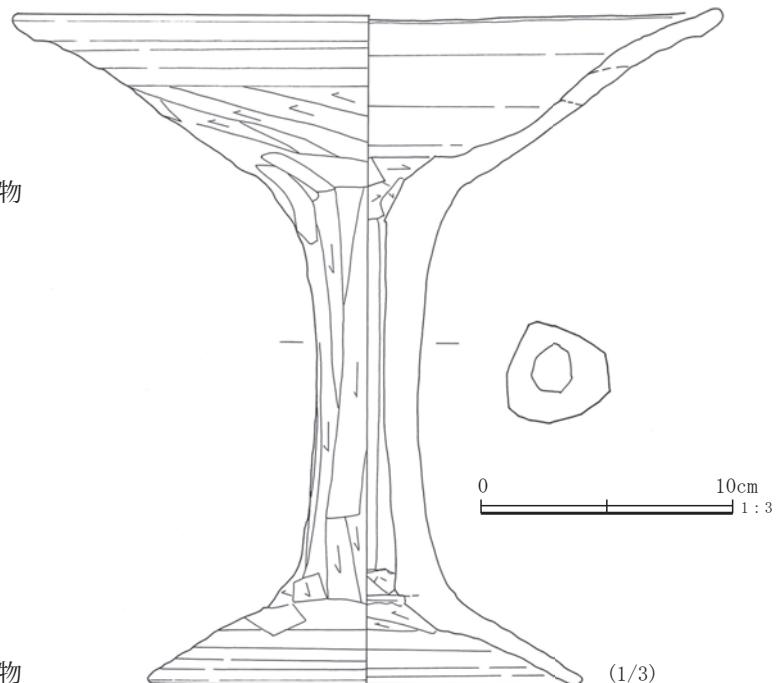


図5 蒼海(99)W-1号溝跡出土遺物

(3) 国分尼寺伽藍地南辺区画溝について

古代の寺院に関連する遺構として、4区にて上野国分尼寺伽藍地南辺区画溝と推定される溝跡を検出した。本項では、過年度調査の成果と併せて、本調査での成果を述べたい。

上野国分尼寺の寺域は前橋市と高崎市の市境に位置しているが、主な部分は高崎市域に属しており、平成28年度から5か年に亘って、高崎市教育委員会による範囲内容確認調査が実施された。その一方で、寺域の南限は前橋市域に属していると想定されてきた。平成11年度から12年度にかけて、前橋市埋蔵文化財発掘調査団によって実施された範囲確認調査の結果、築地塀の明確な痕跡は検出されなかったものの、その外周にあたる位置で上幅5.5m、下幅4.2mを測り、東西方向に走行する古代の大溝が検出された。また、その大溝の南方では、幅5m程を測り、南限に2.4m幅の側溝を持った道路跡も検出されている。さらに、平成30年度に調査が実施された国府61a・bトレーナーでも、東西方向に走行する大溝が検出されており、平成11・12年度に検出された大溝と同一のものとなる。この大溝は国分尼寺伽藍地南辺区画溝と認められており、寺院の廃絶後、維持管理が行われなくなったことで徐々に埋没していったものと見られている。また、覆土の上位に道路面として使用されていた痕跡が見られた上、現況の市道とほぼ同一の位置で検出されていることから、南辺区画溝が廃絶した後の地割が道路となったと考えられている（前橋市教育委員会 2020）。

本年度調査4区はその市道の先、平成11年度範囲確認調査6トレーナーの40m程西に位置し、伽藍地南辺と西辺の交差地点と予測されてきた。今回の調査では土層断面のみの確認となったが、調査区東壁で上幅約2.5mを測る逆台形の断面を呈したW-1号溝跡を検出し、これが南辺区画溝に推定された。それとともに、区画溝は過年度調査地点から本調査区地点まで西へ延伸していたことを認めることができた。W-1号溝跡は調査区西壁で検出がなかったため、調査区内で終息するか、あるいは北へ屈曲して西辺区画溝と合流し、築地塀の外側を廻っていくことが考えられた。いずれにしても、上野国分尼寺伽藍地南辺区画溝の西端は本調査区での検出地点となり、この発見は尼寺寺域範囲の解明に貢献できる調査成果と言えるだろう。

(4) まとめ

以上に述べた通り、今回の調査では布地業を伴う礎石建物跡をはじめとし、上野国府域における古代の様相を示す遺構・遺物を複数検出した。過年度の調査成果にも同時に目を向けていくと、徐々にではあるが、官衙関係施設の性格を裏付けるような断片的な史料が集まりつつあるように思える。本稿でその核心に迫るには時期尚早であるため断言を控えるが、今回の調査成果を足がかりとしてさらなる関連遺構が検出されることを期待とともに、これまで得られた情報を集約し、全容を明らかにするための検討が急務となる。

(1) 令和4年度上野国府等範囲内容確認調査は本稿執筆時現在、調査途中であり未報告

【主要参考文献】

- 前橋市教育委員会 2009『元総社蒼海遺跡群(20)』
- 前橋市教育委員会 2015『元総社蒼海遺跡群(91)・(95)・(102)』
- 前橋市教育委員会 2016『元総社蒼海遺跡群(99)』
- 前橋市教育委員会 2021『元総社蒼海遺跡群(133)』
- 前橋市教育委員会 2020『元総社蒼海遺跡群(136)』
- 前橋市教育委員会 2018『推定上野国府～平成28年度発掘調査報告書～』上野国府等範囲内容確認調査報告書VI
- 前橋市教育委員会 2020『推定上野国府～平成30年度発掘調査報告書～』上野国府等範囲内容確認調査報告書VII
- 前橋市教育委員会 2021『推定上野国府～令和元年度発掘調査報告書～』上野国府等範囲内容確認調査報告書IX
- 前橋市教育委員会 2022『推定上野国府～令和2年度発掘調査報告書～』上野国府等範囲内容確認調査報告書X
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2000 上野国分尼寺寺域確認調査
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2000 上野国分尼寺寺域確認調査II
- 奈良文化財研究所 2003『古代の官衙遺跡』〈I 遺構編〉

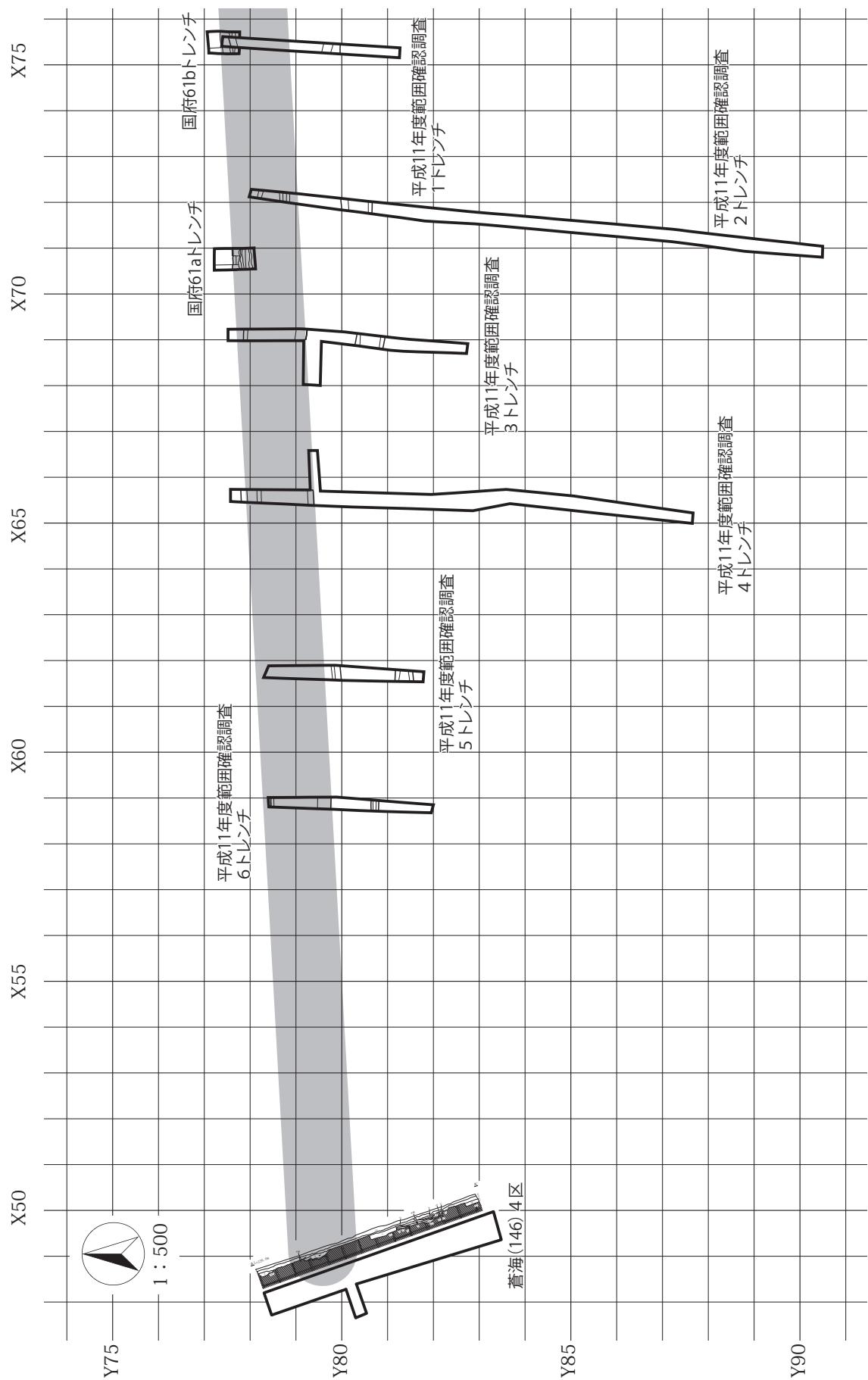


図6 上野国分尼寺伽藍地南辺区画溝検出範囲

写真図版



1 1区H-1・5号竪穴建物跡全景（南から）



2 1区H-1号竪穴建物跡竪a遺物出土状況
(西から)



3 1区H-2・3号竪穴建物跡全景（南から）



4 1区H-4号竪穴建物跡全景（南から）



5 1区調査区東西トレンチ西側全景（西から）



6 1区調査区東西トレンチ東側全景（西から）



1 1区畝状遺構全景（北から）



2 2区H-1号竖穴建物跡全景（北西から）



3 2区H-2号竖穴建物跡全景（南から）



4 2区H-3号竖穴建物跡全景（南から）



5 2区H-3号竖穴建物跡遺物出土状況①

6 2区H-3号竖穴建物跡遺物出土状況②
(南から)

7 2区I-1号井戸跡全景（南から）



1 2区調査区全景（東から）



2 3区D-1号土坑全景（東から）



3 3区調査区全景（東から）



4 4区W-2号溝跡全景（西から）



5 5区H-1号竪穴建物跡全景（西から）



6 5区H-1号竪穴建物跡竈全景（西から）



1 5区H-1号竪穴建物跡遺物出土状況
(南西から)



2 5区H-2号竪穴建物跡全景(西から)



3 5区H-2号竪穴建物跡竈全景(西から)



4 5区H-2号竪穴建物跡遺物出土状況
(西から)



5 5区H-4号竪穴建物跡全景(南西から)



6 5区H-4号竪穴建物跡遺物出土状況
(南から)



7 5区H-5号竪穴建物跡全景(南西から)



8 5区H-5号竪穴建物跡遺物出土状況
(南から)



1 5区H-7号竪穴建物跡北面全景（南西から）



2 5区H-7号竪穴建物跡南面全景（南東から）



3 5区H-9号竪穴建物跡全景（西から）



4 5区H-9号竪穴建物跡竈全景（西から）



5 5区H-10号竪穴建物跡全景（西から）



7 5区H-13号竪穴建物跡全景（北西から）



6 5区H-11号竪穴建物跡全景（西から）



1 5区H-14号竪穴建物跡全景（南西から）



2 5区H-15号竪穴建物跡全景（東から）



3 5区H-15号竪穴建物跡竈全景（東から）

4 5区H-15号竪穴建物跡遺物出土状況
(北から)

5 5区H-16号竪穴建物跡全景（南西から）



6 5区H-16号竪穴建物跡竈全景（南西から）



7 5区J-1号竪穴建物跡全景（北東から）



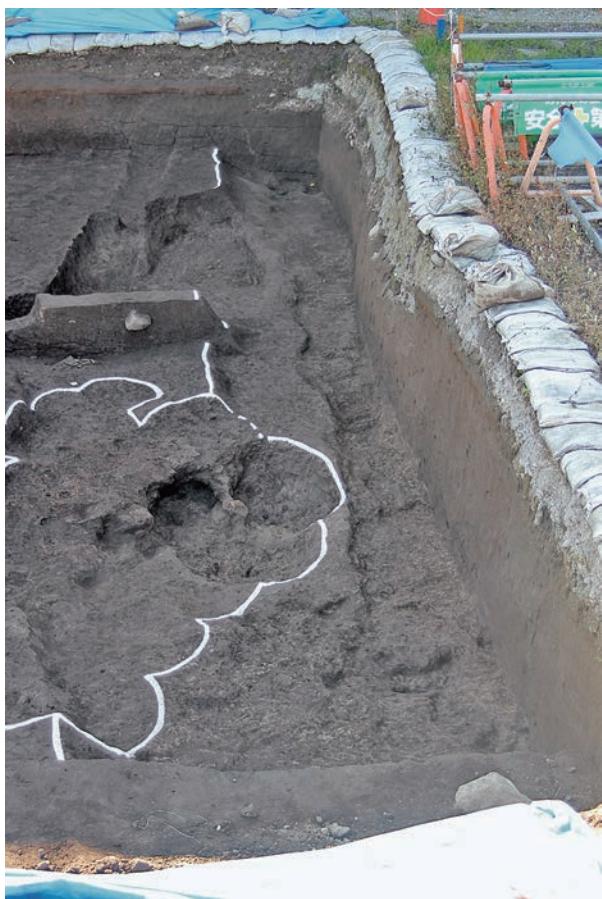
8 5区J-1号竪穴建物跡埋甕出土状況(北から)



1 5区W-1号溝跡全景（東から）



2 5区W-2号溝跡北面全景（北から）



3 5区W-2号溝跡南面全景（北から）



4 5区W-3・4・5号溝跡全景（北西から）



5 5区W-7号溝跡全景（西から）



1 5区粘土採掘坑全景（北西から）



2 5区O-1号落ち込み全景（南から）



3 5区DB-1号土壙墓全景（東から）



4 5区DB-2号土壙墓全景（東から）



5 5区調査区北面全景（西から）



6 5区調査区南面全景（西から）

7 6区H-1号竪穴建物跡遺物出土状況
(北西から)

8 6区I-1号井戸跡全景（北から）



1 6区調査区全景（南西から）



2 6区調査区全景（北から）



2 7区D-1号土坑全景（西から）



4 7区D-3号土坑全景（東から）



5 7区DB-1号土壙墓全景（東から）



6 7区DB-1号土壙墓遺物出土状況（東から）



7 7区W-1号溝跡全景（北から）



8 7区W-1号溝跡深掘部全景（南西から）



1 7区W-2号溝跡西面全景（東から）



2 7区W-2号溝跡東面全景（東から）



3 7区W-3号溝跡西面全景（東から）



4 7区W-3号溝跡東面全景（東から）



1 7区W-4号溝跡全景（北から）



2 7区調査区西面全景（東から）



3 7区調査区東面全景（西から）



4 8区H-1号竪穴建物跡全景（西から）



5 8区H-1号竪穴建物跡竈全景（北西から）



6 8区H-1号竪穴建物跡竈煙道部全景（北西から）



7 8区H-1号竪穴建物跡竈遺物出土状況（北西から）



1 8区H-1号竪穴建物跡煙道部遺物出土状況
(北西から)



2 8区H-2・3号竪穴建物跡全景 (北西から)



3 8区H-2号竪穴建物跡竪全景 (西から)



4 8区H-3号竪穴建物跡竪全景 (西から)



5 8区H-4号竪穴建物跡全景 (北西から)



6 8区H-4号竪穴建物跡竪全景 (西から)



7 8区H-5号竪穴建物跡全景 (北西から)



8 8区H-5号竪穴建物跡竪全景 (北西から)



1 8区H-6号竪穴建物跡全景（西から）



2 8区H-6号竪穴建物跡竈全景（西から）



3 8区H-6号竪穴建物跡遺物出土状況（西から）



4 8区H-7号竪穴建物跡全景（北西から）



5 8区H-7号竪穴建物跡竈全景（西から）



6 8区H-8号竪穴建物跡灰・焼土検出範囲（西から）



7 8区H-9号竪穴建物跡全景（北西から）



8 8区H-9号竪穴建物跡竈全景（西から）



1 8区H-10号竪穴建物跡全景（西から）



2 8区H-11号竪穴建物跡全景（西から）



3 8区I-1号井戸跡全景（西から）



4 8区I-2号井戸跡全景（北から）



5 8区P-4号ピット遺物出土状況（西から）



6 8区W-3号溝跡全景（南東から）



7 8区W-1号溝跡全景（東から）



8 8区W-1号溝跡北側深掘部全景（西から）



1 8区W-1号溝跡中央深掘部全景(北東から)



2 8区W-1号溝跡南側深掘部全景(北東から)



3 8区W-2号溝跡全景(東から)



4 8区W-4号溝跡全景(東から)



1 8区B-1-1 西辺土層断面（北西から）



2 8区B-1-1 北辺①土層断面（南から）



3 8区B-1-1 北辺②土層断面（南から）



4 8区B-1-1 北辺③土層断面（南から）



5 8区B-1-1 北辺④土層断面（南から）



6 8区B-1-1 北辺⑤土層断面（南から）



7 8区B-1-1 東辺土層断面（南西から）



8 8区B-1-2 土層断面（西から）



1 8区B-1-3 土層断面（北西から）



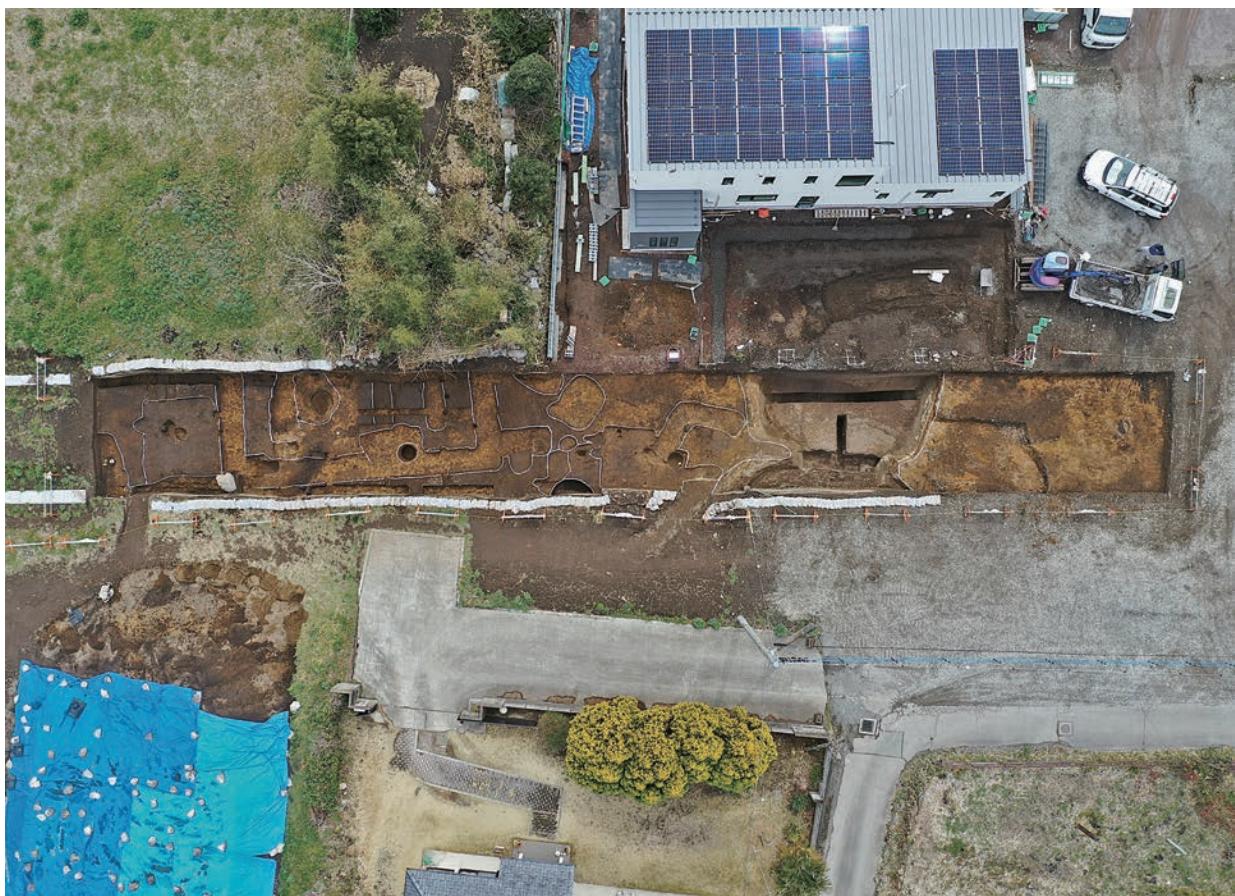
2 8区B-1-4 土層断面（西から）



3 8区W-4号溝跡巨石出土状況（西から）



4 8区W-4号溝跡巨石出土状況（南から）



5 8区調査区全景（上が南）

1区H-1号竪穴建物跡



1区H-2号竪穴建物跡



1区H-3号竪穴建物跡



1区H-4号竪穴建物跡



1区遺構外



2区H-1号竪穴建物跡



2区H-2号竪穴建物跡



2区H-3号竪穴建物跡



2区遺構外



3区P-3号ピット



1

3区遺構外



1

5区J-1号竪穴建物跡(1)



1



2



3



4



5



7



6



8



10



11



9



12



13

PL.21

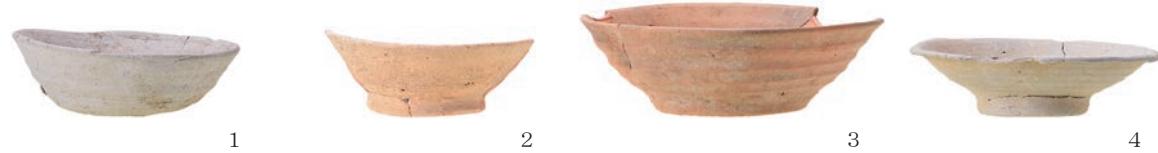
5区J-1号竪穴建物跡（2）



5区H-1号竪穴建物跡



5区H-2号竪穴建物跡（1）



5区H-2号竪穴建物跡（2）



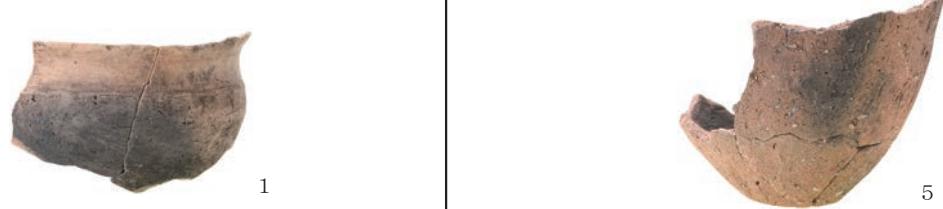
5区H-4号竪穴建物跡



5区H-5号竪穴建物跡



5区H-7号竪穴建物跡



PL.23

5区H-10号竪穴建物跡



5区H-11号竪穴建物跡



5区H-13号竪穴建物跡



5区H-14号竪穴建物跡



5区H-15号竪穴建物跡 (1)



5区H-15号竪穴建物跡(1)



7

5区H-16号竪穴建物跡



2

5区W-1号溝跡



5区W-2号溝跡



5区W-4号溝跡



1

5区O-1号落ち込み



1

5区D-2号土坑



1

5区D-7号土坑



1

PL.25

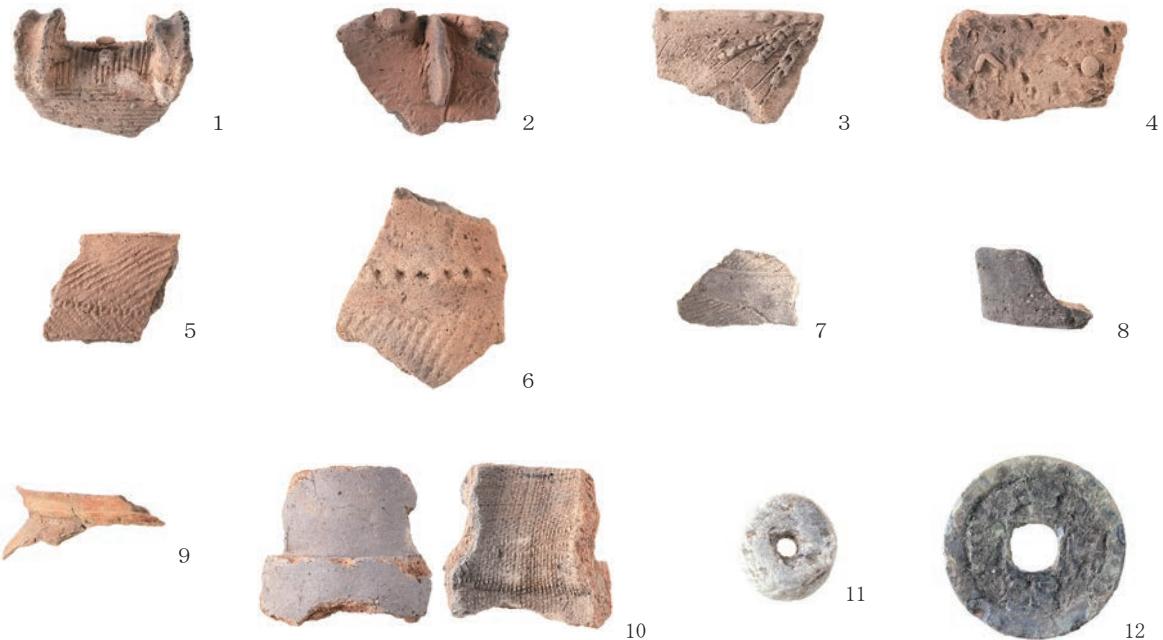
5区D B-1号土壤墓



5区D B-2号土壤墓



5区遺構外



6区H-1号竪穴建物跡



6区I-1号井戸跡



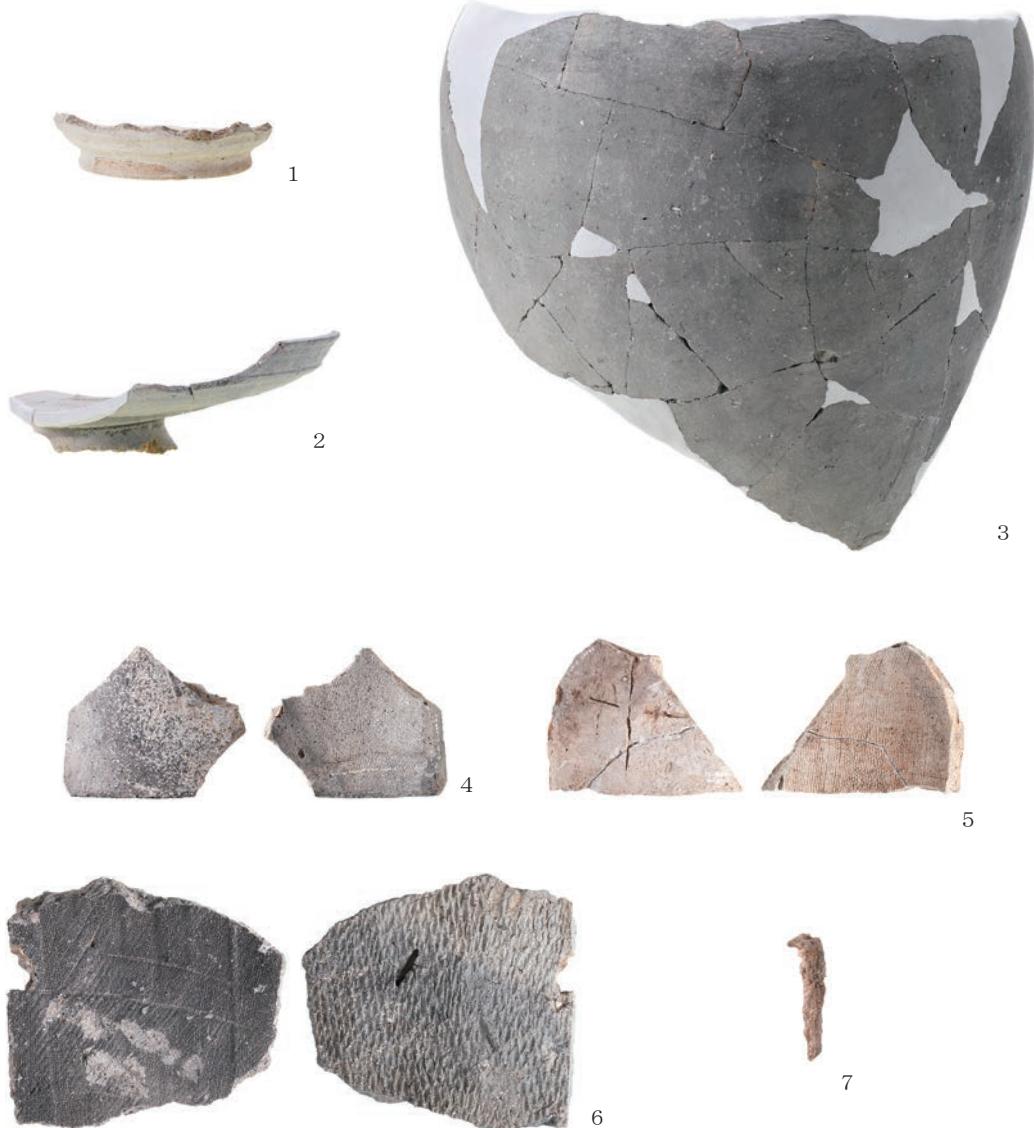
6区P-17号ピット



6区P-55号ピット



7区W-3号溝跡



7区D-1号土坑



7区D-3号土坑



7区D B-1号土壤墓



8区H-1号竪穴建物跡（1）



16

8区H-1号竖穴建物跡（2）



17

18

8区H-2号竖穴建物跡



1

2

3

4

8区H-3号竖穴建物跡



1

2

8区H-4号竖穴建物跡



1

8区H-6号竖穴建物跡（1）



1

2

3

4

5

7

6

8区H-6号竪穴建物跡（2）



8区H-7号竪穴建物跡



8区H-9号竪穴建物跡



8区H-11号竪穴建物跡



8区W-1号溝跡



8区W-4号溝跡



8区I-1号井戸跡



8区D-1号土坑



8区D-2号土坑



8区P-4号ピット



8区遺構外



抄 錄

フリガナ	モトソウジャオウミイセキグン (146)
書名	元総社蒼海遺跡群 (146)
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	一
シリーズ名	一
シリーズ番号	一
編著者名	齋藤颯・池田史人・神宮聰
編集機関	前橋市教育委員会
編集機関所在地	〒317-0853 群馬県前橋市総社町三丁目11番地4
発行年月日	2023年3月24日

フリガナ	フリガナ	コード	位置		調査期間	調査面積	調査原因	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
モトソウジャオウミイセキグン 元総社蒼海遺跡群 (146)	前橋市 総社町総社 3120 ほか	10201	3A265	36° 23'29"	139° 02'25"	20210601 ～ 20220328	1,537m ²	前橋都市計画 事業元総社蒼 海土地区画整 理事業

調査区	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
1区	集落跡 畠跡	古墳時代～ 平安時代	竪穴建物跡	土師器、須恵器、羽釜、 灰釉陶器	10世紀頃の集落跡、7世紀 頃の畠跡を検出。
2区	集落跡	古墳時代～ 中・近世	竪穴建物跡	土師器、須恵器、羽釜、灰 釉陶器、石製品、鉄製品	古墳時代～平安時代の集落跡 を検出。
3区	—	—	土坑、ピット	土師器、須恵器	—
4区	集落跡 区画溝	古代～ 中・近世	竪穴建物跡 溝跡	土師器、須恵器、古代瓦	国分尼寺南辺の区画溝を検 出。
5区	集落跡 城館	古墳時代～ 中世	竪穴建物跡 溝跡	縄文土器、土師器、須恵器、 灰釉陶器、石製品、金属 製品、錢貨	古墳時代～平安時代の集落 跡、蒼海城堀跡を検出。
6区	集落跡	中世	ピット	土師器、須恵器、灰釉陶器、 綠釉陶器	中世の柱穴跡を検出。
7区	城館	平安時代～ 中世	溝跡	土師器、須恵器、古代瓦	蒼海城の堀跡を検出。
8区	官衙跡 集落跡 城館	奈良時代～ 中世	礎石建物跡 竪穴建物跡 溝跡	土師器、須恵器、灰釉陶器、 金属製品、古代瓦、	8～9世紀頃と推定される堀 込地業（布地業）を施した礎 石建物跡を検出。礎石建物が 廃絶した10世紀代以降の竪 穴建物跡を検出。

元総社蒼海遺跡群 (146)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2023年3月17日 印刷

2023年3月24日 発行

編集・発行／前橋市教育委員会文化財保護課

印刷／朝日印刷工業株式会社